茨城県教育財団文化財調査報告第213集

堂東遺跡

一般国道50号下館バイパス改築事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成16年3月

国土交通省常陸河川国道事務所
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第213集

堂東遺跡

一般国道50号下館バイパス改築事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成16年3月

国土交通省常陸河川国道事務所
財団法人　茨城県教育財団

序

一般国道50号は，群馬県前橋市を起点として，茨城県水戸市に至る総延長約150kmに及ぶ広域的な幹線道路であり，産業・経済活動を支える動脈として極めて重要な路線であります。

しかしながら，近年，下館市中心部は慢性的な交通渋滞が発生しております。下館バイパスは，この交通渋滞を解消し，周辺住環境の向上等を目的として，下館市玉戸地区から真壁郡協和町横塚地区に至る延長7.8kmの４車線道路として計画されたもので，その予定地内には，堂東遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年６月から同年８月まで堂東遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は，堂東遺跡の調査成果を収録したものです。本書が，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，協和町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝申し上げます。

平成16年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋　藤　佳　郎

遺跡全景（北西から）

縄文時代中期住居跡・土坑出土土器

第222号土坑出土土器

第53号土坑出土土器

第236号土坑出土土器

第55号土坑出土土器

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が，平成14年度に発掘調査を実施した，茨城県真壁郡協和町大字横塚字堂東に所在する堂東（どうひがし）遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　　査　　平成14年６月１日～平成14年８月31日

整　　理　　平成15年５月１日～平成16年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第一課長阿久津久のもとに行われ，担当は以下のとおりである。

首席調査員兼班長　川津　法伸　　平成14年６月１日～８月31日

主任調査員　吹野富美夫　　平成14年６月１日～６月30日

主任調査員　飯泉　達司　　平成14年７月１日～８月31日

主任調査員　荒蒔克一郎　　平成14年６月１日～８月31日

調　　査　　員　鹿島　直樹　　平成14年７月１日～８月31日

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第一課長瓦吹堅のもと，主任調査員荒蒔克一郎が担当した。

5　本書の作成にあたり，縄文土器の地域的様相について，財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター塚本師也氏，茨城県立岩瀬高等学校吹野富美男氏にご教示いただいた。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し，Ｘ軸＝35,520m，Ｙ軸＝15,960mの交点を基準点（A1a1）とした。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらにこの大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ１，２，３…とし，その組み合わせで「Ａ１区」「Ｂ２区」のように呼称した。さらに小調査区も同様に北から南へａ，ｂ，ｃ…ｊ，西から東へ１，２，３…０と小文字を付し，名称は大調査区の名称を冠し，「A1a1」「B2b2」のように呼称した。

2　抄録の北緯および東経の欄には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　　）を付して併記した。

3　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　　住居跡―ＳＩ　土坑―ＳＫ　方形周溝墓―ＴＭ　溝―ＳＤ　井戸―ＳＥ　柱穴・ピット―Ｐ

遺物　　拓本土器―ＴＰ　土製品―ＤＰ　石器・石製品―Ｑ

土層　　撹乱―Ｋ

焼土，赤彩　　炉　　煤　　硬化面

●　土器　　○　土製品　　□　石器・石製品

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の掲載方法については，以下のとおりである。

（１）　遺構全体図は縮尺250分の１とし，各遺構の実測図は60分の１で掲載することを基本とした。

（２）　遺物は原則として縮尺３分の１とした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

6　「主軸方向」は，炉を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とみなし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　Ｎ－10°－Ｅ）。

7　遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

（１）　計測値の（　　）内の数値は現存値を，［　　］内の数値は推定値を示し，単位はcm・ｇである。

（２）　備考の欄は，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

抄　　録

ふりがな	どうひがしいせき
書名	堂東遺跡
副書名	一般国道50号下館バイパス改築事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅱ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第213集
編著者名	荒蒔　克一郎
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029 (225) 6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029 (225) 6587
発行年月日	2004 (平成16) 年3月26日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
堂東遺跡 (どうひがしいせき)	茨城県真壁郡協和町大字横塚字堂東85番地の4ほか (いばらきけんまかべぐんきょうわまち おおあざよこづかあざどうひがし)	08505 － 60	36度 19分 12秒 〔36度 19分 23秒〕	140度 00分 46秒 〔140度 00分 34秒〕	37m ～ 38m	20020601 ～ 20020831	4085.00㎡	一般国道50号下館バイパス改築事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
堂東遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　7軒 屋外炉　1基 土坑　175基 ピット　194基	縄文土器（深鉢・鉢・浅鉢・壺・蓋・器台），土製品（土偶・耳飾・土器円盤），石器・石製品（石棒・石剣・石皿・打製品斧・磨製石斧・磨石・敲石・凹石・石鏃），石核，剥片	縄文時代の集落跡を主体として，古墳時代の住居跡・方形周溝墓などが確認された。調査区の中央部からは，縄文時代中期中葉～後期前葉の土坑が多数検出されており，当地域の縄文時代の様相を知る上で貴重な資料を提供している。また，調査区西部から，方形周溝墓5基が近接して検出されていることも注目される。
		古墳時代	竪穴住居跡　2軒	土師器（甕・台付甕・壺・高坏・坩・器台）	
	墓跡	古墳時代	方形周溝墓　5基		
		平安時代	土壙墓　1基	土師質土器（小皿，柱状高台皿，脚高高台皿）	
	その他	中・近世	井戸跡　5基	陶器（常滑甕・古瀬戸深皿）	
		時期不明	土坑　44基 溝跡　5条	馬歯	

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 2
　第1節　地理的環境 …… 2
　第2節　歴史的環境 …… 2
第3章　調査の成果 …… 7
　第1節　遺跡の概要 …… 7
　第2節　基本層序 …… 7
　第3節　遺構と遺物 …… 8
　　1　縄文時代の遺構と遺物 …… 8
　　(1)　竪穴住居跡 …… 8
　　(2)　屋外炉 …… 25
　　(3)　土坑 …… 25
　　(4)　ピット …… 209
　　(5)　遺構外出土遺物 …… 213
　　2　古墳時代の遺構と遺物 …… 224
　　(1)　竪穴住居跡 …… 224
　　(2)　方形周溝墓 …… 228
　　3　平安時代の遺構と遺物 …… 235
　　(1)　土壙墓 …… 235
　　4　中・近世の遺構と遺物 …… 236
　　(1)　井戸跡 …… 236
　　5　その他の遺構と遺物 …… 239
　　(1)　土坑 …… 239
　　(2)　溝跡 …… 244
　第4節　まとめ …… 248
写真図版

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所は，真壁郡協和町横塚地区において，一般国道50号下館バイパス改築事業を進めており，現在は本調査区を含む一部区間が開通に至っている。

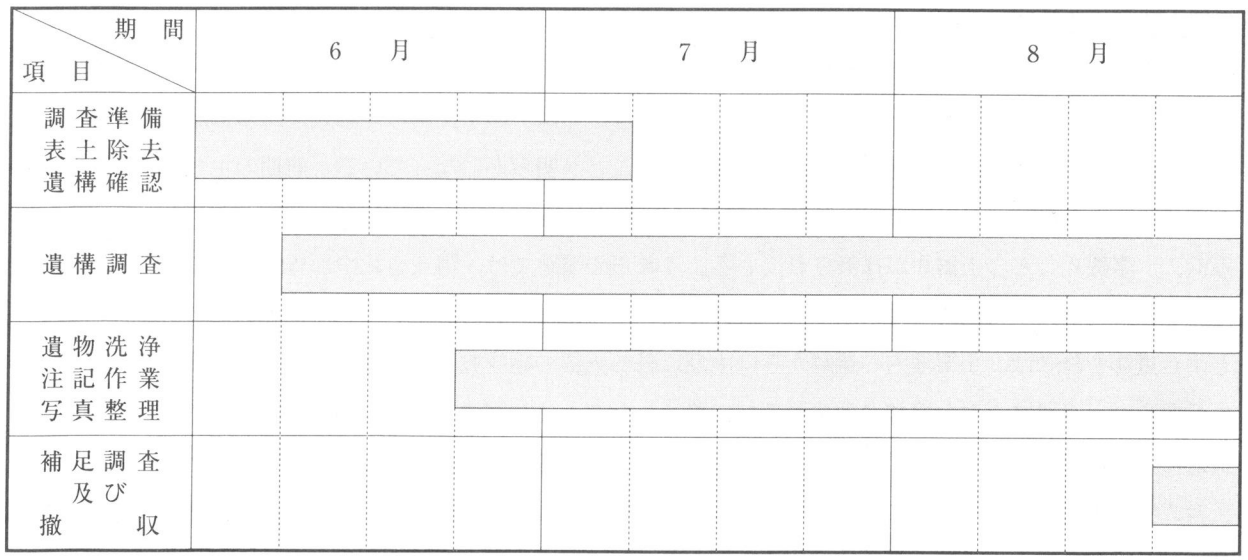
平成14年4月10日，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は，一般国道50号下館バイパス協和地区の改築事業地内において遺物が確認されたため，茨城県教育委員会教育長に対して遺跡の発見届を提出した。さらに，平成14年4月11日，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して遺跡の試掘調査を依頼した。これを受けて茨城県教育委員会教育会は，平成14年4月14～15日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成14年4月23日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに，事業地内に堂東遺跡が所在する旨回答するとともに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成14年4月24日，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道50号下館バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成14年4月25日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年6月1日から同年8月31日まで堂東遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節　調　査　経　過

堂東遺跡の発掘調査は，平成14年6月1日から平成14年8月31日までの3か月間実施された。以下，調査の経過について，その概要を表で記載する。



第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

堂東遺跡は，茨城県真壁郡協和町大字横塚字堂東85番地の4ほかに所在している。

協和町は，茨城県の西部に位置し，北に八溝山地を形成する鶏足山塊を背負い，西側は栃木県南那須町を源に南流し，五行川を経て利根川へと進む小貝川に面し，東側は桜川支流の観音川に区切られた，標高32～38mほどの協和台地上に立地している。台地西側には，小貝川によって形成された沖積低地が広がり，さらにその西側には，小貝川の氾濫源が南北に延びている。また，観音川の東側には真壁台地が南北に細長く延び，さらにその東側には桜川によって開析された沖積低地が広がっている。

協和台地は，海成層を基盤として，その上に古鬼怒川によってもたらされた砂利層，その上層に鹿沼軽石層や泥質粘土層，さらに下末吉ローム層・武蔵野ローム層によって形成された関東ローム層が連続して堆積しており，最上部は腐植土層となっている[1)]。古鬼怒川は4万5000年～2万年前にかけて網状の流れをとりながら南流し，協和台地の下に厚い砂利層を形成したものと考えられている[2)]。

当遺跡の所在する横塚地区は，協和町の西部に位置し，小貝川左岸流域に広がる沖積低地の東側，標高37mほどの段丘第一面縁辺部に立地している。遺跡周辺は，主に水田及び畑地として利用され，調査前の現況は宅地・荒蕪地等であった。

第2節　歴史的環境

当遺跡周辺からは，分布調査や発掘調査により多数の遺跡が確認されている。中でも，協和町北部の小栗地区に遺跡が集中している。小栗地区は，浅間山支陵の先端部が小貝川に接する場所にあたり，この丘陵上は，原始・古代から生活の適地であったことがうかがえる。ここでは，当遺跡と関連する縄文時代から古墳時代の主な遺跡を中心に述べる。

縄文時代の遺跡は，小栗地内の台地縁辺部に多く所在している。早期の代表的な遺跡には東原（ひがしはら）遺跡があり，稲荷台式土器や田戸下層式土器が採集されている[3)]。また，上中台南（かみなかだいみなみ）遺跡〈21〉，中台（なかだい）遺跡〈24〉や宮本（みやもと）A遺跡〈12〉などからも該期の土器が出土し，特に中台遺跡からは，撚糸文系の井草式土器の口縁部片が出土しており，小栗地内では早期初頭から生活が営まれていたことが明らかになっている。前期の主な遺跡には，上中台南遺跡，中台遺跡，七ツ池東方（なないけとうほう）A遺跡〈17〉七ツ池東方（なないけとうほう）B遺跡〈18〉，石畑（いしはたけ）遺跡〈23〉などがあり，関山式，黒浜式，諸磯式などの土器片が採集されている。これらの遺跡では，阿玉台式や加曽利E式など中期の土器も確認されており，小栗地内では早期から中期にわたって集落が形成されていたと考えられる。一方，石畑遺跡と中台遺跡を除けば，小栗地内の遺跡からは中期以降の土器の確認数が激減する。これは，後期には縄文人の生活拠点が，当遺跡を含む協和台地南西部域に移行したことに起因すると考えられる。続いて後・晩期の主な遺跡には，前述の石畑遺跡や当遺跡の北側に隣接する古堂（ふるどう）遺跡〈37〉などがある。古堂遺跡からは，中期の阿玉台式を上限に，加曽利E式，後期の称名寺式，堀之内式，加曽利B式，曽谷式，安行1・2式，晩期の大洞B・BC式の各型式の土器が継続的に出土しており，同遺跡が中期から晩期前半にかけての大集落であったことを示している。また，同遺跡からは，晩期の人面付土版や人面付岩版，山形土偶の頭部片が出土しているこ

とも注目される[4]。堂東遺跡の調査区中央部から北東部にかけて，称名寺式や堀之内式などの後期の土器が出土していることから，古堂遺跡との有機的な関連や面的な連続性がうかがえる。

弥生時代になると，遺跡の確認数は減少傾向にあり，そのほとんどが小栗地区に分布している。その中で住居跡が確認されているものは，昭和59年に発掘調査が実施された裏山遺跡〈15〉のみで，同遺跡からは付加条縄文が施文された甕や高坏などが出土している[5]。また，協和町東部に所在する北原遺跡〈36〉からは，下館市女方遺跡出土の壺や甕と同様の土器が大量に採集されており，弥生時代初期に同地区に墓域が形成されていたことが示唆される。その他，弥生時代の遺跡には，小栗地内に所在する上中台南遺跡，七ツ池東方A遺跡，七ツ池東方B遺跡，石畑遺跡，中期の土器片の散布地である協和の杜公園遺跡[6]〈31〉，平成9年に当財団によって発掘調査が実施され，後期後半（二軒屋式期）の住居跡3軒が検出された下館市八丁台遺跡[7]〈51〉などがある。

古墳時代には，協和地区全域に数多くの古墳が築造される。古墳の分布密度もこれまでの時代と同様に，小栗地区に集中する傾向が見られる。宮本古墳〈2〉，寺山古墳A・B支群〈3・4〉，雷神山古墳群〈5〉，丑塚古墳群〈6〉，大宝塚古墳〈7〉などがそれである。このうち，丑塚古墳群や寺山古墳A・B支群は，昭和59年に前述した裏山遺跡とともに円墳9基の発掘調査が実施されている。うち6基は横穴式石室をもつ後期古墳であり，直刀・鉄鏃などの鉄製品，勾玉・切子玉・琥珀製の棗玉などの装身具，足金具・鍔などの刀装具など貴重な遺物が出土している。特に注目されるものには，Ⅰ号墳から出土した金銅製圭頭大刀があげられ，被葬者層や古代新治国内における勢力の様相を考える上での好資料となっている[8]。堂東遺跡で検出された古墳時代前期の住居跡や方形周溝墓については，協和地区では他に調査例がないため，該期社会の様相は不明であるが，国道50号を挟んだ南側に広がる平坦地から前期の土器片が数多く採集されていることなどから，小貝川左岸流域の段丘縁辺部には，前期集落が形成されていたことが想定される。

奈良・平安時代の町域は，新治郡衙所在地として政治・文化の中心地であった。町域東部に位置する新治郡衙跡〈28〉や新治廃寺跡〈29〉は，寺院官衙関係遺跡の先駆的な調査として有名である[9]。該期の遺跡は，町域中～南部の協和台地上を中心に，久地楽長町窯跡〈27〉，台原遺跡〈26〉，新治廃寺北遺跡〈30〉，協和の杜公園遺跡，陣屋遺跡〈41〉など27か所を数える。このうち集落跡の調査例はないため，集落の様相は不明であるが，郡衙所在地として当地域の拠点的な集落があったことは想像に難くない。今後の調査成果が待たれるところである。

中世になると，当町域は，常陸平氏小栗氏の在地支配下，小栗保に帰属する。小栗城跡〈10〉は小栗氏の本拠地として注目される中世城館である[10]。その後，戦国期に至って一時結城氏領となり，太閤検地以後は真壁郡に集約された[11]。

註

1） 日本の地質『関東地方』編集委員会 『日本の地質3　関東地方』 共立出版　1986年10月

2） 協和町史編さん委員会 『協和町史』 協和町　1993年3月

3） 谷島静訓 「小栗村の稲荷台式土器の出土について」『常総古代文化』第5号　1953年

4） 茨城県歴史館 『特別展図録　古代びとの顔―面形の世界―』 1999年2月

5） 協和町小栗地内遺跡調査会 「小栗地内遺跡群発掘調査報告書　丑塚古墳群・寺山古墳群・裏山遺跡」『茨城県協和町文化財調査報告書』第1集　1986年3月

6） 茨城県教育委員会 『茨城県遺跡・古墳発掘調査報告書Ⅴ』 1989年3月

7）　川津法伸 「一般国道50号下館バイパス改築工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書　八丁台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第138集　1998年３月

8）　註５)に同じ

9）　高井悌三郎 『常陸国新治郡上代遺跡の研究』 桑名文星堂　1944年

10）　茨城県教育委員会 『重要遺跡調査報告書Ⅱ(城館跡)』 1985年３月

11）　註２)に同じ

参考文献

・茨城県史編さん第一部会原始古代専門委員会 『茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代』 茨城県　1979年３月

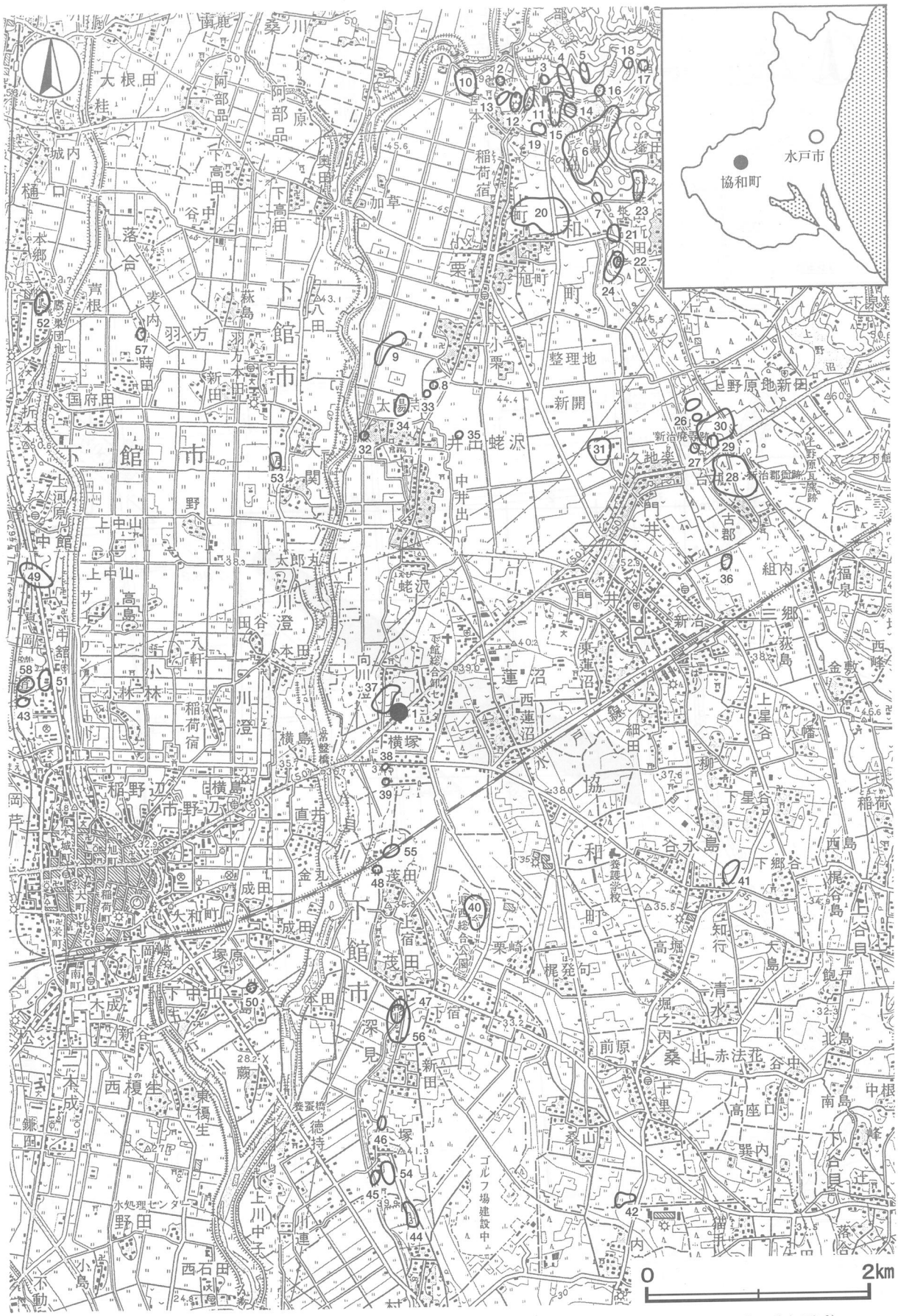
・竹内理三編 『角川日本地名大辞典　８茨城県』 角川書店　1983年12月

・協和町史編さん委員会 『協和町史』 協和町　1993年３月

・茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図』 茨城県教育委員会　2001年３月

表１　堂東遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中近世
①	堂東遺跡		○		○		○	30	新治廃寺北遺跡		○		○	○	
2	宮本古墳				○			31	協和の杜公園遺跡		○		○	○	
3	寺山古墳Ａ支群				○			32	御止山古墳				○		
4	寺山古墳Ｂ支群				○			33	西館古墳				○		
5	雷神山古墳群				○			34	太陽寺古墳群				○		
6	丑塚古墳群				○		○	35	元宿古墳				○		
7	大宝塚古墳				○			36	北原遺跡		○	○	○		
8	西館古墳				○			37	古堂遺跡		○		○	○	
9	御殿内古墳群				○			38	横塚古墳				○		
10	小栗城跡						○	39	横塚古墳				○		
11	宮本東遺跡		○		○	○		40	申合遺跡				○	○	
12	宮本Ａ遺跡	○	○			○		41	陣屋遺跡		○		○	○	○
13	宮本Ｂ遺跡		○					42	塔ノ内遺跡		○		○	○	
14	寺山廃寺院跡						○	43	仲舘，中世墓遺跡						○
15	浦山遺跡	○	○	○	○	○	○	44	本田前遺跡		○	○	○	○	
16	らいさま山遺跡		○					45	南台古墳群				○		
17	七ツ池東方Ａ遺跡		○	○	○			46	新田前古墳群				○		
18	七ツ池東方Ｂ遺跡		○	○				47	宮端古墳群				○		
19	権現遺跡				○	○	○	48	北茂田古墳群				○		
20	次郎丸遺跡		○		○	○		49	富士東古墳群				○		
21	上中台南遺跡		○	○	○	○		50	島古墳				○		
22	中台古墳				○			51	八丁台遺跡	○	○	○	○	○	○
23	石畑遺跡		○		○	○		52	鷹の巣遺跡		○				
24	中台遺跡	○	○					53	大関遺跡		○				
25	古郡台原古墳群				○			54	南台遺跡		○	○			
26	台原遺跡		○		○	○		55	赤城前遺跡		○				
27	久地楽長町窯跡					○		56	宮端遺跡		○				
28	新治郡衙跡					○		57	麦ノ内遺跡		○				
29	新治廃寺跡					○		58	八丁台古墳群				○		



第１図　堂東遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院５万分の１『壬生』・『真岡』・『小山』・『真壁』）

第２図　堂東遺跡調査区設定図

第3章　調査の成果

第1節　遺跡の概要

堂東遺跡は，真壁郡協和町の西部に位置し，小貝川左岸流域の沖積低地東側の段丘第一面上，標高37mほどに立地している。調査の結果，当遺跡は縄文時代及び古墳時代を主体とする複合集落であることが明らかになった。調査区中央部からは，縄文時代中期のフラスコ状土坑が多数検出されている。また調査区西部からは，方形周溝墓が近接して5基検出されており，古墳時代前期には墓域が形成されていたと考えられる。

今回の調査では，竪穴住居跡9軒（縄文時代7，古墳時代2），屋外炉1基（縄文時代1），土坑219基（縄文時代175，時期不明44），方形周溝墓5基（古墳時代5），土壙墓（平安時代1），井戸跡5基（中・近世5），溝跡5条（時期不明5），ピット194基（縄文時代）が検出されている。遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で104箱分が出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢，鉢，浅鉢，壺，蓋，器台），土師器（甕，壺台付甕，坩，器台，高坏），土師質土器（小皿，柱状高台皿，脚高高台皿），土製品（耳飾，土偶，土器円盤），石器・石製品（石棒，石剣，打製石斧，磨製石斧，石皿，凹石，磨石，敲石，石鏃）などである。

第2節　基本層序

調査区北東部（A5区）にテストピットを設定し，深さ約2.1mまで掘り下げて基本土層（第3図）の観察を行った。土層は9層に分層され，土層断面図中の第2・3層が関東ローム層，第5・6層が常総粘土層に相当する。以下，テストピットの観察から層序を説明する。

第1～3層は，黒色及び黒褐色をした耕作土層である。炭化粒子及びローム小ブロック・ローム粒子を微量含み，粘性・締まりともに低い。層厚は54～60cmである。

第4層は，暗褐色をしたローム層への漸移層である。粘性・締まりはともにやや強く，層厚は10～20cmである。

第5層は，褐色をしたソフトローム層である。粘性・締まりともにやや強く，層厚は8～16cmである。

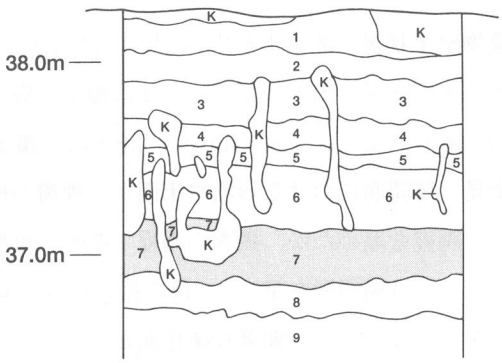
第6層は，褐色をしたハードローム層である。粘性はやや強く，固く締まり，層厚は16～34cmである。

第7層は，黒褐色をしたハードローム層である。粘性は強く，締まりはやや強く，第Ⅱ黒色帯に相当するものと考えられる。層厚は24～36cmである。

第8層は，にぶい黄褐色をした粘土層である。砂粒を少量含み，移植ゴテを当てるとシャリシャリとした感触がある。粘性・締まりともに強く，層厚は14～24cmである。

第9層は，にぶい黄褐色をした粘土層である。粘性・締まりは特に強く，層厚は50cm以上あり，下層は未掘のため本来の深さは不明である。

遺構は，主に第5層上面で確認している。



第3図　基本土層図

第3節　遺構と遺物

1　縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された縄文時代の遺構は，竪穴住居跡７軒，屋外炉１基，土坑175基，ピット194基である。これらの遺構は，主に調査区中央部の平坦部に位置しており，時期は中期中葉を主体に中期から後期にわたっている。また，調査区西部からは晩期の土器も採集されたが遺構は検出されなかった。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記載していくが，土坑及びピットについては，遺構の残存状況や遺物の出土状況が良好なものについて解説を加え，それ以外のものは土坑については実測図と一覧表で，ピットについては一覧表で示す。

（１）竪穴住居跡

第２号住居跡（第４・５図）

位置　調査区東部のA5j2区に位置し，東に向かう緩斜面に立地している。

重複関係　第１号井戸跡に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長軸6.7m，短軸4.6mほどの隅丸長方形を呈し，残存する壁は外傾して立ち上がり，壁高は16～42cmである。また，周溝の内側は長径5.1m，短径3.8mほどの楕円形で，深さは35～45cmである。主軸方向はN－61°－Wである。

床　壁から30～120cmほど内側の床面に，中心より西側にずれて深さ10～20cmの周溝が巡り，その北側と南側が対照的に途切れている。周溝の内側・外側ともにやや軟弱で，顕著な硬化面は認められなかった。

炉　検出されなかった。

ピット　10か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ49～71cmで，規模及び配列から主柱穴に相当すると考えられる。Ｐ８～Ｐ10は深さ29～32cmで，壁に沿って並ぶことから，補助的な柱穴との想定が可能であるが，Ｐ５～Ｐ７の性格は不明である。

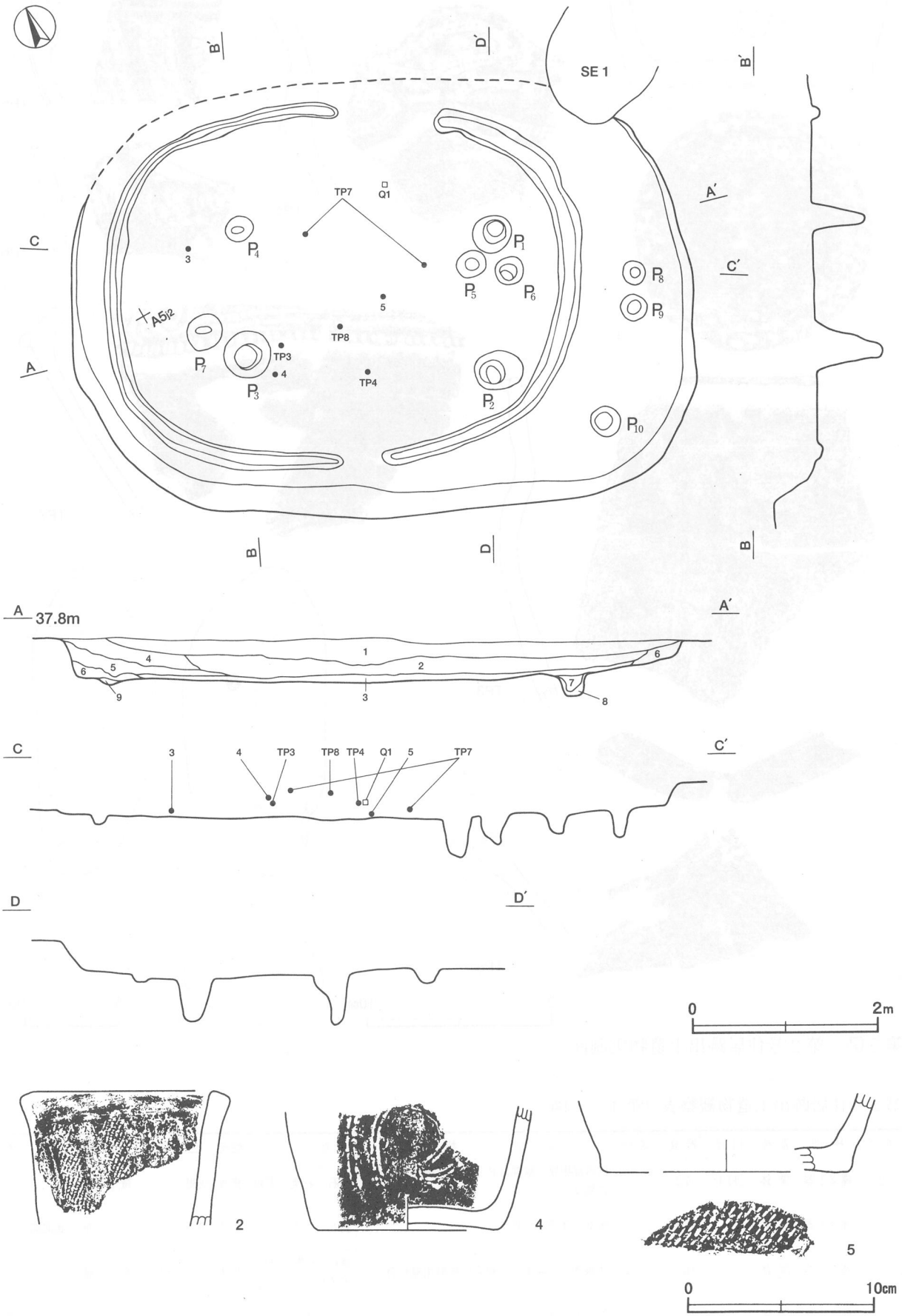
覆土　９層に分層され，黒褐色を基調とするやや締まりのある土層である。各層にロームブロック・ローム粒子を含むが，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。なお，第７～９層は周溝の覆土である。

土層解説

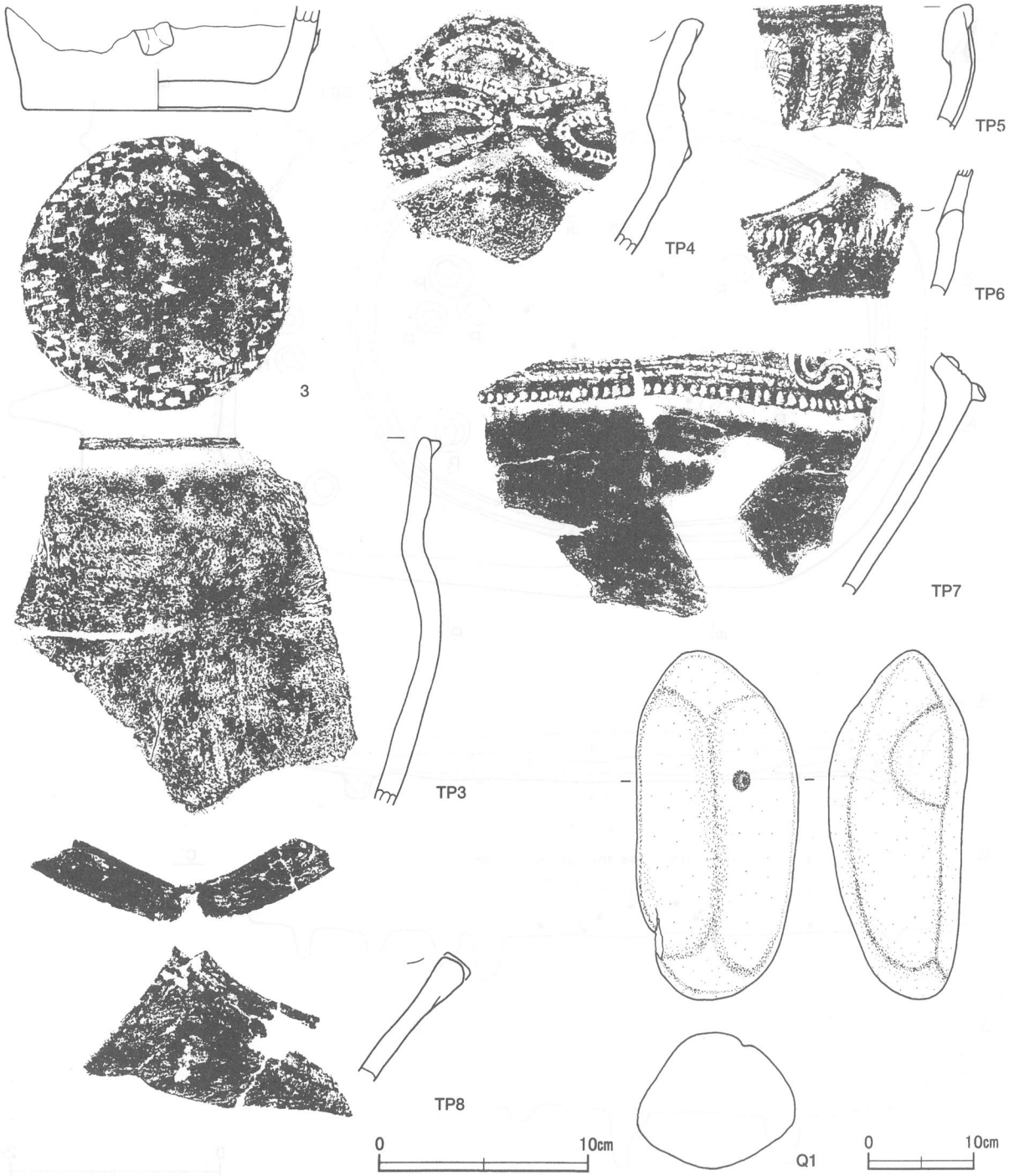
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量
4　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック微量
8　暗 褐 色　ローム中ブロック微量
9　暗 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片459点，凹石１点が出土している。土器片は，中央部の覆土上層から下層にかけて散在する状況で出土している。２は覆土下層から，３・５は床面から出土しており，時期決定の指標となる遺物である。また，４及びTP３～TP８は，覆土上～中層から出土している。

所見　確認面における形状や床面から周溝が検出されたことなどから，拡張または２軒の住居跡の重複を想定して調査を進めたが，調査の過程で拡張や重複は認められなかった。中期中葉には，大型で平面形が隅丸長方形もしくは楕円形を呈し，二段の掘り込みを有する住居跡が類例として認められており，形状や規模の類似性，炉をもたないこと，顕著な硬化面がないことなどから，本跡も有段式住居跡の一形態としてとらえることが可能である。時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第４図　第２号住居跡・出土遺物実測図



第５図　第２号住居跡出土遺物実測図

第２号住居跡出土遺物観察表（第４・５図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	[11.4]	(7.2)	—	口唇部肥厚。胴部はＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
3	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	12.7	胴部は隆帯文が垂下。	長石・石英・雲母	普通	橙	床面	底部網代痕
4	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	10.0	曲線意匠の隆帯文に複列の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中層	
5	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	[13.1]	胴部下端無文。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐	床面	底部網代痕

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP 3	縄文土器	深鉢	—	(17.4)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部及び胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP 4	縄文土器	深鉢	—	(11.0)	—	隆帯による楕円形区画文に半截竹管による結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP 5	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部は隆帯による逆U字状文に結節沈線が沿う。	長石・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
TP 6	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	口辺部に爪形文施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP 7	縄文土器	浅鉢	—	(11.2)	—	口辺部は刻みを有する隆帯区画文。区画内は複列の結節沈線により横S字状文などを描出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP 8	縄文土器	浅鉢	—	(6.0)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	内外面赤彩

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q 1	凹石	33.0	15.4	13.2	(8260.0)	安山岩	表面1孔。	覆土下層	

第3号住居跡（第6～8図）

位置　調査区東部のA4j9区に位置し，東に向かう緩斜面に立地している。

規模と形状　北東部の約半分が調査区域外に及ぶため全容は不明であるが，残存するコーナー部の様相から隅丸方形と推定され，確認された南北軸は2.8m，東西軸は3.6mほどである。また，主軸方向はN－5°－Eと推定される。壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がり，壁高は34～36cmである。

床　ほぼ平坦であり，全体的に締まってはいるが，顕著な硬化面は認められなかった。

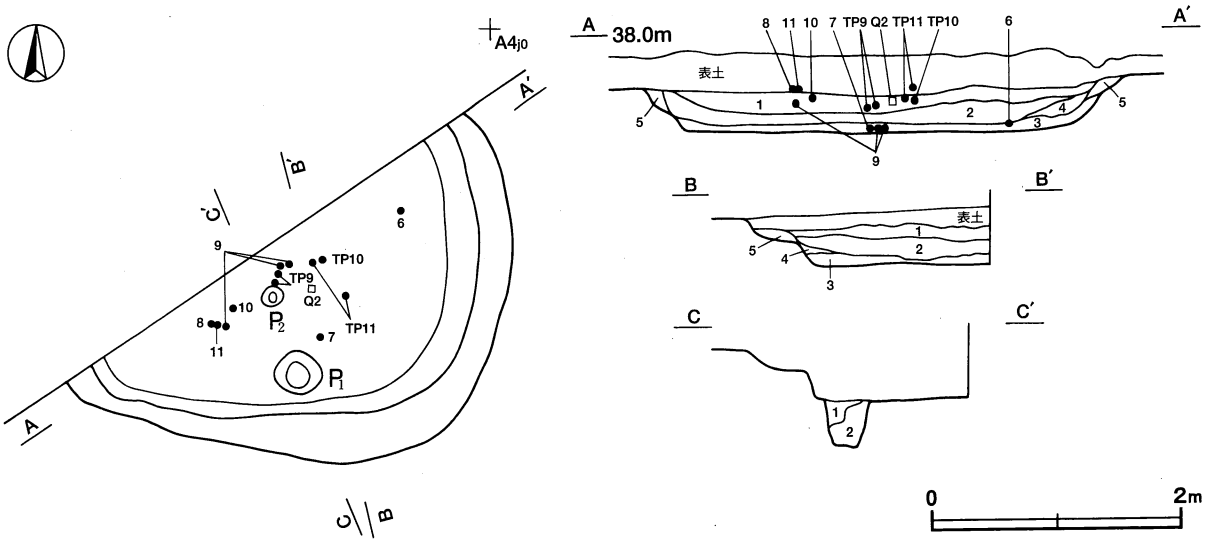
炉　検出されなかった。

ピット　2か所。P 1は深さ39cmで，対応するピットが検出されなかったため判然としないが，規模から柱穴との想定も可能である。また，P 2は深さ11cmであり，性格は不明である。

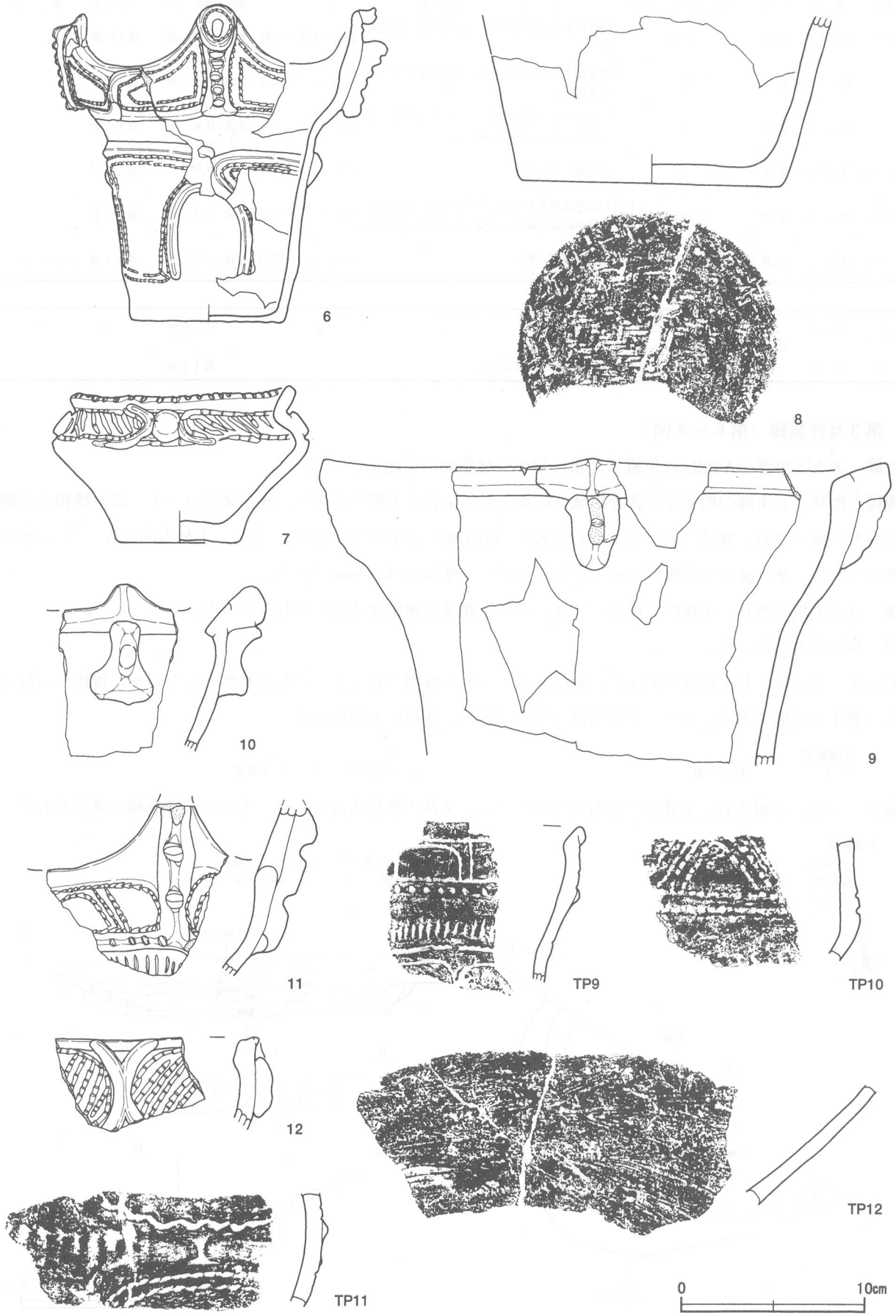
P 1 土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子微量

覆土　5層に分層され，全体的に含有物が少なくレンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

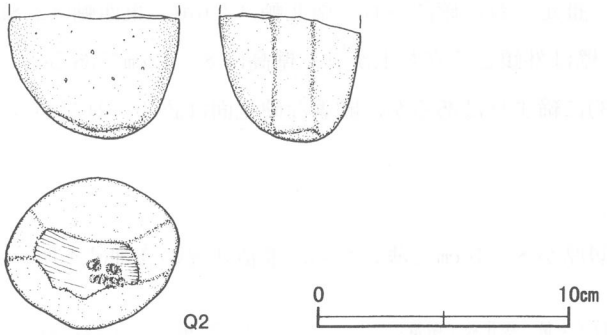
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　褐　色　ローム粒子中量



第6図　第3号住居跡実測図



第７図　第３号住居跡出土遺物実測図（１）



第８図　第３号住居跡出土遺物実測図（２）

遺物出土状況　縄文土器片459点，磨石１点が出土している。土器片はプラン中央部に集中し，覆土上層から床面にかけて出土している。中でも完形に近いものや大形の破片は床面から出土している。６は床面から横位，７は同じく床面から正位で出土しており，時期判断の指標となる遺物である。９は覆土上層と下層から出土した破片が接合したものである。また，８・10～12，TP９～TP12及びＱ２は覆土上層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第３号住居跡出土遺物観察表（第６～８図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	[14.4]	17.0	8.2	波頂部から刻みを有する隆帯が垂下。口辺部は隆帯区画文に複列の結節沈線が沿う。胴部も同様の区画文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	床面	PL30
7	縄文土器	鉢	11.4	8.4	6.4	口唇部に刻みを有する。口辺部は隆帯及び結節沈線による区画文内に斜位の沈線文を施文し，４単位の円形貼付文を貼付。	長石・石英・雲母	普通	橙	床面	PL30
8	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	14.0	胴部下端無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	底部網代痕
9	縄文土器	深鉢	[29.4]	(16.2)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部は４単位の突起状貼付文を配する。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上・下層	外面煤付着
10	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，把手の基部には貼付文を配する。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	口辺部は刻みを有する隆帯区画文内，結節沈線文。波頂部に刻みを有する突起貼付。頸部，爪形文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，口辺部は隆帯区画文内に斜位の結節沈線文。	長石・雲母	普通	灰褐 にぶい赤褐	覆土上層	
TP９	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	口辺部は刻みを有する隆帯区画文。棒状工具による結節沈線で文様描出。胴部爪形文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP10	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口辺部は半截竹管による複列の結節沈線により文様描出。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP11	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	口辺部は隆帯区画文に複列の結節沈線文及び波状沈線が沿う。区画内は横位の爪形文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP12	縄文土器	浅鉢	—	(6.5)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	内外面研磨

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Ｑ２	磨石	(5.0)	6.9	5.9	(257.4)	安山岩	全側縁を使用。１側縁に敲打痕。	覆土上層	

第４号住居跡（第９図）

位置　調査区東部の平坦部，B4d0区に位置している。

規模と形状　南東部の約半分が調査区域外に及ぶため全容は不明であるが，残存するコーナー部の様相から方

形もしくは長方形を呈すると推定され，確認された南北軸は2.6m，東西軸は2.8mほどである。また，主軸方向はN－0°と推定される。壁は外傾して立ち上がり，壁高は8～12cmである。

床　ほぼ平坦であり，全体的に締まりはあるが，顕著な硬化面は認められなかった。

炉　検出されなかった。

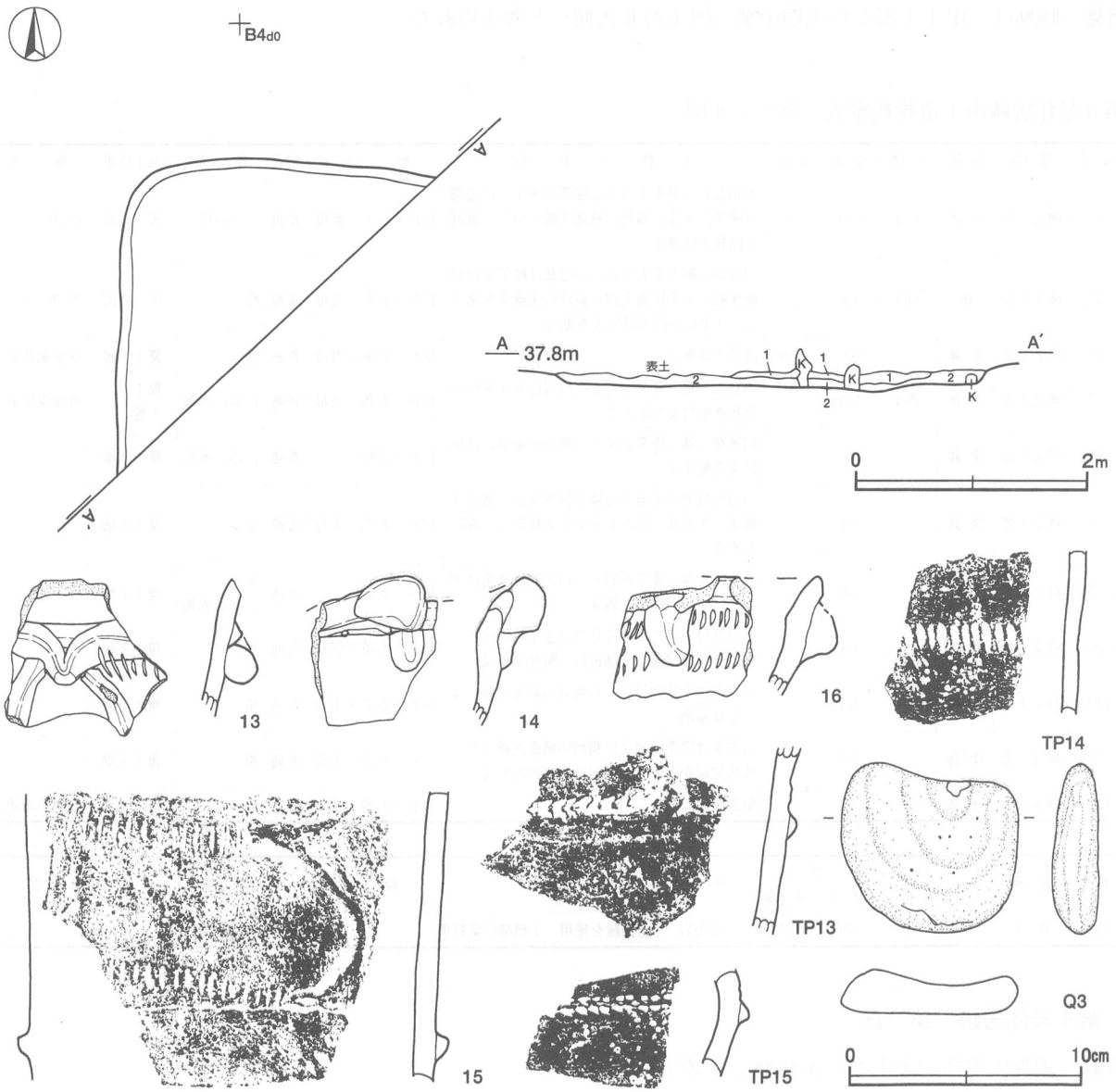
ピット　検出されなかった。

覆土　2層に分層される。層厚が8～16cmと薄いため，堆積状況の詳細は不明である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片104点，磨石1点が出土している。抽出・図示した遺物はいずれも覆土からの出土である。

所見　柱穴及び炉は検出されなかったが，やや締まりがある床面が検出されたことや，覆土中から縄文土器片が多量に出土していることなどから縄文時代の住居跡と判断した。出土土器に大きな時期差が認められないことから，時期は中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第9図　第4号住居跡・出土遺物実測図

第４号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口辺部は隆帯により文様を描出。隆帯に沿って爪形文を施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	
14	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，突起貼付。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	
15	縄文土器	深鉢	—	(12.3)	—	胴部は曲線意匠の隆帯貼付文。２列の爪形文が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
16	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	口辺部に突起貼付。２列の爪形文が巡る。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP13	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	隆帯区画文に結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP14	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	爪形文が巡る。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP15	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	口辺部は隆帯区画文に半截竹管による複列の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q３	磨石	7.2	7.6	2.0	151.1	安山岩	全側面を使用。表面が皿状に凹む。	覆土	

第５号住居跡（第10～13図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB4f3区に位置している。

重複関係　第94・97・121号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸方向に残存する壁から，長軸（径）5.3m，短軸（径）2.5mほどの長方形もしくは楕円形と推定され，主軸方向はＮ－47°－Ｅである。壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がり，壁高は12～17cmである。

床　ほぼ平坦であり，全体的に締まりはあるが，顕著な硬化面は認められなかった。

炉　検出されなかった。

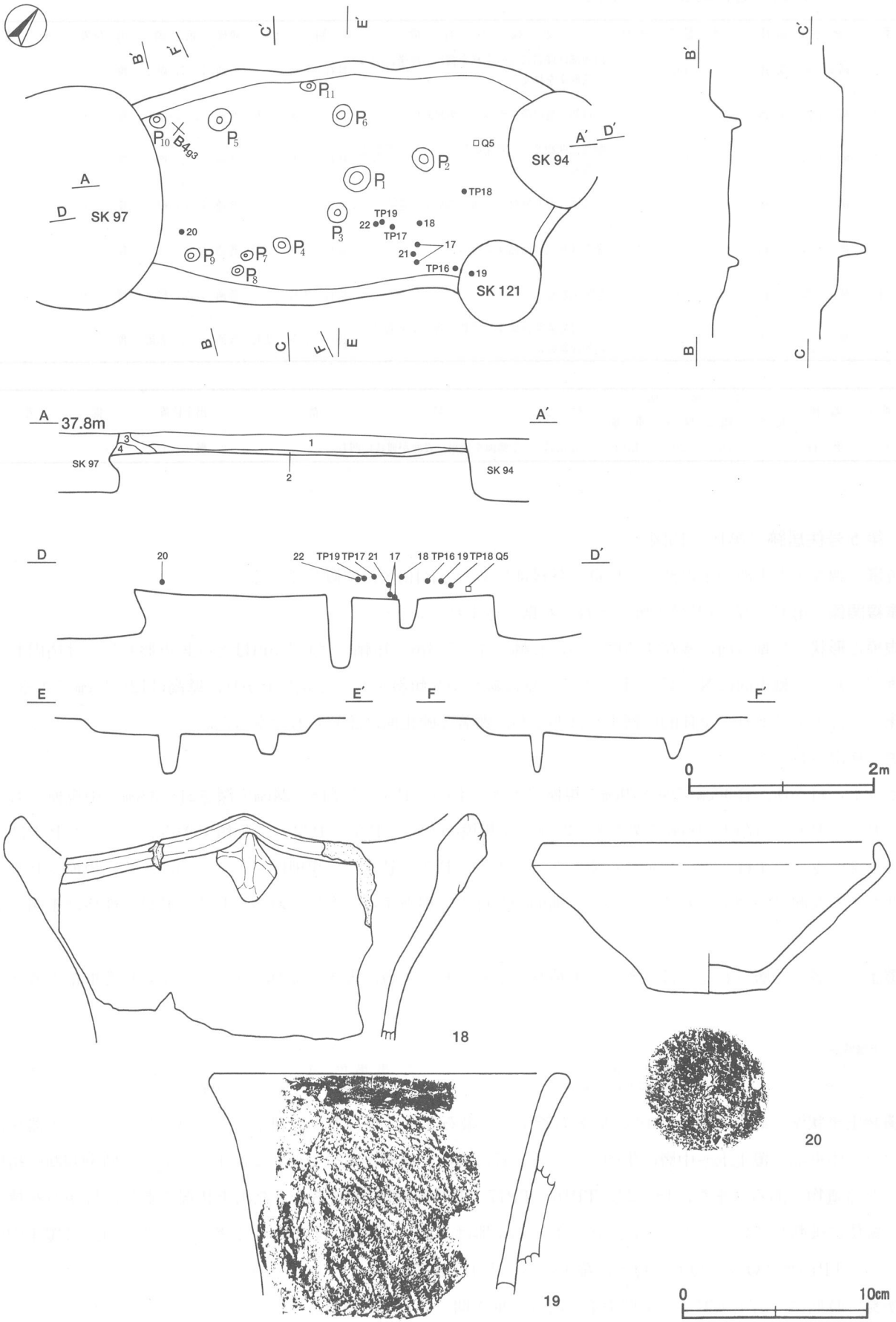
ピット　11か所。径30cmで深さ79cmと規模が大きいもの（Ｐ１），径18～24cmで深さ21～38cmと中規模のもの（Ｐ２～Ｐ６），径12～16cmで深さ８～22cmと小規模のもの（Ｐ７～Ｐ11）に分類できる。このうちＰ１は，中央部を支える主柱穴との想定が可能である。また，Ｐ２～Ｐ６は，規則性を欠くものの，その規模やＰ１を囲むような配列が認められることから，補助的な柱穴に相当すると考えられる。Ｐ７～Ｐ11の性格は不明である。

覆土　４層に分層される。ほぼ水平な堆積状況が見られ，土層に大きな乱れがないことから自然堆積と考えられる。

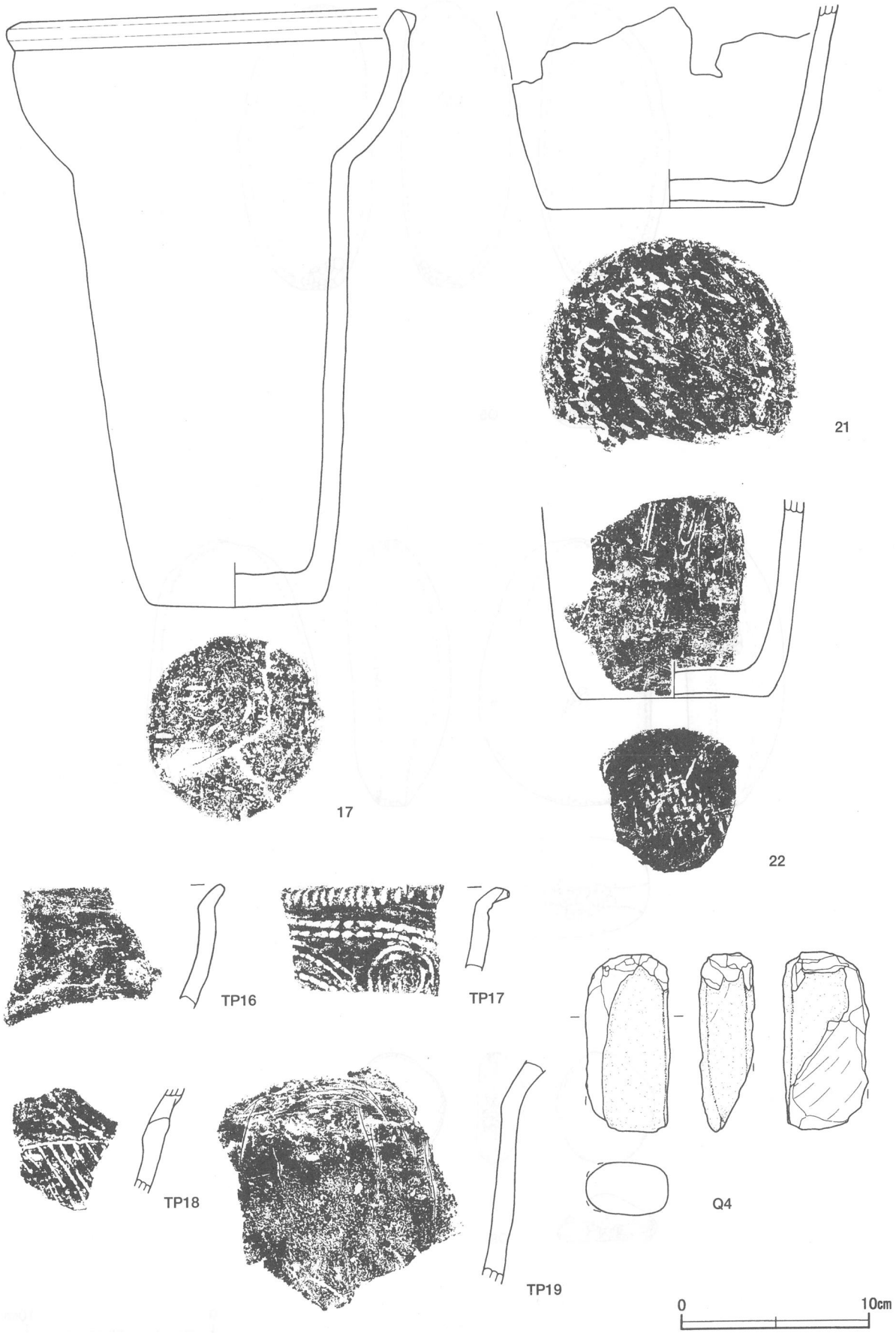
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量
4　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片170点，磨製石斧１点，敲石３点，磨石１点，剥片３点が出土している。土器片はプラン中央部の覆土上～中層に集中している。17は横位で床面からやや浮いて出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，18～22，TP16・TP17・TP19は折り重なるような出土状況であり，17が21を挟んで縦位に破断していることなどから，これらの土器は一括して廃棄されたものと考えられる。Ｑ５は覆土中層から，TP18及びＱ４・Ｑ６～Ｑ８は覆土からの出土である。

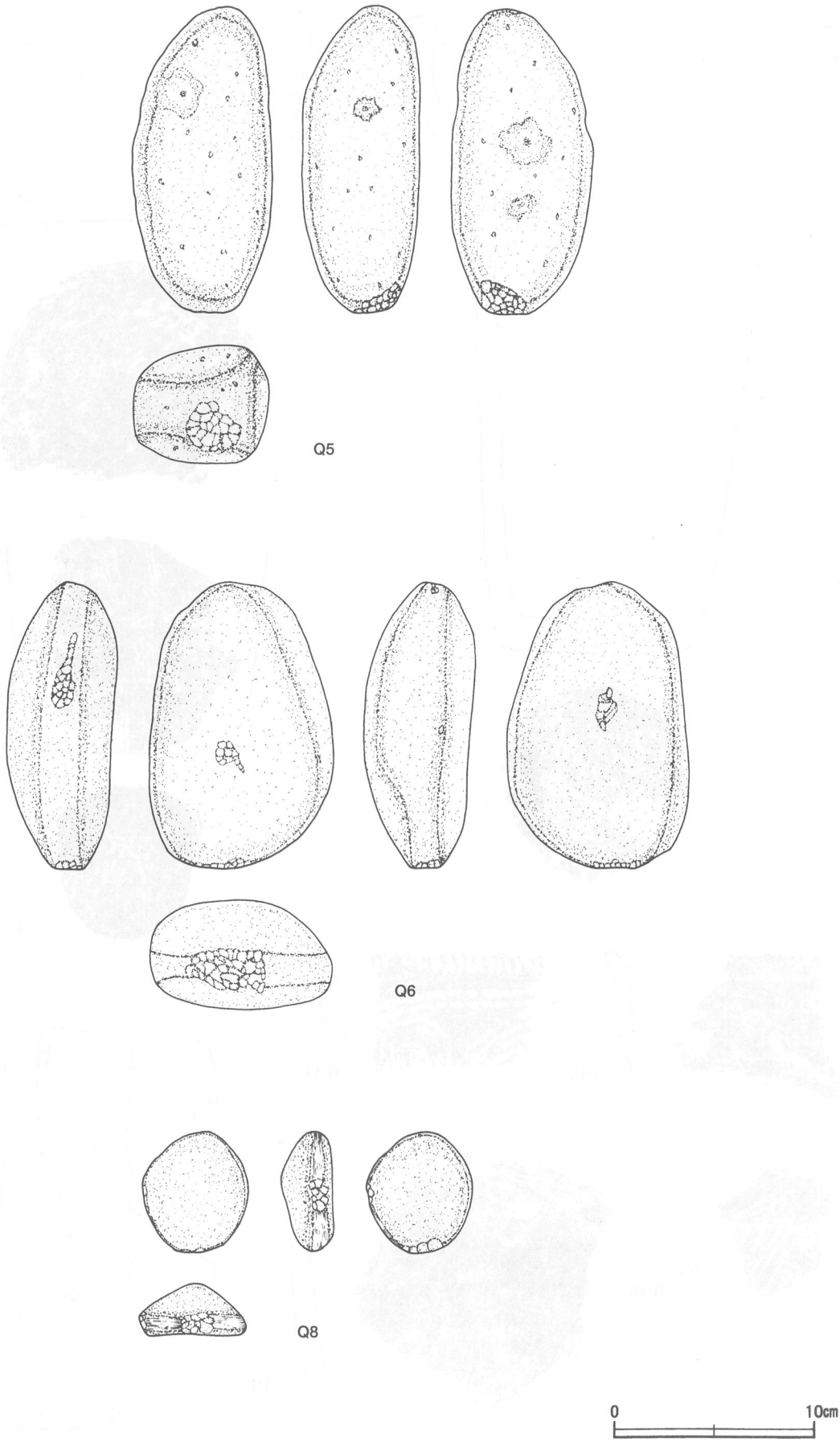
所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



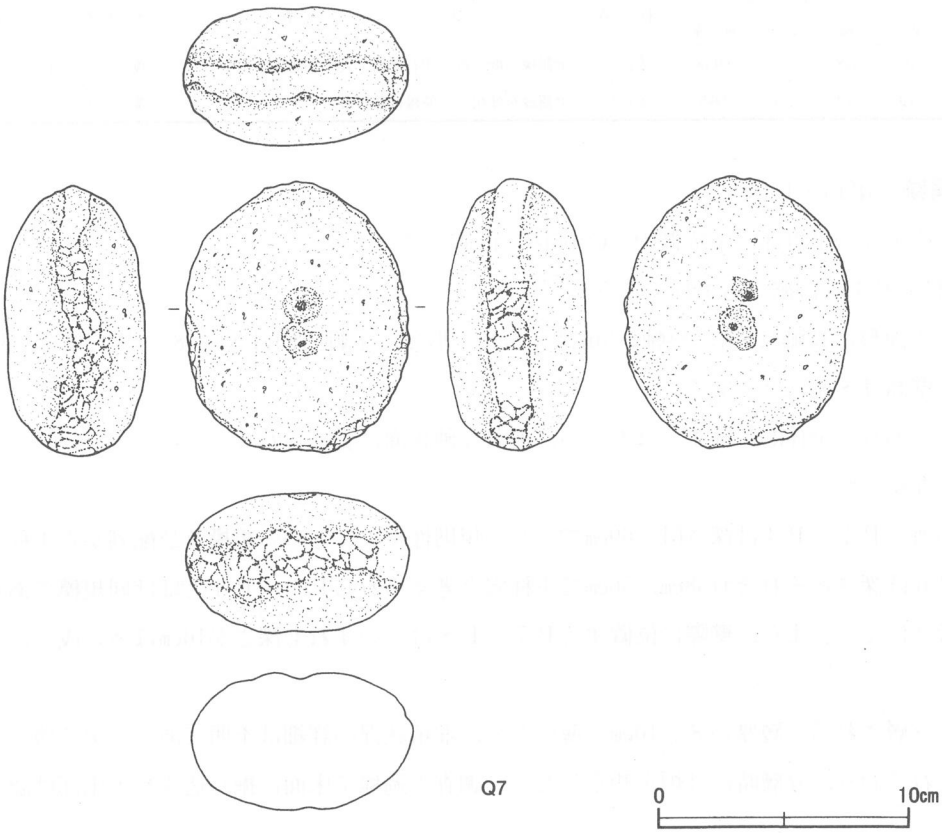
第10図　第５号住居跡・出土遺物実測図



第11図　第５号住居跡出土遺物実測図（１）



第12図　第５号住居跡出土遺物実測図（２）



第13図　第５号住居跡出土遺物実測図（３）

第５号住居跡出土遺物観察表（第10～13図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	30.0	31.4	9.0	口唇部下端に隆帯が巡る。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	床面	PL30 底部網代痕
18	縄文土器	深鉢	[24.0]	(11.9)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。波頂部下位に突起貼付。胴部上段無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	[19.0]	(11.7)	—	口辺部から胴部にかけて隆帯が垂下。Rの無節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
20	縄文土器	浅鉢	[17.9]	8.0	6.5	無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中層	PL30 外面研磨，底部網代痕
21	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	12.8	胴部下端無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	底部網代痕
22	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	9.8	胴部下端無文。胴部は半截竹管による縦位の平行沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	底部網代痕
TP16	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口縁部無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP17	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	口唇部下端は刻みを有する隆帯が巡る。隆帯に沿って複列の結節沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP18	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部は篦状工具による区画文内に斜行結節沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP19	縄文土器	深鉢	—	(11.6)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q 4	磨製石斧	(9.3)	4.5	2.9	(182.6)	砂岩	定角式。	覆土	刃部・基部欠損
Q 5	敲石	15.1	6.9	5.8	779.0	安山岩	両端に敲打痕。凹石兼用，表・側面各１孔，裏面２孔。	覆土中層	PL50
Q 6	敲石	14.1	9.1	5.4	1035.7	安山岩	両端に敲打痕。凹石兼用，表・裏面各１孔。	覆土	PL50 被熱痕あり

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q 7	敲石	10.6	8.8	5.4	695.8	安山岩	全側縁に敲打痕。凹石兼用，表・裏面各2孔。	覆土	PL50
Q 8	磨石	5.9	5.3	2.6	96.0	安山岩	全側縁を使用。2側縁に敲打痕。	覆土	

第6号住居跡（第14・15図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3b5区に位置している。

重複関係　第150号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長軸3.3m，短軸2.6mほどの長方形で，主軸方向はN－48°－Wである。壁は外傾して立ち上がり，壁高は8cmほどである。

床　ほぼ平坦であり，全体的に締まりはあるが，顕著な硬化面は認められなかった。

炉　検出されなかった。

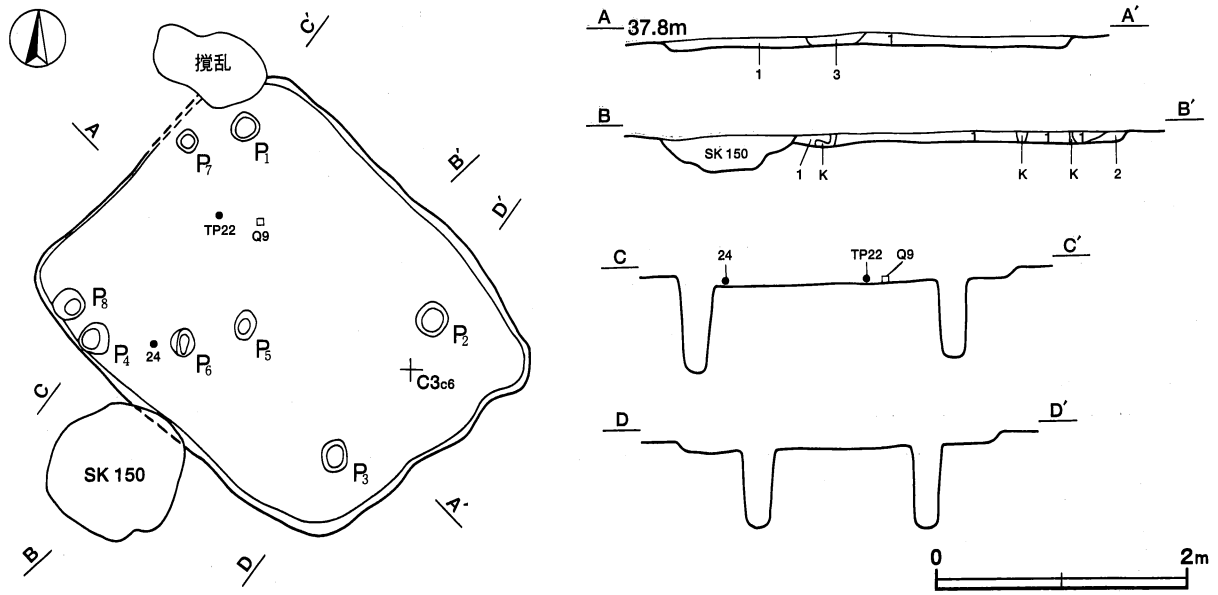
ピット　8か所。P1～P4は深さ61～69cmで，やや規則性を欠くものの規模及び配列から主柱穴と考えられる。P5・P6は深さがそれぞれ58cm，56cmで主柱穴と考えられるP1～P4とほぼ同規模であるが，配列から柱穴とは考えにくい。また，壁際に位置するP7・P8は，いずれも深さが16cmほどと浅く，その性格は不明である。

覆土　3層に分層される。層厚が8～10cmと薄いため，堆積状況の詳細は不明である。第3層には焼土ブロックが少量含まれており，分層時には炉を想定したが，調査の過程で床面に掘り込みや火床部は認められなかった。

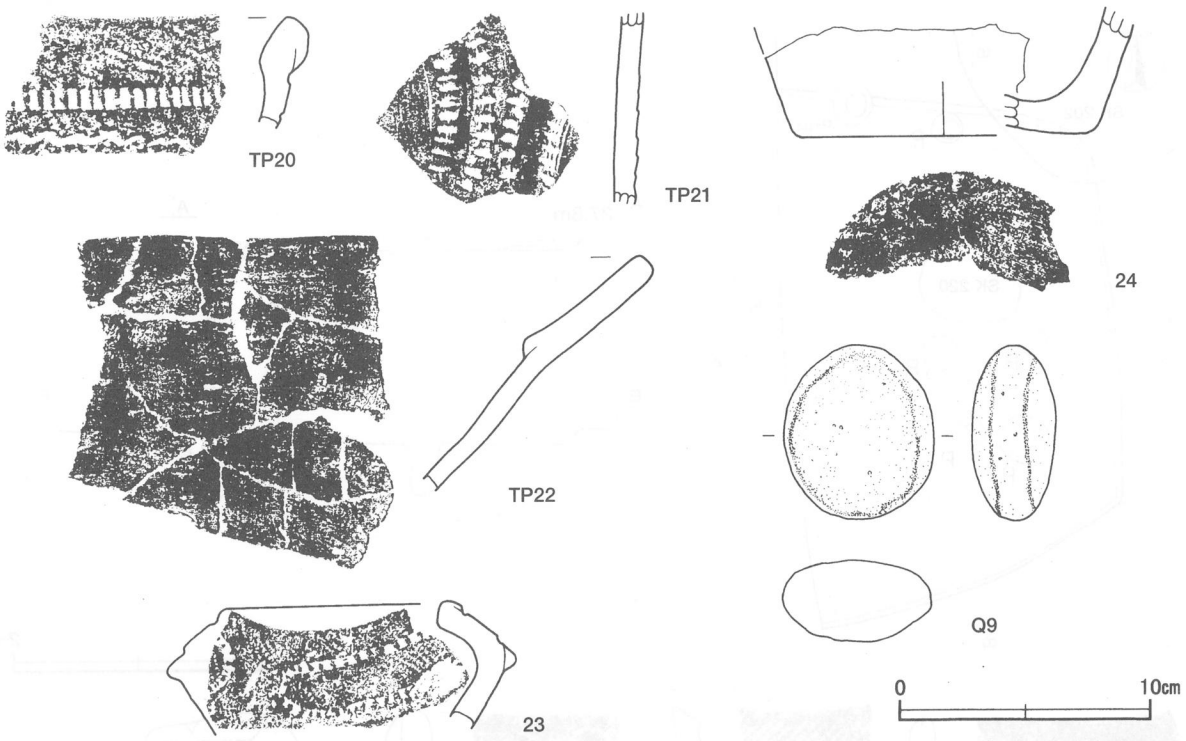
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片90点，磨石1点，凹石1点が出土している。覆土が薄かったため判然とはしないが，床面に細片が散在する状況で出土している。24及びTP22は床面から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，Q9も床面から出土している。また，23，TP20・TP21は覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第14図　第6号住居跡実測図



第15図　第６号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
23	縄文土器	深鉢	[9.2]	(5.0)	—	口辺部は隆帯区画文に結節沈線が沿う。ＲＬの単節縄文を横方向に施文。	長石・雲母	普通	にぶい黄褐	覆土	
24	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	[11.6]	胴部下端無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	床面	底部網代痕
TP20	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，隆帯には結節沈線が沿う。口辺部はＲＬの単節縄文の地文に横位の波状沈線文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	
TP21	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	胴部は隆帯に爪形文状の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP22	縄文土器	浅鉢	—	(9.2)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	床面	内外面研磨

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Ｑ９	磨石	6.9	6.0	3.2	149.0	安山岩	全側面を使用。	床面	

第７号住居跡（第16・17図）

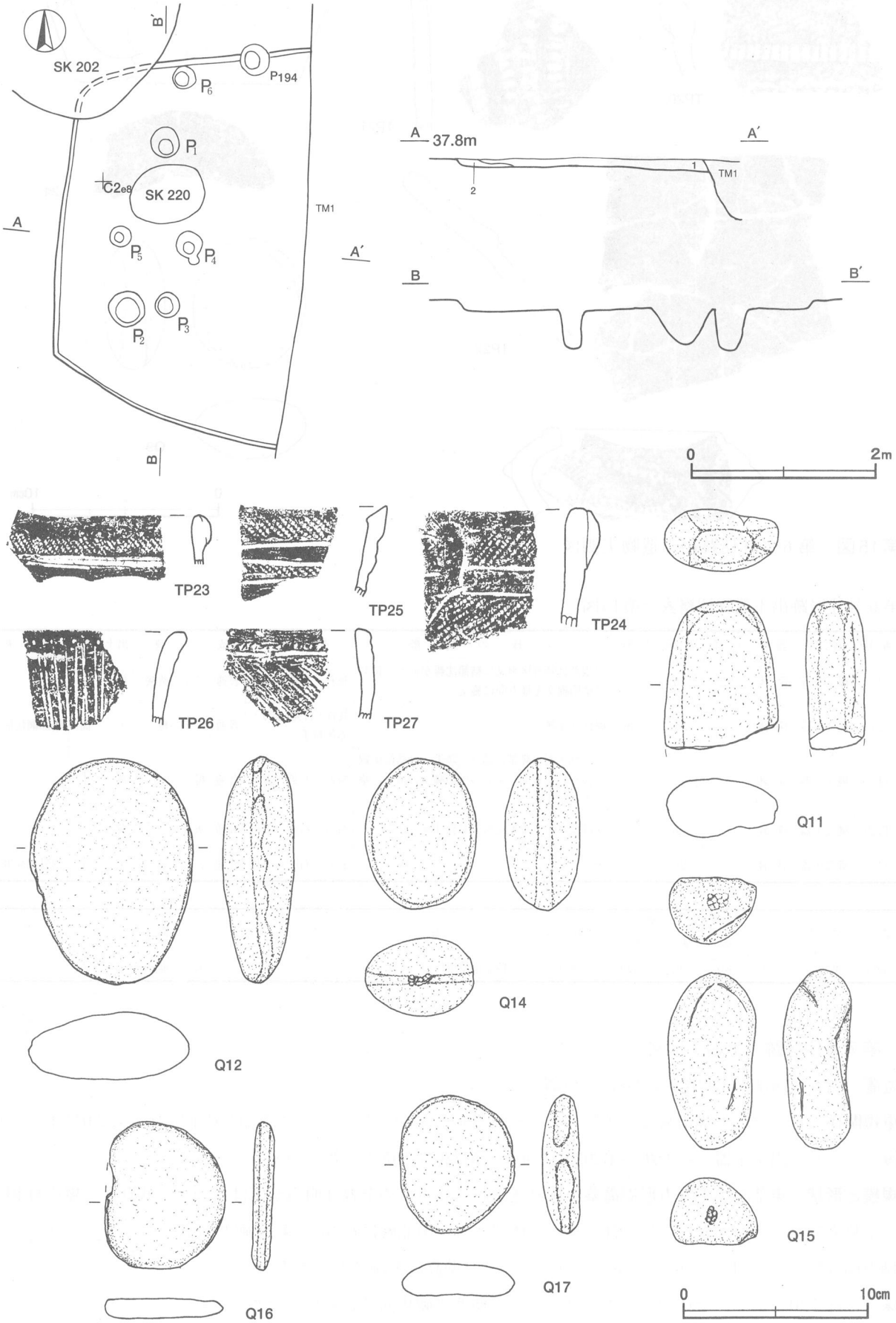
位置　調査区西部の平坦部，C2e8区に位置している。

重複関係　第１号方形周溝墓及び第194号ピットに掘り込まれている。また第202号土坑及び第220号土坑と重複しており，出土土器から本跡が第202号土坑及び第220号土坑より新しいと考えられる。

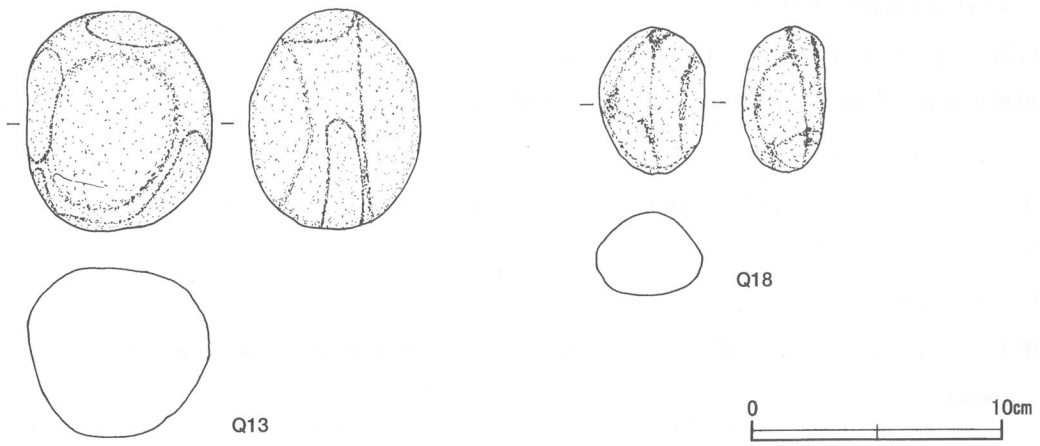
規模と形状　東部を第１号方形周溝墓に掘り込まれているため全容は明らかではないが，残存する壁の様相から不整方形もしくは不整長方形と推定され，確認された南北軸は4.3m，東西軸は2.8mほどである。また，主軸方向はＮ－２°－Ｅで，壁は外傾して立ち上がり，壁高は８cmほどである。

床　ほぼ平坦であり，全体的に締まりはあるが，顕著な硬化面は認められなかった。

炉　検出されなかった。



第16図　第７号住居跡・出土遺物実測図



第17図　第７号住居跡出土遺物実測図

ピット　６か所。Ｐ１は深さ44cmで規模及び配置から主柱穴と考えられる。また，Ｐ２・Ｐ３の深さはそれぞれ38・42cmで，いずれもＰ１と同規模であり，南北に対称の位置にあるため，いずれかが主柱穴になると想定できる。Ｐ４～Ｐ６の性格は不明である。

覆土　２層に分層される。層厚が８cmほどと薄いため，堆積状況の詳細は不明である。

土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量　　2　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片79点，磨製石斧１点，敲石１点，磨石６点が出土している。抽出・図示した遺物はいずれも覆土からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期後葉（安行１式期）と考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表（第16・17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	—	(2.6)	—	肥厚した口縁部にＲＬの単節縄文を施文する。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP24	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	口辺部は沈線区画によるＬＲの帯縄文。瘤状突起貼付。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP25	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口唇部肥厚。沈線区画内にＲＬの単節縄文を施文。	長石・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP26	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	口縁部から胴部上位は半截竹管による条線文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土	
TP27	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	肥厚する口唇部下端は刻みを有する。斜行する条線文施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q11	磨製石斧	(7.9)	6.1	3.2	(220.6)	安山岩	全側面研磨。	覆土	刃部欠損
Q12	磨石	11.9	8.8	3.9	427.4	安山岩	全側面を使用。	覆土	
Q13	磨石	8.2	6.9	6.7	488.8	安山岩	全側面を使用。側縁に擦痕。	覆土	
Q14	磨石	7.9	6.0	4.0	210.8	安山岩	全側面を使用。一端に敲打痕。	覆土	PL50 被熱痕あり
Q15	敲石	9.4	4.7	3.6	217.1	砂岩	両端に敲打痕。	覆土	
Q16	磨石	7.8	6.4	1.2	81.7	安山岩	全側縁を使用。	覆土	被熱痕あり
Q17	磨石	7.3	6.1	2.0	116.6	安山岩	全側縁を使用。	覆土	
Q18	磨石	6.0	4.2	3.3	107.1	安山岩	全側面を使用。	覆土	

第９号住居跡（第18図）

位置　調査区西部の平坦部，D1a9区に位置している。

規模と形状　長軸3.9m，短軸3.6mほどの不整方形で，主軸方向はN－５°－Eである。壁は外傾して立ち上がり，壁高は６～10cmである。

床　ほぼ平坦であり，全体的に締まりはあるが，顕著な硬化面は認められなかった。

炉　検出されなかった。

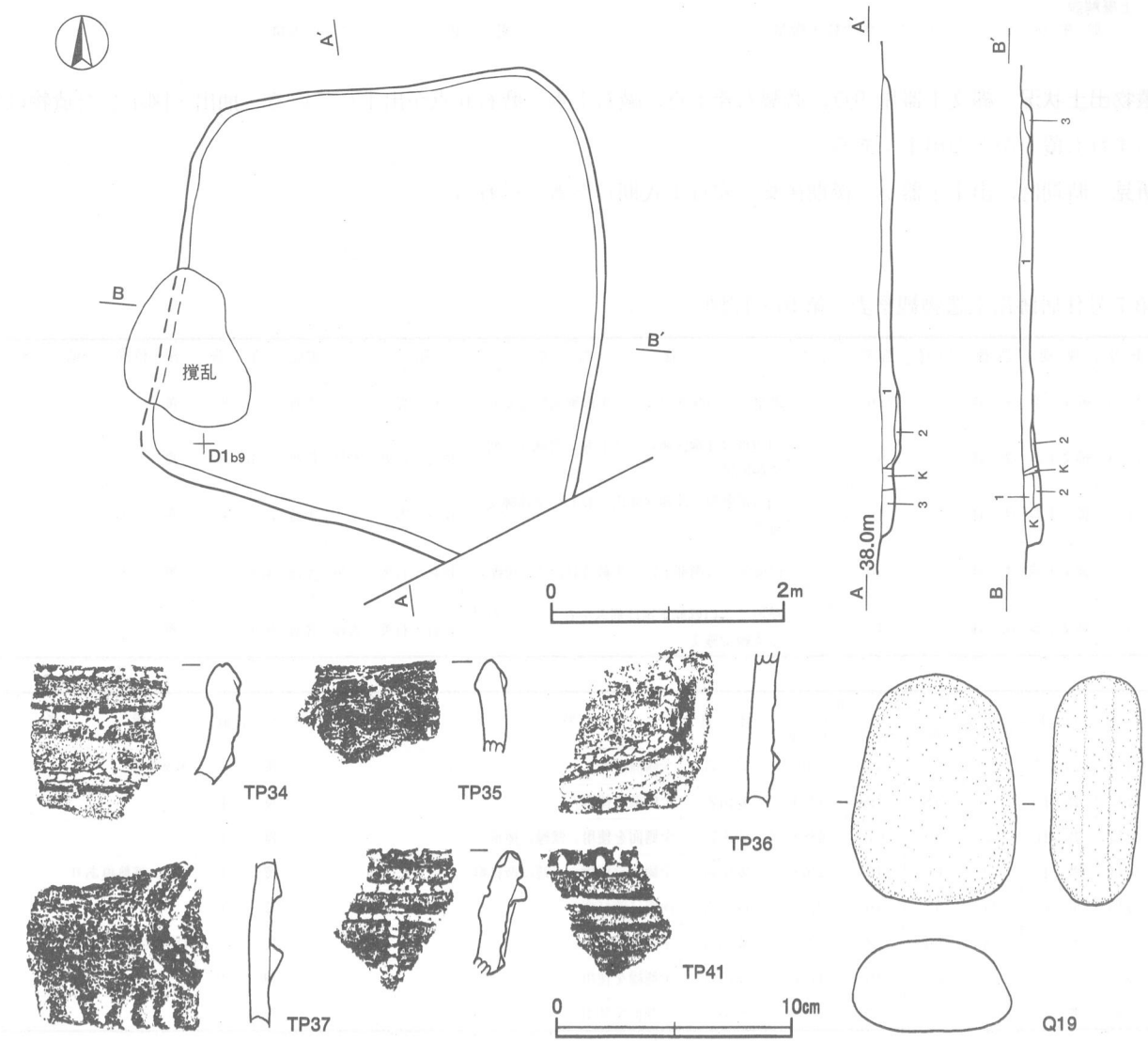
ピット　検出されなかった。

覆土　３層に分層される。層厚が６～10cmと薄いため，堆積状況の詳細は不明である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片218点，磨石１点のほか，流れ込みによる土師器片と須恵器片が各２点出土している。抽出・図示した遺物はいずれも覆土からの出土である。

所見　柱穴及び炉は検出されていないが，やや締まりがある床面が検出されたことと，覆土中から縄文土器片が多量に出土していることなどから縄文時代の住居跡と判断した。出土土器に大きな時期差が認められないことから，時期は中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第18図　第９号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP34	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	肥厚した口唇部下端に結節沈線が巡る。口辺部は隆帯区画文に沿って結節沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP35	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	口唇部下端に隆帯貼付文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP36	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	隆帯文に結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土	
TP37	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	胴部は隆帯文。襞状の爪形文施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土	
TP41	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	口唇部の両下端に交互刺突文。口辺部は隆帯区画文に沿って結節沈線文。口縁部内面に沈線が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q19	磨石	8.6	6.8	3.7	380.4	安山岩	全側面を使用。	覆土	PL50

（２）屋外炉

今回の調査で，壁や床，柱穴が確認できず，炉のみを検出した遺構１基を屋外炉とした。

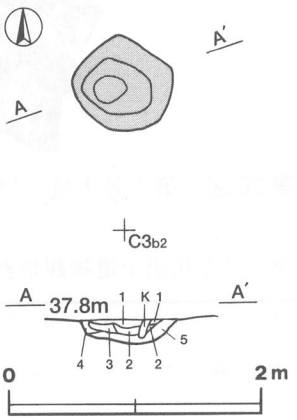
第１号屋外炉（第19図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3a1区に位置している。

確認状況　確認面において，環状に焼土の広がりが認められた。住居跡の炉を想定して，本跡周辺の住居跡プランの確認に努めたが，床や柱穴は検出されなかった。

規模と形状　長径80cm，短径70cmほどの不整楕円形を呈する地床炉である。確認面からの深さは16cmほどで，皿状に掘りくぼめられている。炉床面は被熱により凹凸をもって赤変硬化している。

覆土　５層に分層される。第５層は焼土ブロックの含有量が多く，他の層に比べて硬化が著しいことから，第５層上面が炉床に相当すると考えられる。



第19図　第１号屋外炉実測図

土層解説
1　黒褐色　焼土小ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック微量
5　赤褐色　焼土ブロック多量，ロームブロック微量

遺物出土状況　出土していない。

所見　土器が出土していないため明確な時期は判断できないが，形状や周辺の該期の住居跡から炉が検出されていないことなどから，縄文時代の屋外炉と考えられる。

（３）土　坑

第１号土坑（第20図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のD2a0区に位置している。

重複関係　第１号ピットを掘り込んでいる。

規模と形状　平面形は径0.8mほどの円形で，深さは32cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

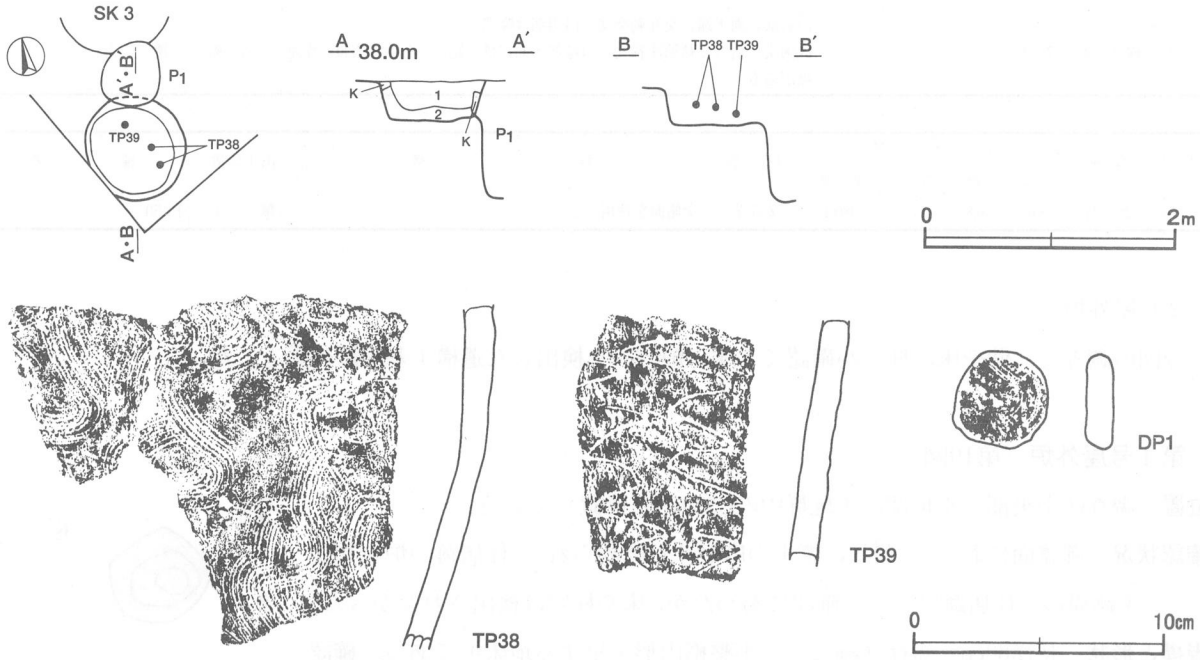
覆土　２層に分層される。第２層にロームブロックが多く含まれていることや遺物が第２層上面から第１層に

集中していることなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片42点，土器円盤１点，剥片１点が出土している。土器のほとんどが細片で，第２層上面に廃棄されたような状況で散在して出土している。またDP１は覆土からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期末葉～後期初頭と考えられる。



第20図　第１号土坑・出土遺物実測図

第１号土坑出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	—	(13.7)	—	胴部は櫛歯状工具による縦位の波状文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
TP39	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	胴部は縦位の波状沈線文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP１	土器円盤	3.8	3.7	1.1	18.7	長石・石英・雲母，にぶい褐	櫛歯状工具による波状条線文。周縁部荒削り。	覆土	PL48

第２号土坑（第21図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3i1区に位置している。

重複関係　第８号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径1.0mほどの円形で，深さは30cmほどである。底面はほぼ平坦で，大部分の壁は外傾して立ち上がっているが，西壁の一部は内傾しており，本土坑が機能していた時期にはフラスコ状土坑であり，その下位が残存したものと考えられる。

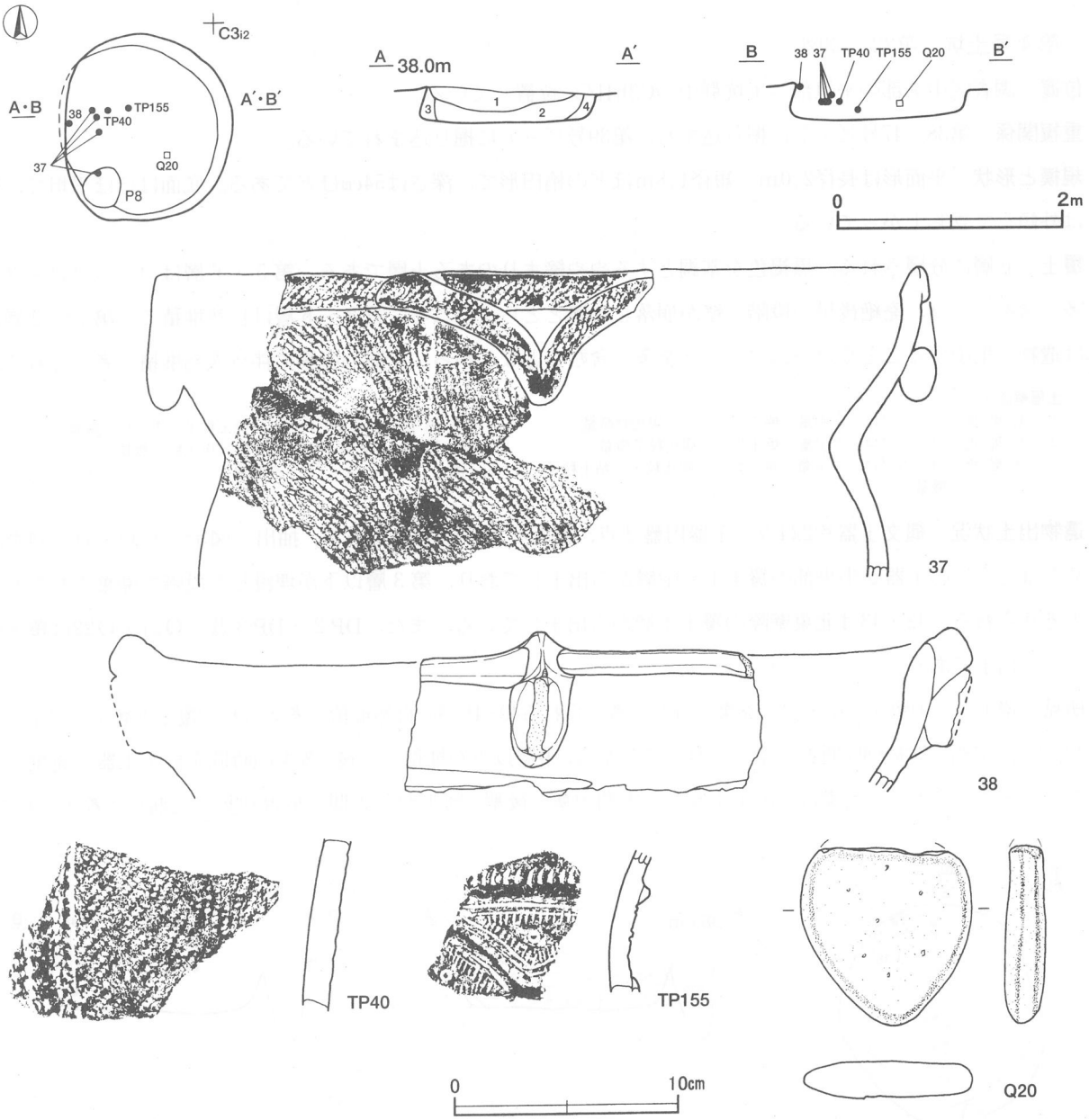
覆土　４層に分層される。黒褐色を基調とするやや締まりのある土層である。第３・４層はローム粒子を多く含んでおり，廃絶後早い段階で壁が崩落した層ととらえられる。レンズ状の堆積状況を示していることから自

然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物出土状況　縄文土器片79点，磨石１点，剥片１点が出土している。ほとんどの遺物が第２層上面から出土しており，第２層堆積後に投棄もしくは廃棄されたものと考えられる。37は第２層上面に散在していた破片が接合したものである。

所見　本跡の廃絶後，第２～４層が堆積した後に出土土器の多くが投棄されたと考えられるため，本跡の機能時期は判断し難いが，第１層の堆積時期は中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第21図　第２号土坑・出土遺物実測図

第２号土坑出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
37	縄文土器	深鉢	[33.6]	(13.6)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，口辺部にＶ字状隆帯文を貼付。Ｌの無節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
38	縄文土器	深鉢	[34.2]	(7.2)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，瘤状の突起貼付。口辺部下位に横位の沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP40	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	胴部は半截竹管による結節沈線が沿う隆帯が垂下。地文はＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP155	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	胴部は半截竹管による平行沈線文及び爪形文が沿う隆帯区画内に円形の竹管文，爪形文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q20	磨石	7.7	7.5	1.8	153.1	安山岩	全側面を使用。	覆土中層	

第４号土坑（第22・23図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3h1区に位置している。

重複関係　第38・47号ピットに掘り込まれ，第39号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径2.0m，短径1.8mほどの楕円形で，深さは54cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

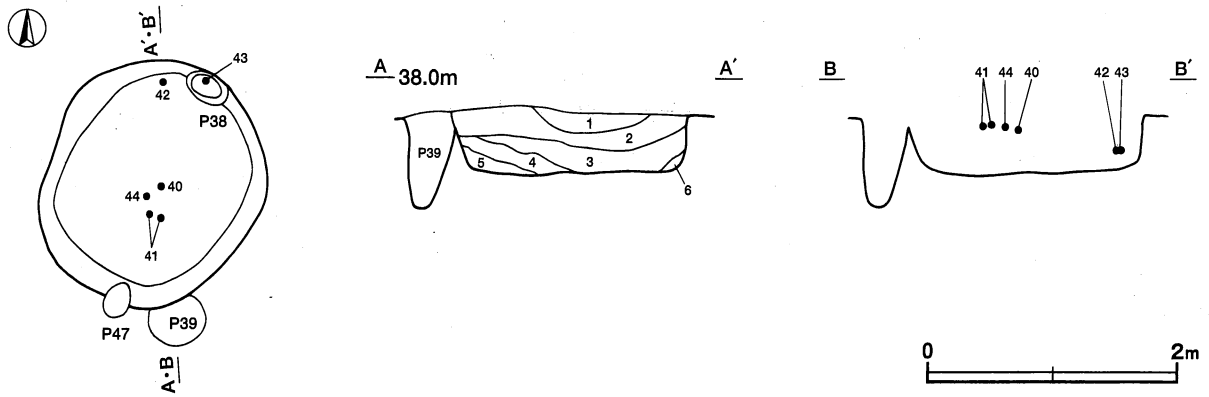
覆土　６層に分層される。黒褐色を基調とするやや締まりのある土層である。第５・６層はロームブロックを多く含んでおり，廃絶後早い段階で壁が崩落した層ととらえられる。第３～６層は自然堆積で，第１・２層には遺物が集中することやロームブロックを多く含むことなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

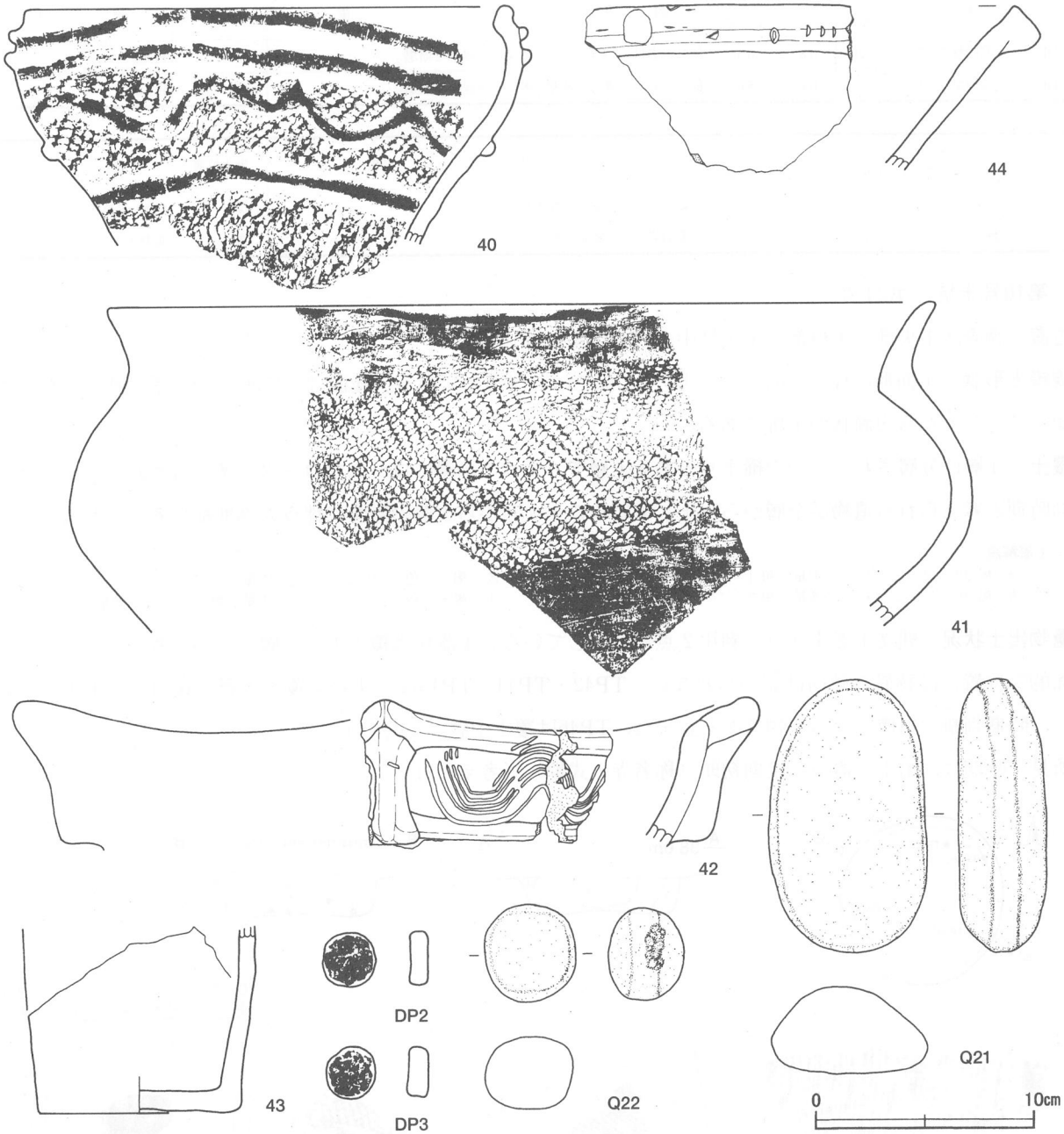
1　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片224点，土器円盤２点，磨石２点が出土している。抽出・図示した40・41・44を含めたほとんどの土器が中央部の覆土上～中層から出土しており，第３層以下が埋没した段階で廃棄されたものと考えられる。42・43は北東壁際の覆土下層から出土している。また，DP２・DP３及びQ21・Q22は覆土中からの出土である。

所見　覆土上～中層から出土した廃棄されたと考えられる40・41・44，自然堆積と考えられる覆土下層から出土した42・43との間に多少の時期差が認められることから，中層以下が堆積した後，多少の時間を経て土器が廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から中期中葉～後葉（阿玉台Ⅳ式期～加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。



第22図　第４号土坑実測図



第23図　第４号土坑出土遺物実測図

第４号土坑出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
40	縄文土器	深鉢	[22.0]	(10.6)	—	口辺部は隆帯区画文内に波状隆帯文を配する。胴部はＲＬの単線縄文を地文とし，縦位の波状沈線文・平行沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
41	縄文土器	甕	[37.2]	(10.6)	—	口辺部及び胴部は無文。ＲＬの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	内面研磨
42	縄文土器	深鉢	[33.0]	(6.7)	—	口辺部は隆帯による区画内に櫛歯状工具による波状条線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
43	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	9.2	胴部下端無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐	覆土下層	炭化物付着
44	縄文土器	浅鉢	—	(7.3)	—	口唇部下端に刻みを有する。胴部無文	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP2	土器円盤	2.4	2.4	0.8	6.5	長石・雲母，黒褐	無文。周縁部を研磨。	覆土	PL48
DP3	土器円盤	2.3	2.1	0.9	5.6	長石・石英・雲母，灰褐	無文。周縁部を研磨。	覆土	PL48

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q21	磨石	12.3	7.1	3.9	471.4	安山岩	全側面を使用。	覆土	PL50 被熱痕あり
Q22	磨石	4.3	4.1	3.4	84.5	安山岩	全側面を使用。	覆土	被熱痕あり

第10号土坑（第24図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3i2区に位置している。

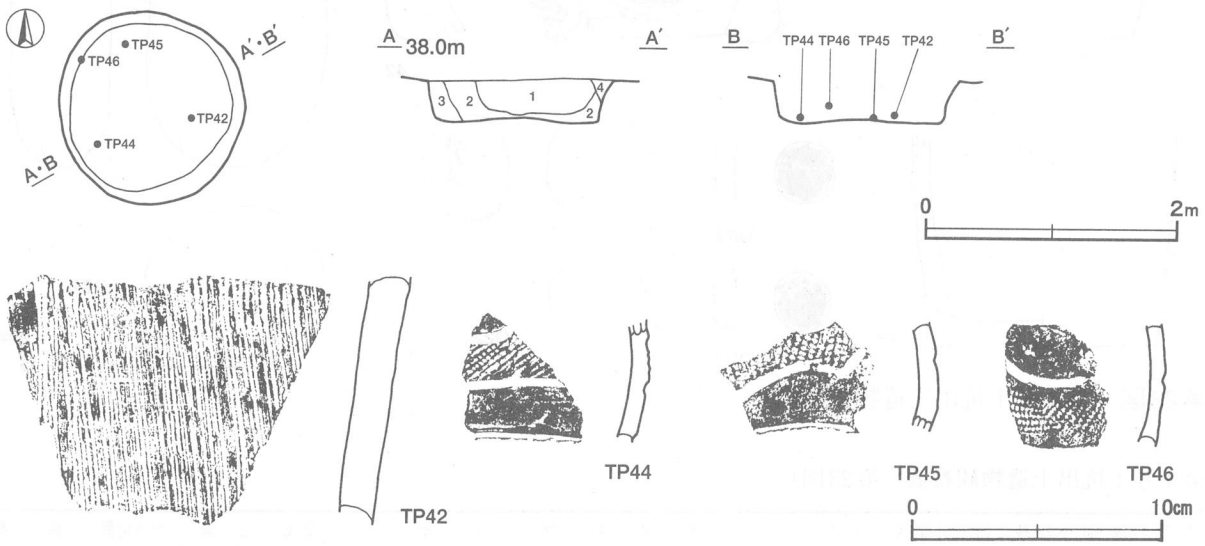
規模と形状　平面形は径1.5mほどの円形で，深さは33cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は直立気味に外傾して立ち上がる円筒状の土坑である。

覆土　4層に分層される。やや締まりのある土層で，すべての層にロームブロックが多く含まれていることや同時期と考えられる遺物が全層から出土していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片56点，剥片2点が出土している。土器片は覆土上～下層にかけて散在しており，平面的な位置には特異な傾向は認められない。TP42・TP44・TP45はいずれも覆土下層や底面から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，TP46は覆土中層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺1式期）と考えられる。



第24図　第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表（第24図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	—	(9.8)	—	縦位の条線文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐	覆土下層	
TP44	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	沈線区画文内にＲＬの単節縄文を充填。	長石	普通	にぶい黄褐	底面	
TP45	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	褐灰	底面	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP46	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石	普通	浅黄橙	覆土中層	

第11号土坑（第25図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3g3区に位置している。

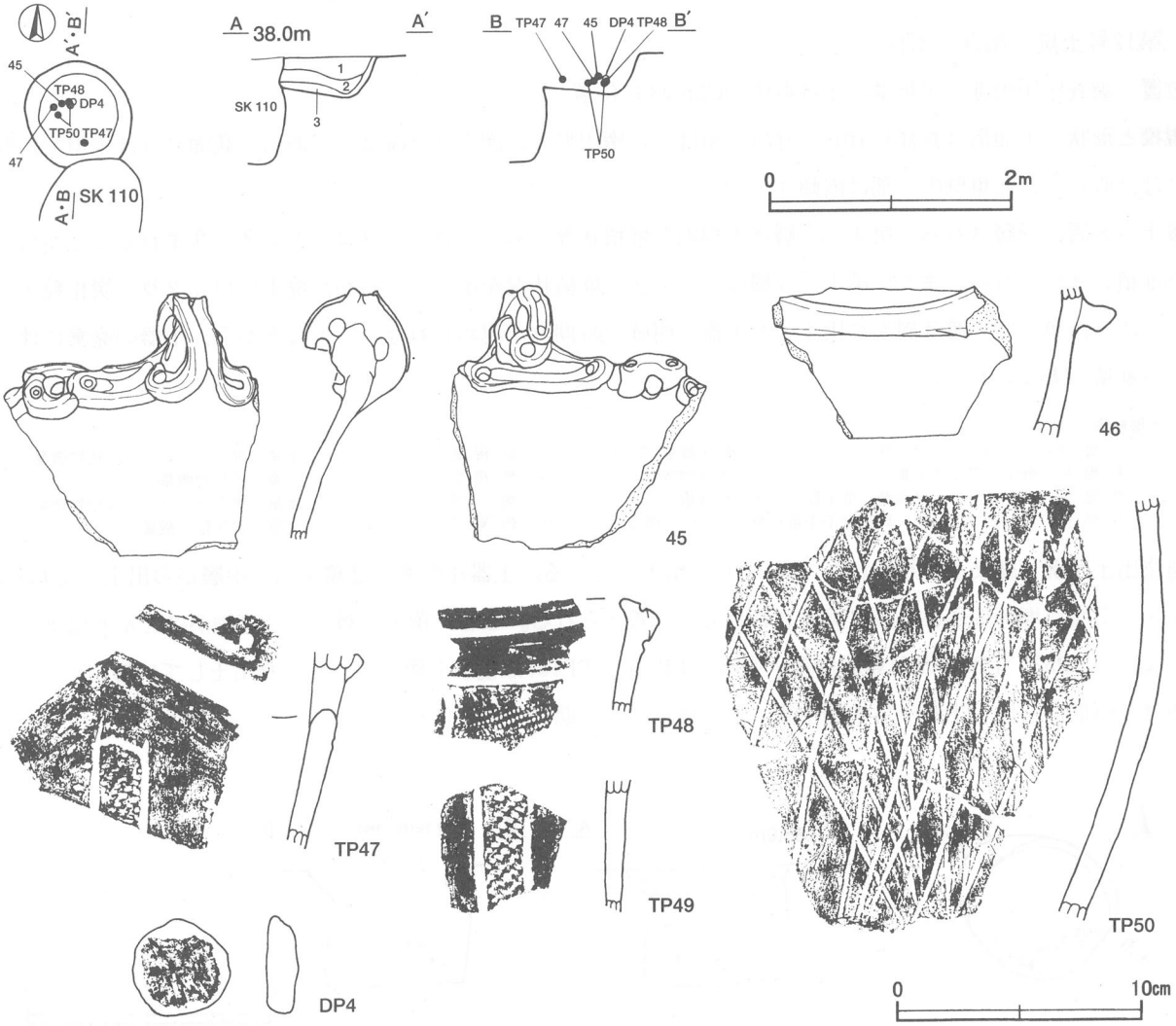
重複関係　第110号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径1.9mほどの円形で，深さは34cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

覆土　3層に分層される。全体的に大ぶりのロームブロックを多く含み，土器が中層に集中することなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片57点，土器円盤１点が出土している。土器片は覆土上～下層に散在して出土しているが，特に覆土中層に集中しており，平面的な位置には特異な傾向は認められない。TP47・TP48・TP50及



第25図　第11号土坑・出土遺物実測図

びDP 4は覆土中層，45は覆土上層からそれぞれ出土している。また，46及びTP49は覆土からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺１～２式期）と考えられる。

第11号土坑出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
45	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	隆帯により橋状把手を作出し，沈線文・円形刺突文で加飾する。口辺部無文。	長石・雲母	良好	灰褐	覆土上層	PL46 内外面研磨
46	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	鍔状の横位の隆帯文。胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	
TP47	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	口唇部は沈線が巡り，口辺部から胴部上位は沈線区画文内にＲＬの単節縄文を充填。	長石・赤色粒子	普通	にぶい黄褐	覆土中層	
TP48	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	口唇部は沈線が巡り，口辺部は沈線により文様描出。ＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP49	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	縦位の沈線区画文間にＲＬの単節縄文を縦方向に充填。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP50	縄文土器	深鉢	—	(17.0)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP 4	土器円盤	3.9	4.0	1.3	20.1	長石・雲母，灰黄褐	微隆帯文。周縁部荒削り。	覆土中層.	PL48

第12号土坑（第26・27図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3h3区に位置している。

規模と形状　平面形は長径1.4m，短径1.1mほどの楕円形で，深さは98cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立し，北東壁の一部は内傾する。

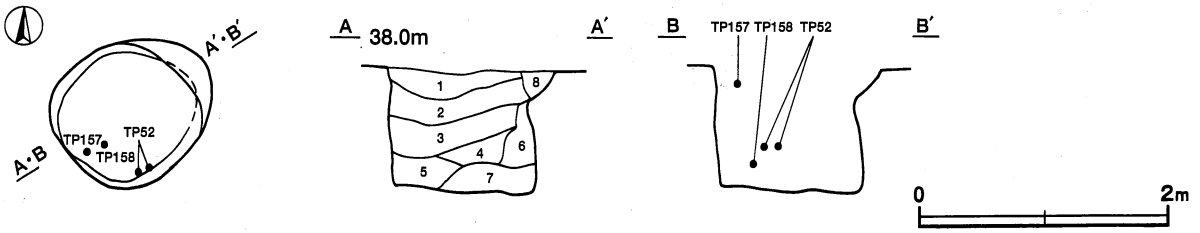
覆土　８層に分層される。第４～７層は不規則な堆積状況を示し，ロームブロックも多く含まれることから人為堆積と考えられる。また，第１～３層はレンズ状の堆積状況を示しているが，焼土ブロック及び炭化粒子を含み，また第１層と第３層から出土した土器に明確な時期差が認められないことなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

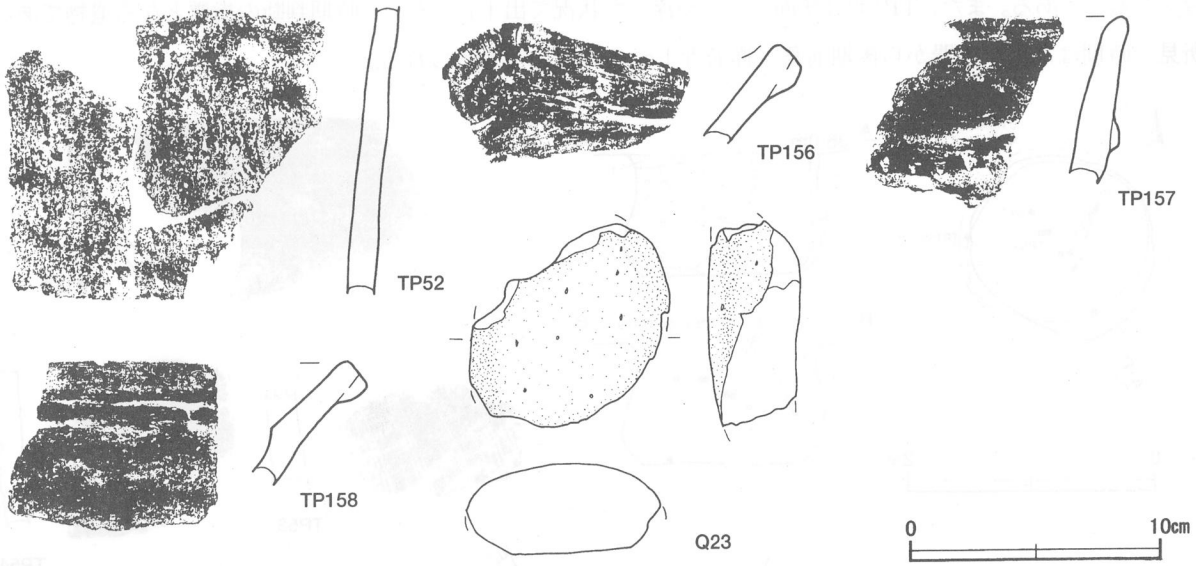
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　褐　色　ロームブロック多量，焼土ブロック・炭化物微量
8　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片131点，磨石１点が出土している。土器片の多くは覆土上～中層から出土しており，第４～７層が埋め戻された後に廃棄されたものと考えられる。なお，覆土下層からは遺物がほとんど出土していない。TP52，TP158及びQ23は覆土中層，TP156・TP157は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。



第26図　第12号土坑実測図



第27図　第12号土坑出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP52	縄文土器	深鉢	—	(11.3)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP156	縄文土器	浅鉢	—	(3.8)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	内外面研磨
TP157	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口辺部無文帯の下端に刻みを有する隆帯区画文が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP158	縄文土器	浅鉢	—	(4.9)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	内外面研磨

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q23	磨石	(8.0)	8.0	(3.7)	(270.3)	安山岩	全側面を使用。	覆土中層	裏面剥離

第15号土坑（第28図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3h2区に位置している。

規模と形状　平面形は径1.5mほどの円形で，深さは96cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は下位においてやや膨らみをもって立ち上がる。

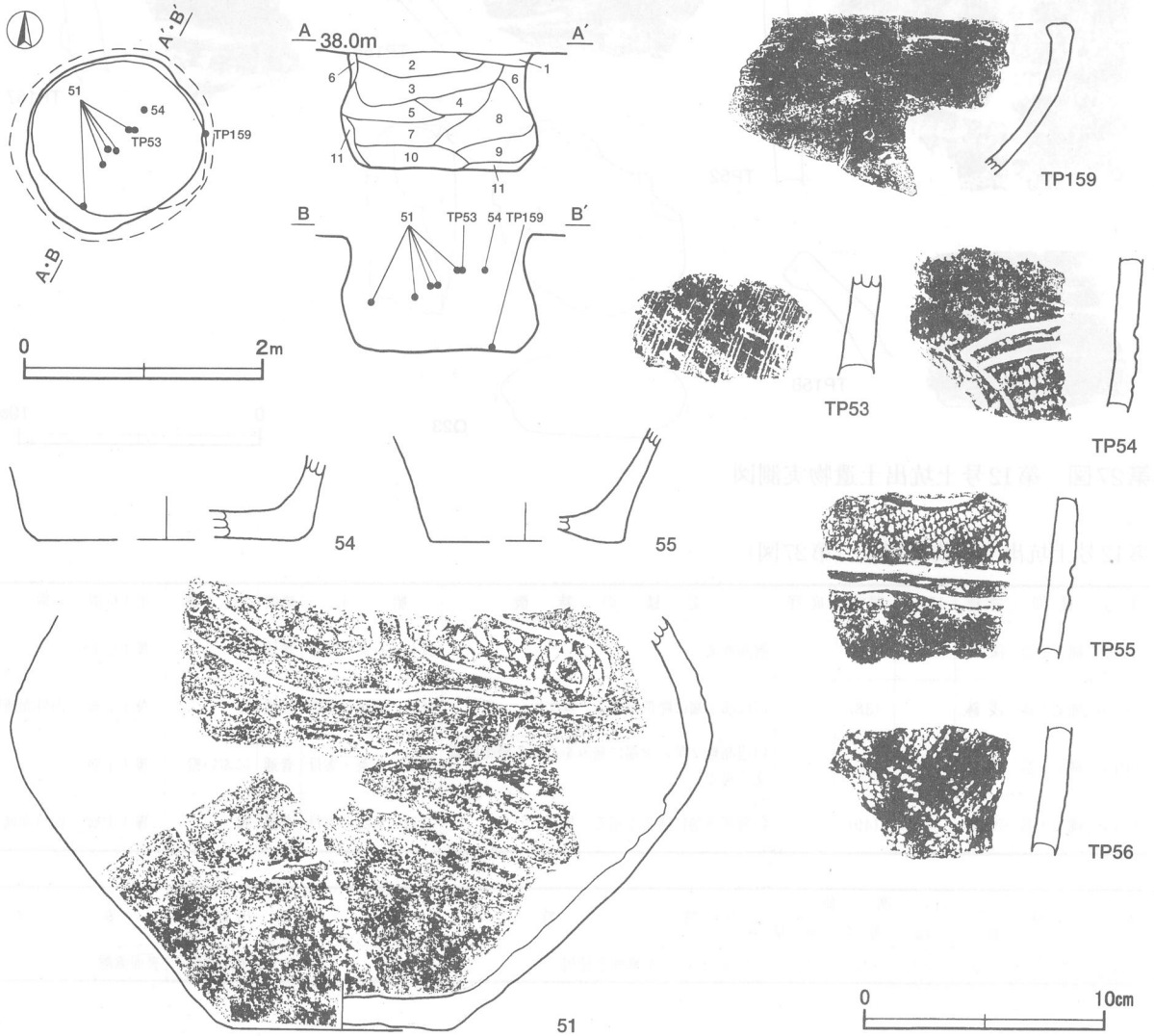
覆土　11層に分層される。黒褐色を基調とするやや締まりのある土層である。第10・11層は粘性が強く，ローム粒子を多く含み，本土坑の廃絶直後の堆積層と考えられ，第6・8・9層は壁の崩落層ととらえられる。全体としては自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム中ブロック少量
7　黒褐色　ローム粒子少量
8　極暗褐色　ロームブロック少量
9　黒褐色　ロームブロック中量
10　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
11　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片190点が出土している。土器片の多くは覆土上～中層にかけて散在して出土しており，平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。54・55，TP55・TP56は覆土上層，TP53・TP54は覆土中層からそれぞれ出土している。51は覆土中層を南から北に向かって流れ込んだ土層の中から出土した破片が接

合したものである。また，TP159は底面からやや浮いた状況で出土しており，時期判断の指標となる遺物である。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺１～２式期）と考えられる。



第28図　第15号土坑・出土遺物実測図

第15号土坑出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
51	縄文土器	鉢	—	(16.9)	9.0	口辺部は沈線区画内に列点文を充填。胴部無文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい黄褐	覆土中層	煤付着
54	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	[11.0]	胴部下端無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
55	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	[8.0]	胴部下端無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	器面研磨
TP53	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	櫛歯状工具による斜行条線文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土中層	
TP54	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	ＬＲの単節縄文を地文に沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP55	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	ＬＲの単節縄文を地文に２条一組の沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP56	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	ＬＲＬの複節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP159	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	

第16号土坑（第29図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC2g0区に位置している。

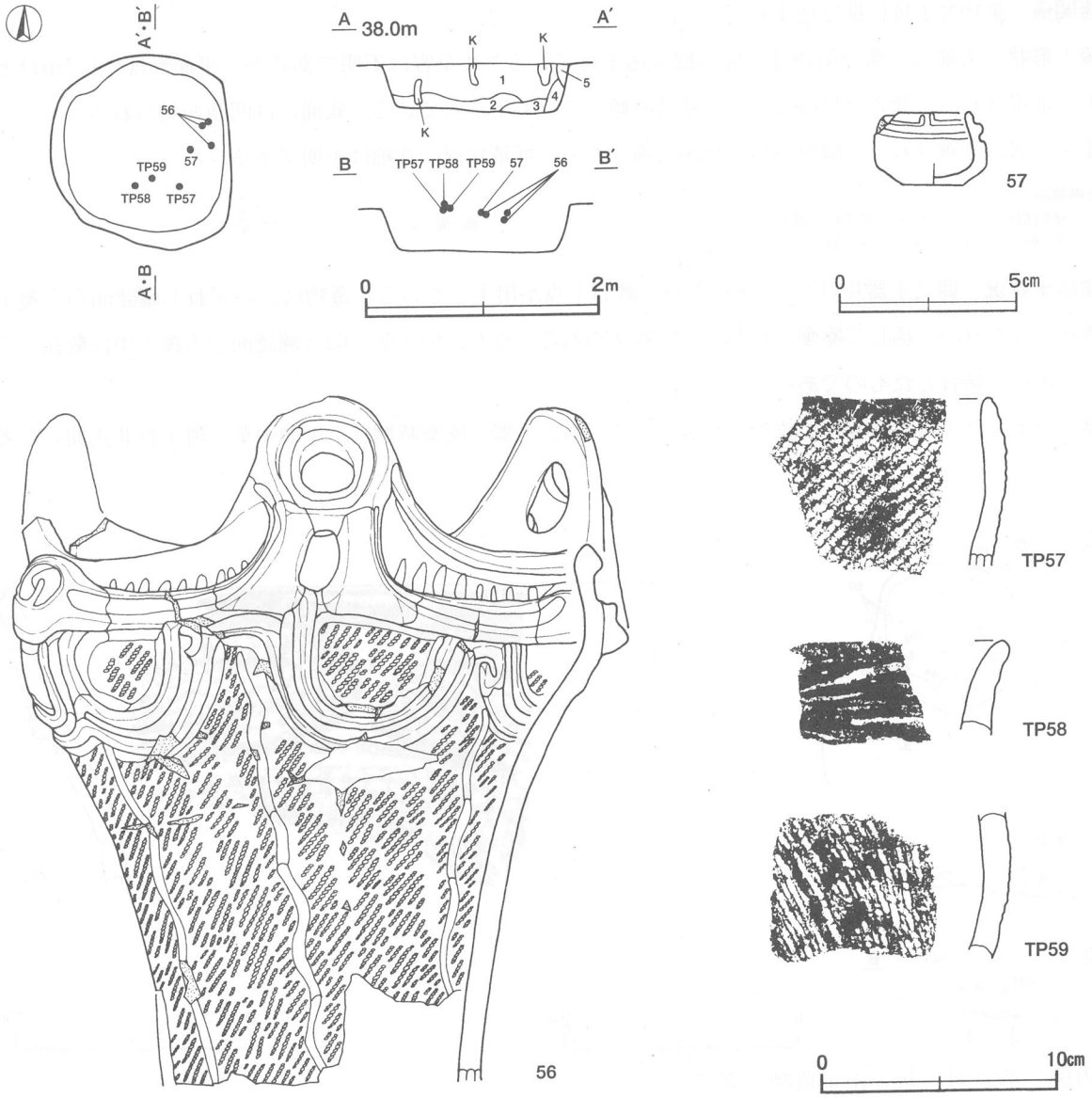
規模と形状　平面形は径1.7mほどの円形で，深さは40cmほどである。底面はほぼ平坦であり，壁はほぼ直立する。

覆土　5層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。第2層以下はロームブロックを多く含み，第1層には土器が集中して出土していることなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック多量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　暗褐色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片71点が出土している。抽出・図示した土器を含めてほとんどの土器片がプラン中央部の確認面や覆土上層から出土し，また56が逆斜位で出土していることなどから，本土坑がほぼ埋め戻された段階で一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。



第29図　第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
56	縄文土器	深鉢	[23.2]	(28.6)	—	隆帯により3単位の橋状把手を作出。口辺部は沈線が沿う隆帯区画文内に縦位の沈線文を配し，口辺部下端に隆帯と沈線による文様帯をもつ。胴部は波状沈線が垂下。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英	普通	灰褐 にぶい褐	覆土中層	PL30
57	縄文土器	ミニチュア	2.4	2.0	1.8	口縁部は沈線による区画文。胴部無文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土上層	PL31
TP57	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	口辺部に幅広の無文帯をもち，胴部はＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP58	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	覆土上層	
TP59	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	Ｌの無節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	灰黄褐	覆土上層	

第18号土坑（第30～32図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f2区に位置している。

重複関係　第19号土坑に掘り込まれている。

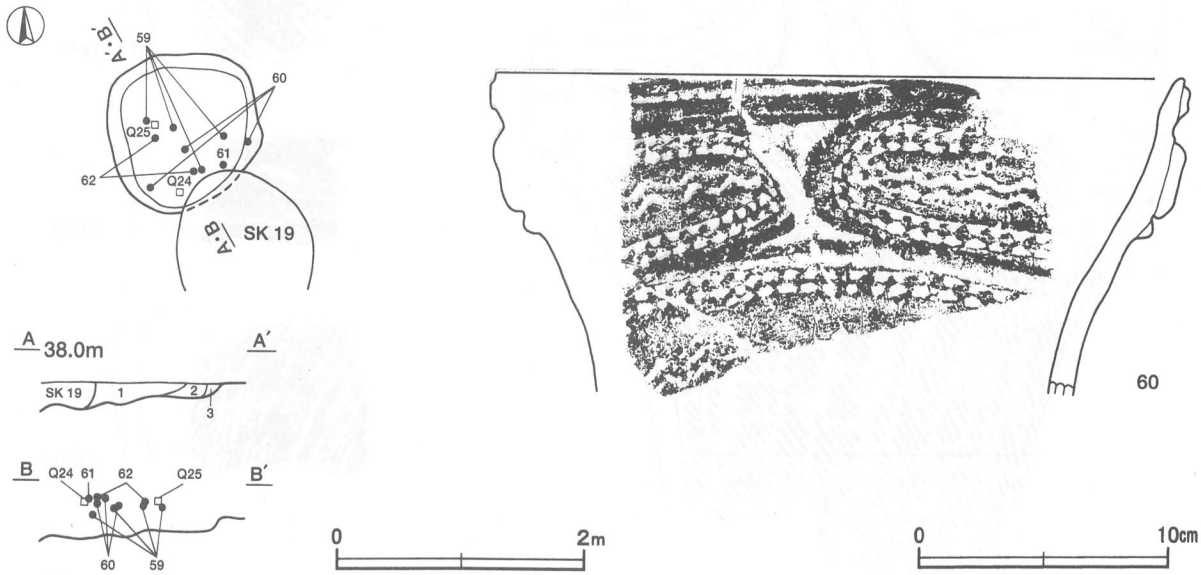
規模と形状　南部の一部を第19号土坑に掘り込まれているため全容は不明であるが，平面形は径1.3mほどの円形と推定される。深さは18cmほどで，壁は外傾して立ち上がっている。底面には凹凸が見られる。

覆土　3層に分層される。層厚が14～18cmと薄いため，堆積状況の詳細は不明である。

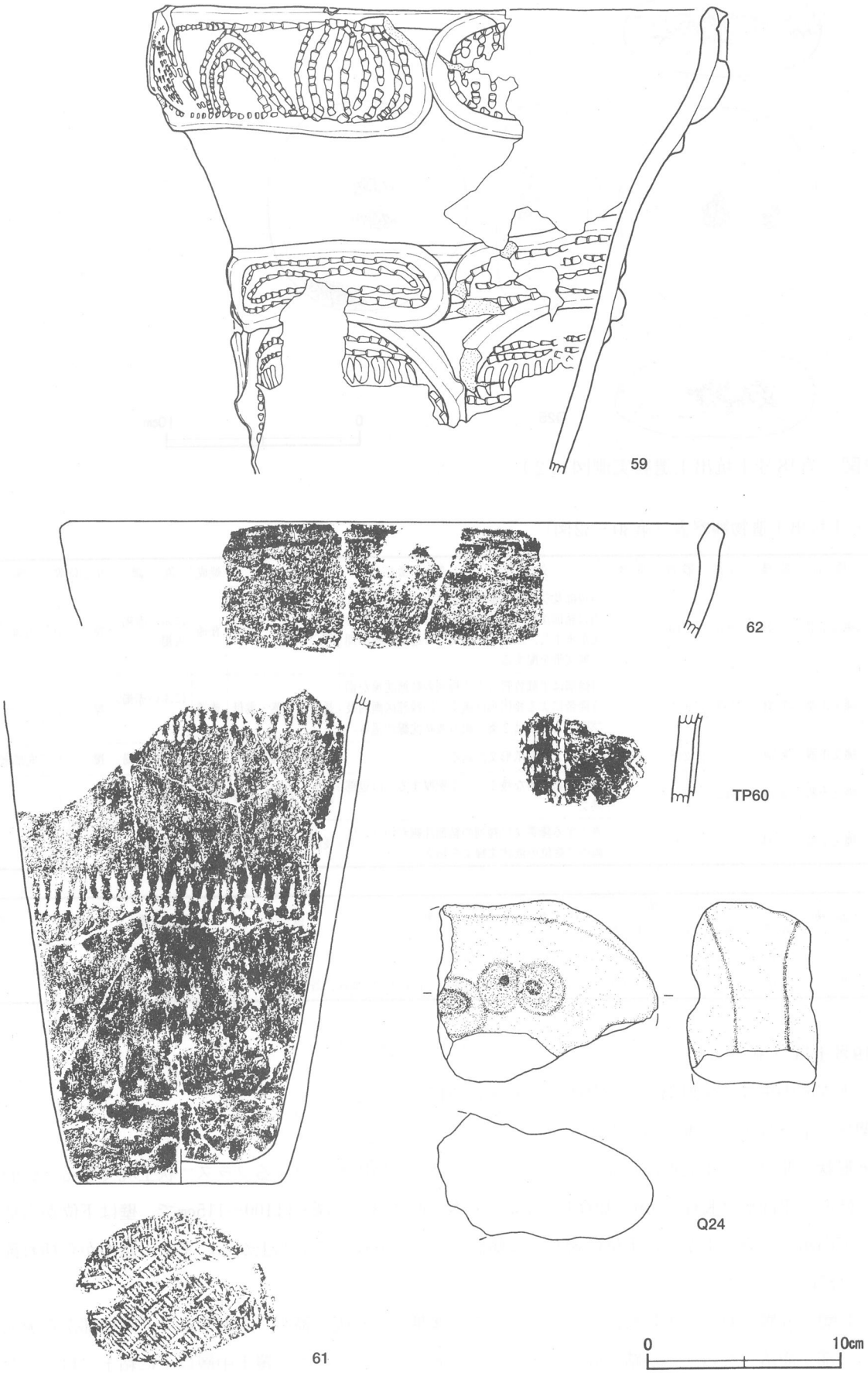
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片115点，凹石1点，磨石1点が出土している。遺物は，いずれも確認面から覆土中に散在しており，一括して廃棄されたものと考えられる。なお，59・60・62は確認面から覆土中に散在して出土した破片が接合したものである。

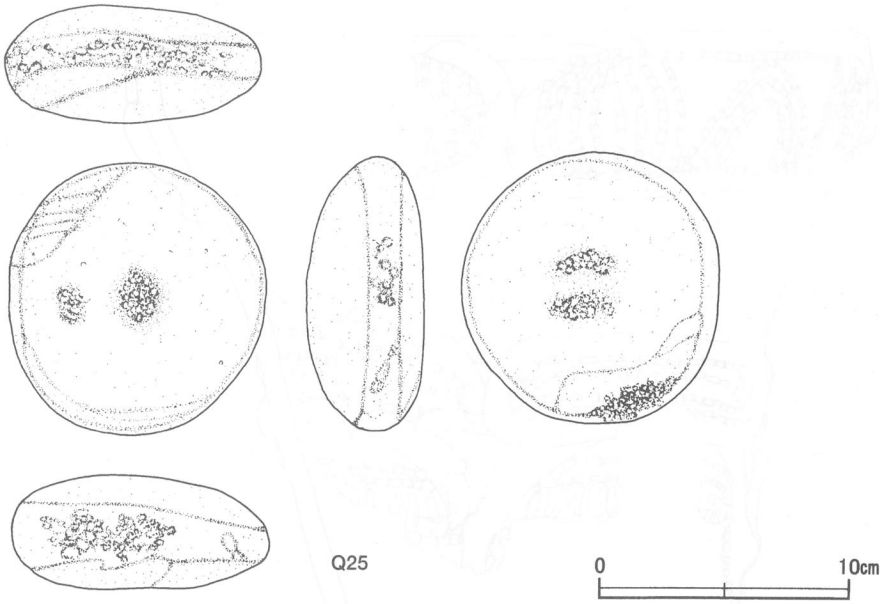
所見　出土した土器に時期差が認められないことから，土器の廃棄時期は，中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第30図　第18号土坑・出土遺物実測図



第31図　第18号土坑出土遺物実測図（1）



第32図　第18号土坑出土遺物実測図（2）

第18号土坑出土遺物観察表（第30～32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
59	縄文土器	深鉢	28.3	(24.0)	—	口辺部及び胴上部は隆帯による楕円形区画文内に結節沈線文を施文。胴部はY字状の隆帯文が垂下し，爪形文を施文。口辺部と胴部間に無文帯を配する。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐 灰褐	覆土	PL30
60	縄文土器	深鉢	[27.4]	(13.0)	—	口縁部は半截竹管による複列の結節沈線が沿う隆帯による楕円形区画文。口縁部区画内及び胴部上位には2条一組の波状沈線が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	
61	縄文土器	深鉢	—	(24.8)	10.6	胴部に2列の爪形文が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	底部網代痕
62	縄文土器	深鉢	[34.2]	(5.5)	—	口唇部は鋭角な稜をもって肥厚する。口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	
TP60	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	垂下する隆帯文に複列の結節沈線が沿う。区画内に縦位の波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q24	凹石	(9.2)	(11.4)	6.7	(506.0)	安山岩	表面3孔。	覆土	
Q25	磨石	10.8	10.3	4.5	746.9	砂岩	全側面を使用。表裏面及び側縁に敲打痕。	覆土	PL50

第19号土坑（第33図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f2区に位置している。

重複関係　第18号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　開口部の平面形は長径1.4m，短径1.1mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面は皿状にくぼみ，平面形は長径1.9m，短径1.6mほどの楕円形である。深さは100～115cmで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位は緩やかな傾斜をもって外反して立ち上がる。また，底面から括れ部までの高さは85cmほどである。

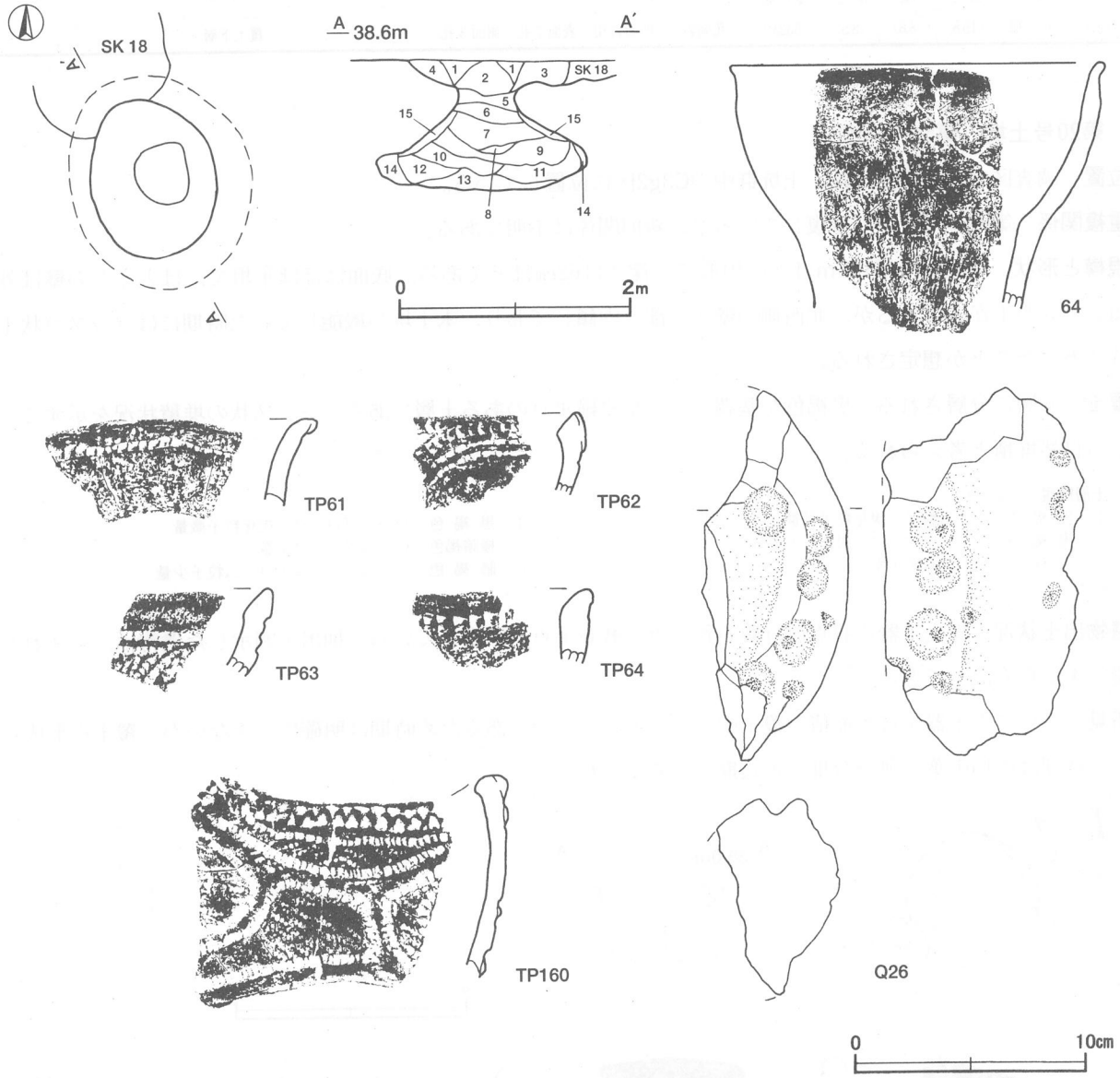
覆土　15層に分層される。第13層はロームブロックを多量に含む固く締まった層であり，開口部から流入または壁の一部が崩落したロームが踏み固められたものと考えられる。なお，覆土中層以下に粘土ブロック及び粒子や小礫が含まれていることは，薄い粘土層を掘り抜き，小礫を多量に含む砂層上面まで掘り込みが及んでい

ることに起因すると考えられる。堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量
5　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
7　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量（締まり弱）
8　黒 褐 色　炭化粒子・粘土ブロック少量，ロームブロック微量
9　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック・小礫微量
10　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
11　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
12　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
13　暗 褐 色　ロームブロック多量，粘土ブロック・砂粒・小礫少量，焼土粒子・炭化物微量（締まり強）
14　暗 褐 色　砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物・小礫微量（締まり弱）
15　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片41点，石皿１点が出土している。ほとんどの遺物は，括れ部より上位にあたる覆土上層から出土しており，中層まで埋没した段階で廃棄されたものと考えられる。

所見　土器の廃棄時期は，中期中葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。



第33図　第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
64	縄文土器	深鉢	[15.8]	(10.4)	—	口辺部及び胴部上位無文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP61	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	口唇部下端に結節沈線が沿う隆帯が巡り，ＬＲの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP62	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	口唇部下端に半截竹管による刺突文を有する隆帯が巡る。隆帯に沿って複列の結節沈線文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土上層	
TP63	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	口辺部は隆帯区画文に複列の結節沈線が沿う。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP64	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	口唇部直下に複列の結節沈線が巡る。	長石・雲母・赤色粒子	普通	灰褐	覆土上層	
TP160	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	口唇部下端には交互刺突による波状文が巡り，口辺部は結節沈線が沿う隆帯による区画文内にＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q26	石皿	(15.8)	(8.6)	(8.5)	(532.0)	花崗岩	凹石併用。表面７孔，側面３孔。	覆土下層	

第20号土坑（第34・35図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3g2区に位置している。

重複関係　第83号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

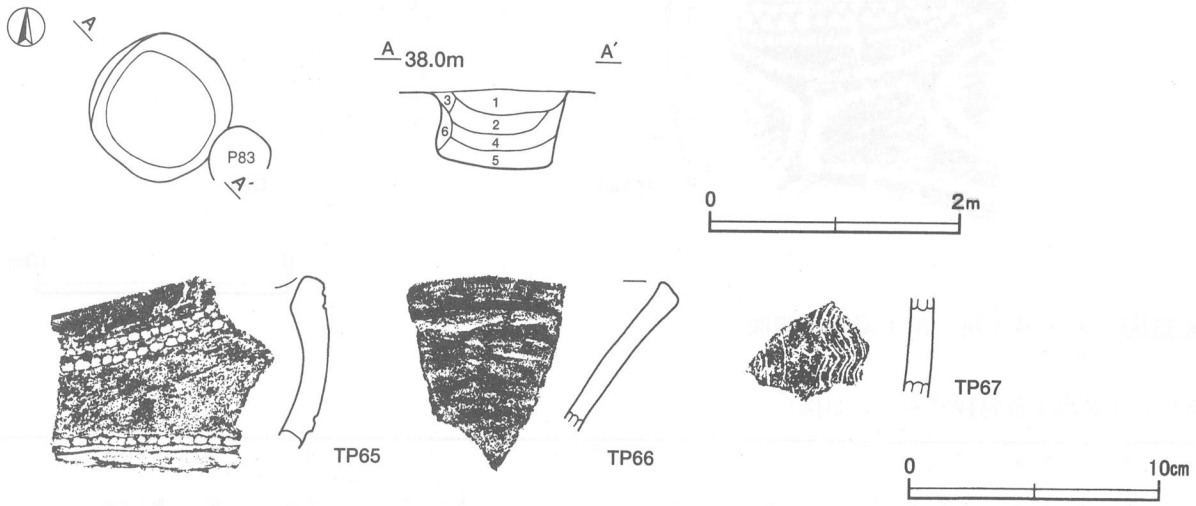
規模と形状　平面形は径1.2mほどの円形で，深さは62cmほどである。底面はほぼ平坦で，ほとんどの壁は外傾して立ち上がっているが，北西側の壁の一部は内傾しており，本土坑が機能していた時期にはフラスコ状土坑であったことが想定される。

覆土　６層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層である。レンズ状の堆積状況を示すことから自然堆積と考えられる。

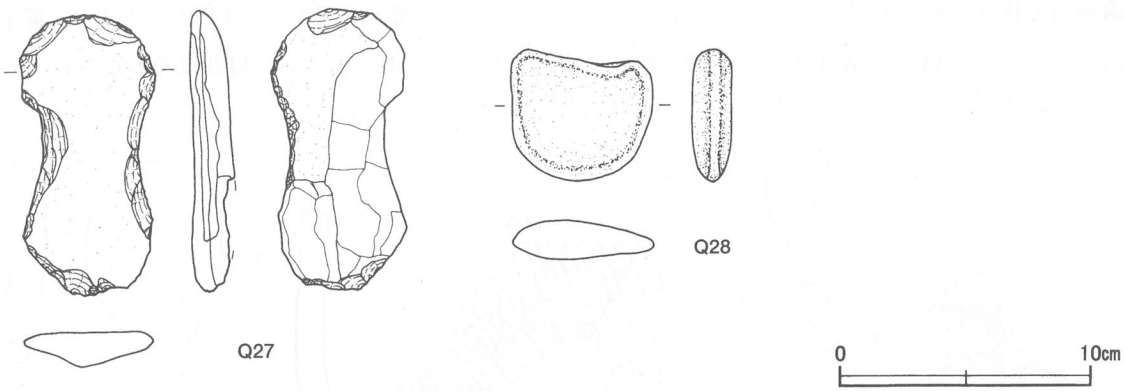
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片47点，打製石斧１点，磨石１点が出土している。抽出・図示した遺物は，いずれも覆土中からの出土である。

所見　すべての土器が自然堆積の覆土中から出土したものであるため時期は明確にできないが，覆土が形成された時期は中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。



第34図　第20号土坑・出土遺物実測図



第35図　第20号土坑出土遺物実測図

第20号土坑出土遺物観察表（第34・35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP65	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口唇部下端には半截竹管による結節沈線が巡り，口辺部下位は結節沈線及び沈線による区画文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP66	縄文土器	浅鉢	—	(5.9)	—	口辺部及び胴部上位無文。	長石・雲母	普通	灰褐	覆土	器面研磨
TP67	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	櫛歯状工具による縦位の波状沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q27	打製石斧	11.1	5.3	1.7	(117.2)	安山岩	分銅型。抉入部は浅い。	覆土	PL49
Q28	磨石	5.2	5.6	1.6	66.7	安山岩	全側面を使用。	覆土	

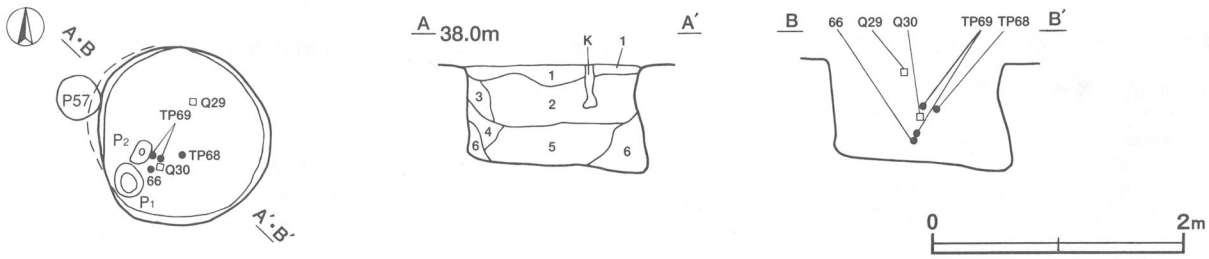
第21号土坑（第36・37図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3g3区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が径1.4mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，北西方向に緩やかに傾斜しており，平面形は径1.5mほどの円形である。深さは82cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位はやや外傾している。また底面から括れ部までの高さは58cmほどである。ピットは2か所検出された。深さはＰ１が26cm，Ｐ２が25cmであり，いずれも性格は不明である。

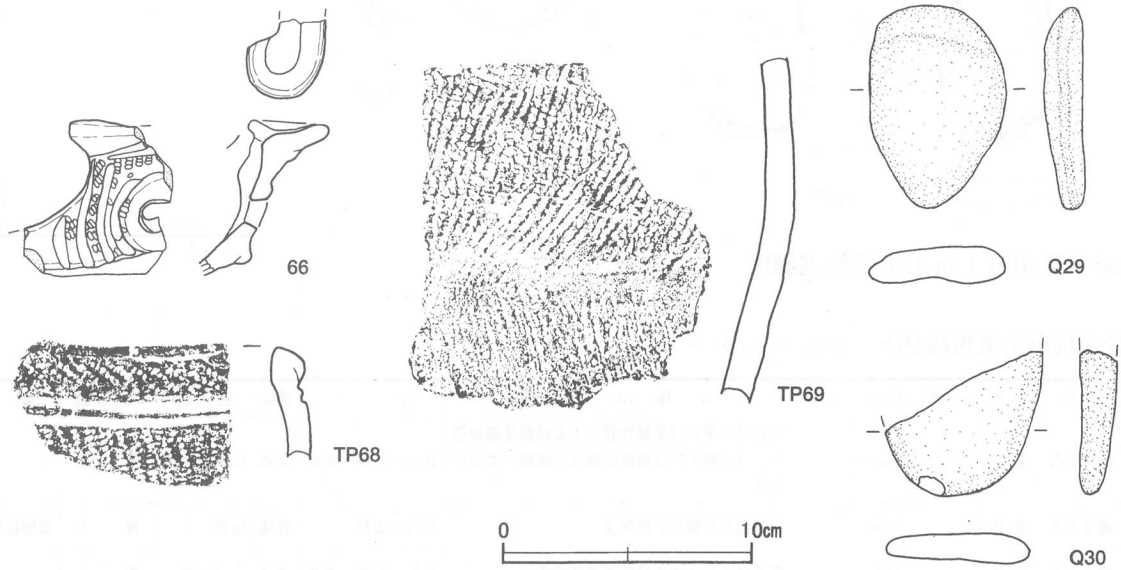
覆土　6層に分層される。TP69は覆土下層の破片と中層の破片が接合したものであり，第2～4層は人為堆積と考えられる。また，第6層は本跡の廃絶直後の崩落土が堆積した層，第1層は埋没したくぼみに自然流入した層と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック中量



第36図　第21号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器27点，磨石２点が出土している。66は覆土下層から，TP68及びQ30は覆土中層から出土している。TP69は覆土中層と下層の破片が接合したものである。なお，Q29は流れ込みによるものと考えられる。



第37図　第21号土坑出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
66	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	隆帯により把手を作出し，環状の隆帯文及び沈線により加飾。地文はＲＬの単節縄文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP68	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	地文はＲＬの単節縄文で，口唇部の隆帯には同じ原体の縄文施文。隆帯下に平行沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP69	縄文土器	深鉢	—	(13.7)	—	Ｌの無節縄文を施文。	長石・雲母	普通	灰褐	覆土中～下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q29	磨石	8.0	5.5	1.7	84.6	安山岩	全側面を使用。	覆土上層	
Q30	磨石	(5.6)	6.3	1.5	(54.4)	安山岩	全側面を使用。	覆土中層	全面被熱

所見　土器の最終的な廃棄の時期は，出土土器から後期前葉（堀之内１式期）と考えられる。

第23号土坑（第38図）

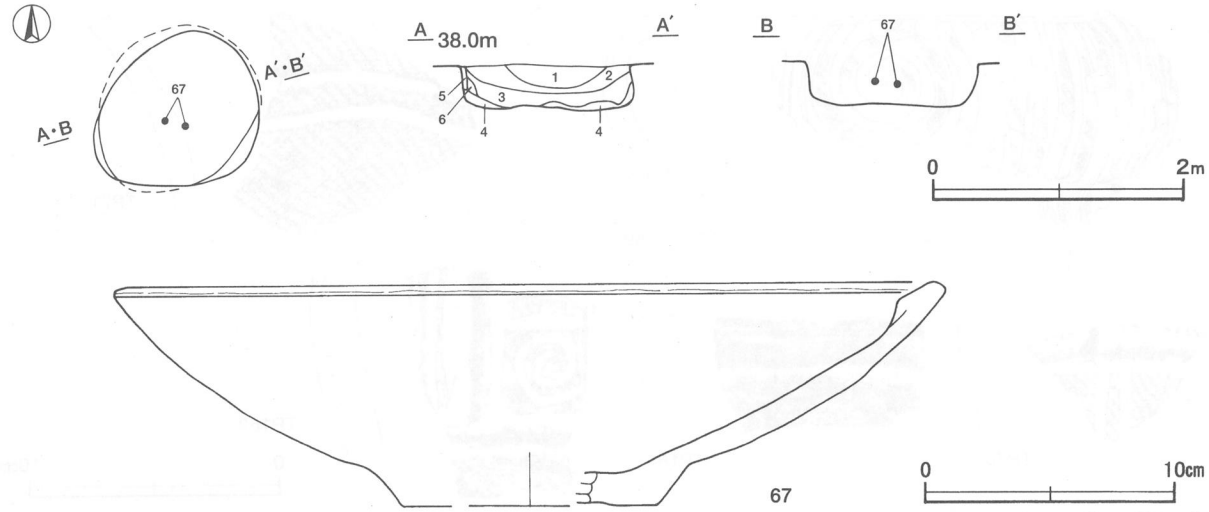
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f3区に位置している。

規模と形状　平面形は長径1.4m，短径1.2mほどの楕円形で，深さは35cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は概ね内傾して立ち上がり，フラスコ状土坑の下位にあたると考えられる。

覆土　６層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片16点が出土している。67を含めて，土器は中央部の覆土中層～底面に集中している。



第38図　第23号土坑・出土遺物実測図

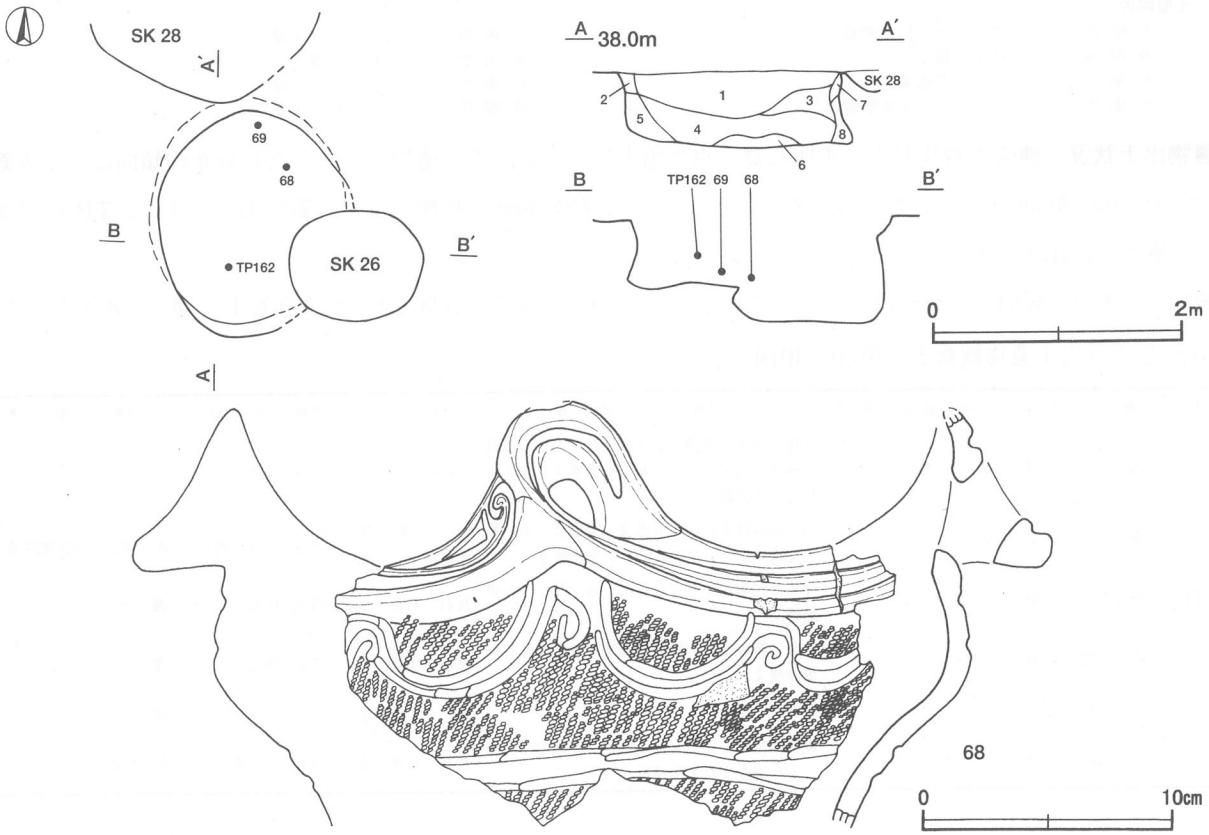
第23号土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
67	縄文土器	浅鉢	[32.3]	8.8	[10.0]	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	

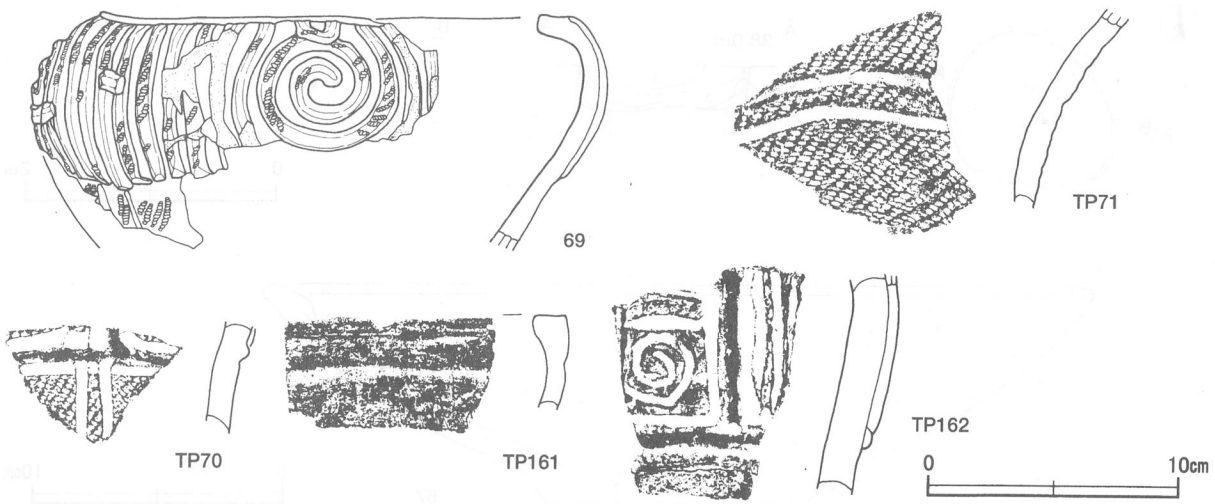
所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。

第27号土坑（第39・40図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3g1区に位置している。



第39図　第27号土坑・出土遺物実測図



第40図　第27号土坑出土遺物実測図

重複関係　第26号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は長径1.8m，短径1.6mほどの楕円形で，深さは58cmほどである。底部はほぼ平坦で，壁は一部底面から確認面まで外傾して立ち上がっているが，概ね底部から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは24～30cmほどである。フラスコ状土坑の中～下位にあたると考えられる。

覆土　8層に分層される。第5・7・8層はロームブロックを含む壁の崩落層である。また，第6層は固く締まった土層であることから，開口部から流入した土砂が踏み固められたものと考えられる。全体にロームブロックが見られるものの堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子少量
7　暗褐色　ロームブロック少量
8　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片44点，不明石器1点が出土している。出土遺物が少ないため分布の傾向はつかみ難い。68・69は底面からやや浮いた状況で出土しており，時期判断の指標となる土器である。また，TP162は覆土中層からの出土である。

所見　時期は，底面からやや浮いた状況で出土している68・69から中期後葉（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。

第27号土坑出土遺物観察表（第39・40図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
68	縄文土器	深鉢	[29.6]	(16.5)	—	沈線を有する隆帯により把手を作出。口辺部文様帯は2条一組の沈線文や渦巻文。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	底面	
69	縄文土器	深鉢	[20.2]	(8.6)	—	口辺部は隆帯による渦巻文。胴部は2条一組の沈線が垂下。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい褐	底面	炭化物付着
TP70	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	隆帯と沈線により文様描出。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP71	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	2条一組の横位の結節沈線文。地文はＲＬの単節縄文。	長石・雲母	普通	黒褐	覆土	
TP161	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP162	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	隆帯区画による口辺部文様帯。区画内は沈線により渦巻文などを描出。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	

第28号土坑（第41・42図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3g1区に位置している。

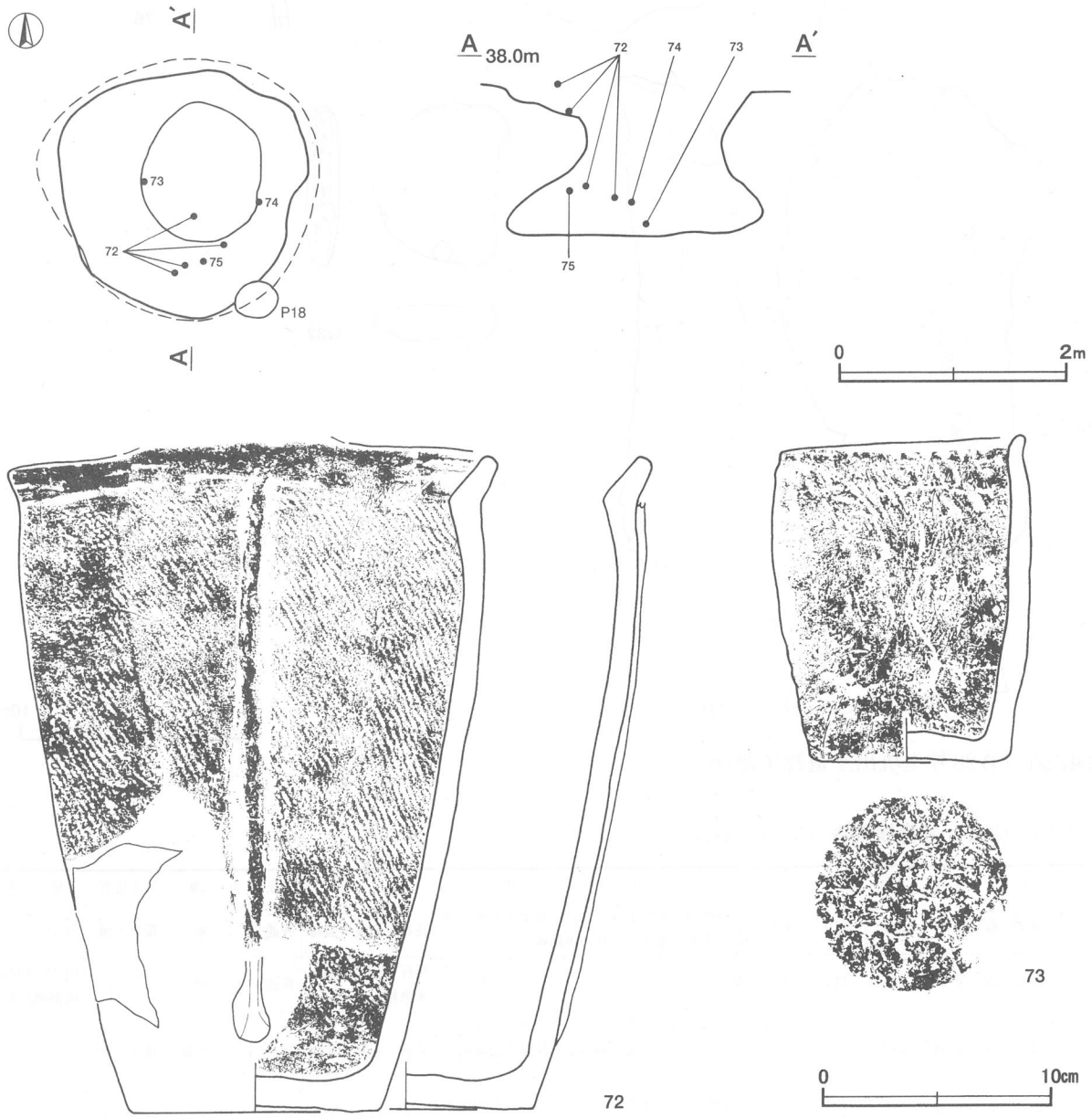
重複関係　第18号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　開口部の平面形が径2.1mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.3mほどの円形である。深さは125cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位は緩やかな傾斜をもって皿状に立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは85cmほどである。

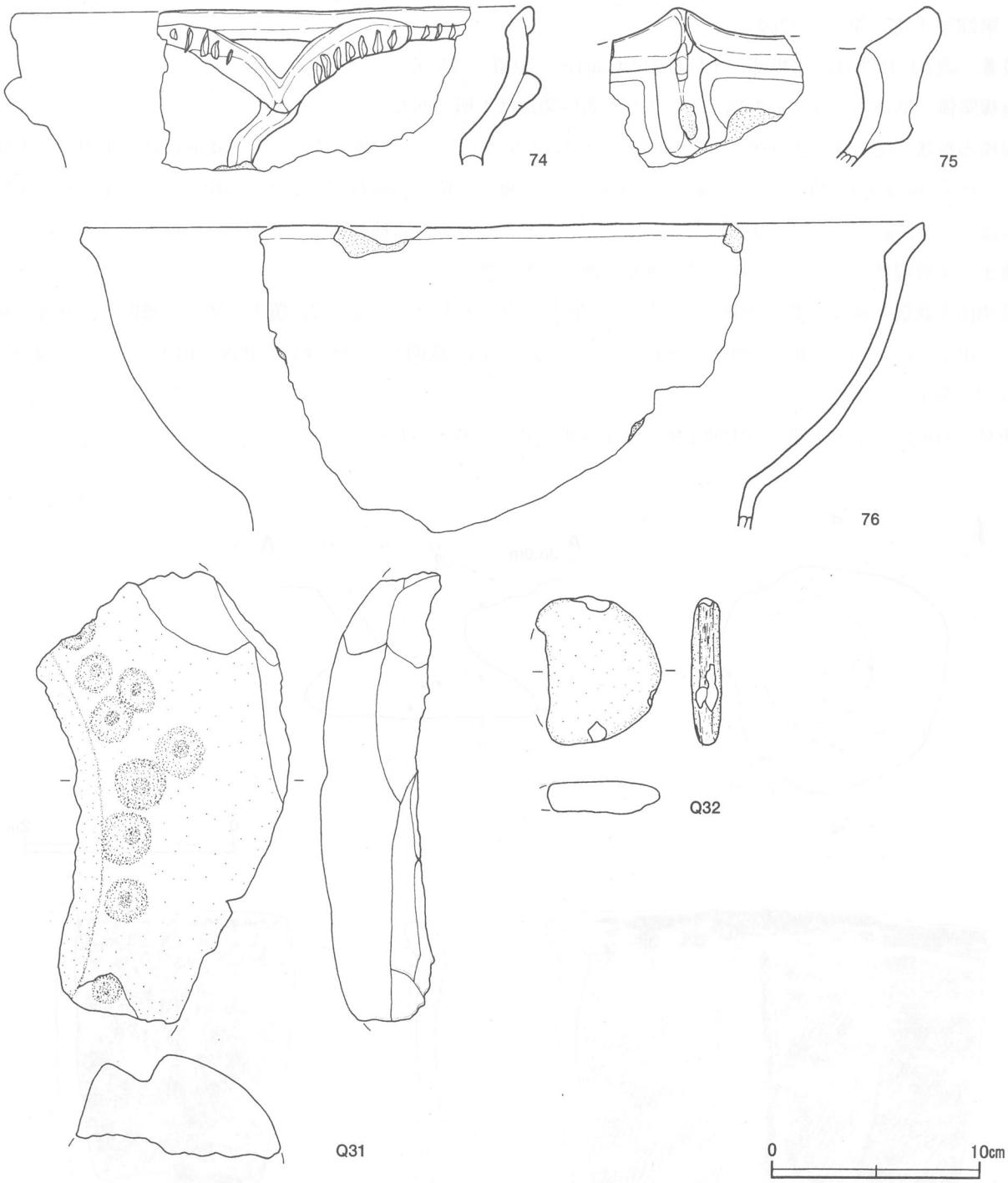
覆土　土層観察ができなかったため，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　縄文土器片106点，石皿１点，磨石１点が出土している。72は覆土下層から破断した状況で横位で出土し，74・75は覆土下層から出土している。また，73は底面からやや浮いた状況で出土している。Q31・Q32は覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第41図　第28号土坑・出土遺物実測図



第42図　第28号土坑出土遺物実測図

第28号土坑出土遺物観察表（第41・42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
72	縄文土器	深鉢	20.6	28.9	10.9	口辺部から胴部下端にかけて縄文を有する隆帯が垂下。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	PL31
73	縄文土器	深鉢	10.5	14.1	8.6	無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	PL31 煤付着 底部網代痕
74	縄文土器	深鉢	[24.4]	(7.3)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，口辺部は刻みを有するＶ字状隆帯文の基部から隆帯が曲線的に垂下。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
75	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口唇部下端に隆帯が巡り。口辺部は指頭圧痕を有する瘤状突起を貼付。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
76	縄文土器	深鉢	[40.0]	(14.4)	—	無文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q31	石皿	(21.3)	(12.2)	(5.8)	(887.2)	安山岩	中心部に向かって大きく窪む。表面9孔。	覆土	
Q32	磨石	6.9	(5.9)	1.3	(68.2)	安山岩	全側面を使用。	覆土	全面被熱

第29号土坑（第43図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e2区に位置している。

重複関係　第30号土坑を掘り込んでいる。

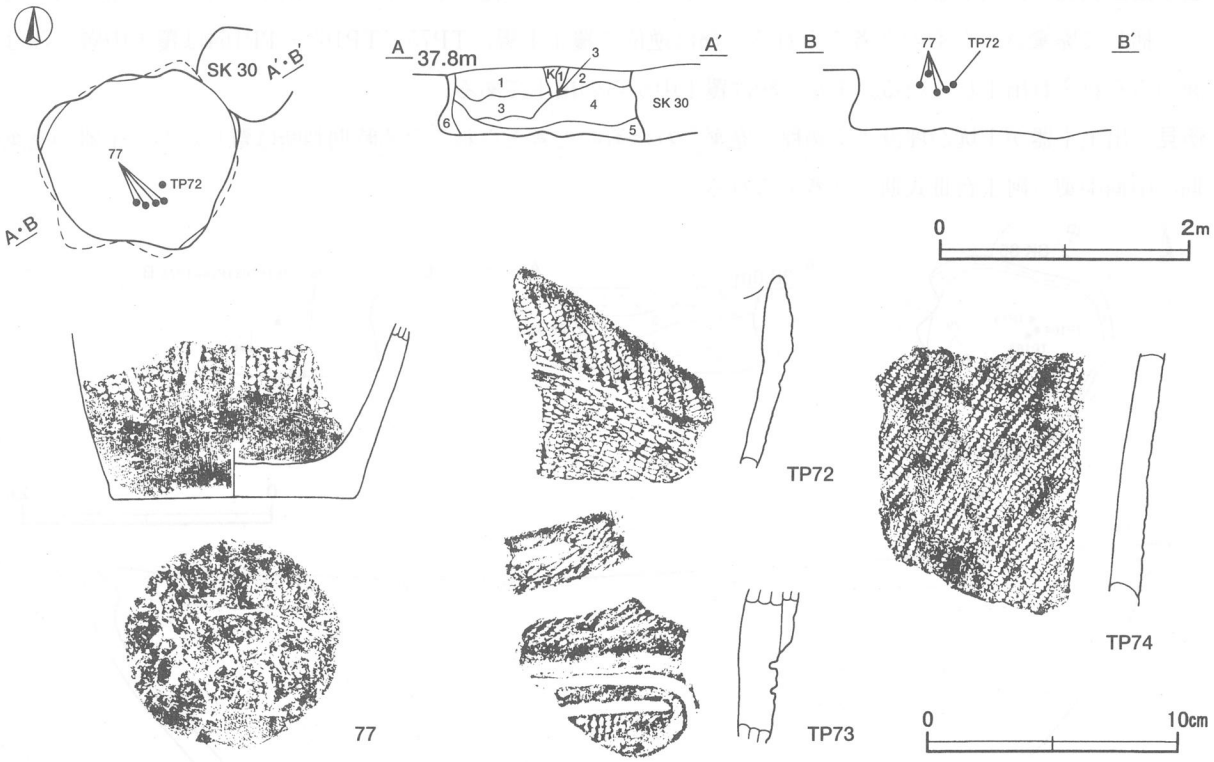
規模と形状　開口部の平面形が径1.4mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.5mほどの円形である。深さは54cmほどで，壁は内傾して立ち上がっている。

覆土　6層に分層される。黒褐色を基調とするやや締まりのある土層である。第6層はロームブロックを多く含む壁の崩落層で，第5層は自然堆積層と考えられる。また，第1～4層は不規則な堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片88点が出土している。遺物は覆土中に散在する状況で出土している。抽出・図示した土器は，すべて第1層から出土しており，一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



第43図　第29号土坑・出土遺物実測図

第29号土坑出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
77	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	9.7	RLの単節縄文を地文とし，平行沈線による懸垂文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	煤付着，底部網代痕

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP72	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	口唇部にＲＬの単節縄文を施文し，結節沈線を配する。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP73	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	沈線区画による口辺部文様帯。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土上層	
TP74	縄文土器	深鉢	—	(9.9)	—	ＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	

第34号土坑（第44・45図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f5区に位置している。

重複関係　第35号土坑を掘り込んでいる。

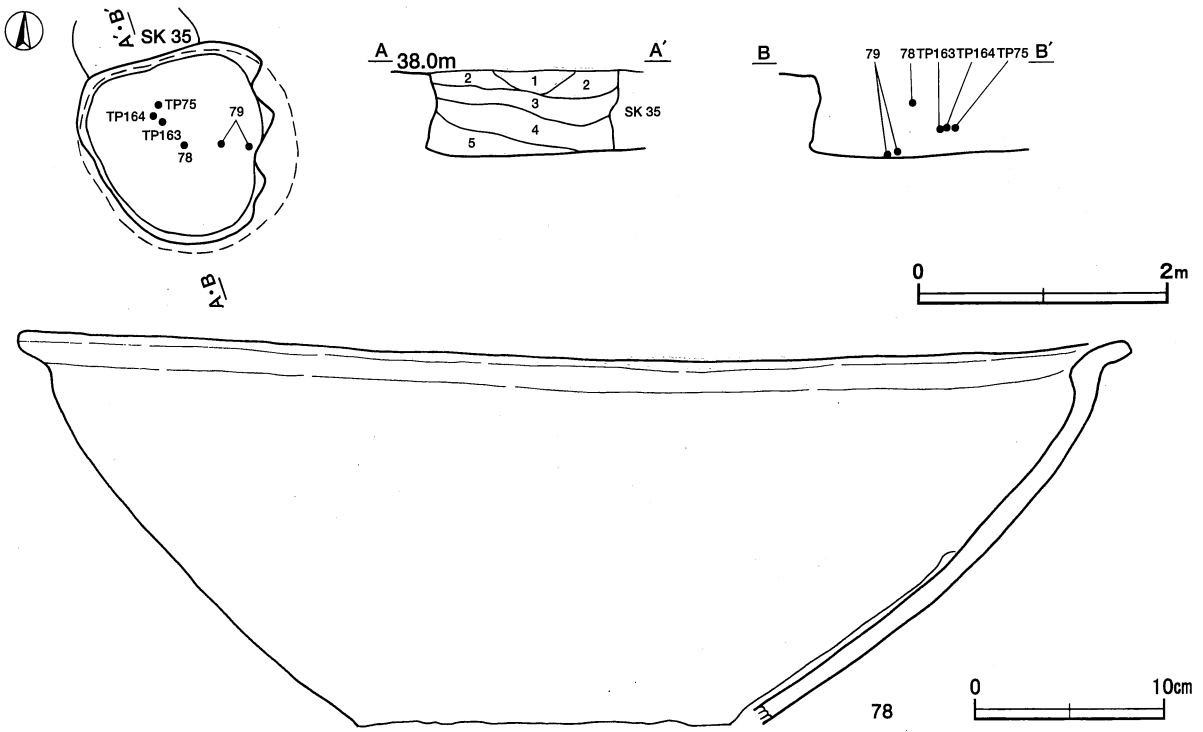
規模と形状　開口部の一部が崩落したため現状では不整円形を呈しているが，平面形が径1.7mほどの円形を呈するフラスコ状土坑であったと想定される。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.8mほどの円形である。深さは65cmほどで，壁は下位から括れ部にかけてわずかに内傾して立ち上がり，上位はほぼ直立している。また，括れ部までの深さは30～40cmほどである。

覆土　5層に分層される。全体にやや締まりのある土層で，第4・5層は土坑廃絶後南側からの土砂流入による自然堆積と考えられる。第1～3層は大形の破片がまとまって出土していることから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

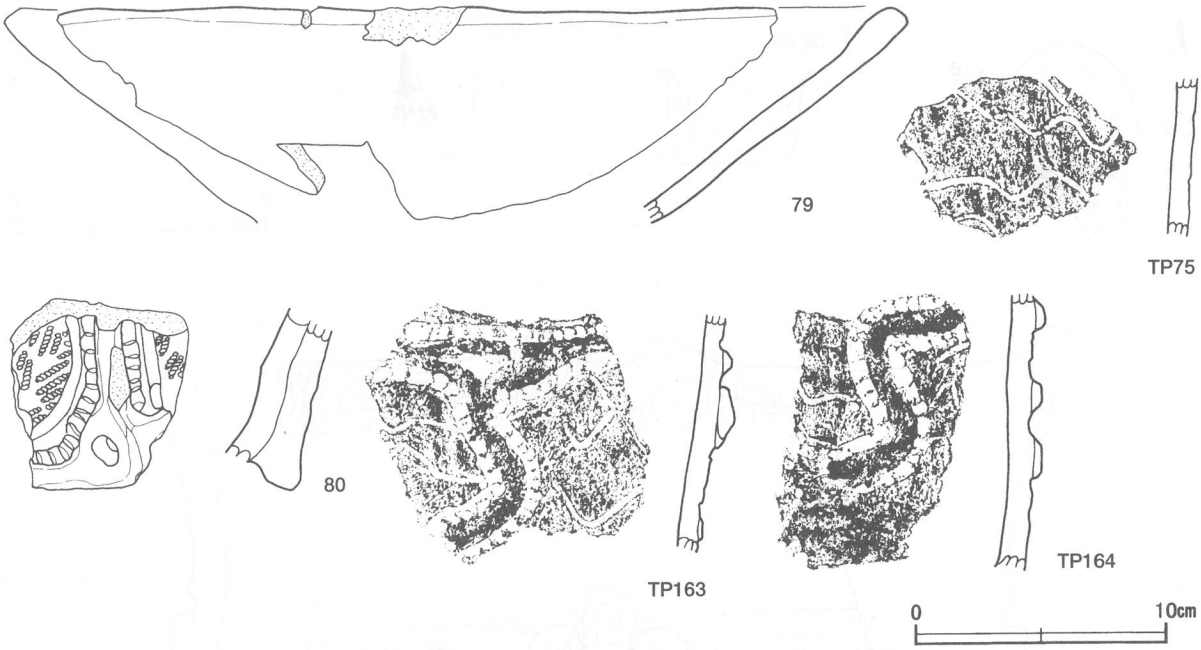
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片83点が出土している。大形の破片は覆土上～中層から出土しており，第4層埋没後に一括して廃棄されたものと考えられる。78は逆位で覆土上層，TP75・TP163・TP164は覆土中層，79は底面からそれぞれ出土している。また，80は覆土中からの出土である。

所見　出土土器が土坑が埋没する過程で廃棄されたものと考えられるため時期判断は難しいが，土器の廃棄時期は中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第44図　第34号土坑・出土遺物実測図



第45図　第34号土坑出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表（第44・45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
78	縄文土器	浅鉢	58.7	(20.9)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	PL31 器面研磨
79	縄文土器	浅鉢	[34.8]	(8.4)	—	無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	器面研磨
80	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線と沈線が沿う。区画内にはＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	
TP75	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	横位の波状沈線文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	
TP163	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	隆帯区画による胴部文様帯に結節沈線が沿う。区画内には横位の波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	TP164と同一個体
TP164	縄文土器	深鉢	—	(10.9)	—	結節沈線が沿う隆帯が波状に垂下。横位の波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	TP163と同一個体

第37号土坑（第46・47図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e6区に位置している。

重複関係　第184号ピットと重複するが，新旧関係は不明である。

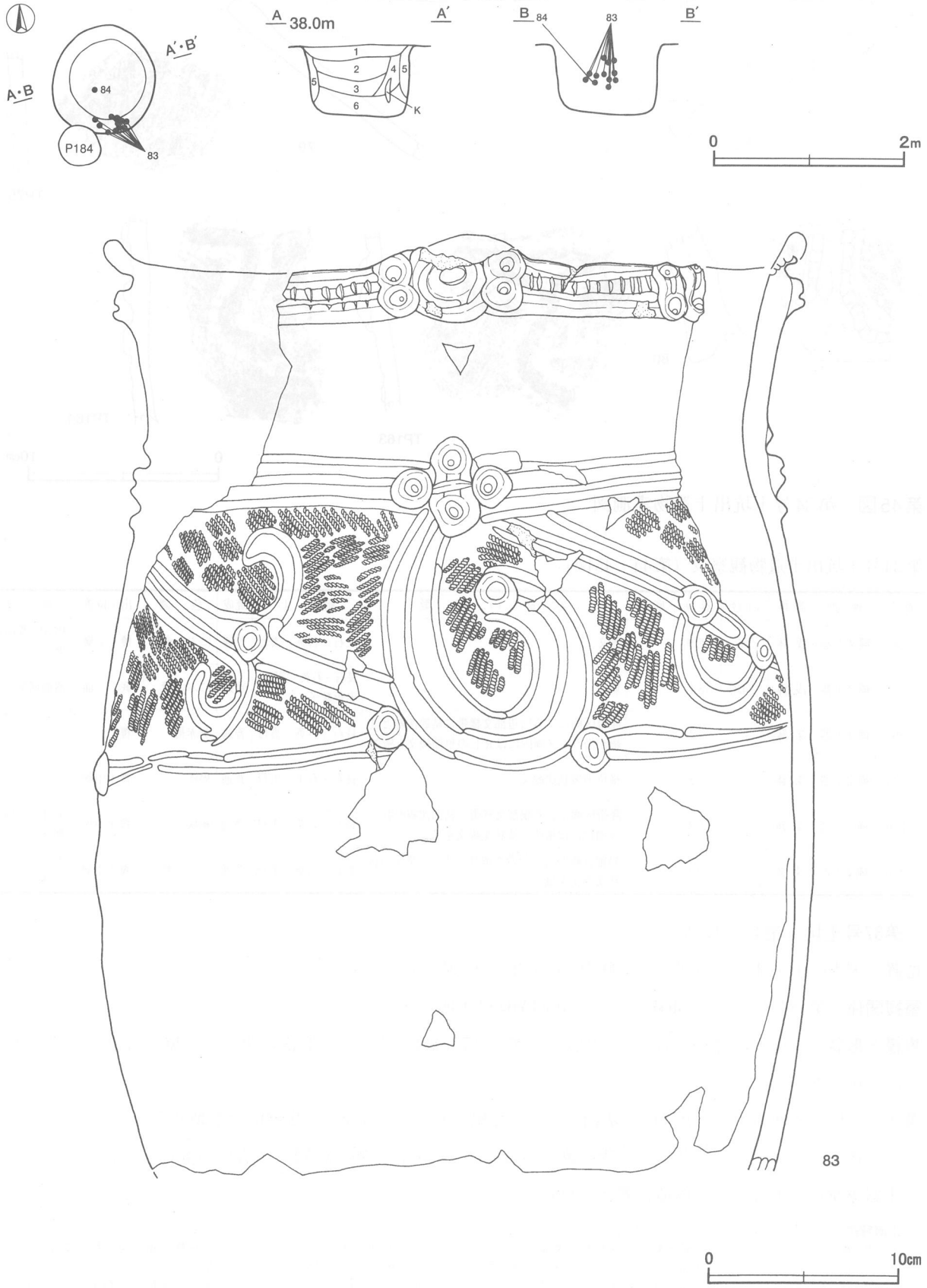
規模と形状　平面形は径1.1mほどの円形で，深さは75cmほどである。底面は平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　6層に分層される。黒褐色を基調とするやや締まりのある土層で，規則的な堆積状況を示してはいるが，覆土全体にロームブロック及び炭化物・焼土が含まれており，上層と中層の土器片が接合していることなどから土器廃棄にともなう人為堆積と考えられる。

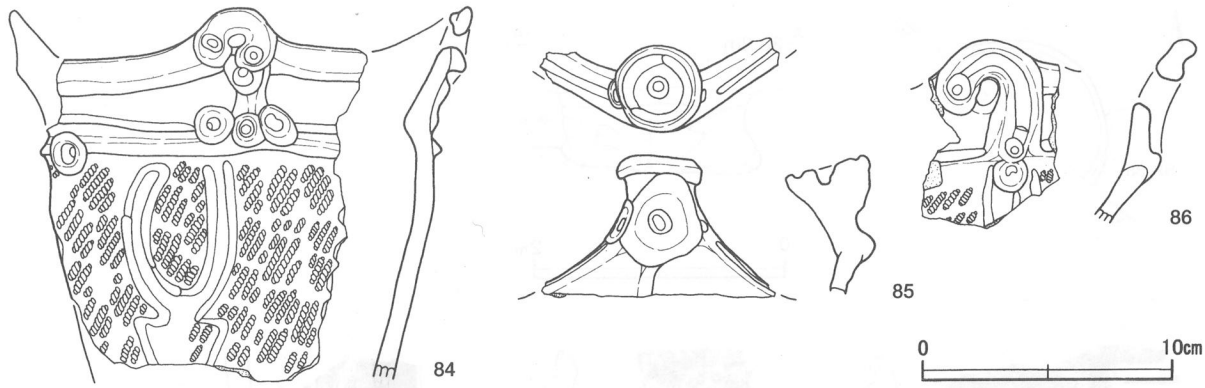
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子・粘土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片27点が出土している。83は，南壁際の覆土上～中層にかけて廃棄されたような状況で折り重なって出土した破片が接合したものである。84は覆土中層，85・86は覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺２～堀之内１式期）と考えられる。



第46図　第37号土坑・出土遺物実測図



第47図　第37号土坑出土遺物実測図

第37号土坑出土遺物観察表（第46・47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
83	縄文土器	深鉢	35.5	(48.8)	—	口辺部は横走する平行沈線文間に刻みを施し，波頂部は環状の隆帯文で加飾。胴部上位に横位の平行沈線で文様帯を区画し，ＲＬの単節縄文を地文として，平行沈線によるＪ字状文・斜行文の端部や交点にボタン状貼付文。胴部下半無文。	長石・石英	普通	にぶい褐 にぶい橙	覆土上～中層	PL32
84	縄文土器	深鉢	[18.2]	(14.6)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に沈線が沿う。波頂部に環状の隆帯文やボタン状貼付文を付す。胴部はＬＲの単節縄文を地文とし，沈線によるＪ字状文・スペード状文・波状文を施文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土中層	PL46
85	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	隆帯により円柱状の把手を作出。口唇部には沈線を施す。	長石・雲母	普通	灰褐	覆土	
86	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	波頂部に隆帯と沈線によるＣ字状文を配し，端部にボタン状貼付文。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土	

第39号土坑（第48図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e6区に位置している。

重複関係　第38号土坑を掘り込んでいる。

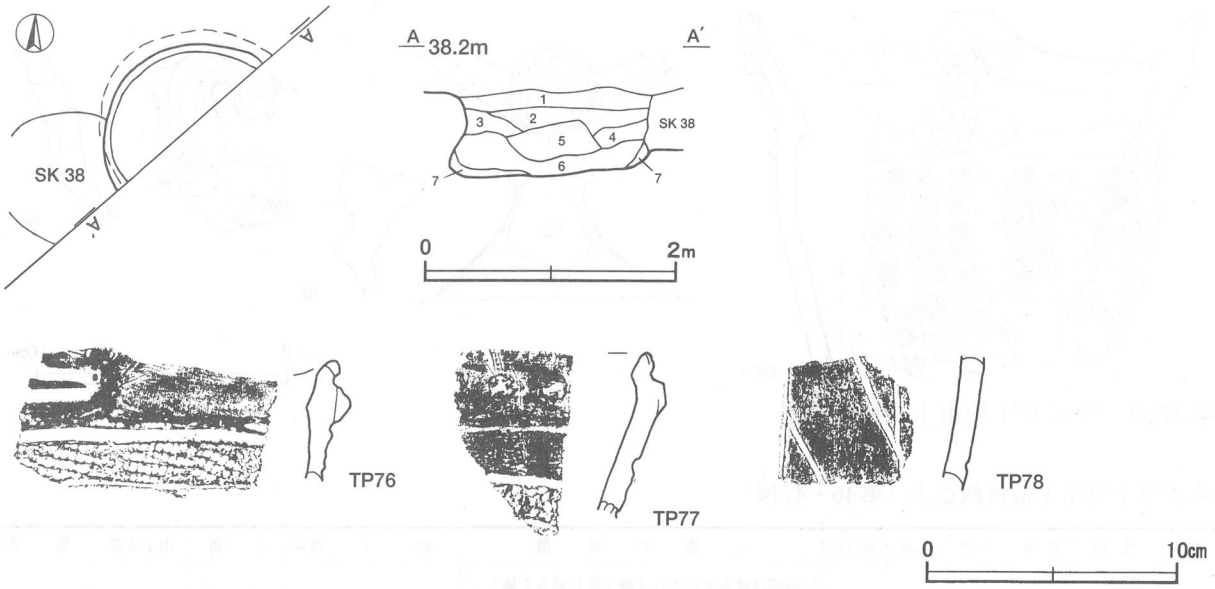
規模と形状　南東側の約半分が調査区外に及ぶため全容は不明であるが，開口部の平面形が径1.5mほどの円形を呈するフラスコ状土坑と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.6mほどの円形と推定される。深さは64cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは40cmほどである。

覆土　7層に分層される。第7層は，ロームブロックを多量に含む壁の崩落層と考えられる。第2～6層はロームブロックを含み，不規則な堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。また第1層は，第2層以下が埋め戻された後に自然堆積した流入土と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量，粘土ブロック微量
6　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
7　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片32点が出土している。土器片は覆土上～下層にかけて散在して出土しており，平面的な位置には特異な傾向は認められない。なお，抽出・図示した土器はいずれも覆土中から出土している。

所見　埋没した最終時期は，出土土器から後期前葉（称名寺2～堀之内1式期）と考えられる。



第48図　第39号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP76	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	口唇部無文帯に沈線文を施文。ＬＲの単節縄文を施文。	長石・雲母・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土	
TP77	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	口辺部に刺突文を配し，胴上部は沈線区画文内にＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐	覆土	
TP78	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土	

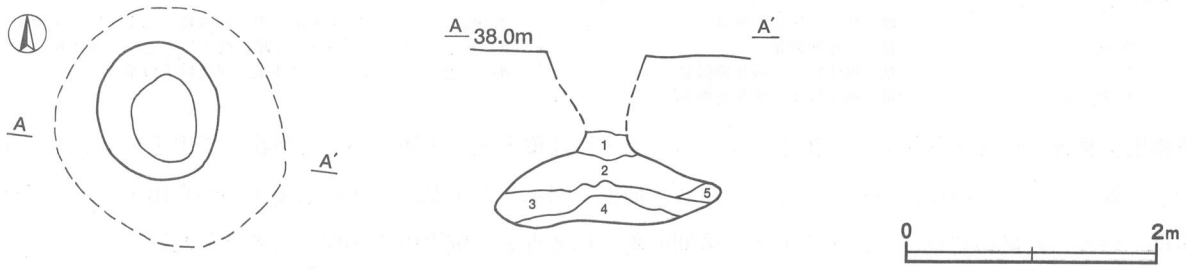
第40号土坑（第49・50図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e6区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が長径1.1m，短径0.9mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面は緩やかな皿状を呈し，平面形は長径1.9m，短径1.7mほどの楕円形である。深さは130cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位はほぼ外傾して立ち上がっていたと推定される。また，底面から括れ部までの高さは70cmほどである。

覆土　5層に分層される。断ち割りの際に崩落したため，上層の堆積状況は不明であるが，観察できた部分は規則的な堆積状況を示していることから，自然堆積と考えられる。また，第4層は粘土粒子・砂粒を含む固く締まった層であり，開口部から流入した土砂が踏み固められたものと考えられる。

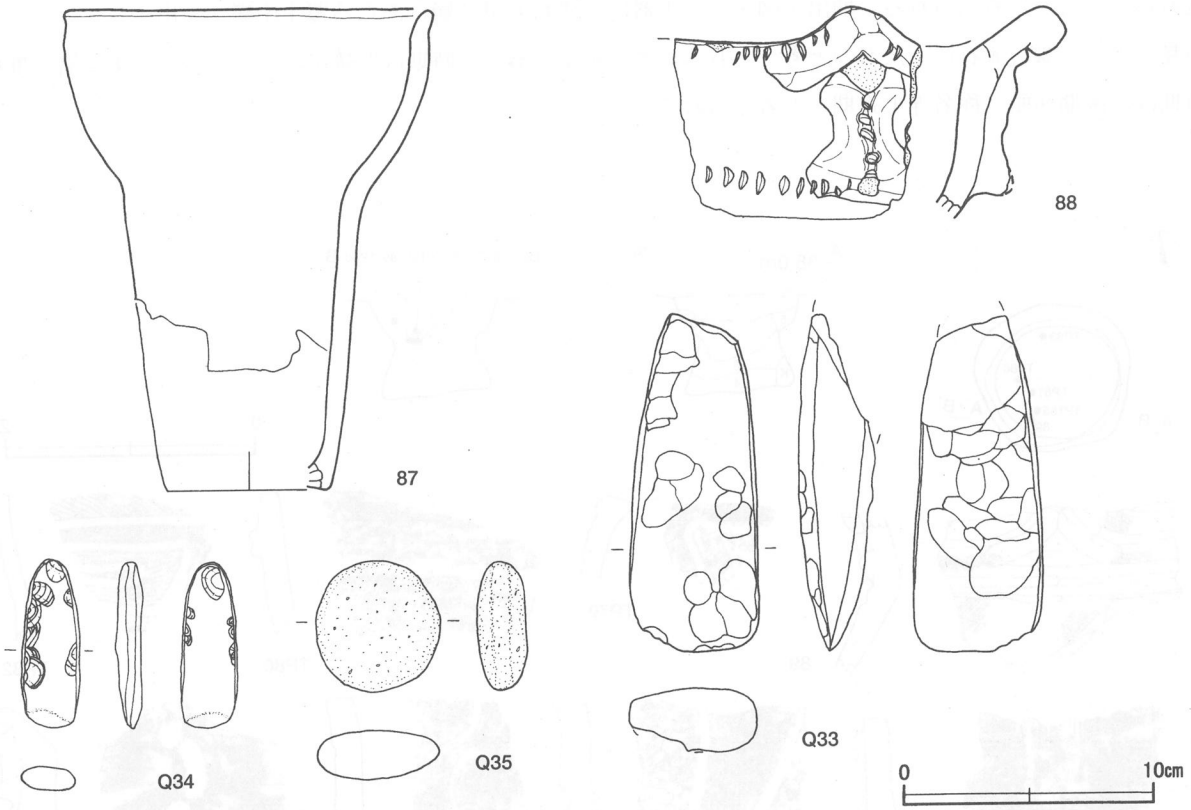
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
5　極暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量



第49図　第40号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器片154点，磨製石斧２点，磨石１点が出土している。遺物は覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められなかった。87・88，Q33は覆土下層から出土しており，時期判断の指標となる土器である。Q34・Q35は覆土からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。



第50図　第40号土坑出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
87	縄文土器	深鉢	14.4	19.0	[6.4]	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL31
88	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	口唇部は刻みを有する隆帯により文様を描出し，胴部に爪形文を施文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q33	磨製石斧	(13.5)	5.1	3.1	(257.5)	緑色凝灰岩	定角式。	覆土下層	PL48 基部欠損，被熱痕
Q34	磨製石斧	6.6	2.2	1.0	20.6	緑色凝灰岩	側面に剥離痕。	覆土	PL48
Q35	磨石	5.1	5.0	2.0	68.6	安山岩	全側面を使用。	覆土	PL50

第41号土坑（第51図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d7区に位置している。

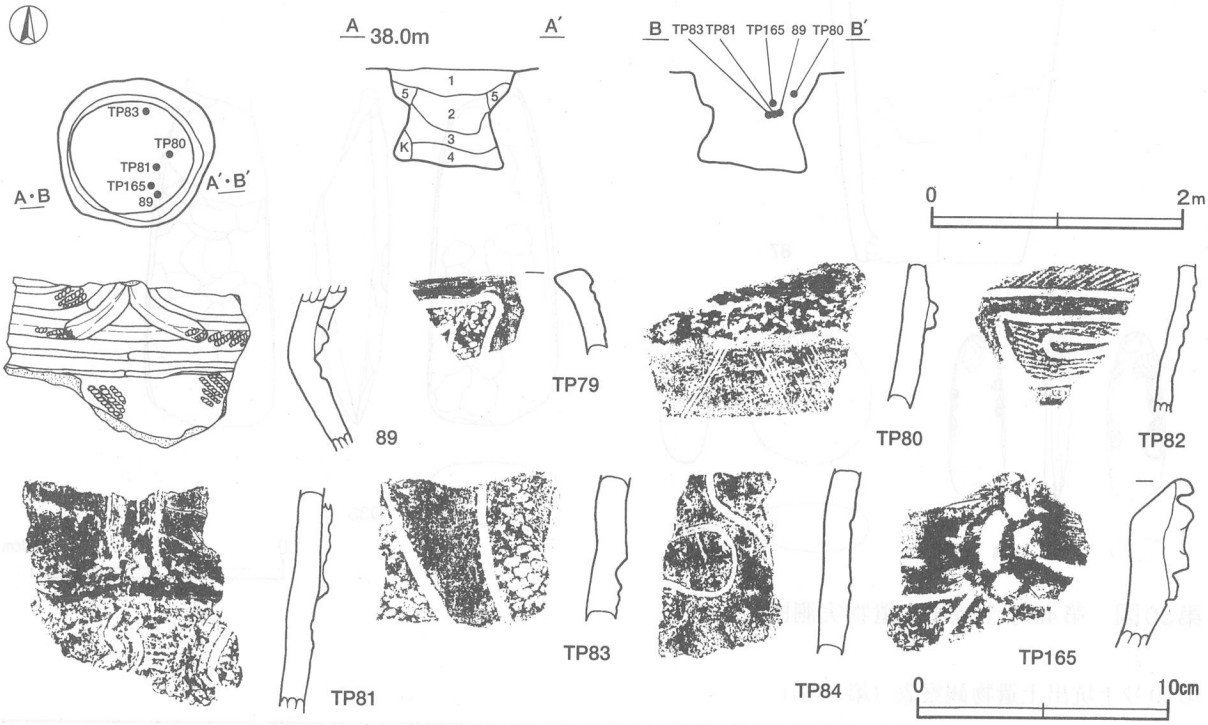
規模と形状　平面形は径1.2mほどの円形で，深さは75cmほどである。底面は平坦で，壁は中位まで内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。

覆土　５層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片135点が出土している。土器の多くが覆土中層から出土しており，第３層堆積後に流れ込んだものと考えられる。抽出・図示した土器はいずれも第２層にあたる覆土中層から出土している。

所見　出土土器が流れ込んだものと考えられるため，出土土器から時期は明確にはできないが，第２層の堆積時期は，後期初頭（称名寺１式期）と考えられる。



第51図　第41号土坑・出土遺物実測図

第41号土坑出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
89	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に２条の沈線が沿う。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP79	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	沈線による区画文内にＲＬの単節縄文を充填。	長石	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP80	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口辺部は無文帯下に隆帯が巡る。胴部は櫛歯状工具による斜行条線文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP81	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	口辺部は横位の隆帯区画文内に隆帯が垂下。胴部は２条沈線による縦位の波状文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP82	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	沈線区画内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP83	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	沈線区画内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	
TP84	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	沈線による曲線意匠。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
TP165	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	波頂部から口縁部にかけては沈線を有する隆帯で連結した円形貼付文。ＬＲの単節縄文を地文とし，沈線文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土中層	

第42号土坑（第52図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d7区に位置している。

規模と形状　平面形は長径1.2mほどの円形で，深さは93cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

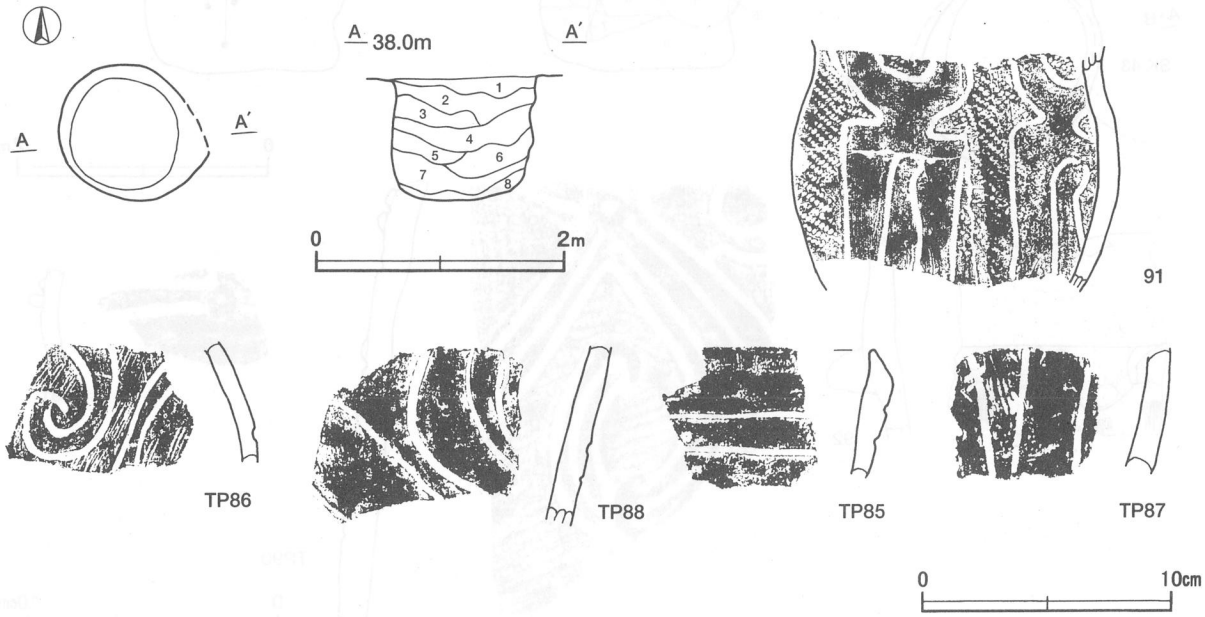
覆土　8層に分層される。全体的にやや締まりのある土層である。レンズ状の堆積状況を示しているが，特に中層以下にロームブロックが多く含まれ，上層と下層の土器の間に時期差が認められないことなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量
7　黒褐色　ロームブロック中量
8　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片94点，剥片1点が出土している。ほとんどの土器が細片で，覆土上～下層にかけて散在する状況で出土している。91，TP85は覆土上層，TP86～TP88は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺1～2式期）と考えられる。



第52図　第42号土坑・出土遺物実測図

第42号土坑出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
91	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	沈線による区画文。区画内にはＬＲの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP85	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	口辺部に横位の沈線区画文を配する。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
TP86	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	沈線による区画文。区画内には櫛歯状文を充填。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP87	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	縦位の沈線区画文。区画内には櫛歯状文を充填。	長石・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP88	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	胴部は曲線的な沈線区画文。	長石・石英・赤色粒子	普通	灰黄褐	覆土下層	

第44号土坑（第53図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d5区に位置している。

重複関係　第43号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　平面形は長径1.6m，短径1.3mほどの楕円形で，深さは73cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は東西壁がわずかに内傾して立ち上がり，その他の壁が外傾ないしは直立する円筒状の土坑である。

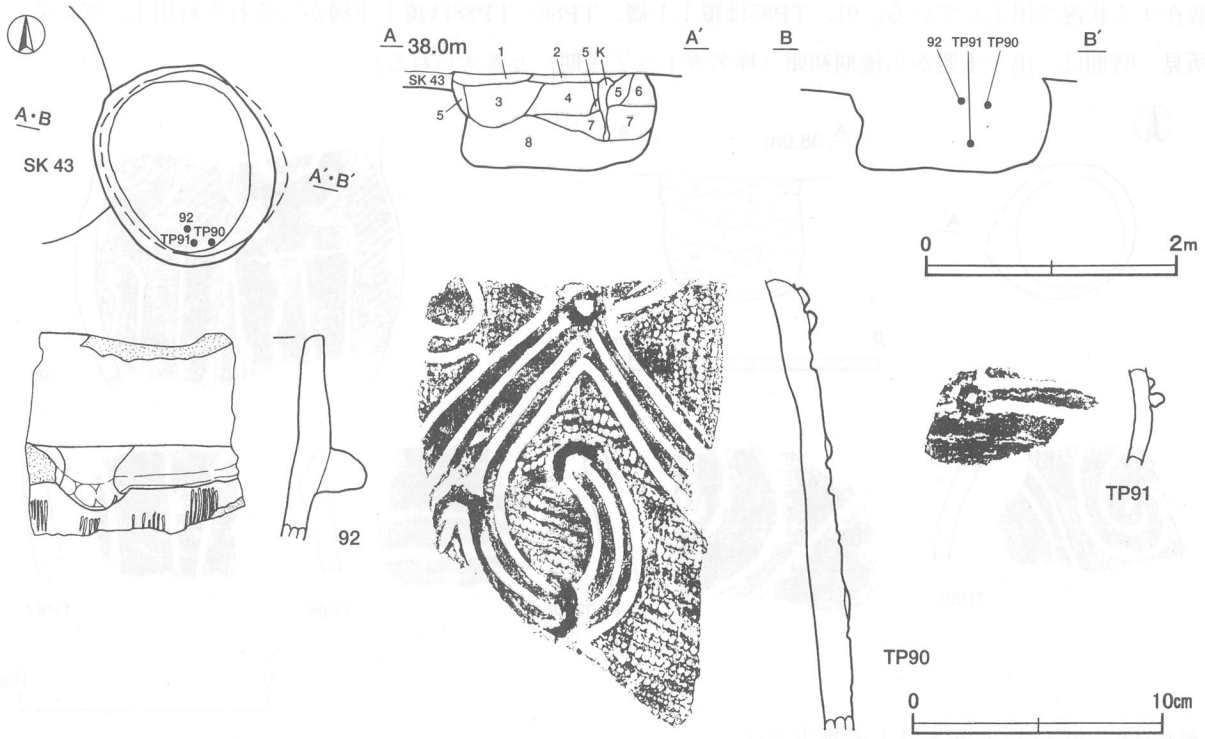
覆土　8層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層である。全体的にロームブロックを多く含み，焼土ブロックが見られることや不規則な堆積状況を示していることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量
5　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
6　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
8　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片94点が出土している。ほとんどの土器が細片で，覆土中に散在する状況で出土している。92，TP90は覆土上～中層，TP91は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺２～堀之内１式期）と考えられる。



第53図　第44号土坑・出土遺物実測図

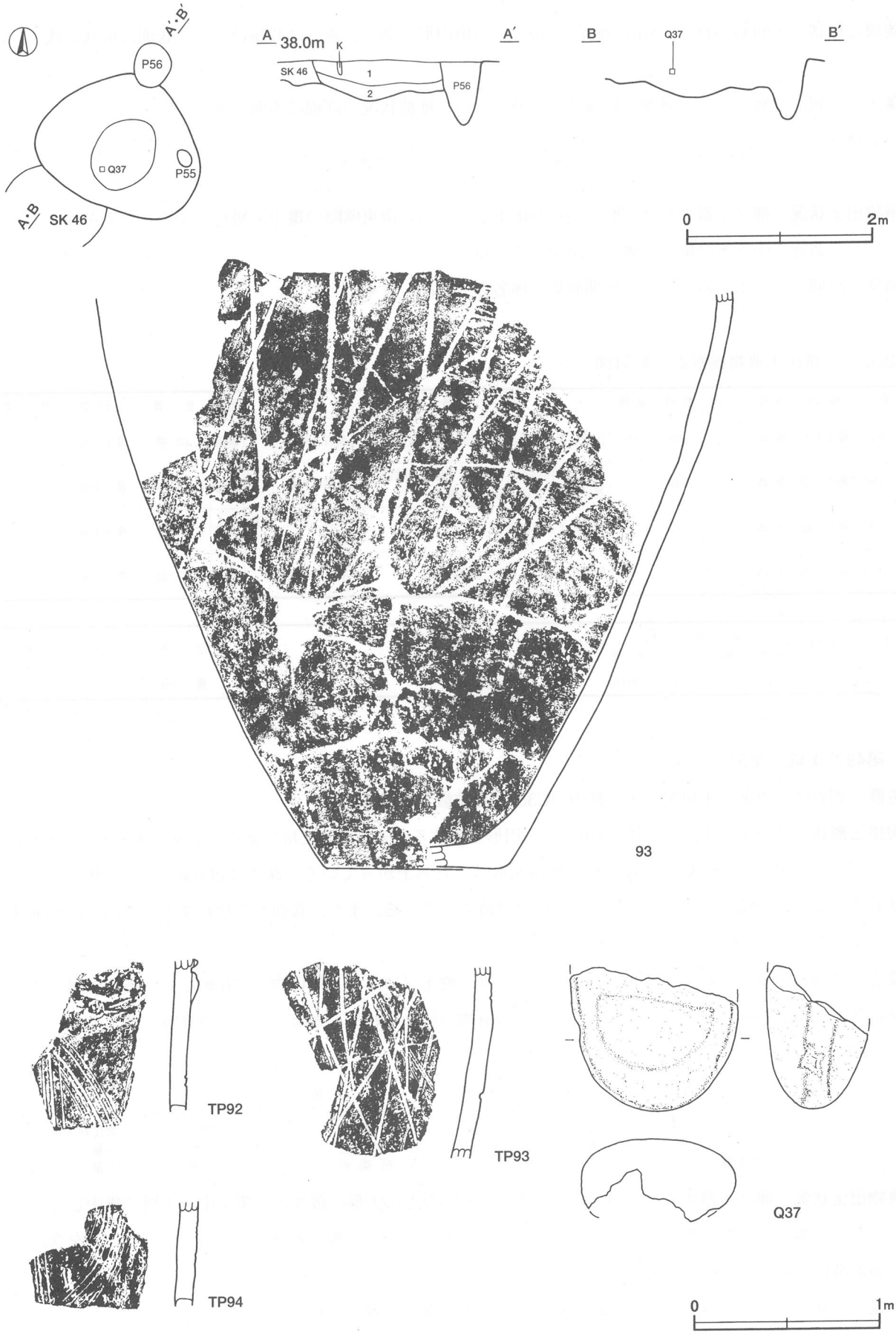
第44号土坑出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
92	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画する。胴部は縦位の櫛歯状文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上～中層	
TP90	縄文土器	深鉢	—	(17.6)	—	3～4条の沈線によるX字状文・J字状文で区画し，沈線の交点にボタン状貼付文を付す。LRの単節縄文を充填。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土上～中層	
TP91	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	沈線区画文。沈線上にボタン状貼付文を付す。	長石・石英	普通	褐灰	覆土下層	

第47号土坑（第54図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3c5区に位置している。

重複関係　第46号土坑を掘り込み，第56号ピットに掘り込まれている。第55号ピットと重複しているが新旧関



第54図　第47号土坑・出土遺物実測図

係は不明である。

規模と形状　平面形が長径1.8m，短径1.3mほどの楕円形である。深さは42cmほどで，底面は皿状に浅くくぼんでいる。

覆土　2層に分層される。層厚が42cmほどと薄いため，堆積状況の詳細は不明である。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片43点，磨石1点が出土している。南東壁際の覆土上層から出土した93を除いて，ほとんどの遺物が中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器からから後期前葉（称名寺2式期）と考えられる。

第47号土坑出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
93	縄文土器	深鉢	—	(30.9)	[9.8]	沈線による斜格子文。胴部下端無文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP92	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	沈線及び円形刺突文を有する隆帯を貼付。胴部は半截竹管による斜行条線文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP93	縄文土器	深鉢	—	(10.1)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP94	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	櫛歯状工具による斜行櫛歯状文。	長石・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q37	磨石	(7.0)	9.0	(5.4)	(309.5)	安山岩	全側面を使用。	覆土中層	

第49号土坑（第55・56図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3c8区に位置している。

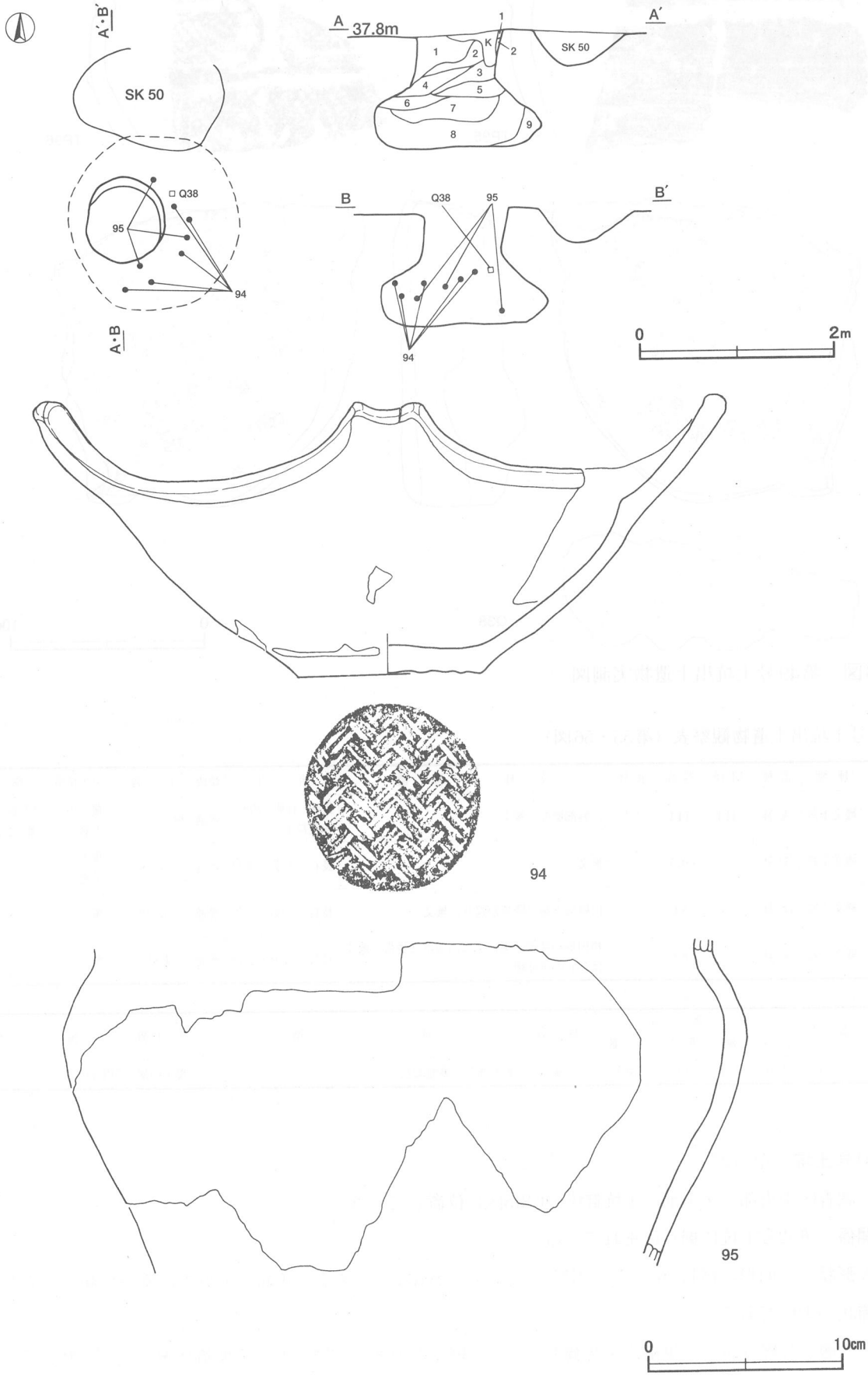
規模と形状　開口部の平面形が径0.8mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面の平面形は径1.6mほどの円形で，最高径の位置まで緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。深さは114cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位はほぼ直立している。また，底面から括れ部までの高さは67cmほどである。

覆土　9層に分層される。全体的にロームブロック・焼土ブロック・炭化物を含む締まりのある土層である。堆積状況に乱れがみられることやブロック状に含有物が認められることなどから人為堆積と考えられる。

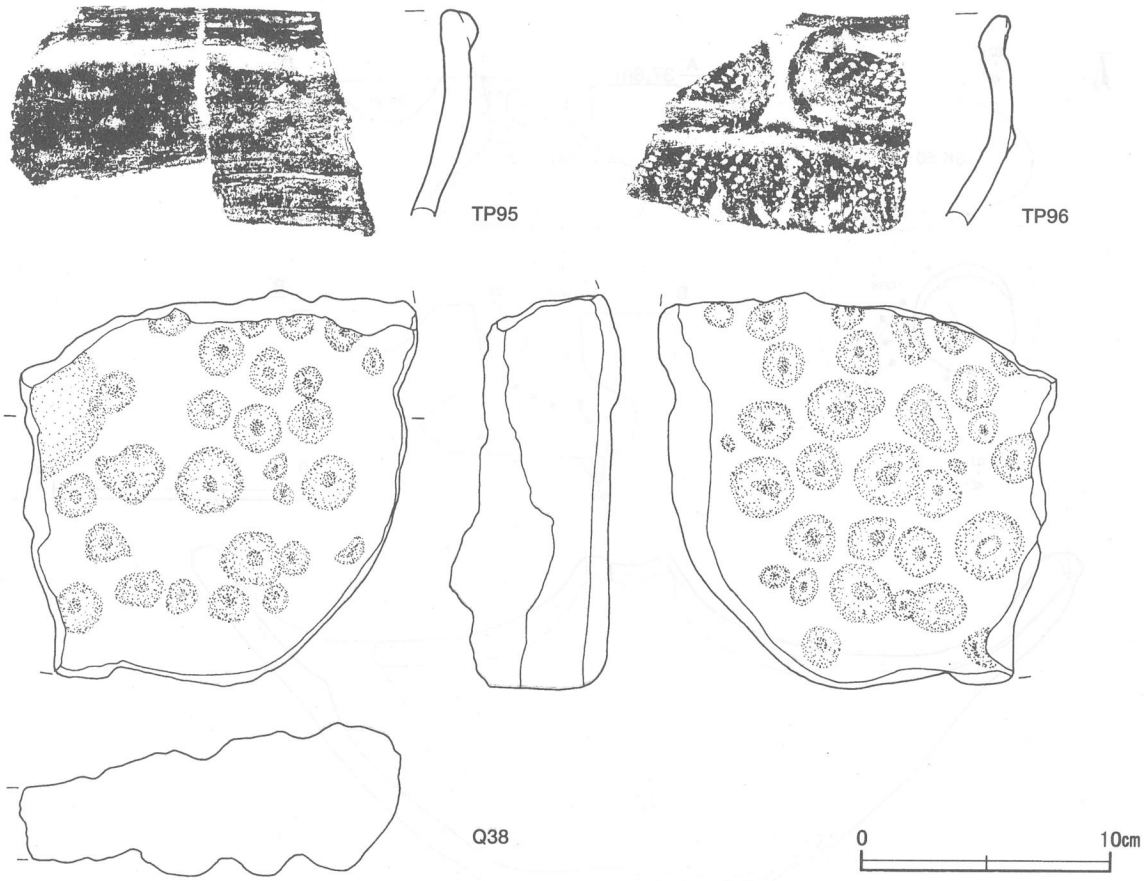
土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物・粘土ブロック微量
2　暗 褐 色　粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量，粘土ブロック微量
4　黒 褐 色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
6　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
7　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
8　極暗褐色　ローム中ブロック・焼土ブロック少量
9　暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片31点が出土している。94や95などの大形の破片は，覆土中～下層に集中している。これらの土器は平面的な散らばりをもって出土していることから，覆土中層から出土しているQ38を含めて土坑廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器からから中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第55図　第49号土坑・出土遺物実測図



第56図　第49号土坑出土遺物実測図

第49号土坑出土遺物観察表（第55・56図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
94	縄文土器	浅鉢	34.4	14.4	9.4	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	橙	覆土中～下層	PL33 器面研磨，底部網代痕
95	縄文土器	深鉢	—	(16.5)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中～下層	
TP95	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP96	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	楕円形の隆帯区画による口辺部文様帯。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q38	石皿	(15.6)	(15.8)	(6.6)	(1380.7)	花崗岩	表面28孔，裏面32孔。	覆土中層	PL52

第51号土坑（第57図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f5区に位置している。

重複関係　第52号土坑に掘り込まれている。

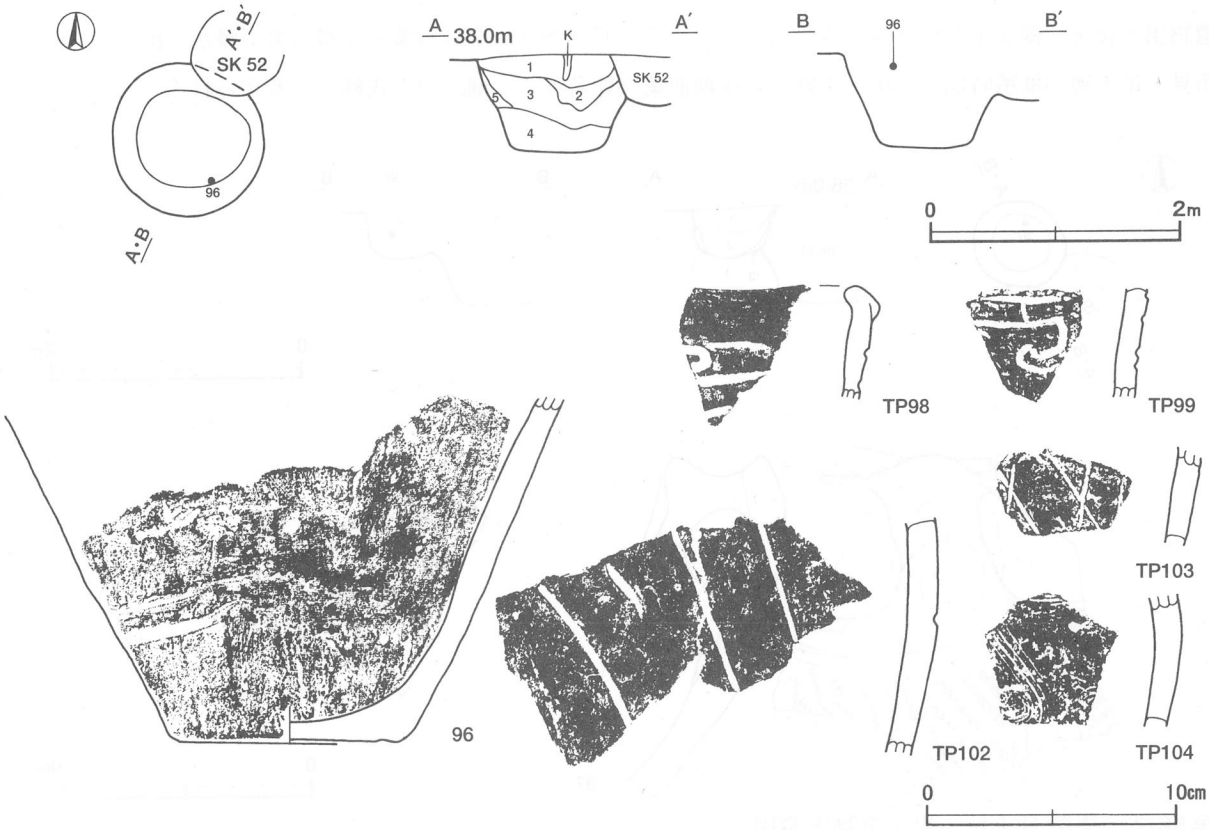
規模と形状　平面形は径1.3mほどの円形で，深さは78cmほどである。底面は平坦で，壁が外傾して立ち上がる円筒状の土坑である。

覆土　5層に分層される。黒褐色を基調とするやや締まりのある土層であり，堆積状況に大きな乱れがみられないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片42点が出土している。抽出・図示したものを含めてほとんどの土器が覆土上層から出土している。

所見　本跡が自然に埋没しかけた時点で，土器が廃棄もしくは流入したと考えられるため，出土土器から時期は明確ではないが，覆土上層の堆積時期は後期前葉と考えられる。



第57図　第51号土坑・出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
96	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	9.2	胴部下端無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP98	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部は沈線による区画文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土上層	TP99と同一個体
TP99	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	沈線により文様描出。	長石・石英	普通	灰褐	覆土上層	TP98と同一個体
TP102	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	沈線による区画文内に列点文を充填。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP103	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP104	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	櫛歯状工具による縦位の波状櫛歯状文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

第52号土坑（第58図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f5区に位置している。

重複関係　第51号土坑を掘り込んでいる。

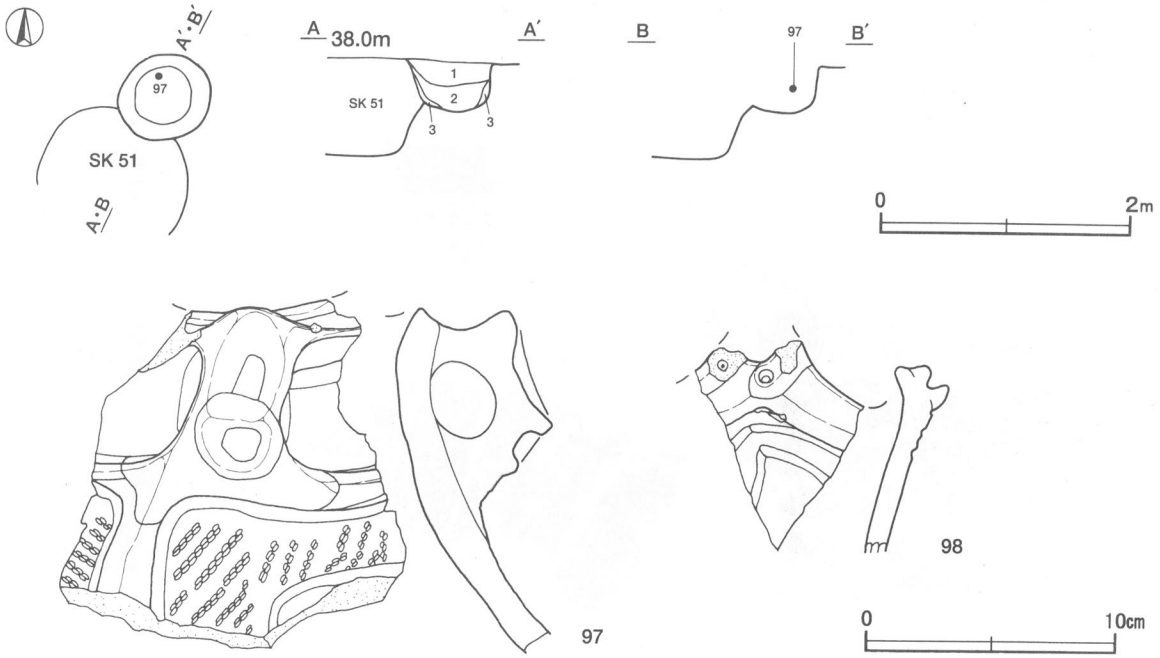
規模と形状　平面形は径0.7mほどの円形で，深さは40cmほどである。底面は平坦で，壁が直立ないしは外傾して立ち上がる円筒状の土坑である。

覆土　3層に分層される。黒褐色を基調とするやや締まりのある土層であり，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片2点のみが出土している。97・98はいずれも覆土上層の第1層から出土している。

所見　第1層の堆積時期は，出土土器から後期前葉（称名寺2～堀之内1式期）と考えられる。



第58図　第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表（第58図）

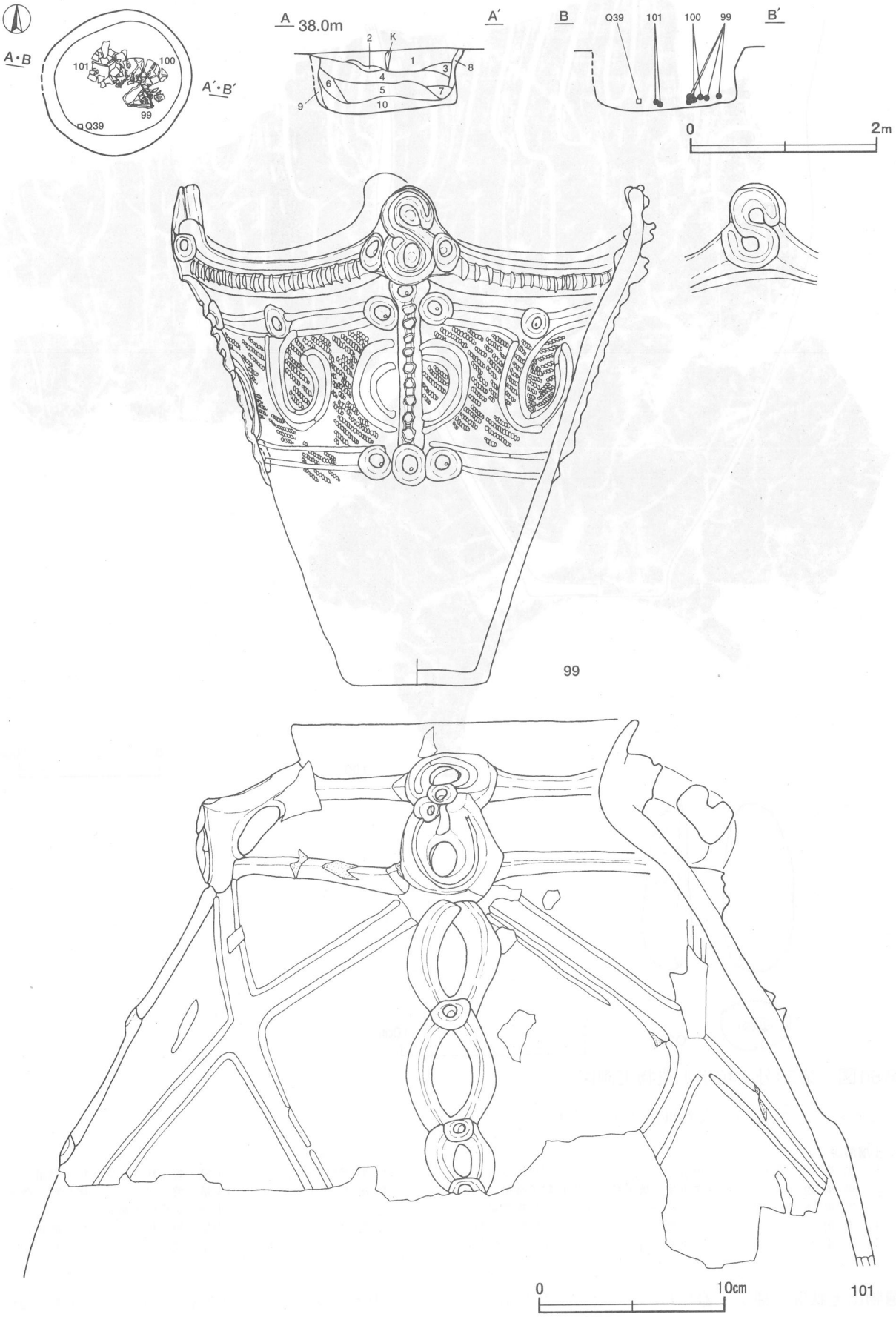
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
97	縄文土器	壺	—	(13.8)	—	隆帯による橋状把手を作出し，胴部は沈線区画文内にＬＲＬの複節縄文を施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい黄褐	覆土上層	PL46
98	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	—	波頂部に円形刺突文を有する隆帯を貼付し，口辺部は沈線区画文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土上層	

第53号土坑（第59・60図）

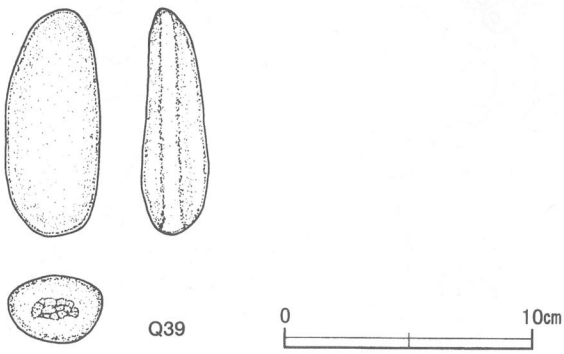
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3c6区に位置している。

規模と形状　平面形は径1.6mほどの円形で，深さは65cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立している円筒状の土坑である。

覆土　10層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，第9層は壁の崩落層でロームブロックを多く含んでいる。堆積状況に一部乱れが見られ，全体的に焼土や炭化物，ロームがブロック状に混入



第59図　第53号土坑・出土遺物実測図



第60図　第53号土坑出土遺物実測図

していることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
6　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
9　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片116点，敲石１点が出土している。復元・図示できた土器は３点で，いずれも底面中央部から５～10cmほど浮いて出土しており，廃絶時もしくは廃絶直後に廃棄されたものと考えられる。Q39

も図示した土器と同レベルからの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺２～堀之内１式期）と考えられる。

第53号土坑出土遺物観察表（第59・60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
99	縄文土器	深鉢	24.1	27.5	7.6	口唇部下端には沈線と刻みを有する隆帯が巡り，胴上部は沈線で区画され，区画内はＲＬの単節縄文を地文とし，沈線と円形貼付文により文様描出。	長石・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	PL32
100	縄文土器	深鉢	—	(41.4)	9.4	沈線による曲線的な区画文を配し，区画内には列点文を充填。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	PL32
101	縄文土器	壺	18.3	(29.5)	—	口辺部は２本の隆帯で区画し，隆帯間を沈線を有する隆帯による橋状把手を貼付。胴上部は沈線によりＸ字状文を描出し，把手基部から隆帯による８の字状文が垂下する。	長石・石英	普通	にぶい橙	底面	PL32

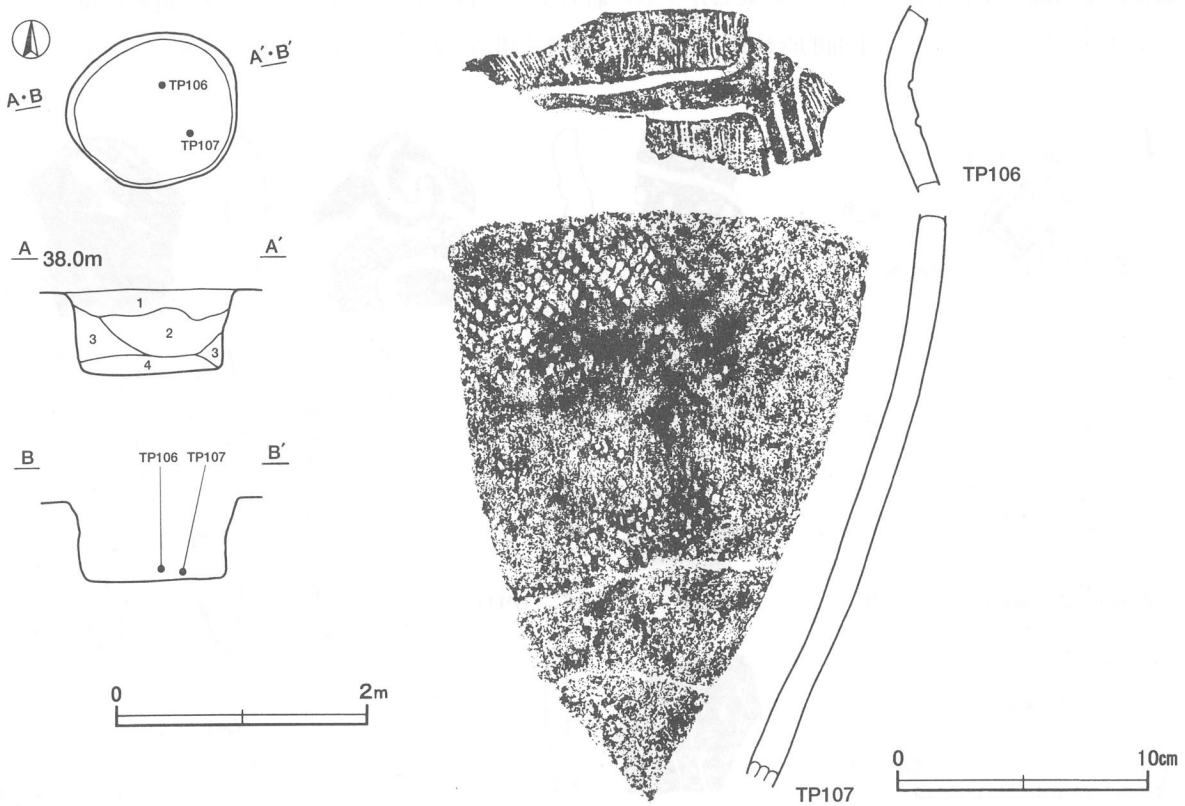
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q39	敲石	8.9	3.8	2.1	109.6	安山岩	一端を使用。	底面	

第54号土坑（第61図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d7区に位置している。

規模と形状　平面形は長径1.4m，短径1.2mほどの楕円形で，深さは65cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　４層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，第２層には多量のロームブロックが含まれていることや覆土上層から出土している土器と底面からやや浮いた状況で出土している土器との間に時期差が認められないことなどから人為堆積と考えられる。



第61図　第54号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
2　褐　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片98点，磨石１点が出土している。土器片は細片が多く，壁際の覆土中層から出土している傾向が認められる。TP106・TP107は底面からやや浮いた状況で出土しており，時期判断の指標となる遺物である。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。

第54号土坑出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP106	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	沈線区画文内に櫛歯状工具による櫛歯状文を充填。	長石・石英・雲母	普通	灰白	覆土下層	
TP107	縄文土器	深鉢	—	(22.6)	—	ＲＬの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	

第55号土坑（第62・63図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d7区に位置している。

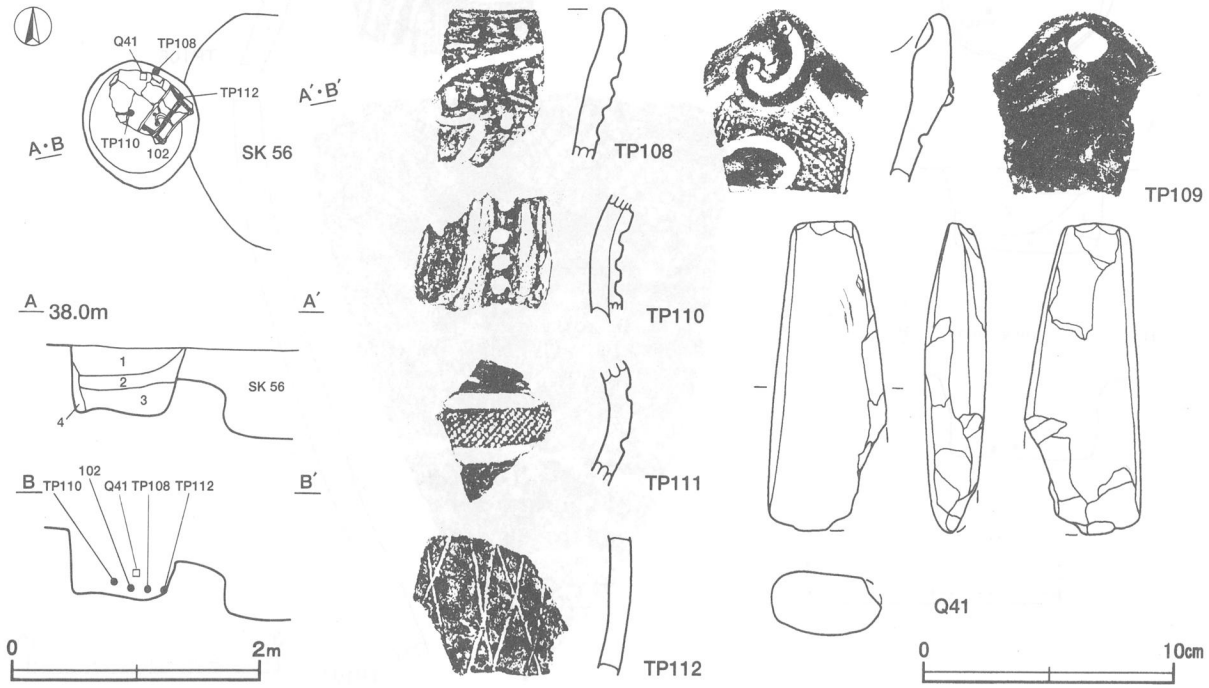
重複関係　第56号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　平面形は長径1.0m，短径0.9mほどの楕円形で，深さは53cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立する円筒状の土坑である。

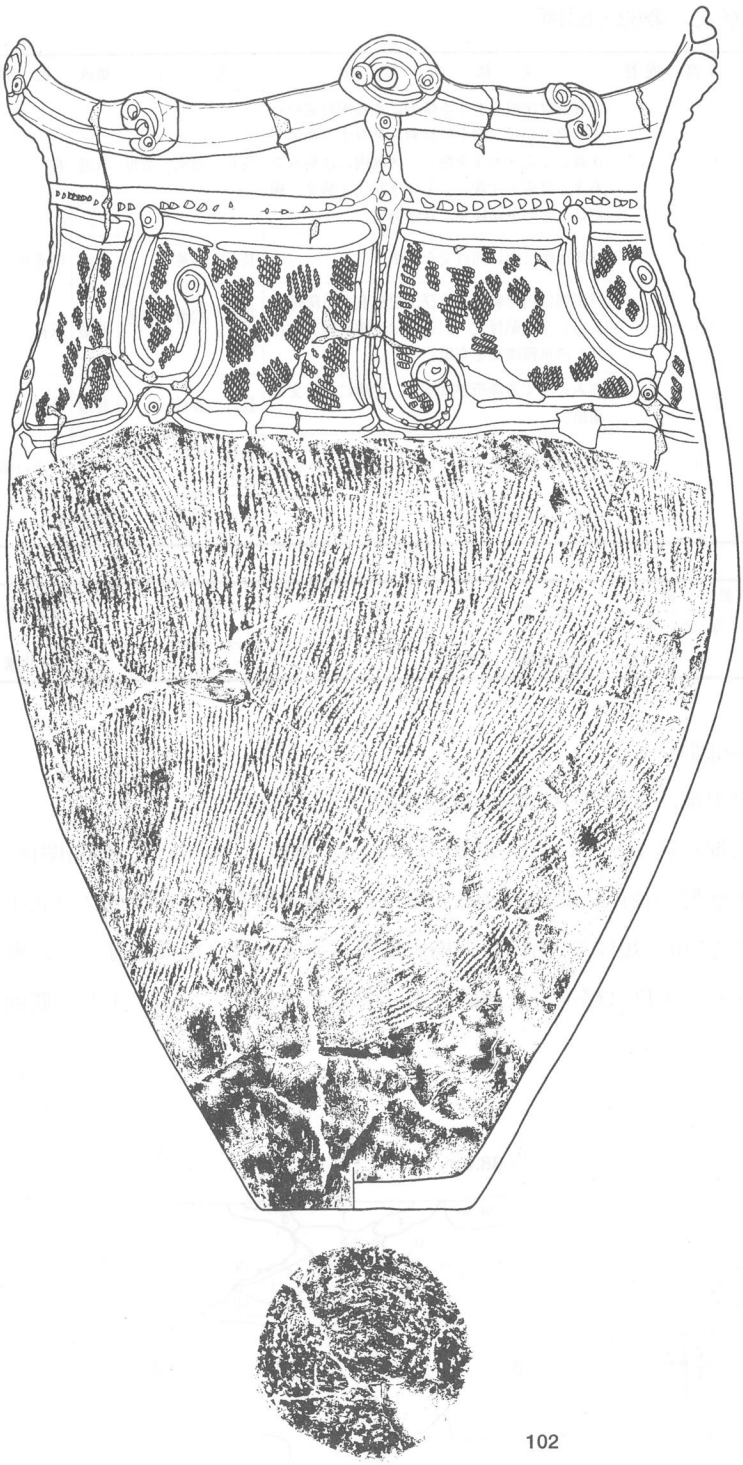
覆土　４層に分層される。全体的にやや締まりのある土層で，堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。なお，第４層はブロック状にロームを含んでいることから壁の崩落層と考えられる。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片351点，磨製石斧１点，磨石２点，剥片１点が出土している。遺物は覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置には特異な傾向は認められない。102は覆土下層から廃棄されたよう



第62図　第55号土坑・出土遺物実測図



第63図　第55号土坑出土遺物実測図

な状況で逆斜位で出土している。また，TP108・TP110・TP112は覆土下層，Q41は覆土中層，TP109・TP111は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　廃棄されたと考えられる覆土中層から出土した102と覆土下層から出土したTP108・TP110・TP112との間に明確な時期差が認められないことなどから，覆土が短期間に埋没したものと考えられる。時期は，出土土器から後期前葉（称名寺２～堀之内１式期）と考えられる。

第55号土坑出土遺物観察表（第62・63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
102	縄文土器	深鉢	36.4	63.8	11.0	口唇部は沈線を有する隆帯による円形文やC字状文を貼付。胴上位は刻みを有する隆帯と沈線による区画文を配し，区画内には刻みを有する隆帯と沈線によるJ字状文を施文。胴部はLRの単節縄文，異条縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	PL33
TP108	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	沈線区画文内に列点文を充填。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土下層	
TP109	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	波頂部は円形刺突文及び沈線を有する隆帯によるC字状貼付文。口辺部は沈線区画文内にRLの単節縄文を充填。	長石・雲母・赤色粒子	普通	灰褐	覆土	
TP110	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	刻みを有する隆帯が垂下し，沈線により文様描出。	長石・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
TP111	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	横位の沈線区画文内にLRの単節縄文を充填。	長石・雲母・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土	
TP112	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英	普通	褐	覆土下層	煤付着

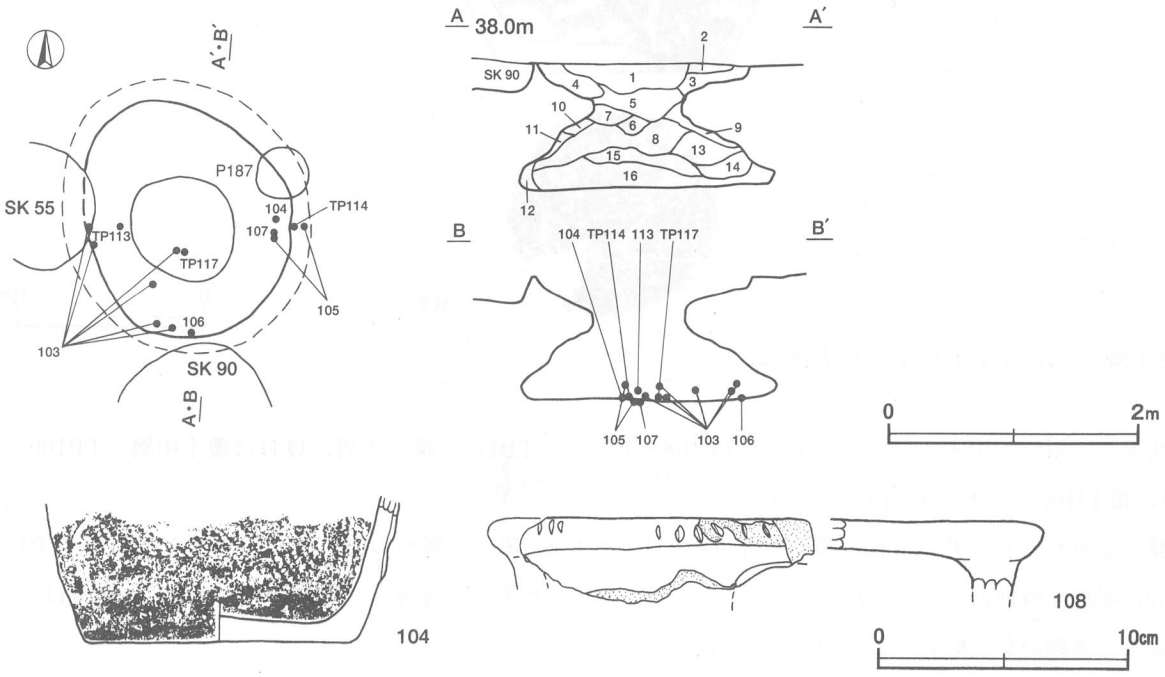
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q41	磨製石斧	(12.5)	(4.4)	2.5	(206.9)	緑色凝灰岩	定角式。	覆土中層	PL48 刃部・基部の一部欠損

第56号土坑（第64～66図）

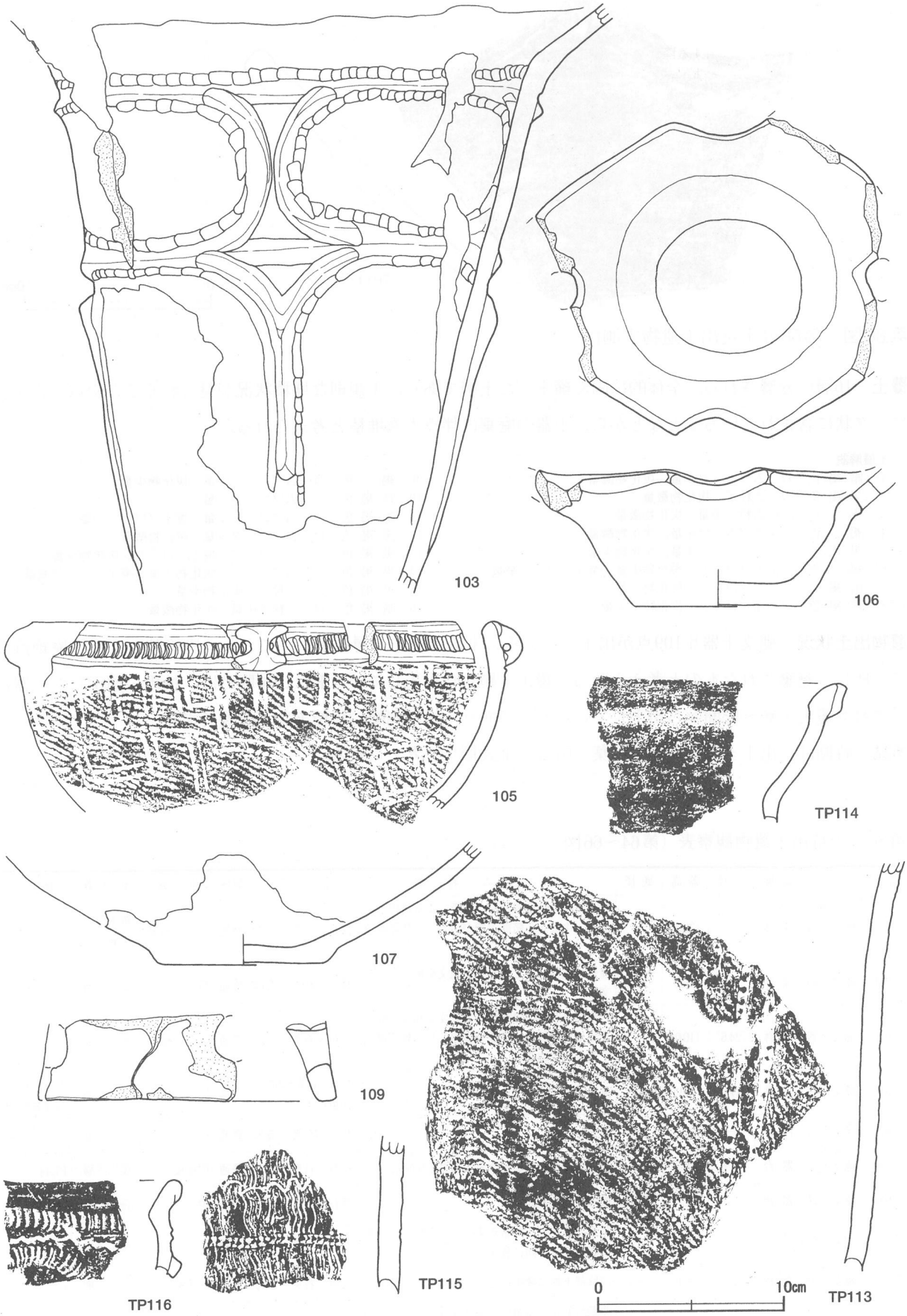
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d8区に位置している。

重複関係　第55号土坑に掘り込まれている。第187号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

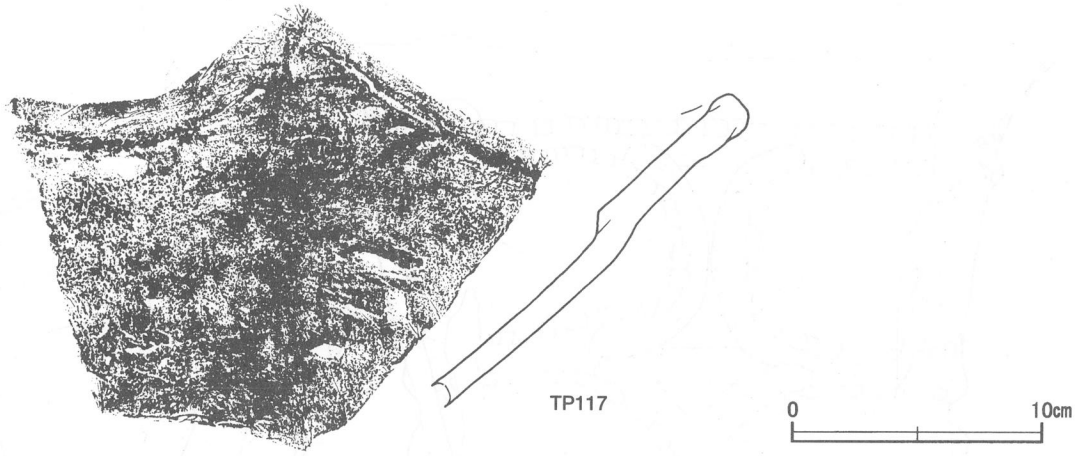
規模と形状　開口部の平面形が長径1.9m，短径1.6mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.2m，短径1.9mほどの楕円形を呈する。深さは98cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾して立ち上がり，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは65cmほどである。



第64図　第56号土坑・出土遺物実測図



第65図　第56号土坑出土遺物実測図（1）



第66図　第56号土坑出土遺物実測図（２）

覆土　16層に分層される。全体的に固く締まった土層であり，不規則な堆積状況が見られることやロームがブロック状に含まれていることなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　黒褐色　ローム粒子・炭化物微量
3　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
5　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物少量
6　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
7　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
8　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
9　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
10　暗褐色　ロームブロック少量
11　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック少量
12　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
13　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
14　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
15　黒褐色　ローム粒子・炭化物少量
16　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片109点が出土している。土器は覆土下層に集中しており，廃絶時もしくは廃絶直後に一括して廃棄されたものと考えられる。覆土上層から出土しているTP116を除けば，抽出・図示した土器はいずれも覆土下層～底面から出土しているものであり，時期判断の指標となる遺物である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第56号土坑出土遺物観察表（第64～66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
103	縄文土器	深鉢	—	(32.4)	—	胴上部は結節沈線が沿う隆帯による楕円形区画文。中段から結節沈線が沿うＹ字状隆帯文が垂下。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中～下層	PL31
104	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	10.5	隆帯が垂下し，ＬＲの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	
105	縄文土器	深鉢	[24.6]	(10.0)	—	口辺部は２本の隆帯間に爪形文を施文。胴上部は結節沈線により文様描出。Ｌの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
106	縄文土器	浅鉢	17.0	(7.1)	8.8	無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	PL32 煤・炭化物付着
107	縄文土器	浅鉢	—	(6.3)	8.8	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
108	縄文土器	器台	[21.6]	(3.2)	—	台部の縁に刻みを有する。脚部上位穿孔。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	PL44
109	縄文土器	器台	—	(4.3)	[16.0]	脚部上位穿孔。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	PL44
TP113	縄文土器	深鉢	—	(21.5)	—	結節沈線が沿う隆帯が垂下し，全体にＬの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP114	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。無文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	底面	
TP115	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	半截竹管による縦位の波状沈線文施文後，波状沈線文及び複列の結節沈線文を施文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP116	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	口辺部は爪形文が沿う隆帯文。横位に有節の波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP117	縄文土器	浅鉢	—	(12.3)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	

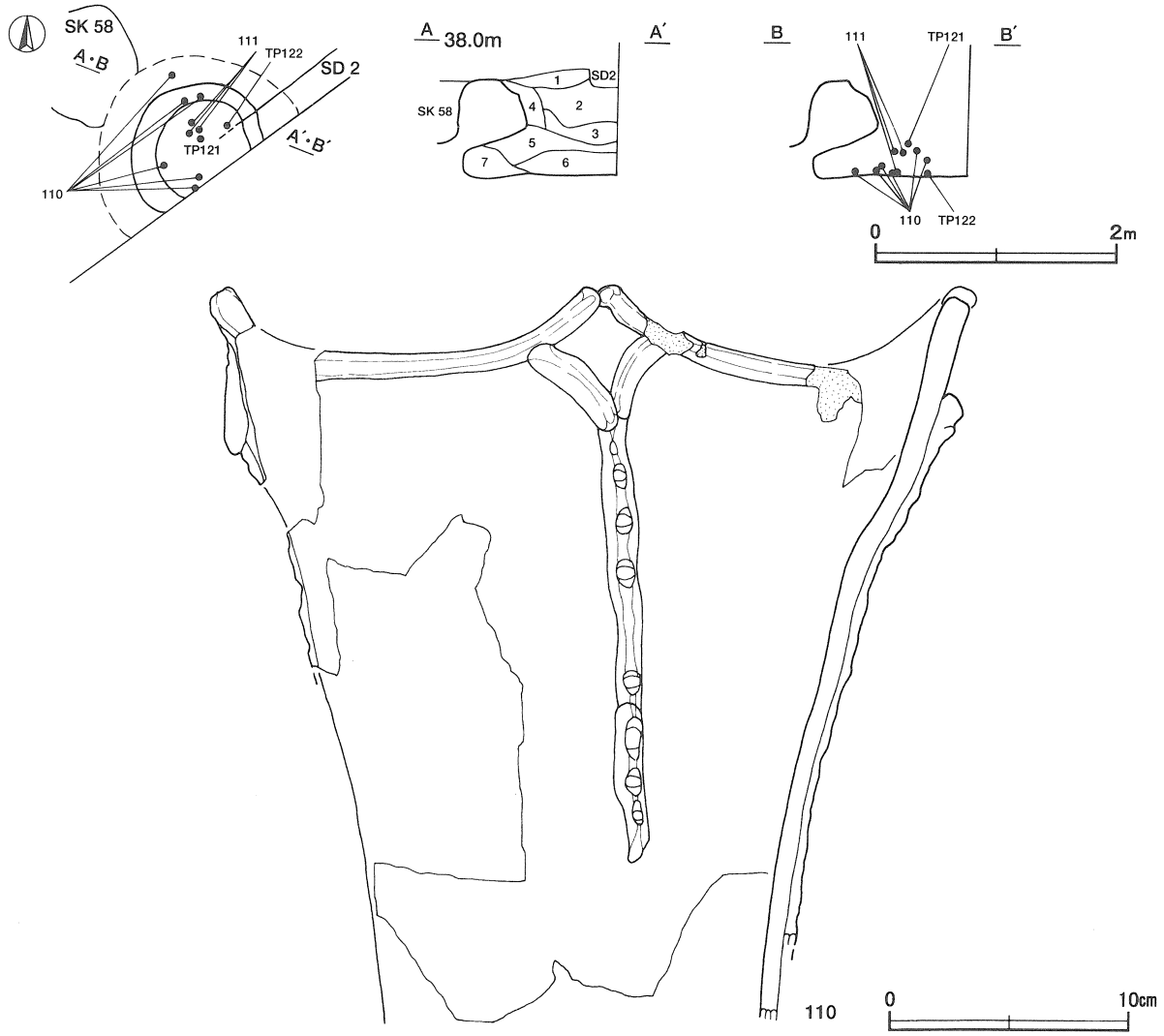
第59号土坑（第67・68図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e7区に位置している。

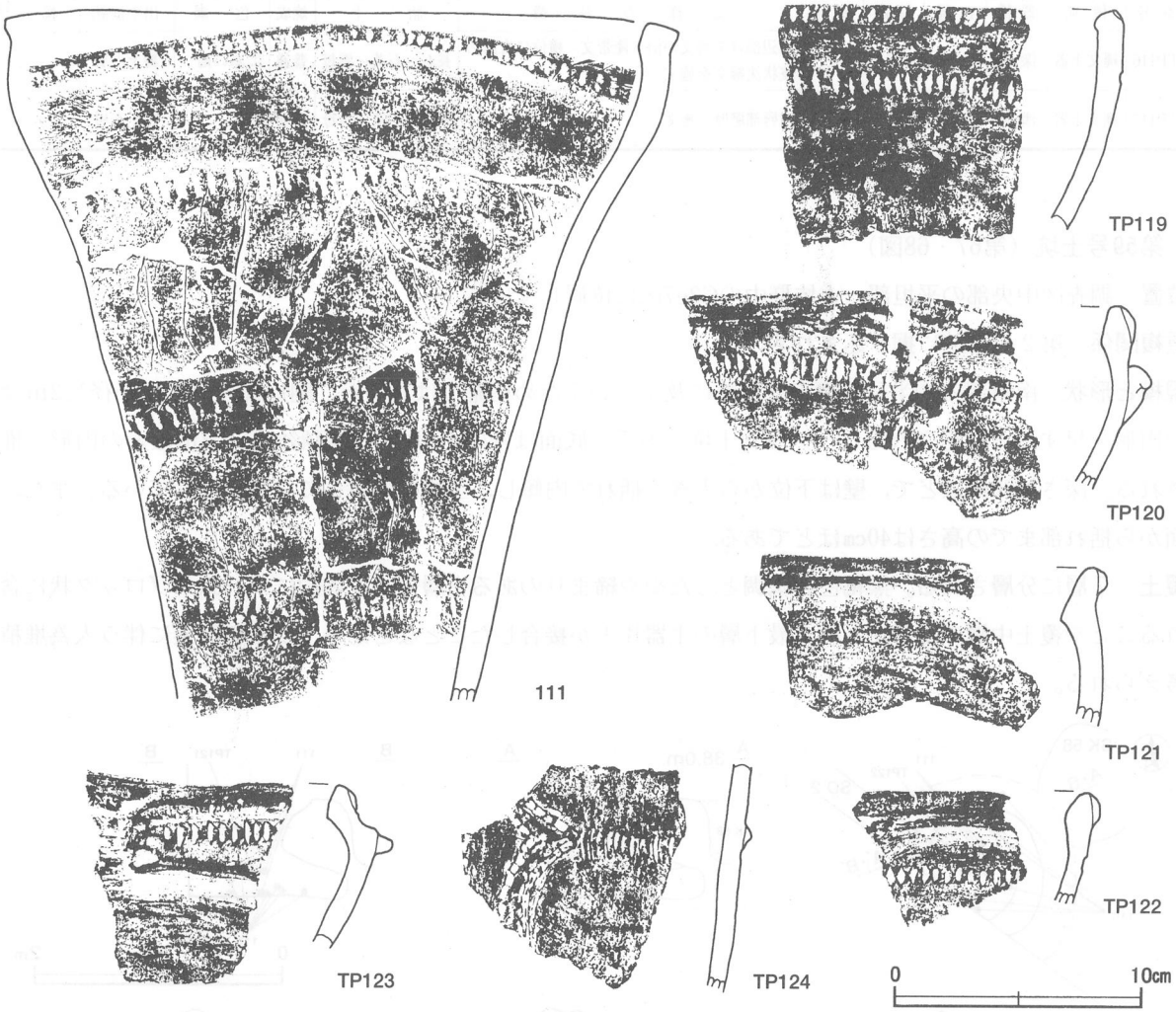
重複関係　第2号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状　南東部の約半分が調査区域外に及んでいるため明確ではないが，開口部の平面形が径1.2mほどの円形を呈すると推定されるフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.8mほどの円形と推定される。深さは90cmほどで，壁は下位から大きく括れて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは40cmほどである。

覆土　7層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層で，全体的にロームがブロック状に含まれることや覆土中層の土器片と覆土最下層の土器片とが接合したことなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。



第67図　第59号土坑・出土遺物実測図



第68図　第59号土坑出土遺物実測図

土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
6　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片78点が出土している。大形の土器片は主に覆土中層～底面から出土しており，平面的にも広がりをもっていることなどから，一括して廃棄されたものと考えられる。110は覆土下層と底面に散在していた破片，111は覆土中層と下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。また，TP122は底面からやや浮いた状況で出土し，TP121は覆土中層から出土している。なお，TP119・TP120・TP123・TP124は覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第59号土坑出土遺物観察表（第67・68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
110	縄文土器	深鉢	25.1	(30.2)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，波状部から圧痕を有する隆帯が垂下。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	PL33
111	縄文土器	深鉢	27.2	(27.3)	—	口唇部に刻みを有し肥厚する。胴部に3段の爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐 にぶい赤褐	覆土中～下層	PL33

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP119	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	口辺部下端と胴部に爪形文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土	
TP120	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	口唇部肥厚。口辺部はV字状隆帯文を貼付し，爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP121	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP122	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	口唇部は肥厚し，口辺部に爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	底面	
TP123	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	楕円形の隆帯区画による口辺部文様帯。区画内は隆帯に沿って爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP124	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	結節沈線が沿う隆帯文と爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

第63号土坑（第69図）

位置　調査区東部のB5a2区に位置し，東に向かう緩斜面に立地している。

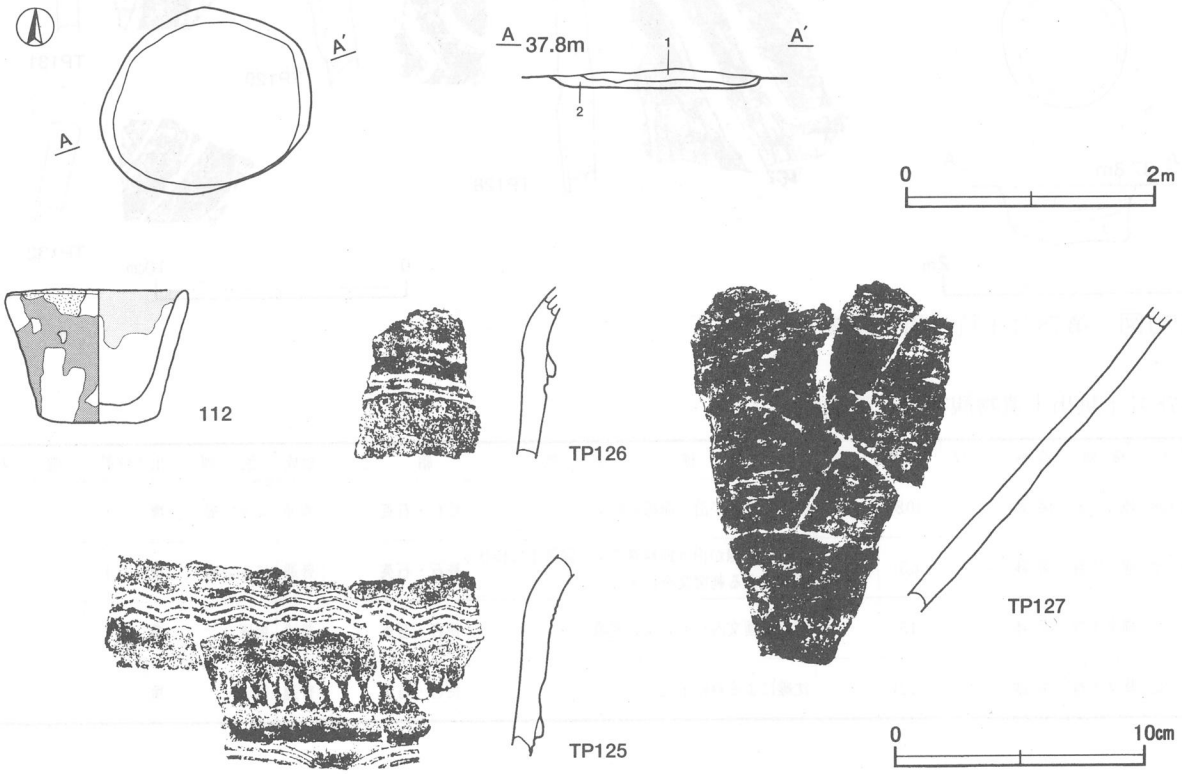
規模と形状　平面形は長径1.7m，短径1.5mほどの楕円形で，深さは15cmほどである。底面はほぼ平坦で，残存する壁は外傾ないしは緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。

覆土　2層に分層される。層厚が15cmほどと薄いため，堆積状況の詳細は不明である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量　　2　暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片7点，磨石1点が出土している。抽出・図示した土器はいずれも覆土中から出土したものである。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第69図　第63号土坑・出土遺物実測図

第63号土坑出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
112	縄文土器	ミニチュア	[7.0]	5.2	4.4	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	PL32 内外面赤彩，煤付着
TP125	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	半截竹管による横位の波状沈線文及び隆帯文。隆帯に爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP126	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	横位の隆帯文に半截竹管による複列の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土	
TP127	縄文土器	浅鉢	—	(12.1)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	

第78号土坑（第70図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB4e5区に位置している。

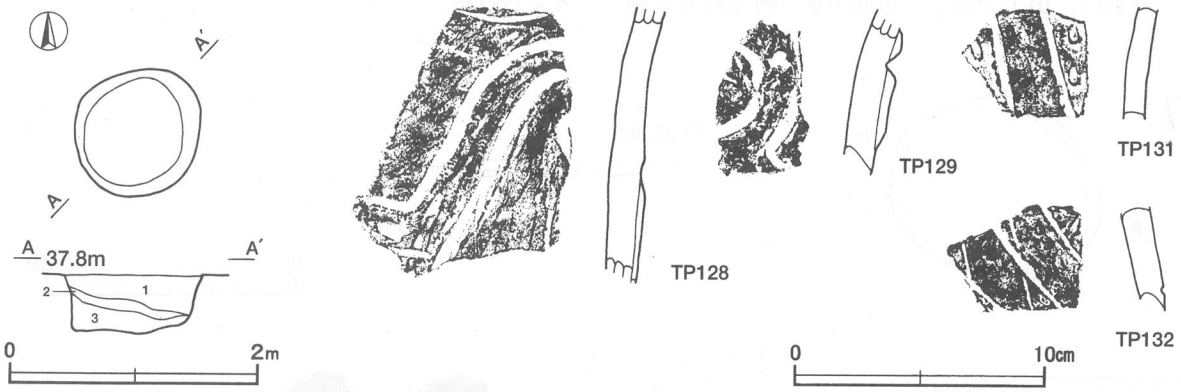
規模と形状　平面形は径1.0mほどの円形で，深さ45cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　3層に分層される。堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片89点が出土している。土器片は覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。抽出・図示した土器はいずれも覆土中から出土したものである。

所見　出土遺物は土砂とともに自然埋没したものと考えられ，本土坑の機能していた時期は判然としない。出土土器の大多数が後期前葉のものであることから，時期は後期前葉（称名寺2式期）以前と考えられる。

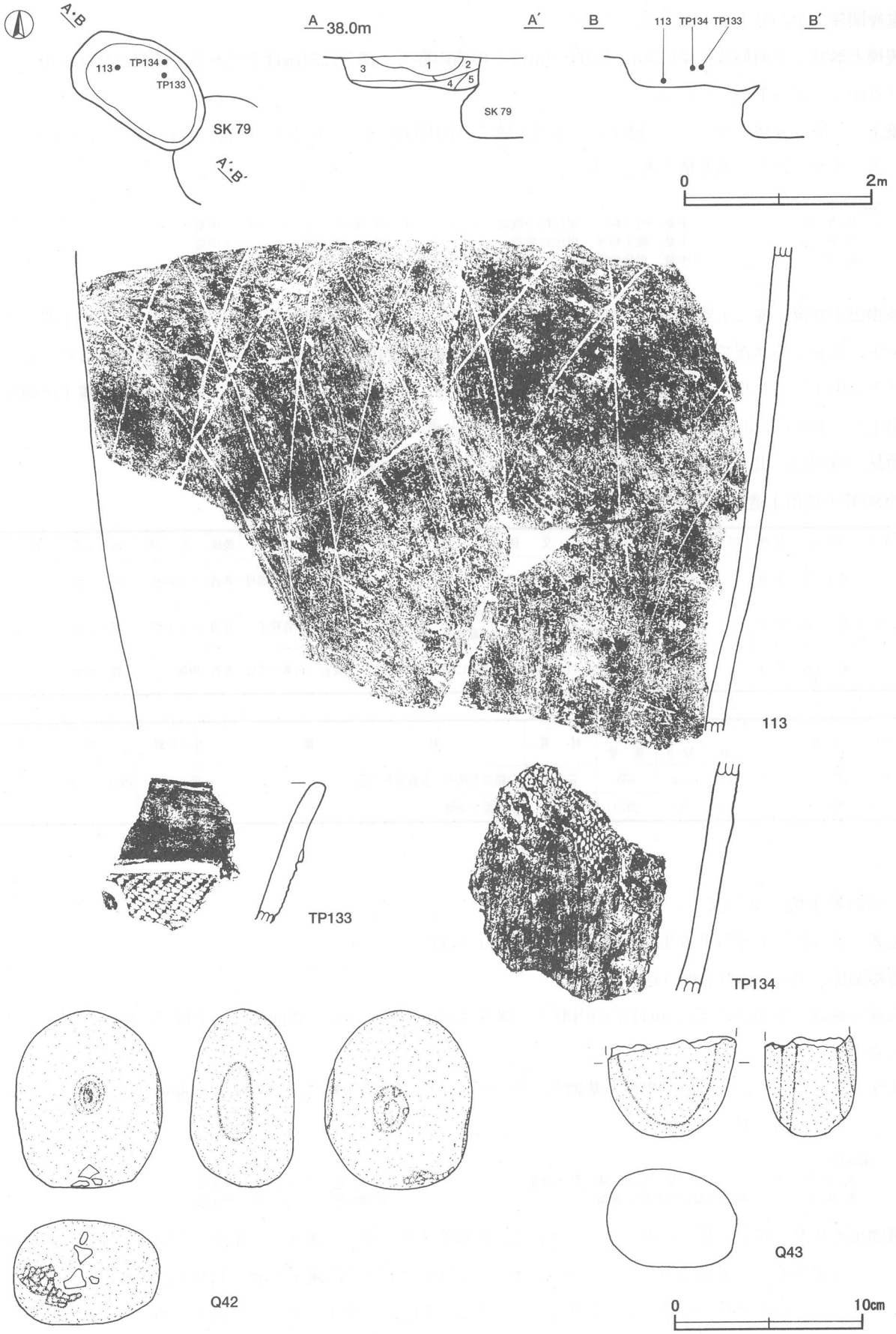


第70図　第78号土坑・出土遺物実測図

第78号土坑出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP128	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	隆帯に沈線が沿う曲線意匠文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	
TP129	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	隆帯に沈線が沿う曲線意匠文。隆帯上に棒状工具による刺突文を付す。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	
TP131	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	沈線区画文内に列点文を充填。	長石・石英	普通	褐灰	覆土	
TP132	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土	

第80号土坑（第71図）



第71図　第80号土坑・出土遺物実測図

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3c6区に位置している。

重複関係　第79号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　平面形は長径1.5m，短径0.9mほどの楕円形で，深さは34cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　5層に分層される。やや締まりのある土層で，全体的にロームをブロック状に含んでいることなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片50点，磨石2点のほか，流れ込みによる土師器片3点が出土している。土器片は覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。113は底面からやや浮いた状況で出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，TP133・TP134，Q43・Q44は覆土中層から出土しており，113とともに一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺1～2式期）と考えられる。

第80号土坑出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
113	縄文土器	深鉢	—	(25.3)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
TP133	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口辺部無文帯の下端を沈線で区画し，その下位はＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP134	縄文土器	深鉢	—	(12.1)	—	ＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明褐	覆土中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q42	磨石	9.3	7.8	5.6	638	安山岩	全側面を使用。表裏面各1孔。	覆土中層	PL50
Q43	磨石	(5.4)	(6.8)	4.8	(257.1)	安山岩	全側面を使用。	覆土中層	

第81号土坑（第72図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d5区に位置している。

重複関係　第43号土坑を掘り込んでいる。

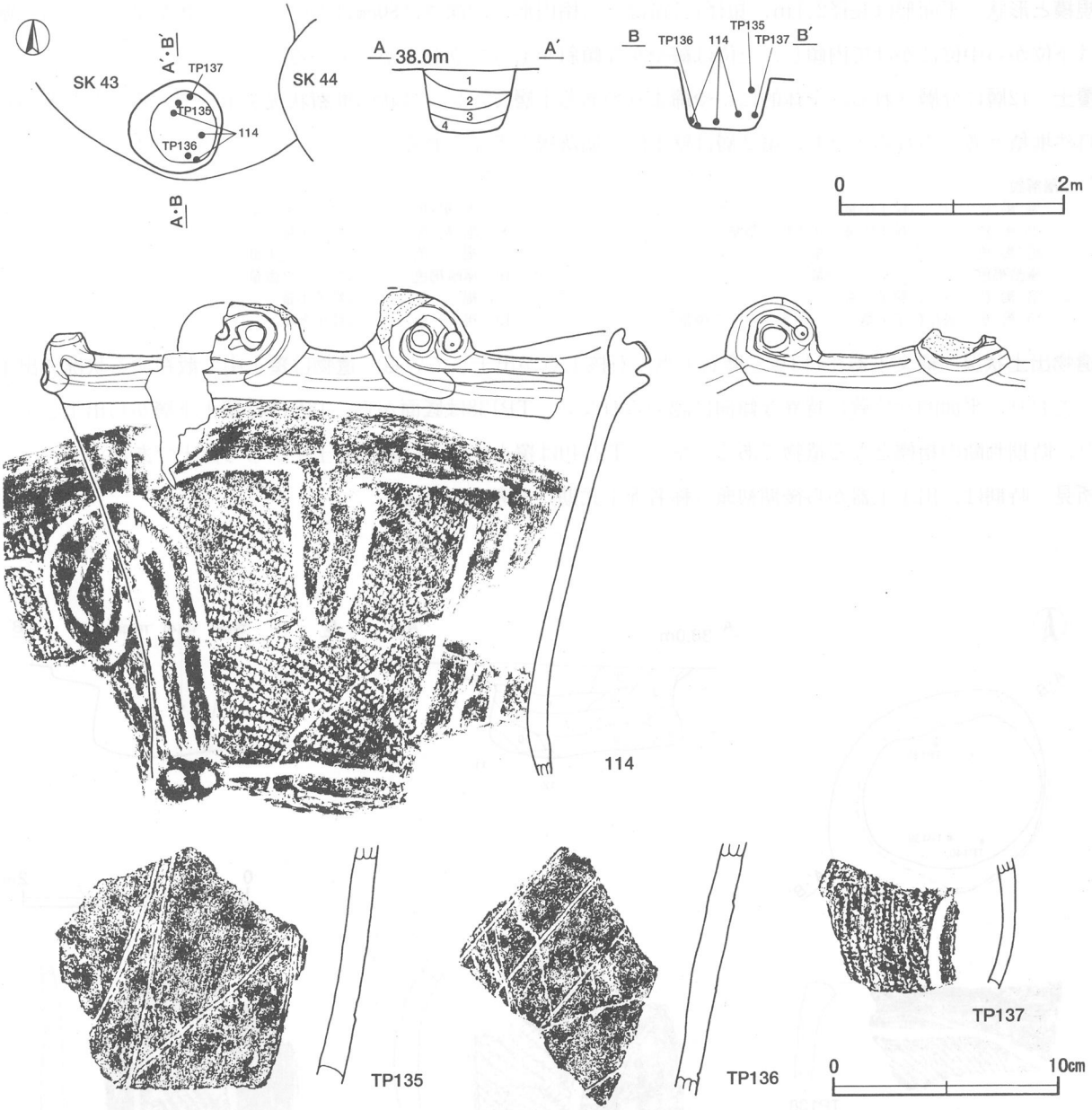
規模と形状　平面形は径0.8mほどの円形で，深さは55cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　4層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層で，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片15点が出土している。比較的大形の破片が覆土中～下層から出土しており，廃絶時もしくは廃絶直後に廃棄されたものと考えられる。114及びTP137は覆土下層，TP136は底面からそれぞれ出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，TP135は覆土上層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺2式期）と考えられる。



第72図　第81号土坑・出土遺物実測図

第81号土坑出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
114	縄文土器	深鉢	[24.4]	(21.4)	—	口唇部には沈線を有する隆帯が巡り，渦巻状の把手を作出。胴部はＬＲの単節縄文を地文とし，逆Ｊ字状やノの字状に沈線区画する。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL33
TP135	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP136	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英	普通	橙	底面	
TP137	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	ＬＲの単節縄文を地文とし，沈線文を施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	

第86号土坑（第73図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB4i4区に位置している。

規模と形状　平面形は長径2.1m，短径1.7mほどの楕円形で，深さは80cmほどのフラスコ状を呈している。壁は下位から中位にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。

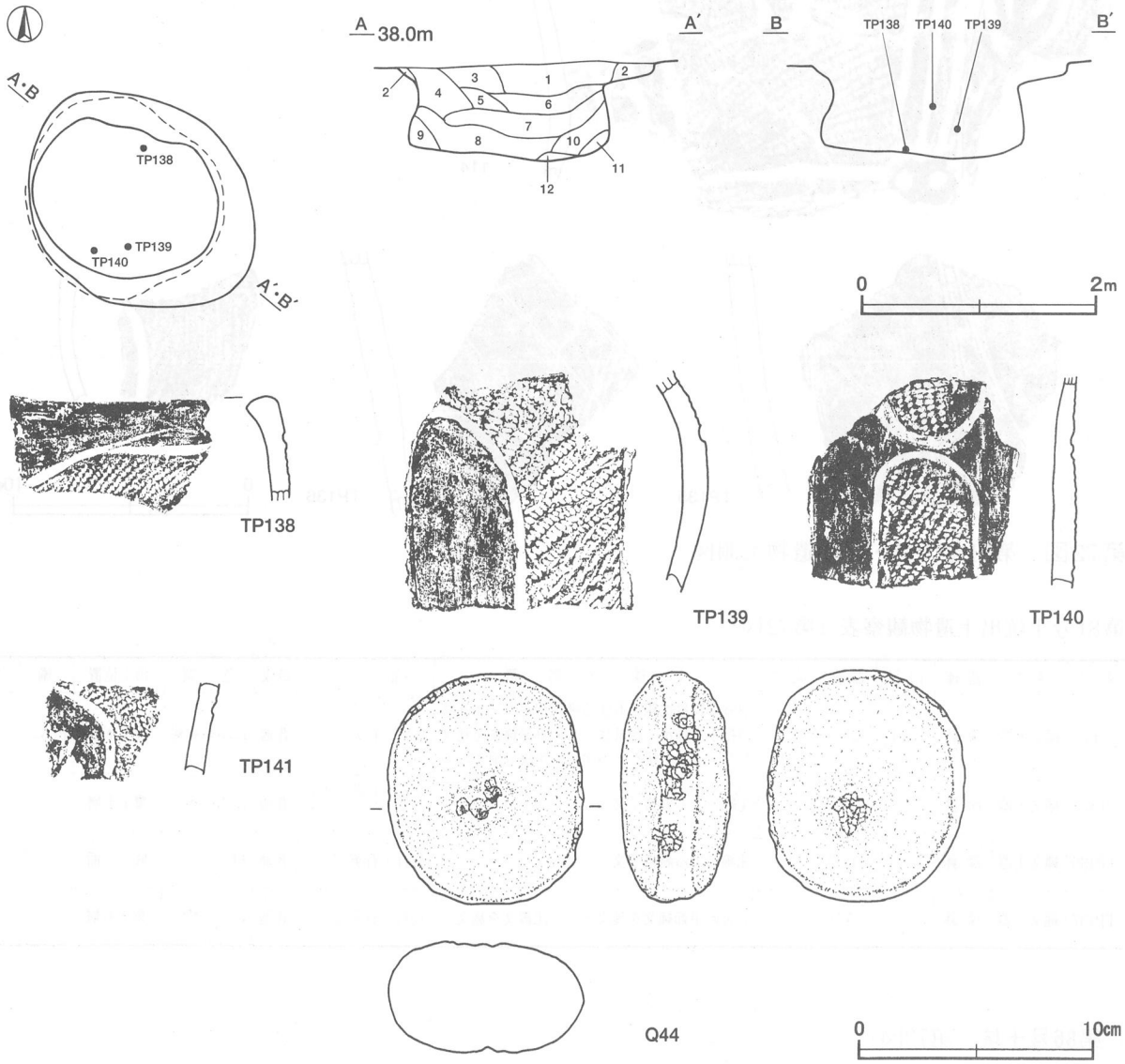
覆土　12層に分層される。全体的にやや締まりのある土層で，レンズ状の堆積状況を示していることなどから自然堆積と考えられる。なお，第2層は壁上位の崩落層と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量
4　極暗褐色　ロームブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子少量
6　暗 褐 色　炭化粒子少量，ローム大ブロック微量
7　黒 褐 色　ロームブロック少量
8　暗 褐 色　ローム粒子少量
9　褐　　色　ロームブロック中量
10　極暗褐色　ロームブロック微量
11　褐　　色　ローム粒子中量
12　褐　　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片113点，磨石1点，石核1点が出土している。遺物は覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。TP138は底面から，TP139は覆土下層から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，TP140は覆土中層，Q44は覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺1式期）と考えられる。



第73図　第86号土坑・出土遺物実測図

第86号土坑出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP138	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	明赤褐	底面	
TP139	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	沈線区画文内にＲＬの単節縄文を施文。	長石・赤色粒子	普通	浅黄橙	覆土下層	
TP140	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	沈線区画文内にＲＬの単節縄文を充填。	長石・赤色粒子	普通	灰褐	覆土中層	
TP141	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	黒褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q44	磨石	9.7	8.2	4.5	528.3	安山岩	全側面を使用。表裏面及び側面に敲打痕	覆土	PL50

第87号土坑（第74・75図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3b6区に位置している。

重複関係　第88号土坑を掘り込んでいる。

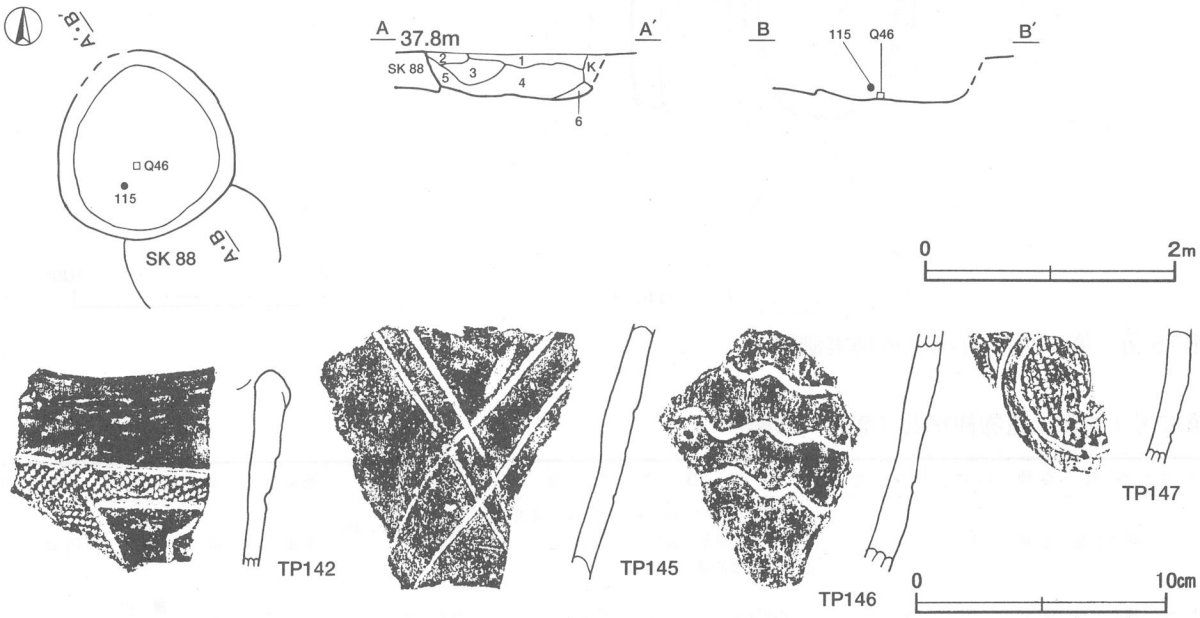
規模と形状　平面形は径1.5mほどの円形で，深さは35cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。

覆土　6層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層で，全体に焼土・炭化物・ロームをブロック状に含み，堆積状況に乱れが見られることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

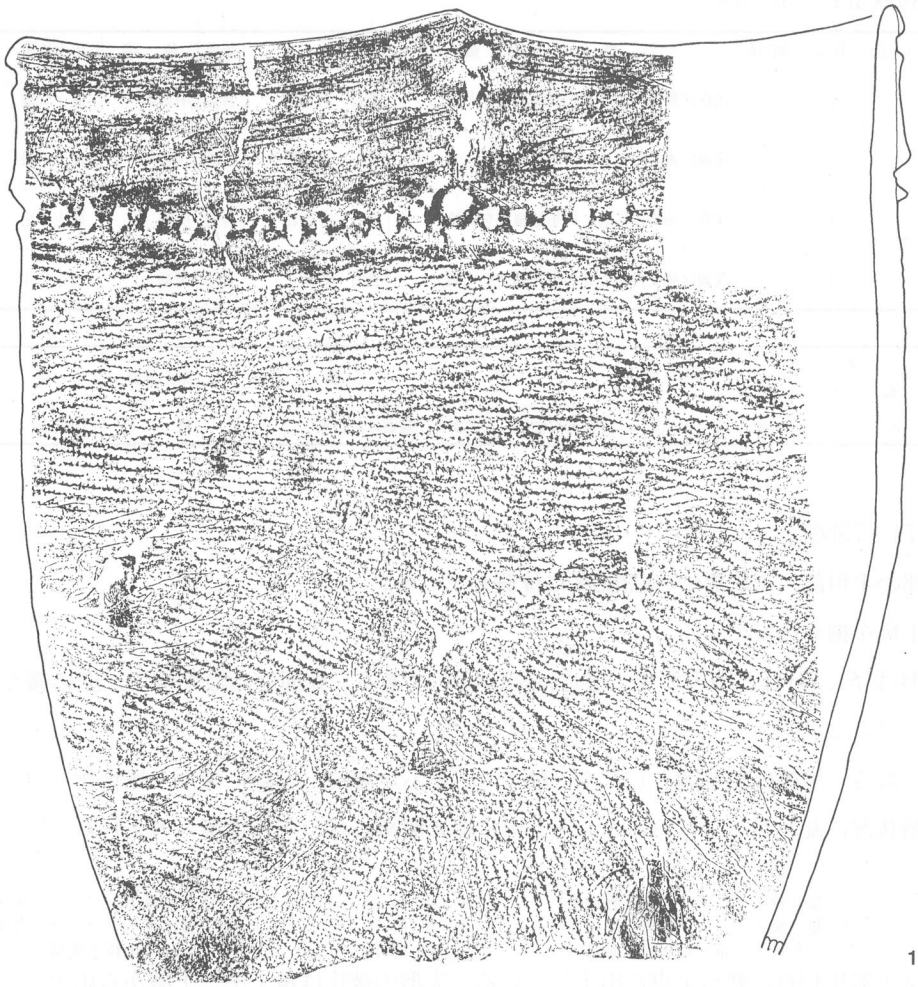
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

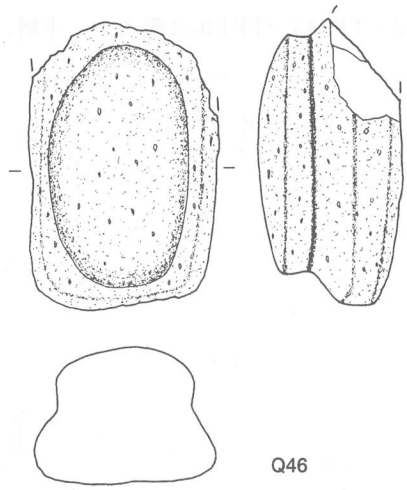
遺物出土状況　縄文土器片49点，磨石１点が出土している。大形の破片は覆土中～下層から出土しており，一括して廃棄されたものと考えられる。115，TP142・TP145・TP146は覆土中～下層，TP147，Q46は底面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺１～２式期）と考えられる。



第74図　第87号土坑・出土遺物実測図





第75図　第87号土坑出土遺物実測図

第87号土坑出土遺物観察表（第74・75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
115	縄文土器	深鉢	35.4	(37.6)	—	口辺部無文帯の下端を刻みを有する隆帯で区画し，無文帯部に縦位の隆帯文を配す。胴部はＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土中～下層	PL34
TP142	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・雲母	普通	にぶい褐	覆土中～下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP145	縄文土器	深鉢	—	(10.1)	—	沈線による斜格子文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中～下層	
TP146	縄文土器	深鉢	—	(9.7)	—	横位の波状沈線文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中～下層	
TP147	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	ＬＲの単節縄文を地文とし，沈線区画文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q46	磨石	(11.3)	(7.5)	5.6	(486.0)	安山岩	上面を把手状に加工。裏面を使用。	底面	PL50 石冠状

第89号土坑（第76・77図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3b6区に位置している。

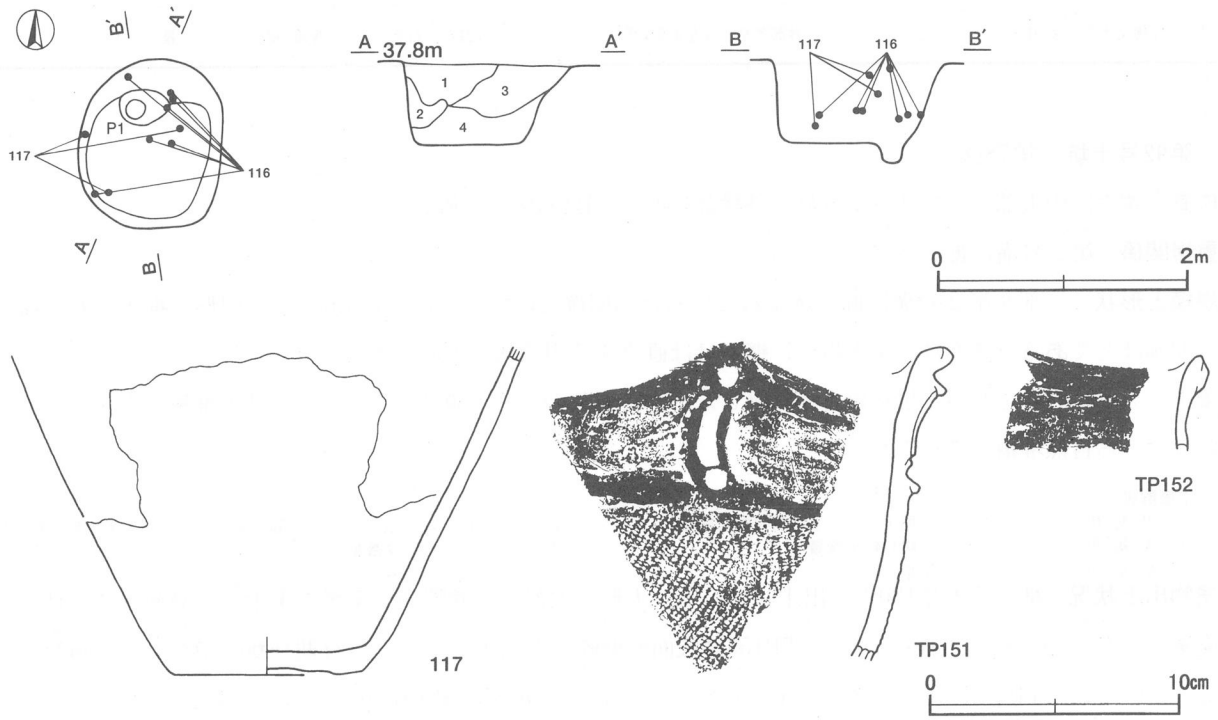
規模と形状　平面形は長径1.6m，短径1.4mほどの楕円形で，深さは66cmほどである。底面はほぼ平坦で，外傾して立ち上がる北壁以外の壁はほぼ直立している。北壁際にピットを有するが，性格は不明である。

覆土　4層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層で，全体にロームがブロック状に含まれていることや堆積状況に乱れが見られることなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

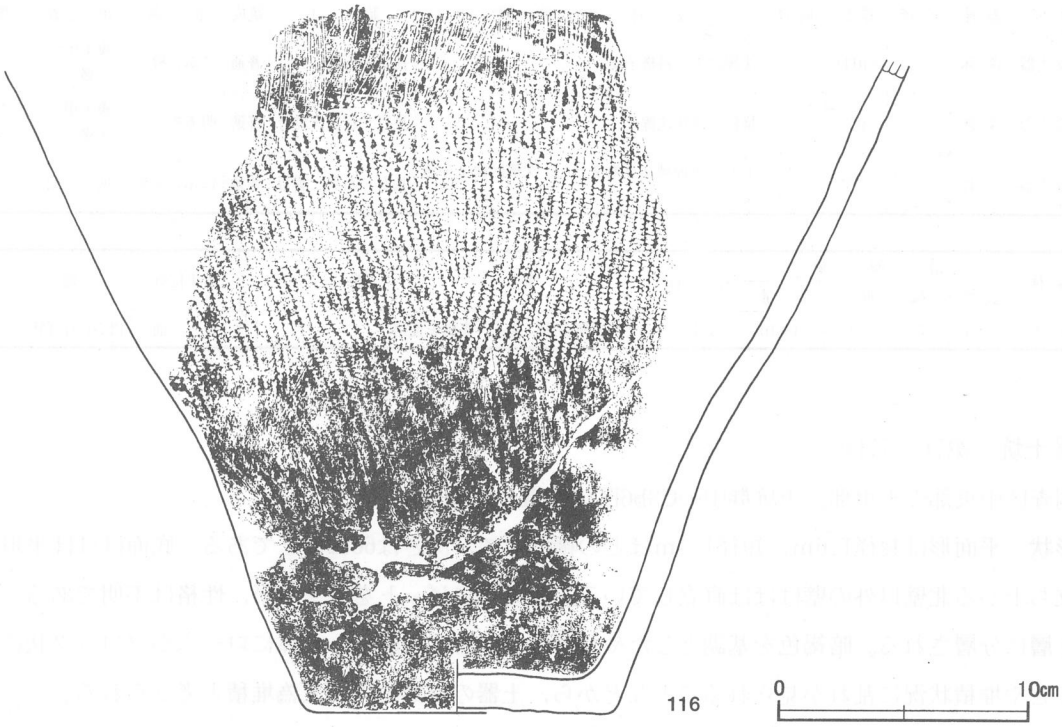
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック多量
3　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
4　極暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器30点が出土している。土器片は覆土上～下層にかけて散在しているが，大形の破片は中層の壁際に集中する傾向が認められる。116は覆土中～下層，117は覆土上～下層に散在していた破片がそれぞれ接合したものであり，覆土中から出土しているTP151・TP152とともに廃絶時もしくは廃絶直後に一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器からから後期前葉（称名寺２～堀之内１式期）と考えられる。



第76図　第89号土坑・出土遺物実測図



第77図　第89号土坑出土遺物実測図

第89号土坑出土遺物観察表（第76・77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
116	縄文土器	深鉢	—	(25.6)	12.2	胴上部は櫛歯状工具による櫛歯状文。下部はＬＲの単節縄文を施文。胴部下端無文。	長石・石英・赤色粒子	普通	明赤褐	覆土中～下層	PL34
117	縄文土器	深鉢	—	(12.8)	7.6	無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土上～下層	
TP151	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画し，無文帯部にＣ字状隆帯文を配す。胴部はＲＬの単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP152	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	口唇部肥厚。口辺部無文帯。	長石・石英	普通	褐灰	覆土	

第92号土坑（第78図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB4g4区に位置している。

重複関係　第２号溝に掘り込まれている。

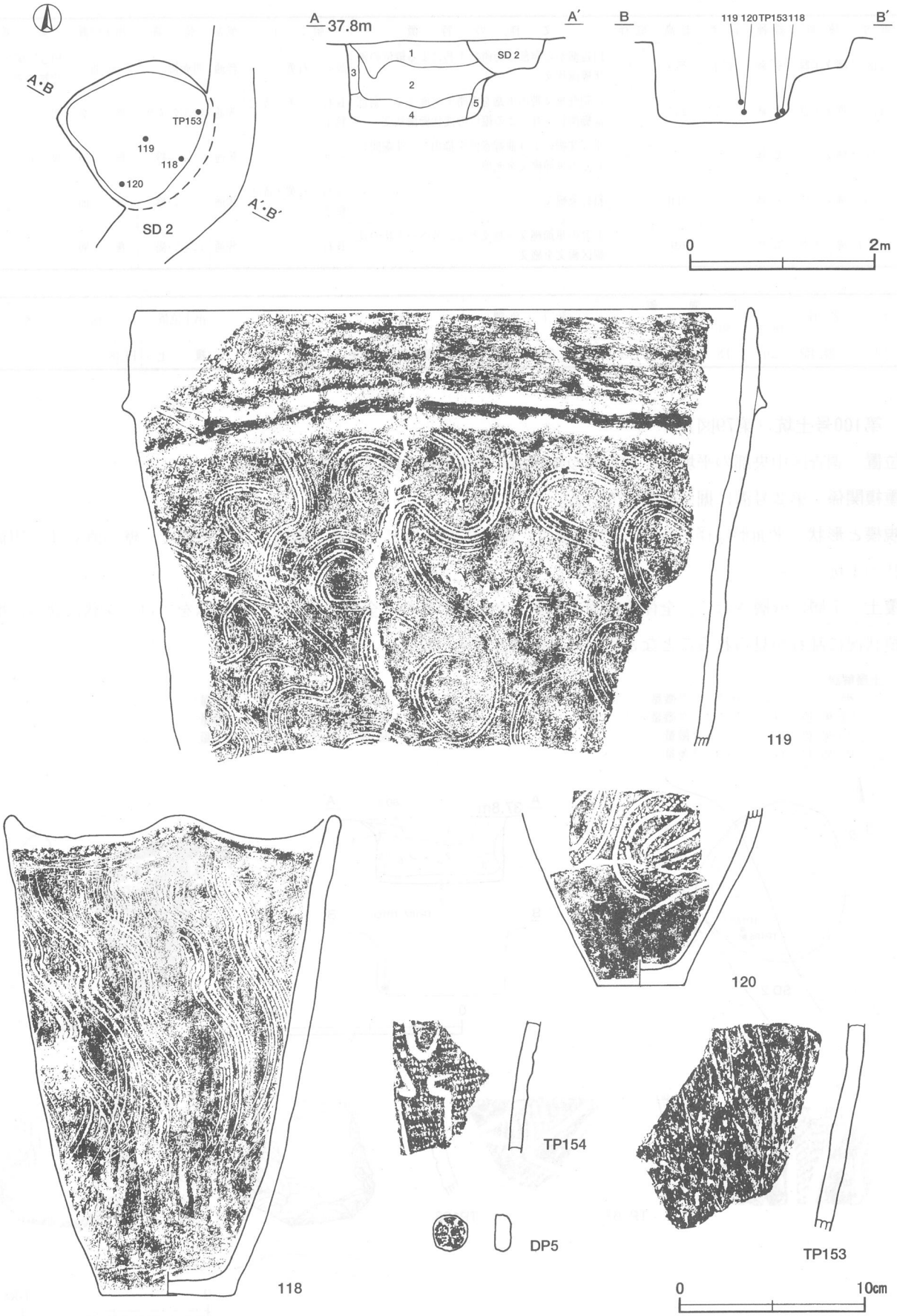
規模と形状　一部を第２号溝に掘り込まれているため明確ではないが，径1.6mほどの円形と推定され，深さは90cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　５層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層である。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
5　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片120点が出土している。大形の土器片は壁際中～下層に集中し，廃絶後に一括して廃棄されたものと考えられる。118，TP153は底面の壁際から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。119・120，TP154は覆土下層から出土している。また，DP５は覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺１～２式期）と考えられる。



第78図　第92号土坑・出土遺物実測図

第92号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
118	縄文土器	深鉢	17.4	25.5	7.0	口辺部から胴部は櫛歯状工具による縦位の波状櫛歯状文。	長石・石英	普通	明赤褐	底面	PL34 煤・炭化物付着
119	縄文土器	深鉢	[32.7]	(23.4)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画する。胴部は櫛歯状工具による縦位の波状櫛歯状文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL34
120	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	4.8	平行沈線により曲線意匠を描出し，沈線間にＲＬの単節縄文を充填。	石英	普通	にぶい橙	覆土下層	煤付着
TP153	縄文土器	深鉢	—	(11.0)	—	斜行条線文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	
TP154	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	ＬＲの単節縄文を地文とし，スペード状の沈線区画文を施文。	長石	普通	にぶい褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP5	土器円盤	2.0	1.8	0.8	3.7	長石・雲母，明褐	周縁部荒削り。無文。	覆土	PL48

第100号土坑（第79図）

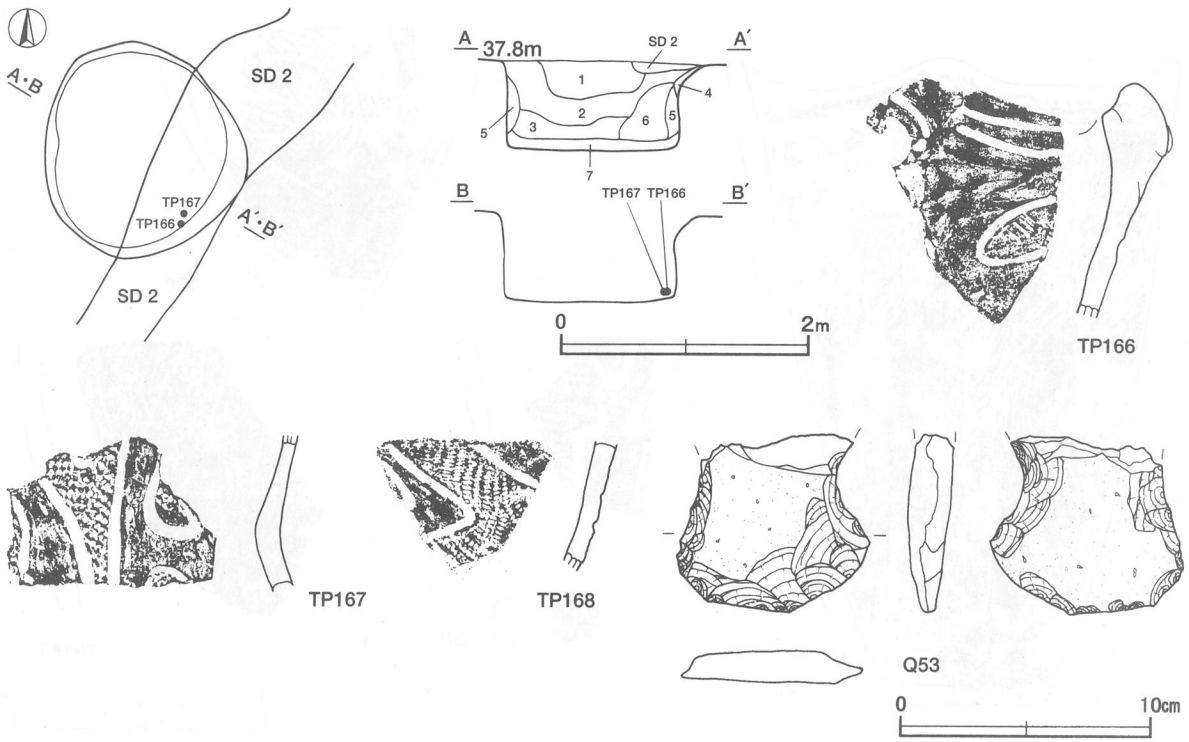
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB4h3区に位置している。

重複関係　第２号溝に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径1.6mほどの円形で，深さは70cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁が直立する円筒状の土坑である。

覆土　７層に分層される。全体的に固く締まった土層であり，全層にわたってロームをブロック状に含み，堆積状況に乱れが見られることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム小ブロック微量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　明褐色　ロームブロック多量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　極暗褐色　ロームブロック微量
7　暗褐色　ロームブロック少量



第79図　第100号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片211点，打製石斧１点，磨石１点，敲石１点，石核１点が出土している。遺物は覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。TP166・TP167はほぼ底面の壁際から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，TP168，Q53は覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺１式期）と考えられる。

第100号土坑出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP166	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	—	波頂部にO字状の隆帯文を貼付。口唇部下端に２条の沈線が巡る。口辺部は沈線区画文内に櫛歯状工具による斜行条線文を充填。	長石・赤色粒子	普通	灰褐	底面	
TP167	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石	良好	にぶい褐	底面	
TP168	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	沈線区画文内にＲＬの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	橙	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q53	打製石斧	(7.1)	7.6	1.8	(113.4)	安山岩	分銅型。抉入部は浅い。	覆土	片刃部欠損

第103号土坑（第80・81図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3g0区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が径1.7mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.4m，短径1.2mほどの楕円形を呈している。深さは80cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは45cmほどである。

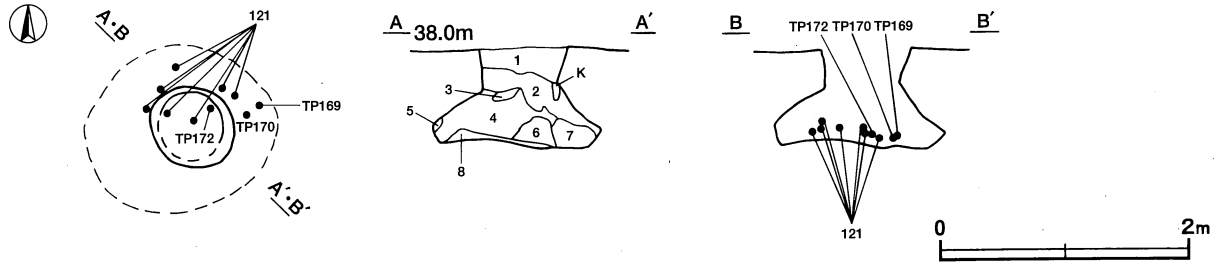
覆土　８層に分層される。堆積状況に乱れが見られ，粘土粒子を含む層が不規則に堆積していることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

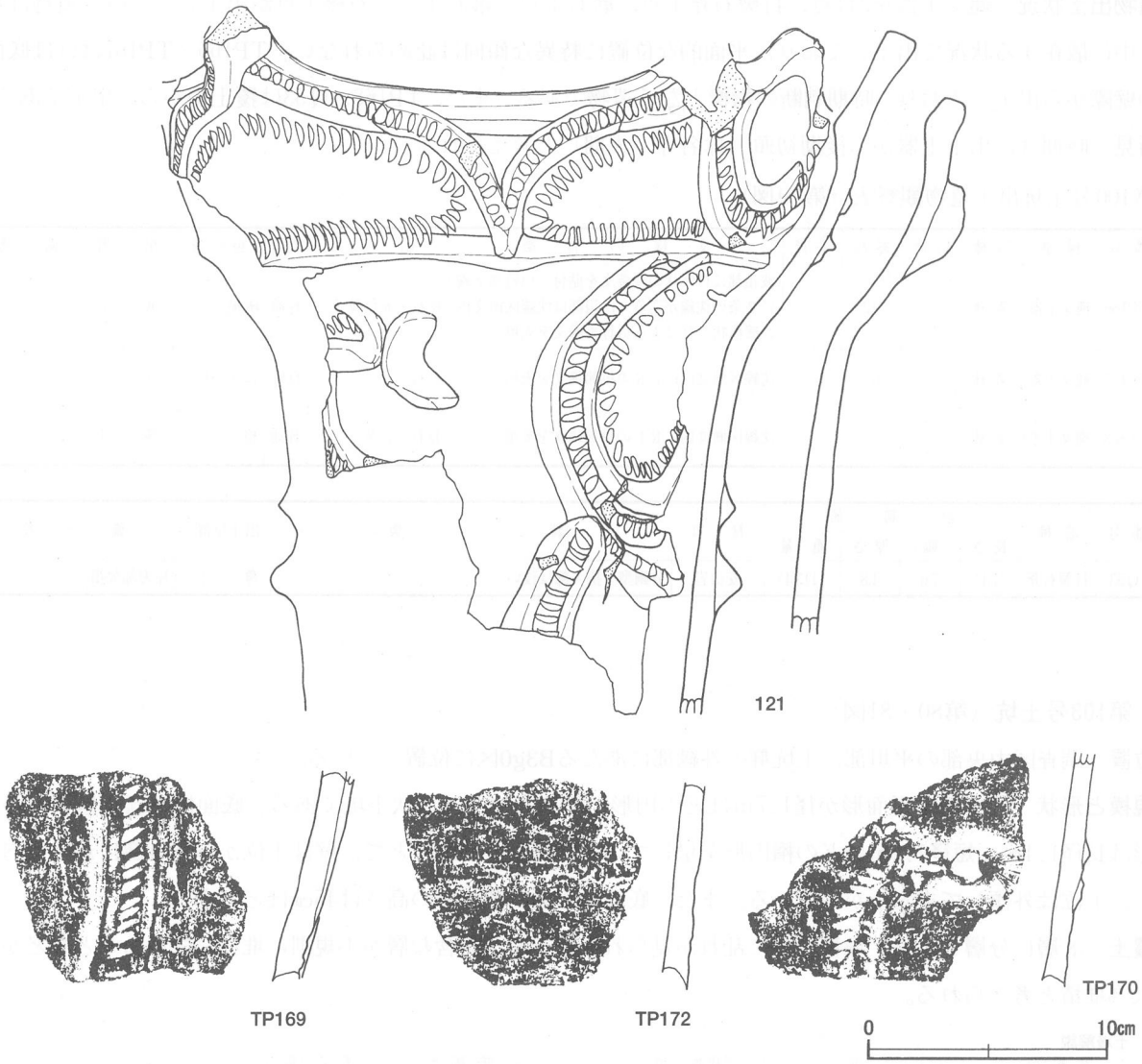
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子小量
3　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
4　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　暗褐色　ローム粒子少量
6　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
7　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
8　極暗褐色　ロームブロック・粘土粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片60点が出土している。土器片は第８層上面に集中しており，また121は同面に散在して出土した破片が接合したものであり，埋め戻しに伴って他の土器片とともに一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第80図　第103号土坑実測図



第81図　第103号土坑出土遺物実測図

第103号土坑出土遺物観察表（第81図）

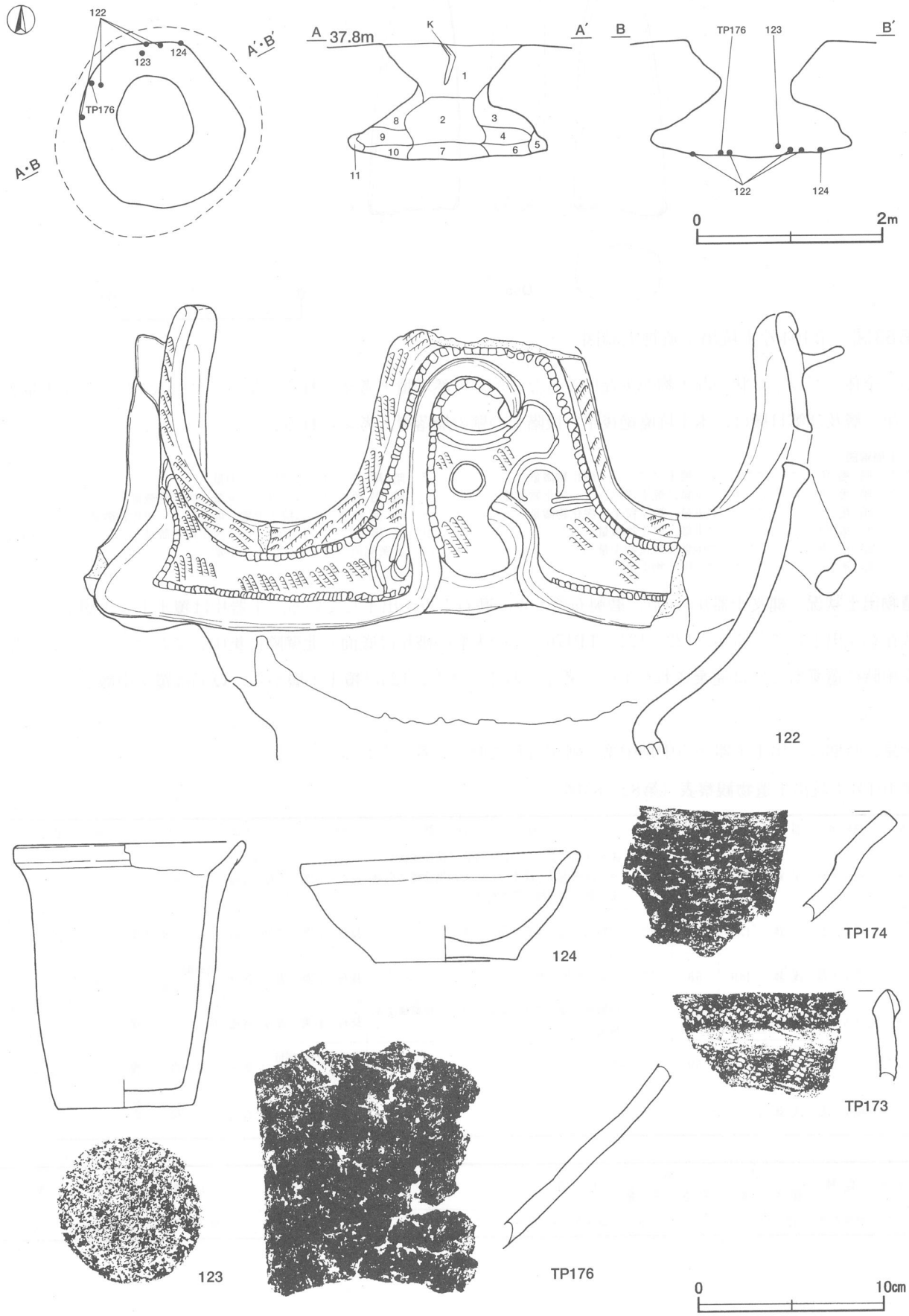
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
121	縄文土器	深鉢	[31.0]	(29.2)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に爪形文が沿う。区画内は刻みを有するV字状隆帯文。胴部も同様の区画文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	褐	覆土下層	
TP169	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	縦位に沿って爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	
TP170	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	刻みを有する隆帯文に結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP172	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土下層	煤付着

第104号土坑（第82・83図）

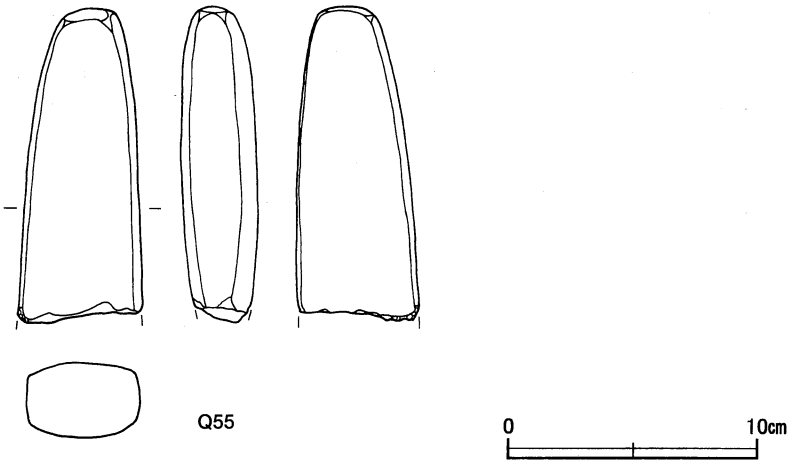
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3g0区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が長径1.8m，短径1.3mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.4m，短径1.2mほどの楕円形を呈している。深さは120cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは80cmほどである。

覆土　11層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層で，やや不規則な堆積状況を示している



第82図　第104号土坑・出土遺物実測図



第83図　第104号土坑出土遺物実測図

が，全体にブロック状の混入物が少ないことなどから自然堆積と考えられる。なお，ロームブロックを中量含む第５層及び第11層は，本土坑廃絶後早い段階での壁の崩落層と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化物少量
6　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
7　暗 褐 色　ロームブロック中量
8　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
9　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
10　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　灰黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片110点，磨製石斧１点，磨石１点が出土している。土器片は覆土上～下層にかけて散在して出土しているが，122・124，TP176などの大形の破片は底面の北壁際に集中しており，これらは土坑廃絶時に遺棄もしくは廃棄されたものと考えられる。また，123は覆土下層から，Q55は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

第104号土坑出土遺物観察表（第82・83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
122	縄文土器	深鉢	32.3	(23.6)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。区画内及び隆帯上にはLの無節縄文を施文。胴上部に無文帯を配する。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	PL34
123	縄文土器	深鉢	[12.0]	14.0	7.2	口唇部下端に隆帯が巡る。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL35 底部網代痕
124	縄文土器	浅鉢	14.9	5.8	7.7	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐 にぶい赤褐	底面	PL33
TP173	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	
TP174	縄文土器	浅鉢	—	(5.9)	—	無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土	内外面研磨
TP176	縄文土器	浅鉢	—	(9.7)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q55	磨製石斧	(12.4)	(5.0)	3.0	(311.5)	緑色凝灰岩	定角式。	覆土中層	PL48 刃部欠損

第107号土坑（第84図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3h0区に位置している。

重複関係　第25号土坑を掘り込んでいる。

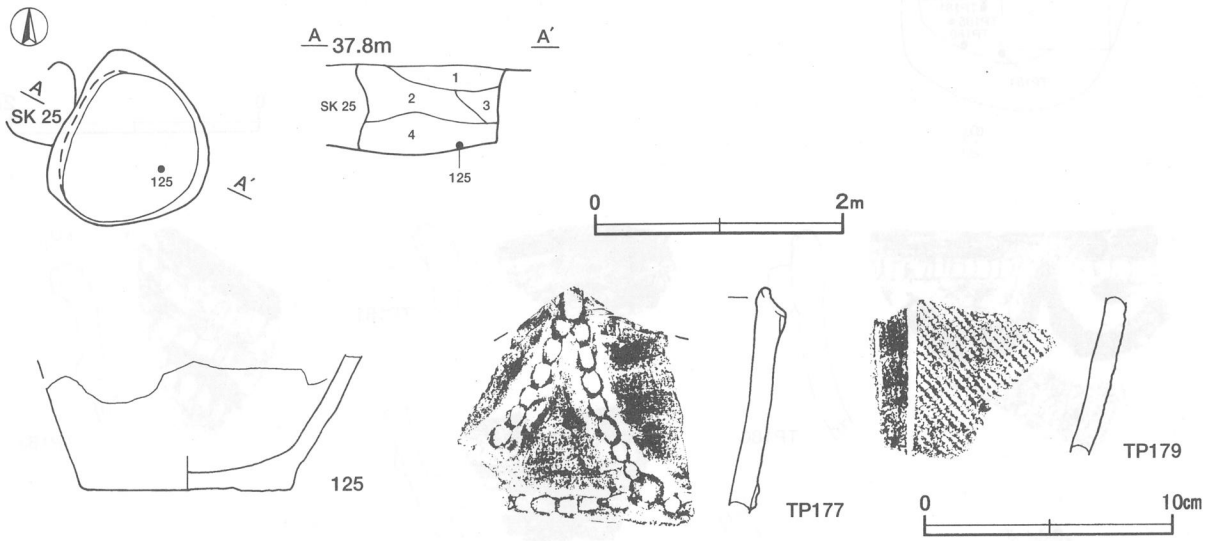
規模と形状　平面形は径1.4mほどの円形で，深さは70cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁が直立ぎみに立ち上がっている円筒状の土坑である。

覆土　4層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，堆積状況に乱れが見られないことなどから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片21点，剥片1点が出土している。遺物は覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。125は底面，TP177・TP179は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉と考えられる。



第84図　第107号土坑・出土遺物実測図

第107号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
125	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	8.5	胴部下端無文。	長石・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	煤付着
TP177	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	口辺部は波頂部を起点として刺突文を有する隆帯を鎖状に連結した区画文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP179	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	LRの単節縄文を地文とし，縦位の平行沈線間を磨り消す。	長石・石英	普通	褐	覆土	

第108号土坑（第85図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB4h1区に位置している。

規模と形状　平面形は径1.8mほどの円形で，深さは75cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾または緩やかな傾斜をもって外反して立ち上がっている。

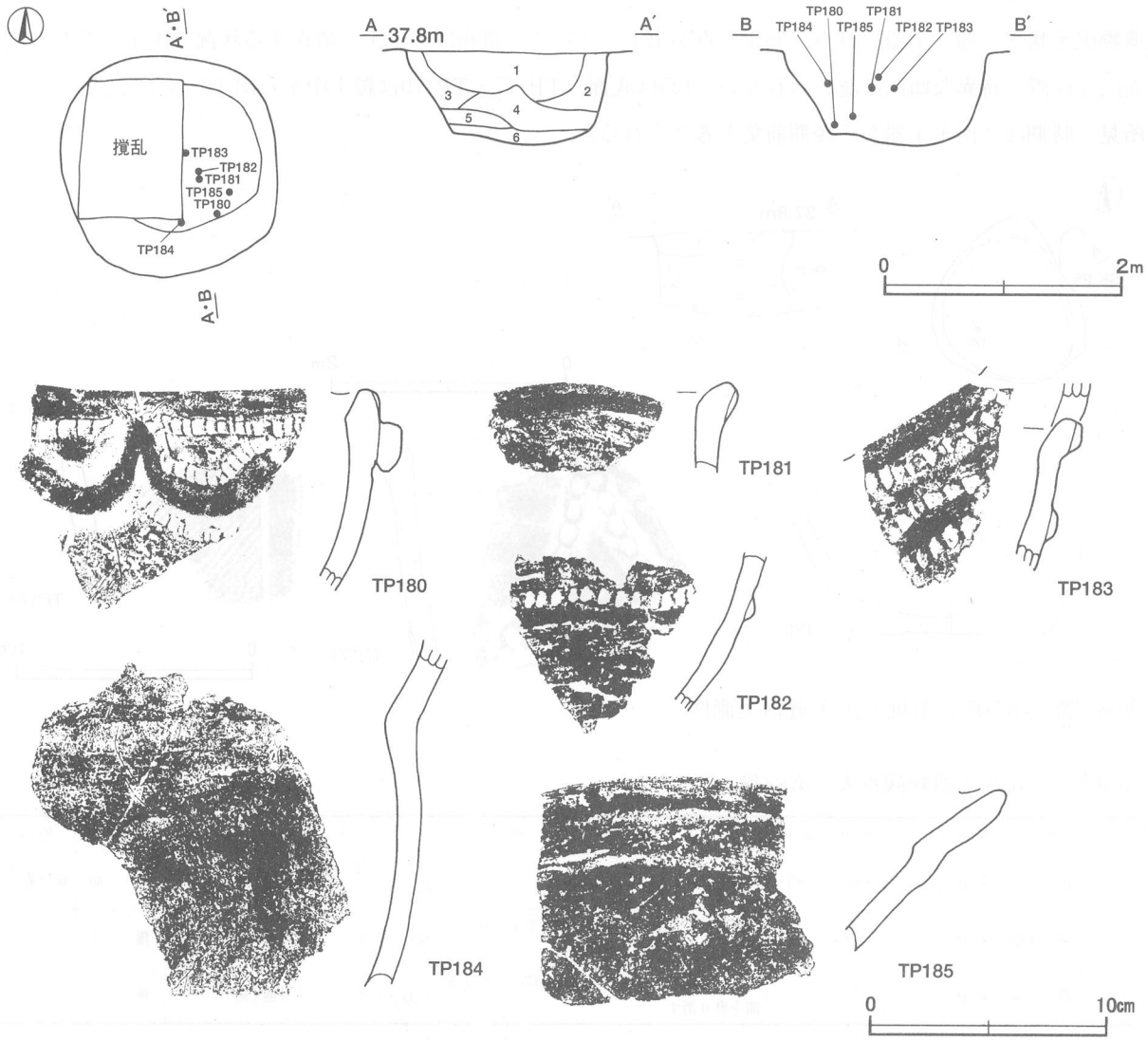
覆土　6層に分層される。全体的にロームブロックを含むやや締まりのある土層であり，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。また，第6層は粘土粒子を多量に含んでおり，本土坑の機能時に意図的に貼られていた可能性も想定されるが判然とはしない。

土層解説

1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
5　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片161点，石皿１点が出土している。西側の約半分が撹乱を受けているため出土状況の全容は不明であるが，覆土残存部では，抽出・図示したものを含めてほとんどの土器が覆土中～下層に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。

所見　出土土器は本跡の埋没過程で流入したとの想定が可能であり，本土坑が機能していた時期は不明であるが，覆土中～下層の出土土器に明確な時期差が認められないことから，同層の堆積時期は中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第85図　第108号土坑・出土遺物実測図

第108号土坑出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP180	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。胴部はＬＲの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP181	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
TP182	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。口辺部下位無文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP183	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	灰褐	覆土中層	
TP184	縄文土器	深鉢	—	(14.5)	—	無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	褐灰	覆土中層	
TP185	縄文土器	浅鉢	—	(6.7)	—	無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土中層	内外面研磨

第111号土坑（第86図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3g3区に位置している。

重複関係　第110・112号土坑をそれぞれ掘り込み，第1号溝に掘り込まれている。

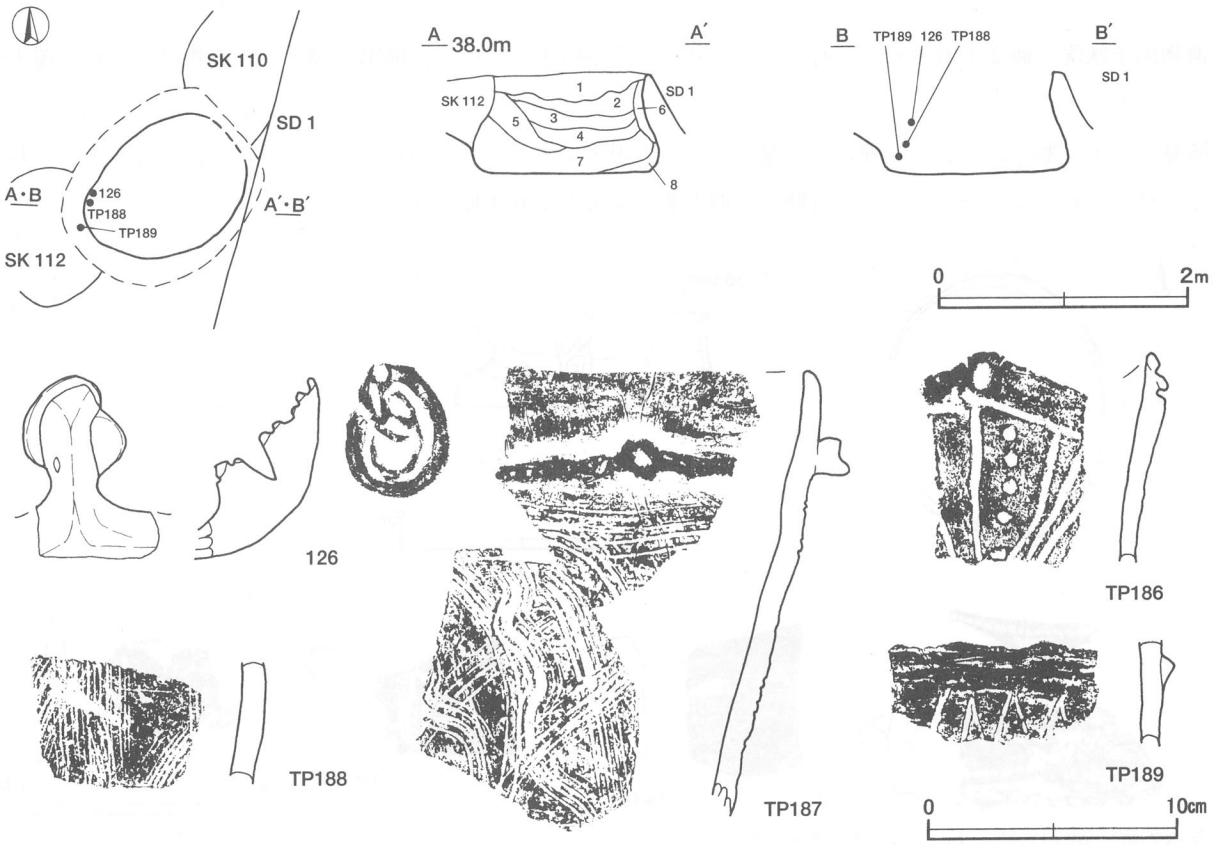
規模と形状　開口部の平面形が長径1.4m，短径1.1mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.6m，短径1.4mほどの楕円形を呈している。深さは80cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて緩やかに内傾し，上位はほぼ直立している。また，底面から括れ部までの高さは55cmほどである。

覆土　8層に分層される。上層は黒褐色，中層以下は暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子多量，ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片87点が出土している。土器片は西側壁際の覆土中～下層に集中する傾向が見られる。126は覆土中層，TP188・TP189は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺2式期）と考えられる



第86図　第111号土坑・出土遺物実測図

第111号土坑出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
126	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	隆帯により把手を作出。把手端部に沈線を有する隆帯による渦巻文を貼付。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP186	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	—	波頂部に刺突を有する円形貼付文を付す。口唇部下端に沈線が巡る。口辺部及び胴部上位は沈線区画文内に列点文を充填。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP187	縄文土器	深鉢	—	(17.4)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画し，隆帯上に刺突文を有する瘤状突起を貼付。胴部は櫛歯状工具による斜行及び波状条線文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土下層	
TP188	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	櫛歯状工具による斜行条線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP189	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画する。胴部は沈線による斜格子文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土下層	

第117号土坑（第87図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB4i2区に位置している。

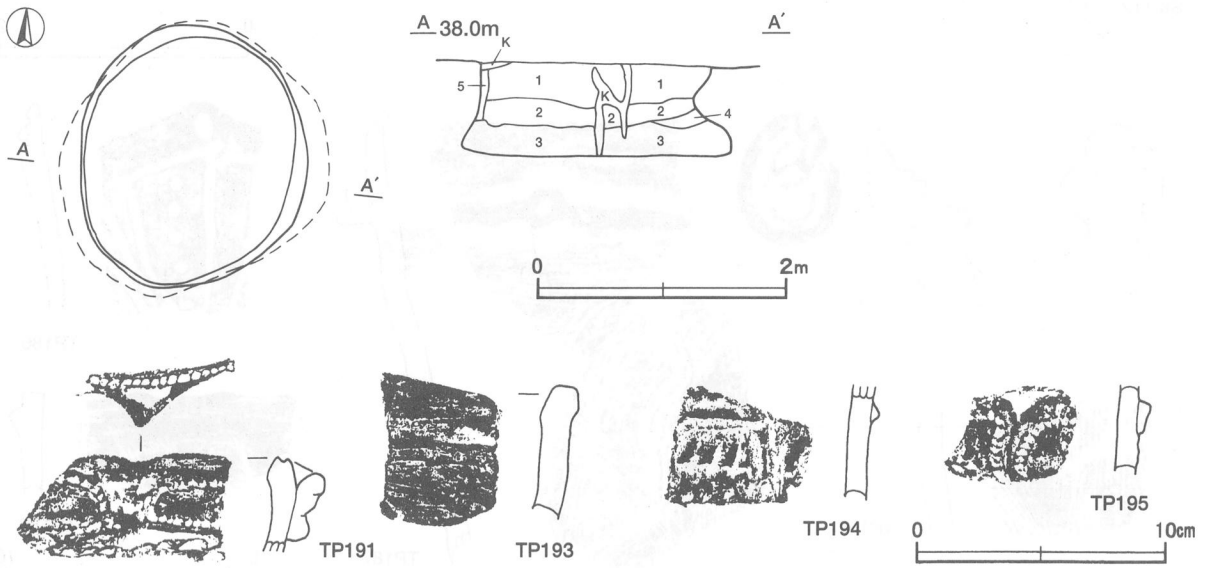
規模と形状　開口部の平面形が径2.0mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.2mほどの円形を呈している。深さは75cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて緩やかに内傾し，上位はほぼ直立している。また，底面から括れ部までの高さは45cmほどである。

覆土　5層に分層される。全体的に固く締まった土層で，第1・2層にロームブロックを含むものの，堆積状況に乱れが見られないことなどから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ローム粒子微量
4　褐　色　ロームブロック微量
5　明褐色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片82点，磨石1点，剥片1点が出土している。抽出・図示した遺物はいずれも覆土中からの出土である。

所見　出土土器のほとんどが細片で，覆土中からの出土であったため判然としないが，出土土器に大きな時期差が認められなかったことから，時期は中期中葉（阿玉台Ⅰb式期）と考えられる。



第87図　第117号土坑・出土遺物実測図

第117号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP191	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	口唇部に結節沈線文を施文。口唇部下端に隆帯が巡り，楕円形の隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP193	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP194	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	隆帯による区画文内に襞状の爪形文が巡る。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP195	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	楕円形の隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	

第119号土坑（第88図）

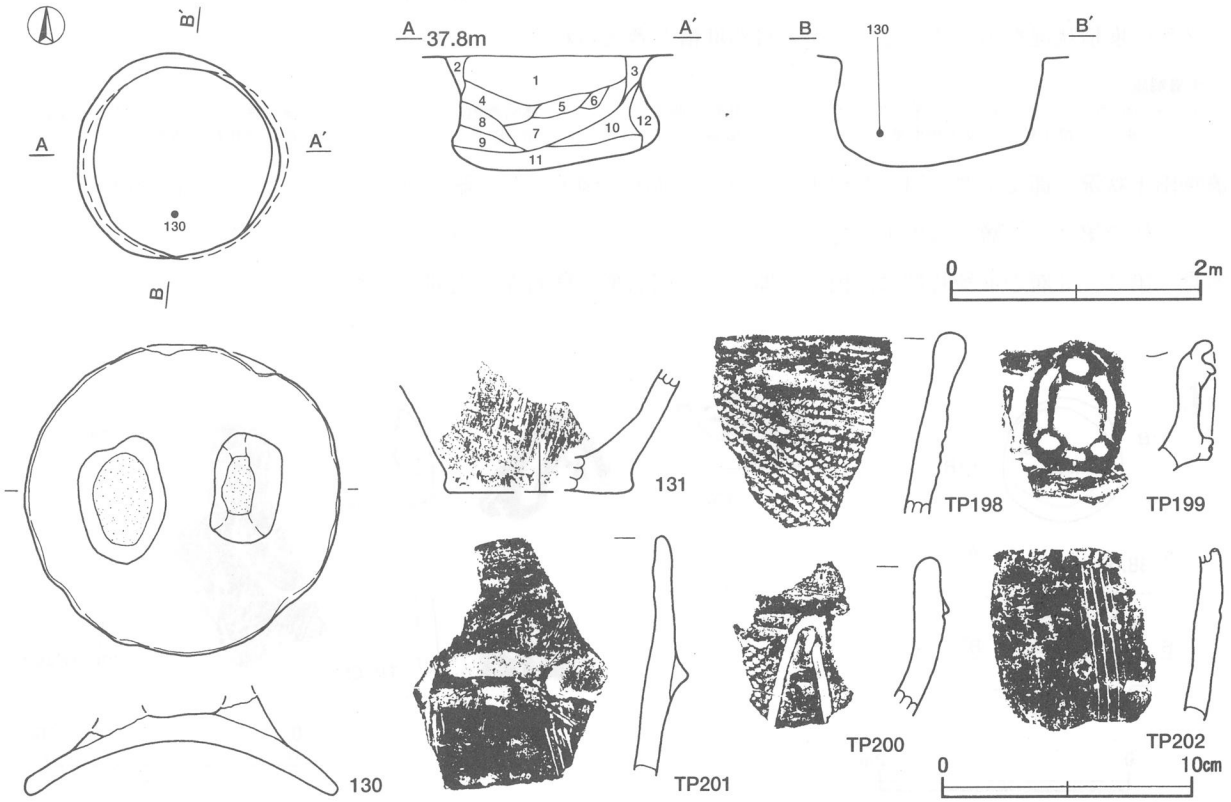
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3h9区に位置している。

規模と形状　平面形は径1.6mほどの円形で，深さは90cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は下位から中位にかけてやや内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。

覆土　12層に分層される。全体に炭化物を微量含んだやや締まりのある土層である。不規則な堆積状況を示していることや覆土上～中層から出土した土器に時期差が認められないことなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。また，第11層に粘土ブロックを中量含むことは，下位が粘土層の一部を掘り抜いていることに起因すると考えられ，本土坑の機能時もしくは廃絶直後に自然堆積したことも想定される。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　灰褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物少量
6　暗褐色　炭化物少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
8　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
9　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
10　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
11　暗褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
12　暗褐色　ローム粒子少量



第88図　第119号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片111点，磨石２点，敲石１点が出土している。130は覆土下層から出土している。また，130を除く抽出・図示した土器はいずれも覆土中層からの出土であり，廃絶後，埋め戻しに伴って一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から後期初頭（称名寺１～２式期）と考えられる。

第119号土坑出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
130	縄文土器	蓋	12.2	(3.8)	—	上面に橋状の把手を付す。	長石・赤色粒子	普通	にぶい黄橙	覆土下層	PL44 把手基部のみ残存
131	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	[7.4]	胴部下端擦痕。	長石・石英	普通	褐	覆土中層	
TP198	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	口唇部肥厚。Ｌの無節縄文を施文。	長石	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP199	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	波頂部に円形刺突文及び沈線を有するＯ字状隆帯文を貼付。	長石・赤色粒子	普通	褐灰	覆土中層	
TP200	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	口辺部下位に隆帯区画文が巡る。胴部は沈線区画文内にＲＬの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	灰褐	覆土中層	
TP201	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画し，隆帯上にＯ字状隆帯文を貼付。胴部は櫛歯状工具による縦位の条線文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	
TP202	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	櫛歯状工具による縦位の条線文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	煤付着

第122号土坑（第89図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d6区に位置している。

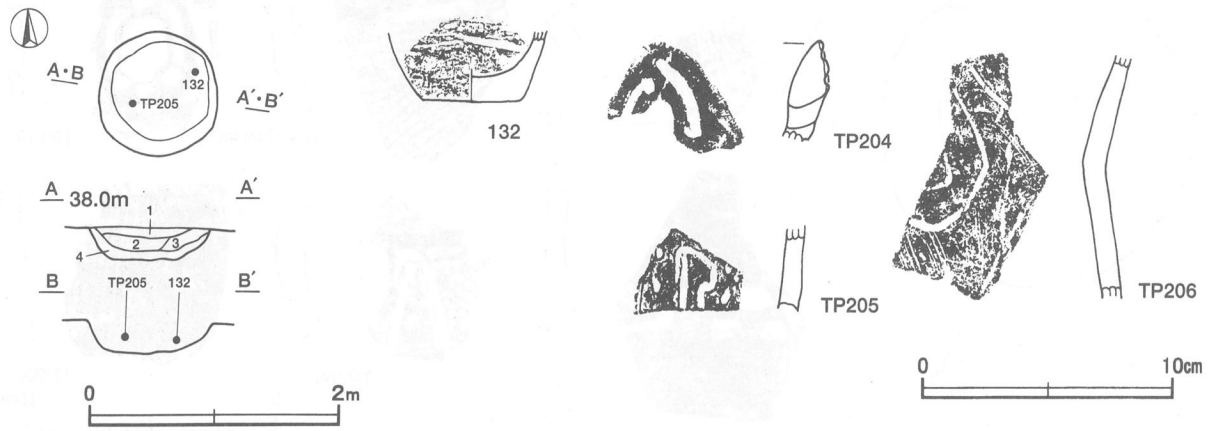
規模と形状　平面形は径1.0mほどの円形で，深さは25cmほどである。底部から壁にかけて皿状に立ち上がる。

覆土　４層に分層される。最下層にロームブロックを多めに含んだ全体的にやや締まりのある土層である。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　焼土粒子・炭化物少量，ロームブロック微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片54点が出土している。抽出・図示した土器を含めてほとんどの土器が流れ込んだような状態で第２・３層から出土している。

所見　第２・３層の堆積時期は，出土土器から後期前葉（称名寺２式期）と考えられる。



第89図　第122号土坑・出土遺物実測図

第122号土坑出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
132	縄文土器	深鉢	—	(2.8)	4.0	胴部下端無文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐	覆土中層	
TP204	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	沈線を有する隆帯で把手を作出。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP205	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	沈線区画文内に列点文を充填。	長石・赤色粒子	普通	灰褐	覆土中層	
TP206	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	沈線によるスペード状区画文内に条線文を施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土中層	

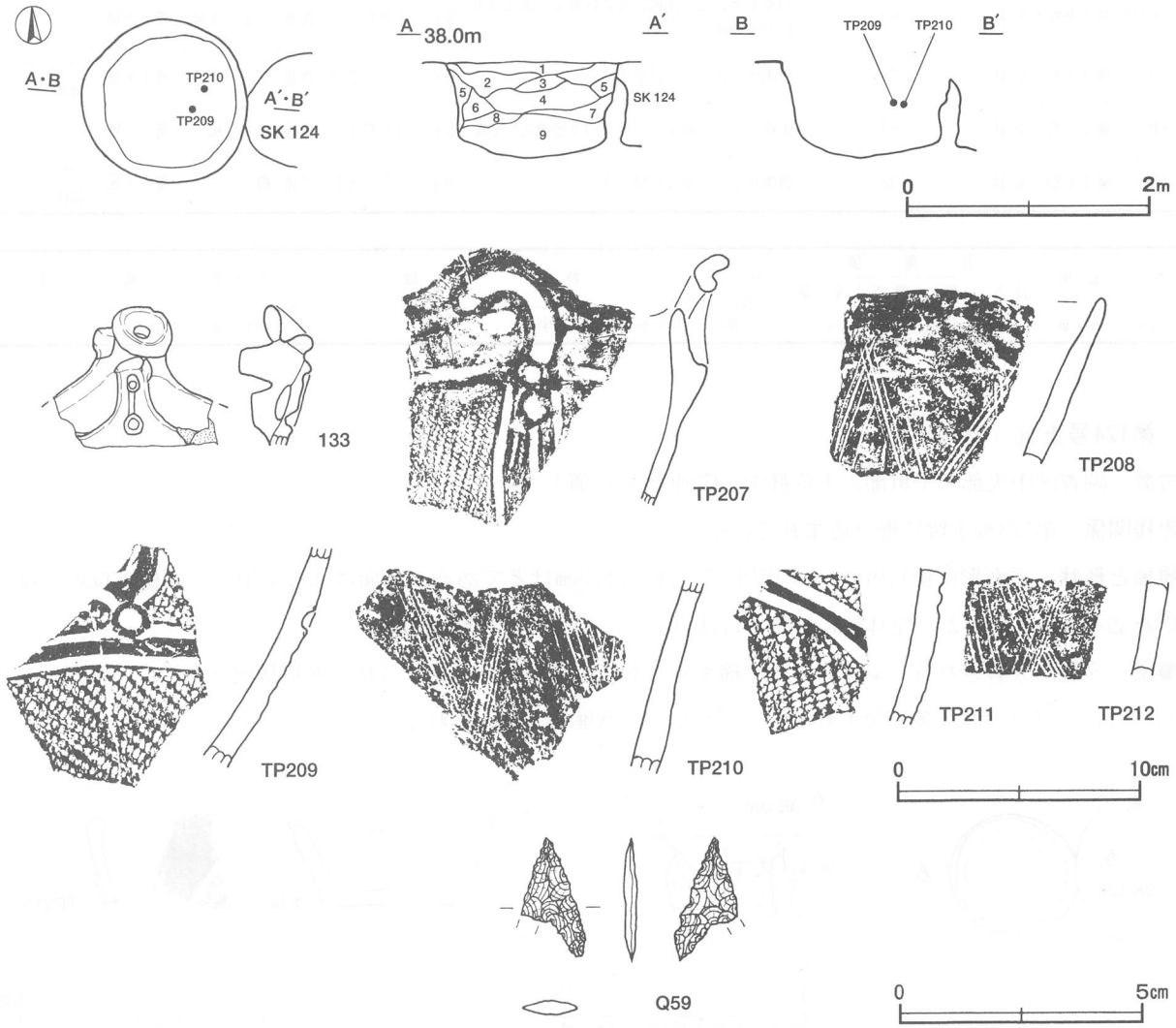
第123号土坑（第90図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d6区に位置している。

重複関係　第124号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　平面形は径1.4mほどの円形で，深さは75cmほどである。底面は皿状で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　9層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，ロームブロックを多く含む層と含まない層が交互に層を形成していることや，不規則な堆積状況が見られることなどから人為堆積と考えられる。



第90図　第123号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック中量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
7　褐　色　ロームブロック中量
8　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
9　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片86点，石鏃1点が出土している。遺物の多くは覆土中～下層から出土しており，本跡廃絶後の埋め戻しに伴って廃棄されたものと考えられる。TP207・TP208・TP212は覆土下層，133，TP209・TP210は覆土中層，TP211，Q59は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺2～堀之内1式期）と考えられる。

第123号土坑出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
133	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	波頂部は中央に刺突文を施した円形貼付文。口辺部には円形刺突文及び沈線を有する隆帯により橋状把手を作出。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	
TP207	縄文土器	深鉢	—	(10.3)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画し，無文帯部に逆J字状の隆帯文を貼付。胴部は3条一組の縦位の沈線間を磨り消す。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・赤色粒子	普通	褐灰	覆土下層	
TP208	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	口辺部は平行した条線による斜格子文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP209	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	円形刺突文及び沈線による区画文。地文はRLの単節縄文。	長石・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP210	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	櫛歯状工具による斜格子文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	TP212と同一個体
TP211	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	沈線による区画文内にRLの単節縄文を充填。	長石・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP212	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	櫛歯状工具による斜格子文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	TP210と同一個体

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q59	石鏃	2.4	(1.3)	0.2	(0.5)	黒曜石	抉入部は深く湾入する。	覆土上層	PL48

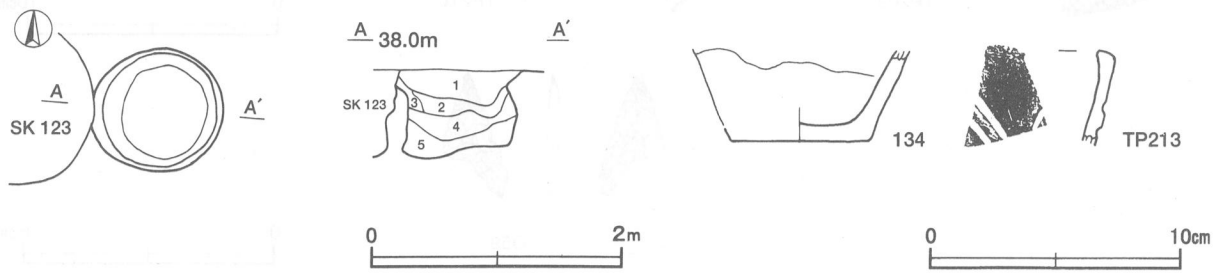
第124号土坑（第91図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3d6区に位置している。

重複関係　第123号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　平面形は径1.0mほどの円形で，深さは70cmほどである。底面はほぼ平坦で，西壁上位の一部に括れ部をもっているが，全体的には壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　6層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，レンズ状の堆積状況を示しているが，全体的にロームブロックが多く含まれていることから人為堆積と考えられる。



第91図　第124号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片38点，石核１点が出土している。出土土器のほとんどが細片で，抽出・図示した土器を含めていずれも覆土中に散在する状況で出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。

所見　覆土中から出土している土器に時期差が認められないことから，時期は後期前葉（称名寺２～堀之内１式期）と考えられる。

第124号土坑出土遺物観察表（第91図）

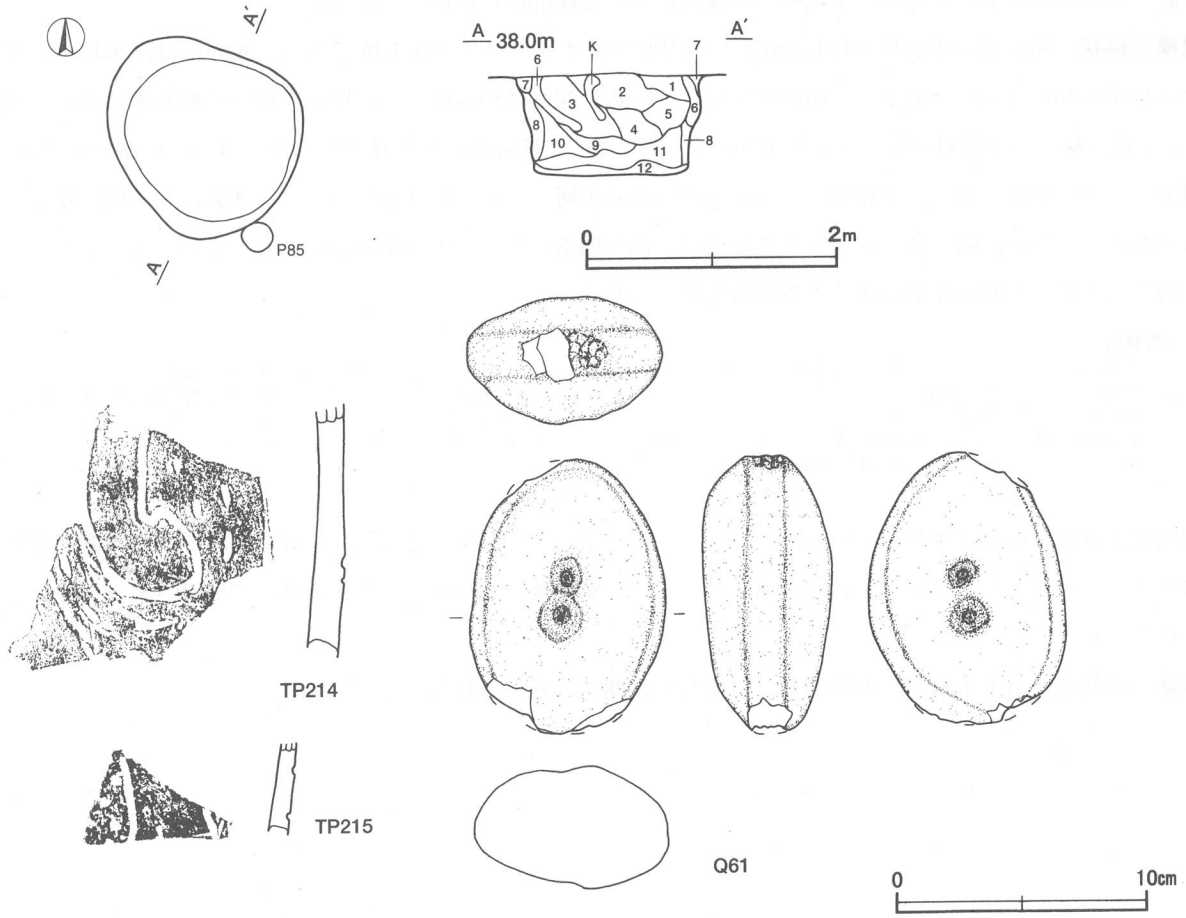
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
134	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	6.7	胴部下端無文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土	
TP213	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	口辺部は平行沈線による区画文。	長石・赤色粒子	普通	褐灰	覆土	

第126号土坑（第92図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3b9区に位置している。

規模と形状　平面形は長径1.7m，短径1.5mほどの楕円形で，深さは80cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

覆土　12層に分層される。上層は黒褐色，下層は暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，不規則な堆積状況が見られることから，人為堆積と考えられる。



第92図　第126号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　炭化粒子・粘土粒子微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ロームブロック少量
7　黒 褐 色　ロームブロック微量
8　暗 褐 色　ロームブロック少量
9　暗 褐 色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
10　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　暗 褐 色　ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
12　暗 褐 色　ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片105点，敲石１点が出土している。出土土器のほとんどが細片で，覆土上～中層にに散在する状況で出土しており，廃絶後の埋め戻しに伴って廃棄されたもの考えられる。TP214・TP215，Q61は覆土中層から出土している。

所見　覆土中から出土している土器に時期差が認められないことから，時期は後期前葉（称名寺２式期）と考えられる。

第126号土坑出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP214	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	沈線区画文内に列点文を充填。	長石・赤色粒子	良好	にぶい黄褐	覆土中層	
TP215	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	—	沈線区画文内に列点文を充填。	長石・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q61	磨石	(10.7)	7.9	5.2	(539.9)	安山岩	全側面を使用。表裏面各２孔。一端に敲打痕。	覆土中層	PL50 被熱により脆弱

第129号土坑（第93～95図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j8区に位置している。

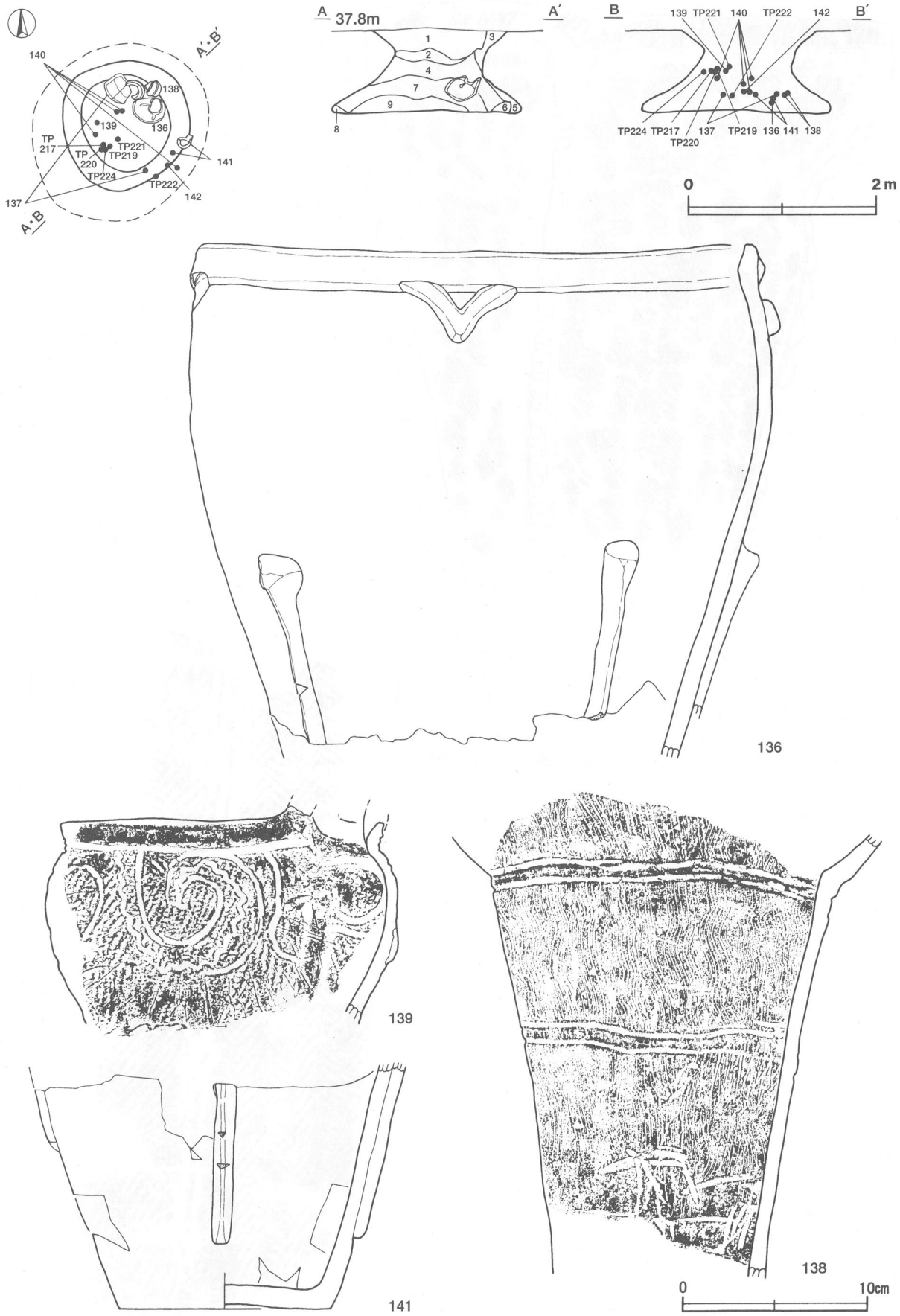
規模と形状　開口部の平面形が径1.4mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.0m，短径1.8mほどの楕円形を呈している。深さは85cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは45～65cmほどである。

覆土　９層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，第９層はロームを多量に含む固く締まった層であることから，開口部から流入または壁の一部が崩落したロームが踏み固められたものと考えられる。第９層より上層は土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

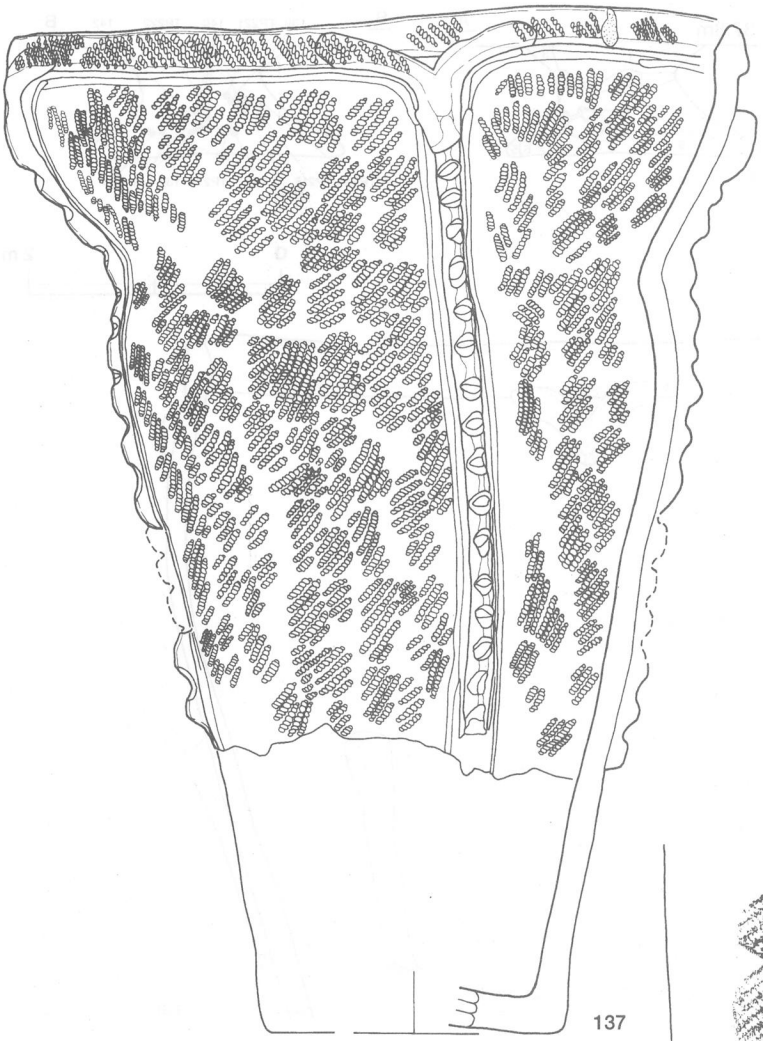
土層解説
1　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック中量
4　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化物少量，ロームブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
7　暗 褐 色　ロームブロック中量・炭化物少量，焼土粒子微量
8　暗 褐 色　ロームブロック中量
9　褐　　色　ロームブロック少量

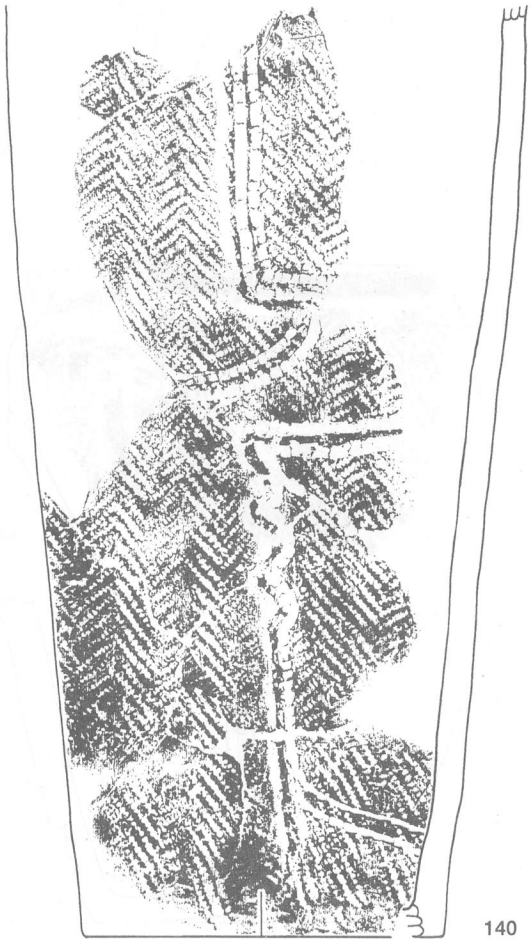
遺物出土状況　縄文土器片178点，剥片１点が出土している。抽出・図示した土器を含めて，大多数の遺物が覆土中～下層にあたる第４・７層から出土しており，廃絶後の埋め戻しの際に一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



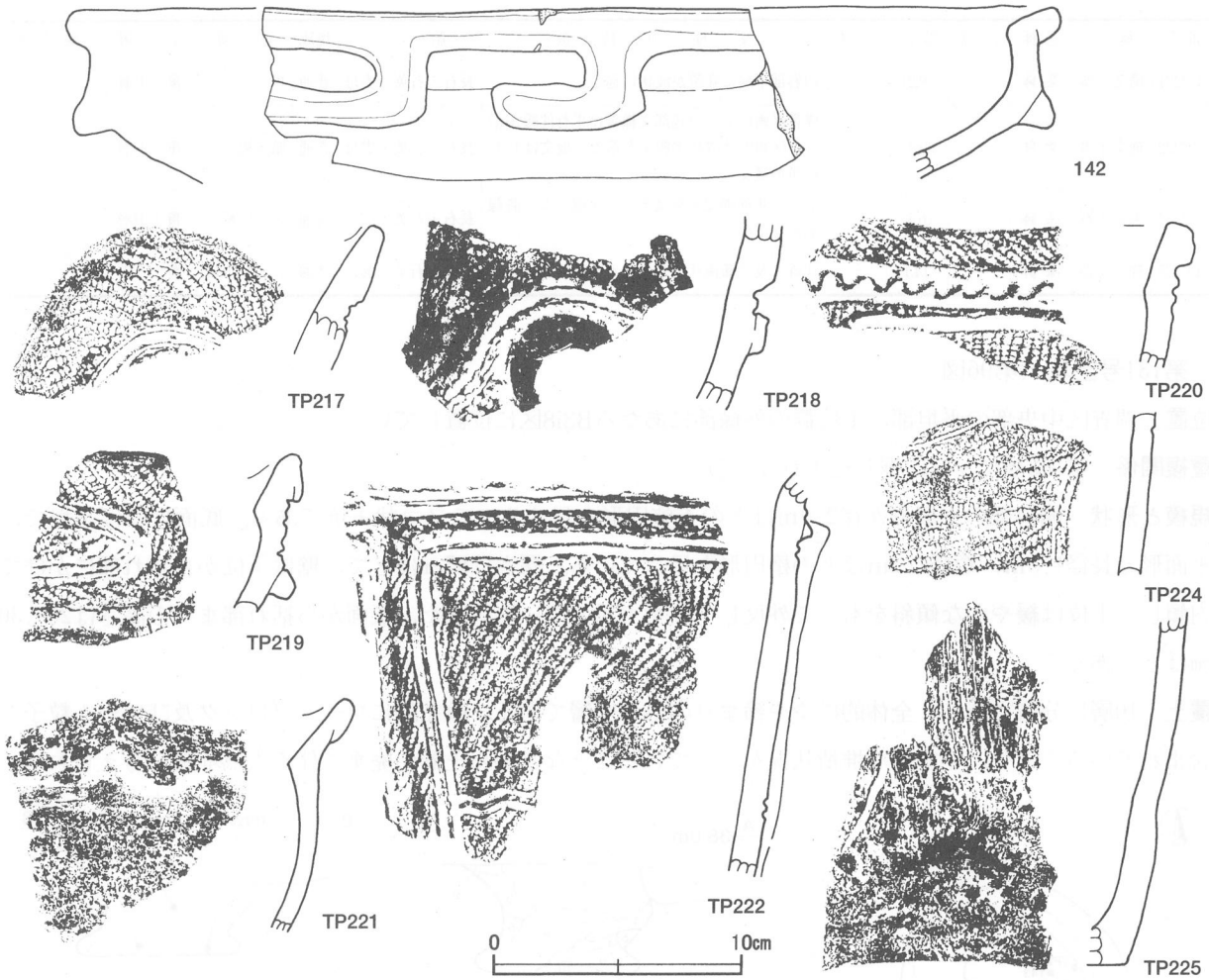
第93図　第129号土坑・出土遺物実測図





0　10cm

第94図　第129号土坑出土遺物実測図（1）



第95図　第129号土坑出土遺物実測図（２）

第129号土坑出土遺物観察表（第93～95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
136	縄文土器	深鉢	29.2	(27.5)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部にV字状の隆帯文を貼付。胴部中位から隆帯が垂下。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL35
137	縄文土器	深鉢	28.6	40.6	[11.8]	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部には刻みを有するY字状隆帯文が垂下し，半截竹管による平行沈線が沿う。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL35
138	縄文土器	深鉢	—	(23.5)	—	胴部は櫛歯状工具による縦位の波状条線文。２条一組の横位の沈線文区画間を磨り消す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL35 煤付着
139	縄文土器	深鉢	[16.9]	(11.5)	—	把手基部から隆帯が垂下。口辺部は沈線及び波状沈線による渦巻文。地文はＲＬの単節縄文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
140	縄文土器	深鉢	—	(36.7)	[14.4]	縦位の隆帯文に結節沈線が沿う。２条一組の結節沈線文。地文はＲＬとＬＲの単節縄文を縦方向に交互に施文し，羽状構成をとる。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中～下層	PL36
141	縄文土器	深鉢	—	(12.8)	11.4	隆帯が垂下し，胴部下端は無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	
142	縄文土器	浅鉢	[39.4]	(5.8)	—	口辺部はコの字状の隆帯文。隆帯の下位は鍔状に突出する。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP217	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	波状口縁部の隆帯に沈線が沿う。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP218	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	口辺部は肥厚し，複列の結節沈線文が沿う。ＲＬの単節縄文を施文。	長石	普通	灰褐	覆土下層	
TP219	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に平行沈線が沿う。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP220	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	口唇部肥厚。口辺部は横位の沈線区画文。区画内には交互刺突による連続コの字状隆帯文が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP221	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	—	口唇部下端に隆帯が波状に巡る。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP222	縄文土器	深鉢	—	(16.0)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に平行沈線が沿い，区画内は波状沈線文が巡る。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土下層	
TP224	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	ＲＬの単節縄文を地文とし，沈線により曲線意匠を描出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP225	縄文土器	深鉢	—	(14.1)	—	沈線文及び櫛歯状工具による縦位の条線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	

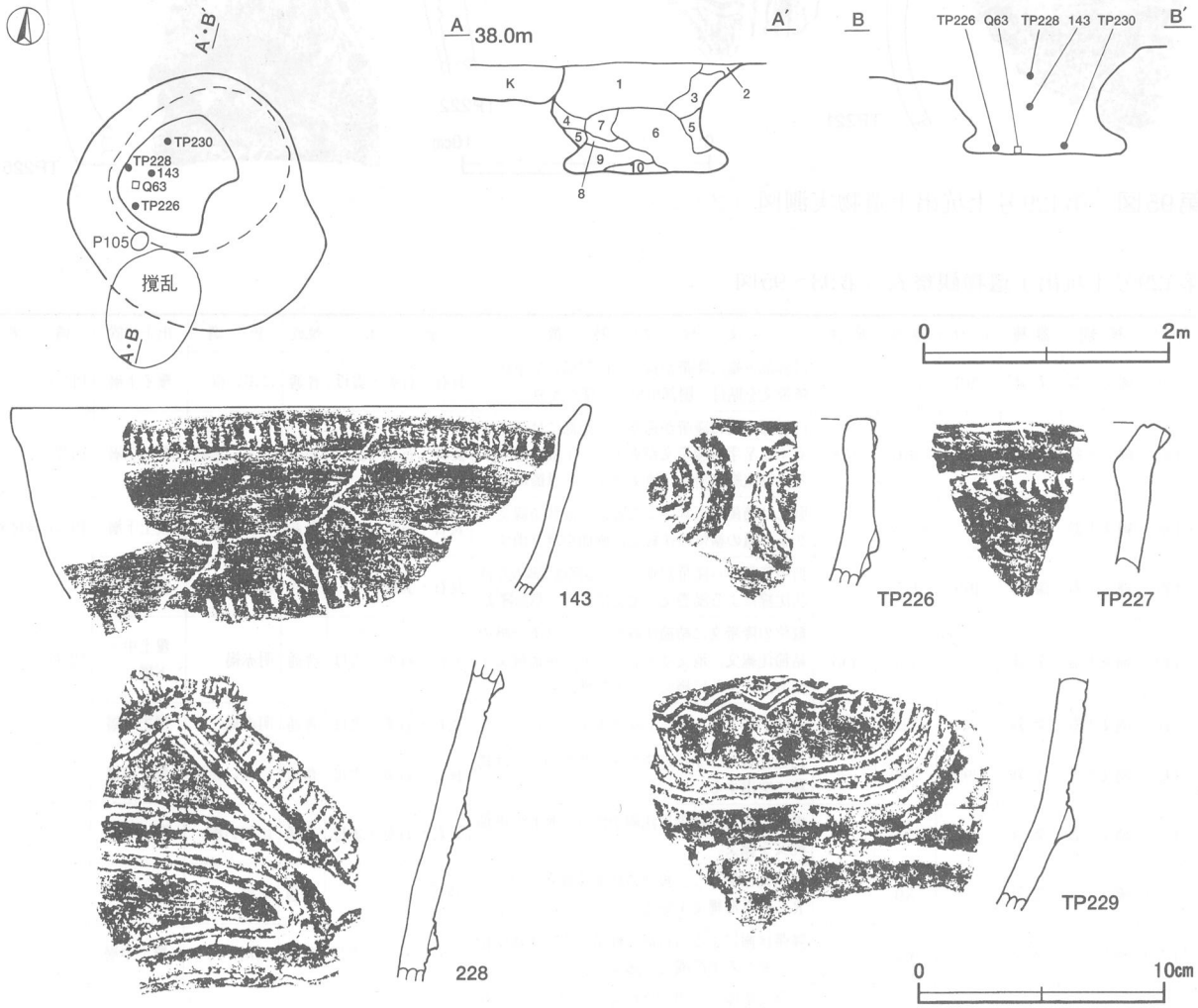
第131号土坑（第96図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3i8区に位置している。

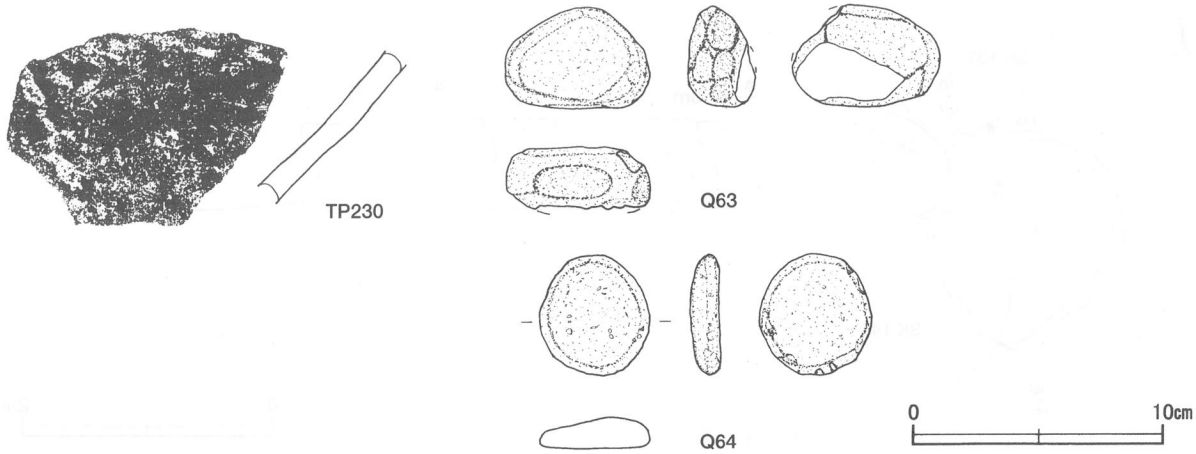
重複関係　第105号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　開口部の平面形が径2.0mほどの不整円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.5m，短径1.2mほどの楕円形を呈している。深さは87cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって外反して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは20～30cmほどである。

覆土　10層に分層される。全体的にやや締まりのある土層である。散在的にロームブロック及びローム粒子が含まれていることや，不規則な堆積状況を示していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。



第96図　第131号土坑・出土遺物実測図



第97図　第131号土坑出土遺物実測図

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
7　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
10　にぶい褐色　粘土粒子多量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片171点，磨石２点，剥片１点が出土している。土器片は開口部下の覆土上～下層にかけて散在しており，廃絶時に一括して廃棄されたものと考えられる。TP226・TP230，Q63は覆土下層，TP229，Q64は覆土中層，TP227・TP228は覆土上層からそれぞれ出土している。また143は覆土中層と上層から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第131号土坑出土遺物観察表（第96・97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
143	縄文土器	深鉢	[23.2]	(7.6)	—	肥厚した口唇部及び口辺部下位に横位の爪形文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上～中層	
TP226	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	楕円形隆帯区画による口辺部文様帯に複列の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP227	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。隆帯には結節沈線が沿う。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP228	縄文土器	深鉢	—	(12.7)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に複列の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP229	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に半截竹管による２組の平行沈線が沿う。区画内は横位の平行した波状沈線文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
TP230	縄文土器	浅鉢	—	(5.9)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	内外面研磨

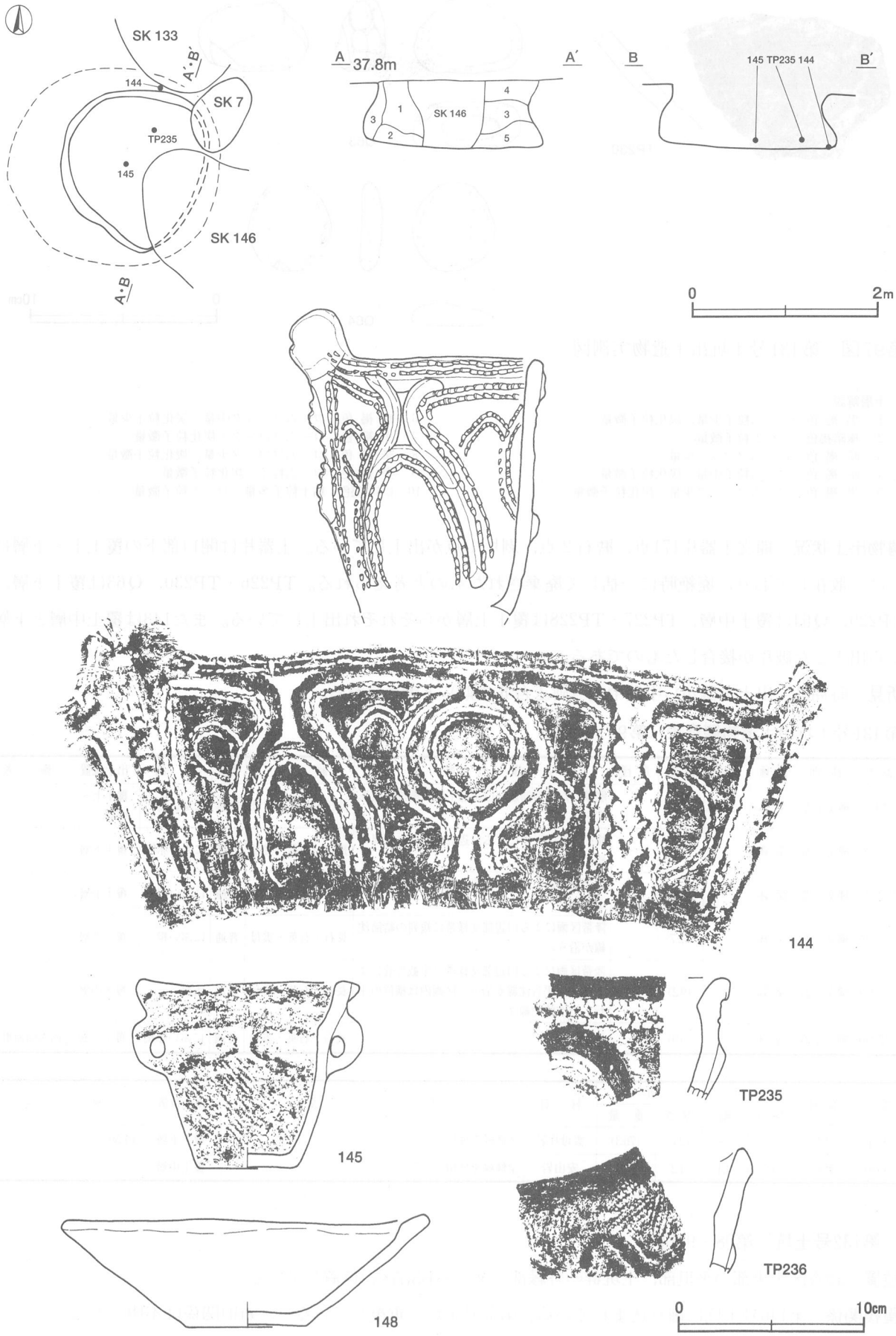
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q63	磨石	4.0	5.8	(2.7)	(76.3)	雲母片岩	２側縁を使用。	覆土下層	PL50
Q64	磨石	4.8	4.4	1.2	30.1	安山岩	全側縁を使用。	覆土中層	

第132号土坑（第98・99図）

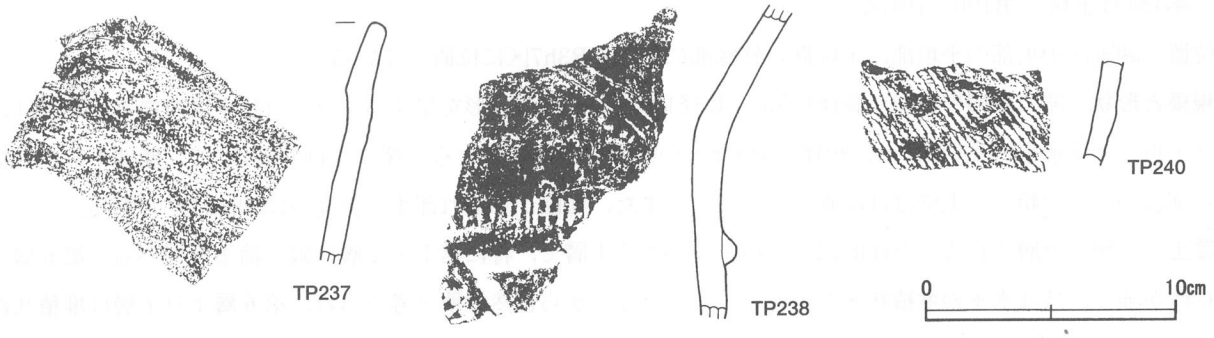
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3i7区に位置している。

重複関係　第146号土坑に掘り込まれている。第７号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　東部を第146号土坑に掘り込まれているため明確ではないが，開口部が平面形は径1.7mほどの円



第98図　第132号土坑・出土遺物実測図



第99図　第132号土坑出土遺物実測図

形を呈するフラスコ状土坑と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.2mほどの円形と推定される。深さは67cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位はほぼ直立している。また，底面から括れ部までの高さは45～55cmほどである。

覆土　5層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。土層観察面を第146号土坑に掘り込まれているため明確ではないが，残存部の堆積状況に大きな乱れがみられないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片256点が出土している。土器片は覆土上～下層にかけて散在して出土しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。144は底面の北壁際から出土しており，時期決定の指標となる遺物である。また，145，TP235・TP240は覆土下層，148，TP236～TP238は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。

第132号土坑出土遺物観察表（第98・99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
144	縄文土器	深鉢	10.5	(16.0)	[8.0]	把手から刻みを有する隆帯が垂下。口唇部下端は複列の結節沈線を有する隆帯が巡る。胴部は複列の結節沈線が沿う隆帯によるX字状文・O字状文・波状文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	PL35
145	縄文土器	深鉢	11.0	10.0	5.2	口唇部肥厚。口辺部は2本の隆帯区画文が巡り，隆帯を基部にして2単位の橋状把手を作出。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL34
148	縄文土器	浅鉢	[19.0]	5.8	6.4	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土上層	PL36
TP235	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に2条一組の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP236	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口唇部肥厚。口辺部は横位の波状隆帯文。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP237	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土上層	
TP238	縄文土器	深鉢	—	(12.3)	—	隆帯区画による胴部文様帯に爪形文が沿う。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土上層	
TP240	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	Ｌの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	

第134号土坑（第100・101図）

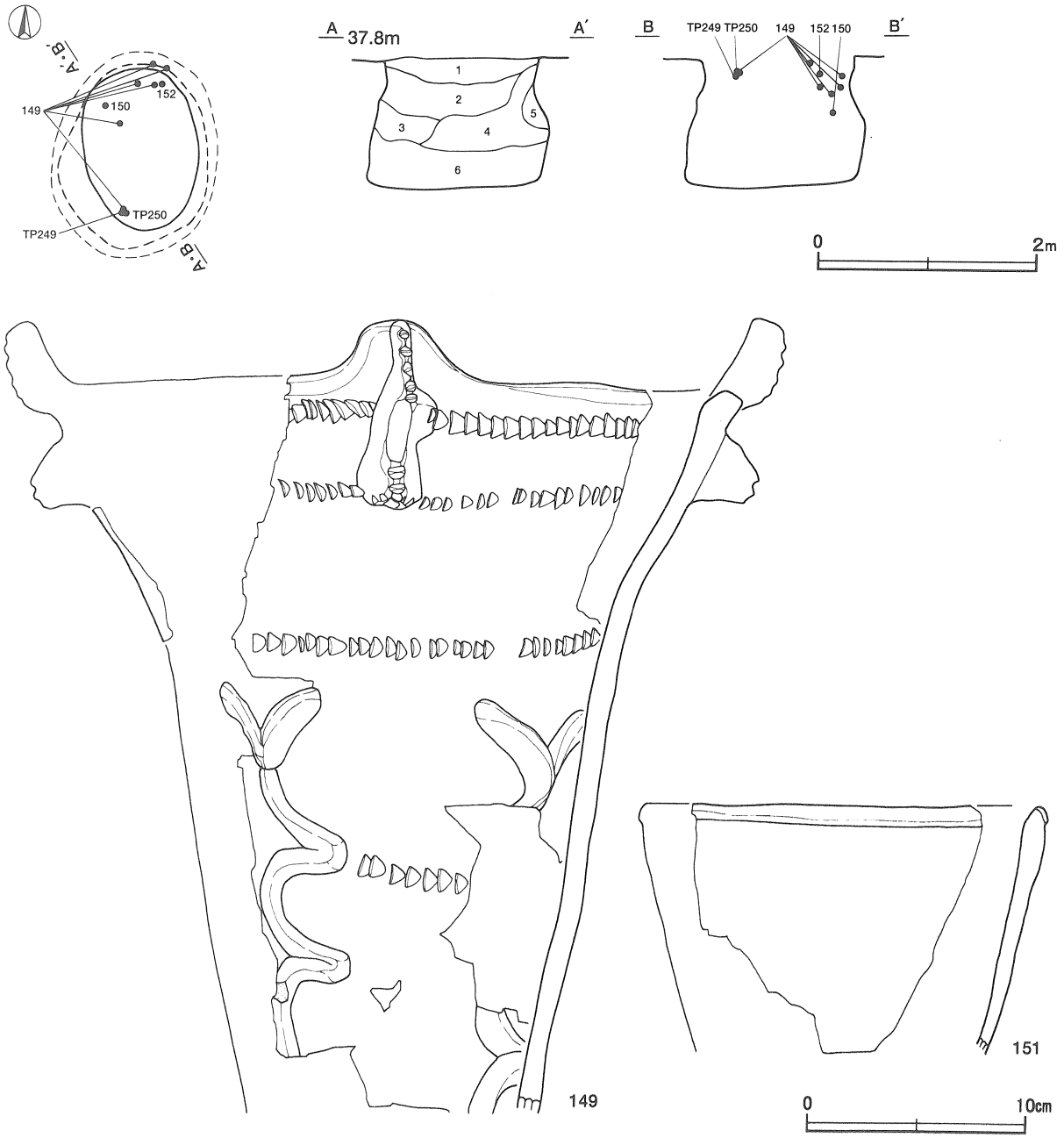
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3h7区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が長径1.5m，短径1.0mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.6m，短径1.4mほどの楕円形を呈している。深さは115cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位はほぼ直立している。また，底面から括れ部までの高さは90cmほどである。

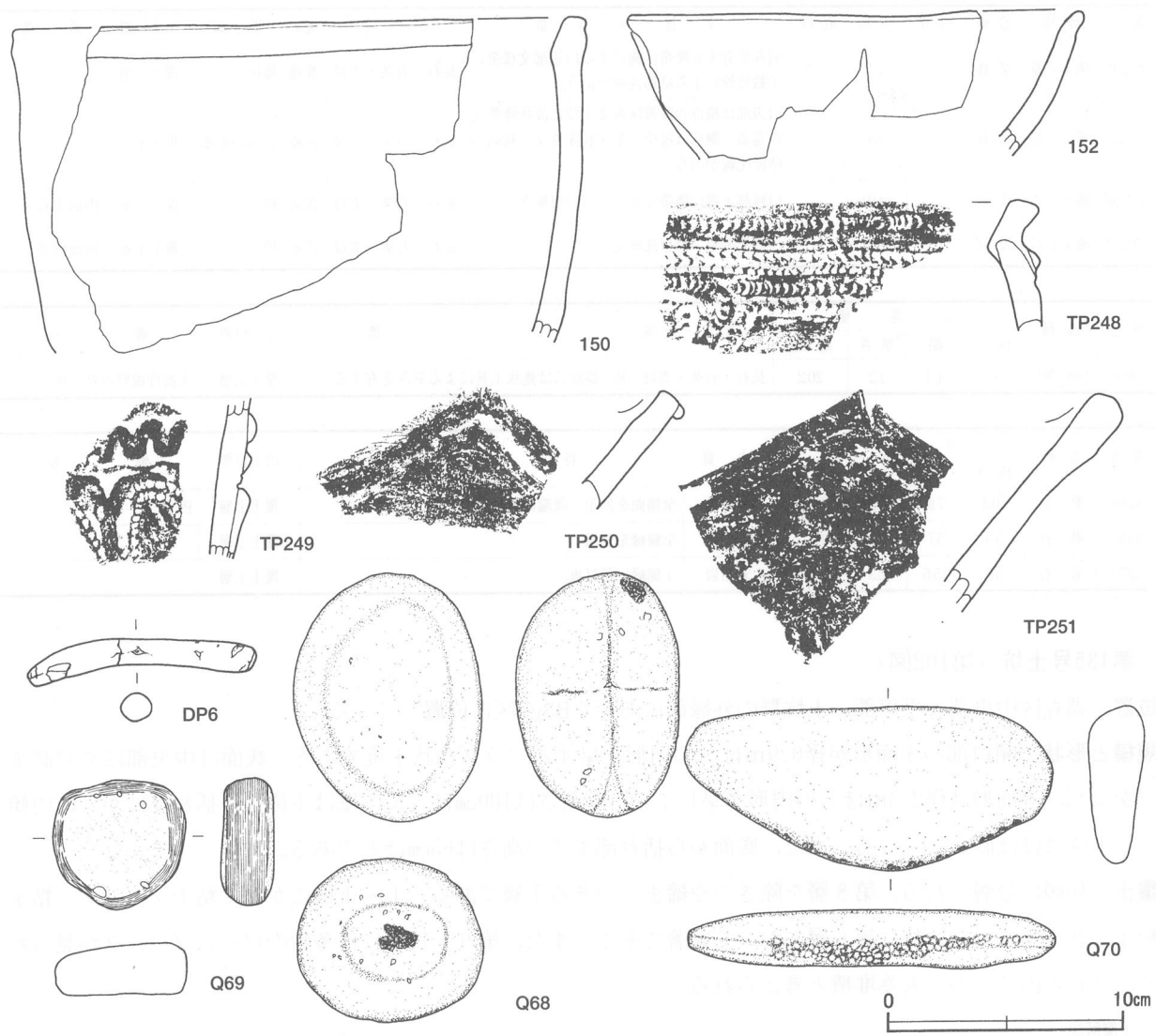
覆土　6層に分層される。全体的にやや締まりのある土層で，特に第1・2層は固く締まっている。第6層は粘性が強く，ほぼ水平の堆積状況を示していることなどから自然堆積と考えられ，第6層より上層は堆積状況に乱れが見られることや土器が集中して出土していることなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量
4　黒 褐 色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量



第100図　第134号土坑・出土遺物実測図



第101図　第134号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片161点，不明土製品１点，磨石２点，敲石１点が出土している。遺物は，抽出・図示したものを含めて覆土上～中層にかけて散在しており，比較的大形の破片は，北壁寄りから廃棄されたような状況で出土している。

所見　出土土器が第６層が堆積した後に廃棄されたものと考えられるため時期判断は難しいが，土器の廃棄時期は中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。

第134号土坑出土遺物観察表（第100・101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
149	縄文土器	深鉢	[32.9]	(35.8)	—	波頂部から口縁部にかけてに刻みを有する隆帯文を貼付。口辺部及び胴部には爪形文が巡る。胴部はV字状隆帯文の基部から波状隆帯垂下。	長石・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土上～中層	PL36
150	縄文土器	深鉢	[24.6]	(13.5)	—	口唇部肥厚。口辺部・胴上部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
151	縄文土器	深鉢	[17.9]	(11.2)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
152	縄文土器	深鉢	[19.2]	(6.1)	—	口唇部つまみ上げ。口辺部無文	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上～中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP248	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	刻みを有する隆帯区画による口辺部文様帯に半截竹管による結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土上層	
TP249	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	口辺部は横位の隆帯区画文上位に波状隆帯文が巡る。胴部は縦位のY字状隆帯文に複列の結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
TP250	縄文土器	浅鉢	—	(4.9)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	内面赤彩
TP251	縄文土器	浅鉢	—	(9.2)	—	口唇部肥厚。口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	内面研磨

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP 6	不明土製品	9.8	1.3	1.2	20.2	長石・石英・雲母，橙	器面には篦状工具による刻みを有する。	覆土上層	土器作成時の粘土紐カ

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q68	磨石	10.4	7.9	6.8	769.8	安山岩	全側面を使用。両端に敲打痕。	覆土上層	PL50
Q69	磨石	5.3	5.7	2.3	103.1	安山岩	全側縁を使用。	覆土上層	
Q70	敲石	6.9	15.6	2.3	324.0	安山岩	1側縁に敲打痕。	覆土上層	

第135号土坑（第102図）

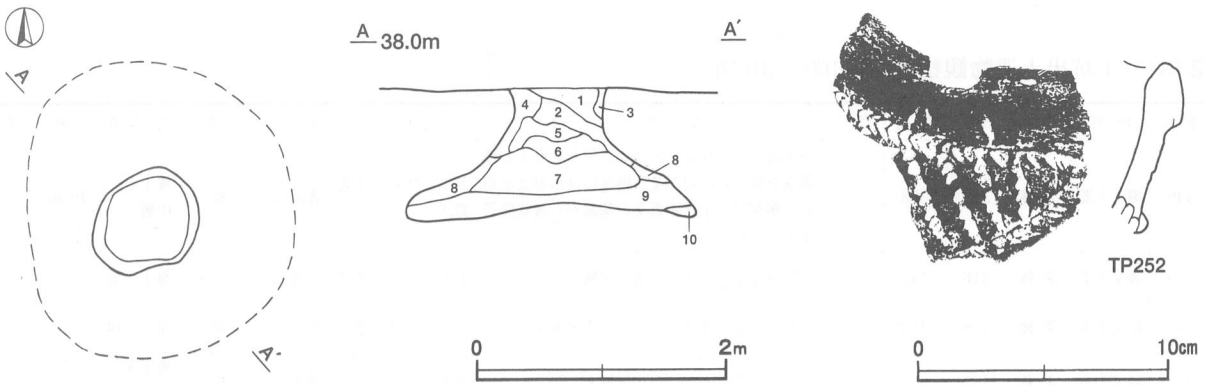
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3g7区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が径0.9mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面は中央部にやや高まりをもち，平面形は径2.3mほどの円形を呈している。深さは100cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位はほぼ直立している。また，底面から括れ部までの高さは65cmほどである。

覆土　10層に分層される。第8層を除きやや締まりのある土層である。上～下層にかけて粘土ブロック・粘土粒子が含まれており，特に第6層において顕著である。また，第9・10層には多量のロームブロックが見られる。これらのことから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
3　褐　色　ロームブロック多量
4　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子・粘土ブロック微量
8　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
9　褐　色　ロームブロック多量，粘土粒子少量
10　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片17点，剥片1点が出土している。出土遺物は些少で，すべてが細片である。TP252を含めて大多数の遺物が覆土中層から出土しており，廃絶後の埋め戻しに伴って廃棄されたものと考えられる。



第102図　第135号土坑・出土遺物実測図

所見　出土土器が少なく，細片のみであるため判然としないが，出土している土器片に明確な時期差が認められないことから，覆土中層の埋め戻し時期は中期中葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。

第135号土坑出土遺物観察表（第102図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP252	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。区画内には斜位の結節沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	

第138号土坑（第103・104図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3a6区に位置している。

重複関係　第82号ピットに掘り込まれている。

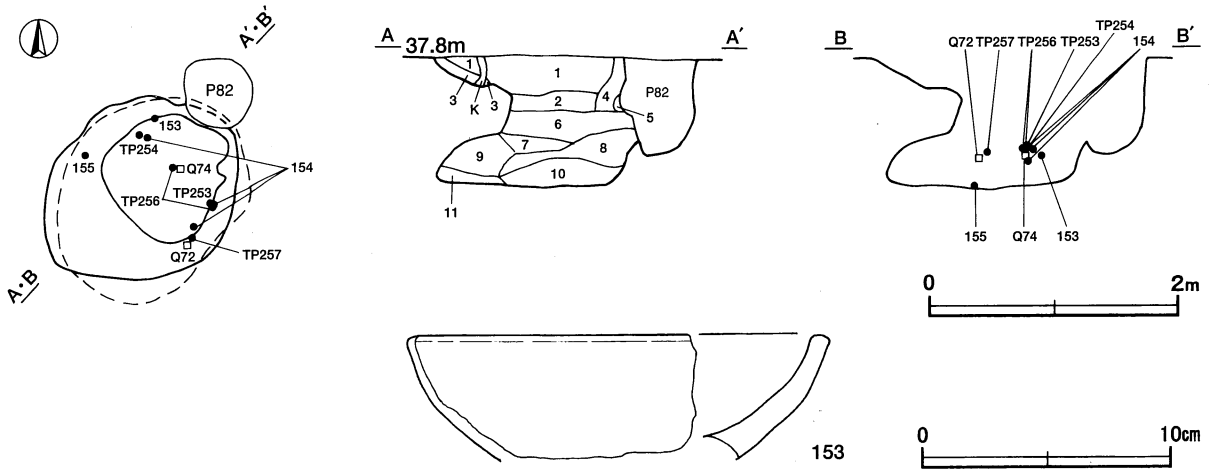
規模と形状　開口部の平面形が長径1.8m，短径1.4mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.7m，短径1.4mほどの楕円形を呈している。深さは105cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって皿状に立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは45～60cmほどである。

覆土　11層に分層される。全体的に固く締まった土層であり，括れ部より下層にあたる第6層以下は，ロームがブロック状に混入しているほか，粘土ブロックや焼土ブロック，炭化物などが含まれ，不規則な堆積状況を示していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。第1～5層は，堆積状況に乱れが見られないことから半ば埋没した階段で土砂が流入した自然堆積と考えられる。

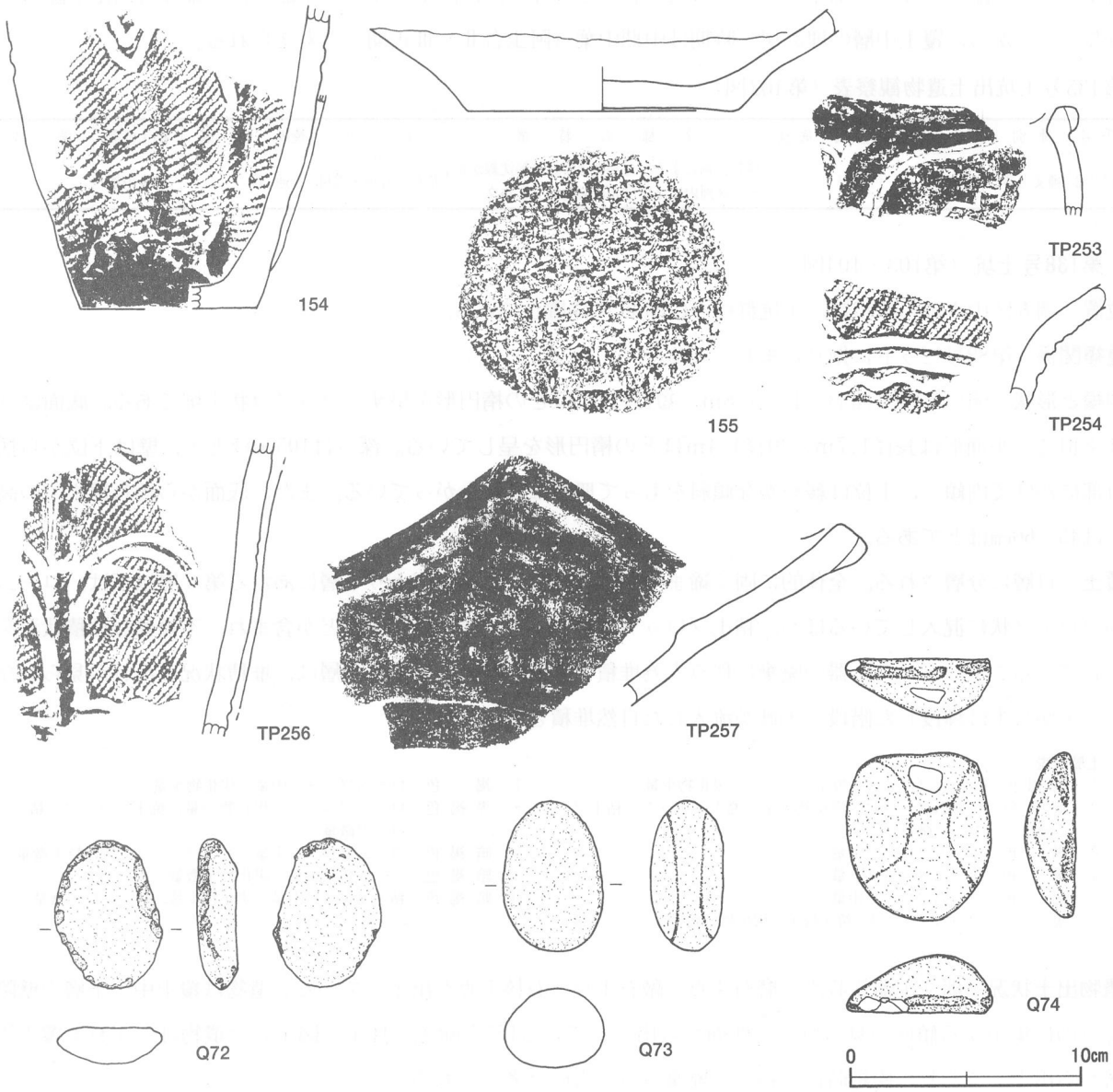
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
3　褐　色　ロームブロック中量
4　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土ブロック少量
7　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
8　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
9　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
11　暗褐色　粘土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片47点，磨石4点，敲石1点，石核1点が出土している。遺物は覆土中～下層の壁際寄りのに集中する傾向が見られる。底面から出土している155を除き，抽出・図示した遺物はいずれも覆土下層から出土しており，廃絶時に一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第103図　第138号土坑・出土遺物実測図



第104図　第138号土坑出土遺物実測図

第138号土坑出土遺物観察表（第103・104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
153	縄文土器	浅鉢	[16.0]	(4.9)	[9.4]	口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
154	縄文土器	深鉢	—	(13.0)	[7.8]	沈線文及び縦位の隆帯文。地文はＲＬの単節縄文。	長石・雲母	普通	淡橙	覆土下層	
155	縄文土器	浅鉢	—	(4.3)	11.8	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	底部網代痕
TP253	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。区画内は横位の山形沈線文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP254	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	胴部上位に沈線及び波状沈線による区画文が巡る。地文はＲＬの単節縄文。	長石・雲母	普通	褐灰	覆土下層	
TP256	縄文土器	深鉢	—	(12.7)	—	ＲＬの単節縄文を地文とし，隆帯が垂下。沈線により文様描出。	長石・雲母	普通	褐灰	覆土下層	
TP257	縄文土器	浅鉢	—	(7.8)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q72	敲石	6.3	4.6	1.7	76.0	砂岩	全側縁に敲打痕。	覆土下層	
Q73	磨石	6.4	4.2	3.2	101.6	砂岩	全側面を使用。	覆土上層	
Q74	磨石	7.1	5.3	2.4	142.1	砂岩	3側縁を使用。	覆土下層	

第139号土坑（第105図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f5区に位置している。

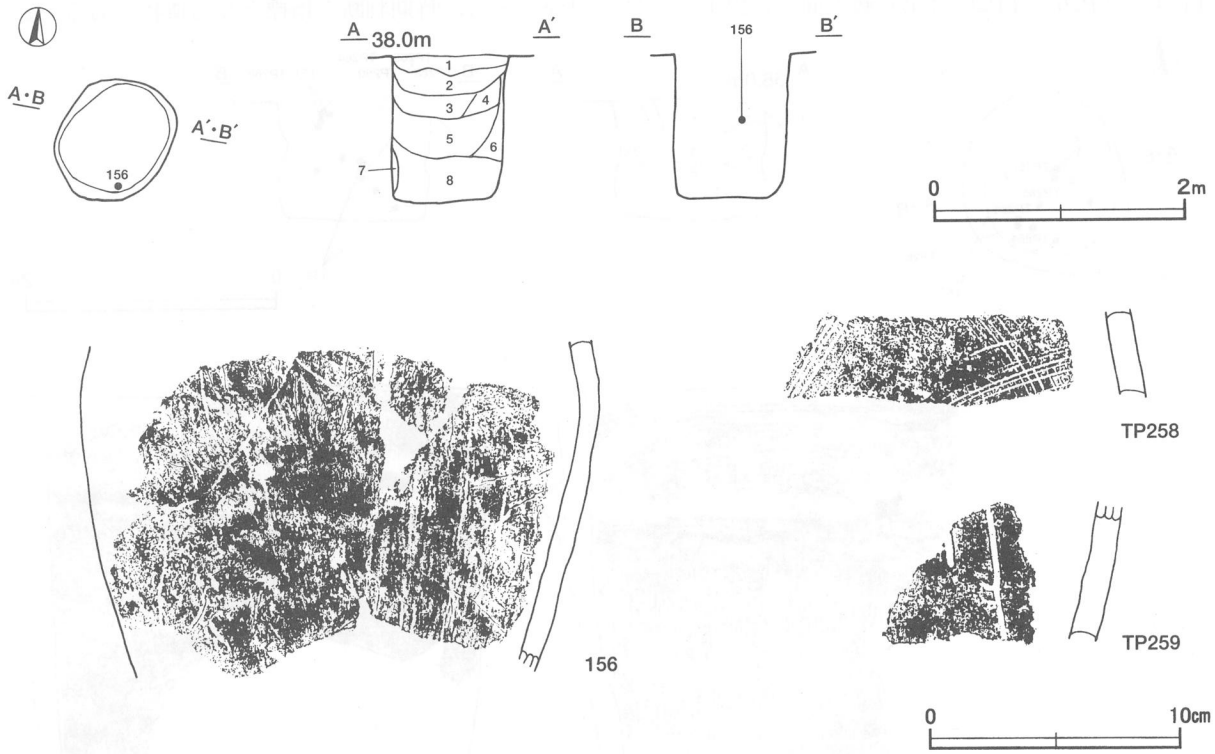
規模と形状　平面形は長径1.1m，短径0.9mほどの楕円形で，深さは115cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁が直立する円筒状の土坑である。

覆土　8層に分層される。全体的にやや締まりのある土層で，各層の含有物に大きな差異がなく，レンズ状の堆積状況を示しているなどから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
6　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
7　褐　色　ロームブロック多量
8　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片65点が出土している。土器片は覆土上～下層にかけて散在しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。TP259は覆土下層から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，156は覆土中層，TP258は覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前葉（称名寺2式期）と考えられる。



第105図　第139号土坑・出土遺物実測図

第139号土坑出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
156	縄文土器	深鉢	—	(12.9)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	橙	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP258	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	櫛歯状工具による斜格子文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP259	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	縦位の沈線区画文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土下層	

第140号土坑（第106・107図）

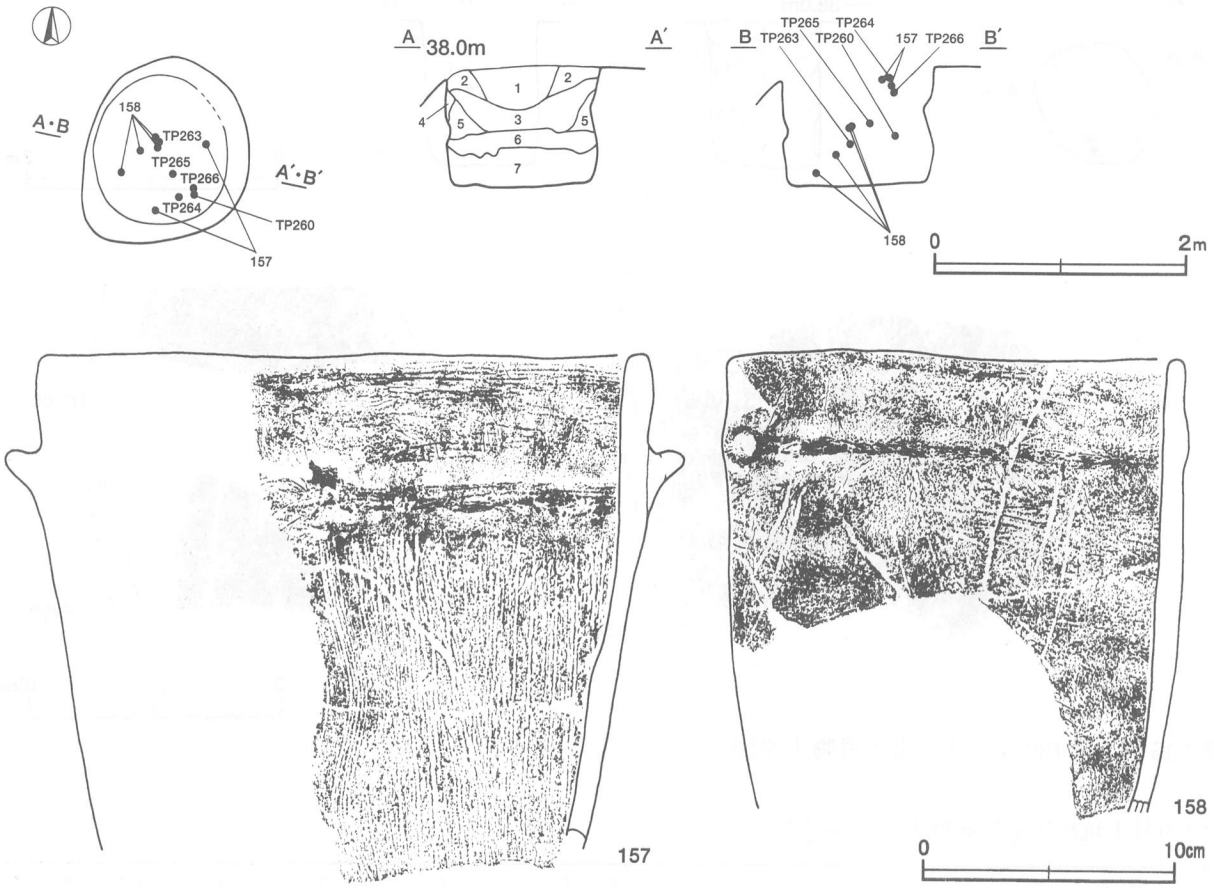
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f4区に位置している。

規模と形状　平面形は長径1.6m，短径1.4mほどの楕円形で，深さは93cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁がほぼ直立する円筒状の土坑である。

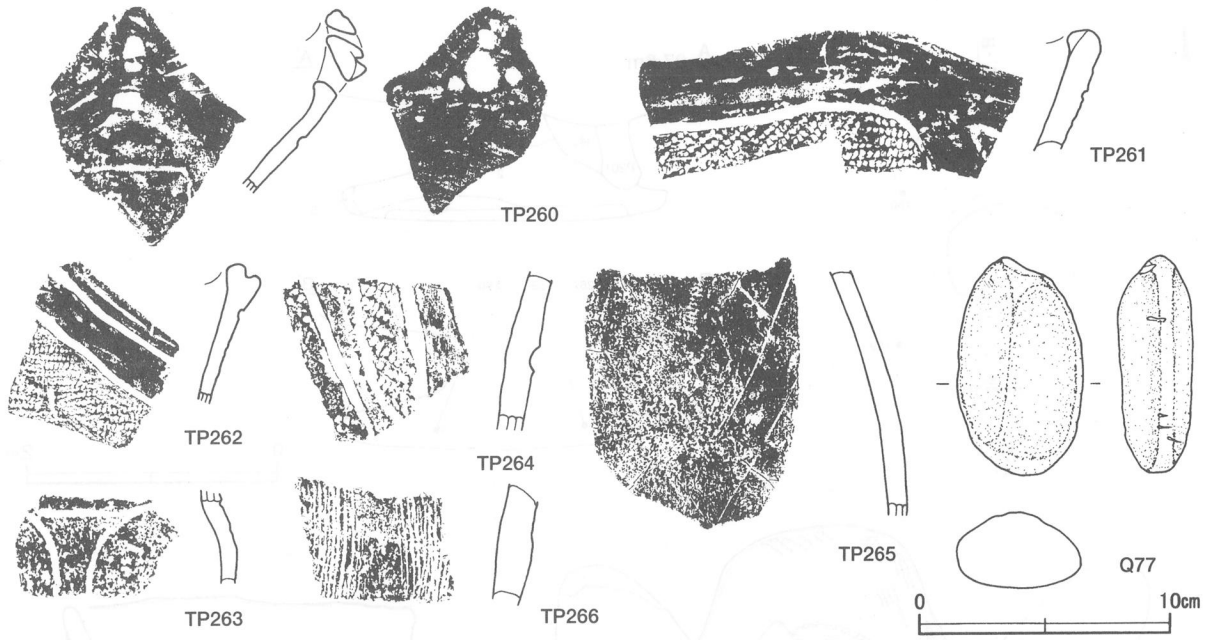
覆土　7層に分層される。第6・7層はロームがブロック状に混入していることから人為堆積と考えられる。覆土上層にあたる第1～5層は，壁の崩落層と考えられる第4・5層を除けばロームブロックなどの混入物も微少で，レンズ状の堆積状況を示していることなどから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量
5　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土ブロック微量
7　褐　色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片241点，磨石2点が出土している。土器片は主に覆土上～中層にかけて散在しており，平面的な位置に特異な傾向は認められない。158は人為堆積と考えられる第6・7層内の異なったレベルから出土した破片が接合したものであり，廃絶時の埋め戻しに伴って廃棄された遺物と考えられる。さらに，TP260・TP263・TP265は第6層上面から出土しており，158とともに時期判断の指標となる遺物である。また，



第106図　第140号土坑・出土遺物実測図



第107図　第140号土坑出土遺物実測図

157，TP264・TP266及びQ77は覆土上層，TP261は覆土中層，TP262は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　出土土器から，時期は後期初頭（称名寺１式期）と考えられる。

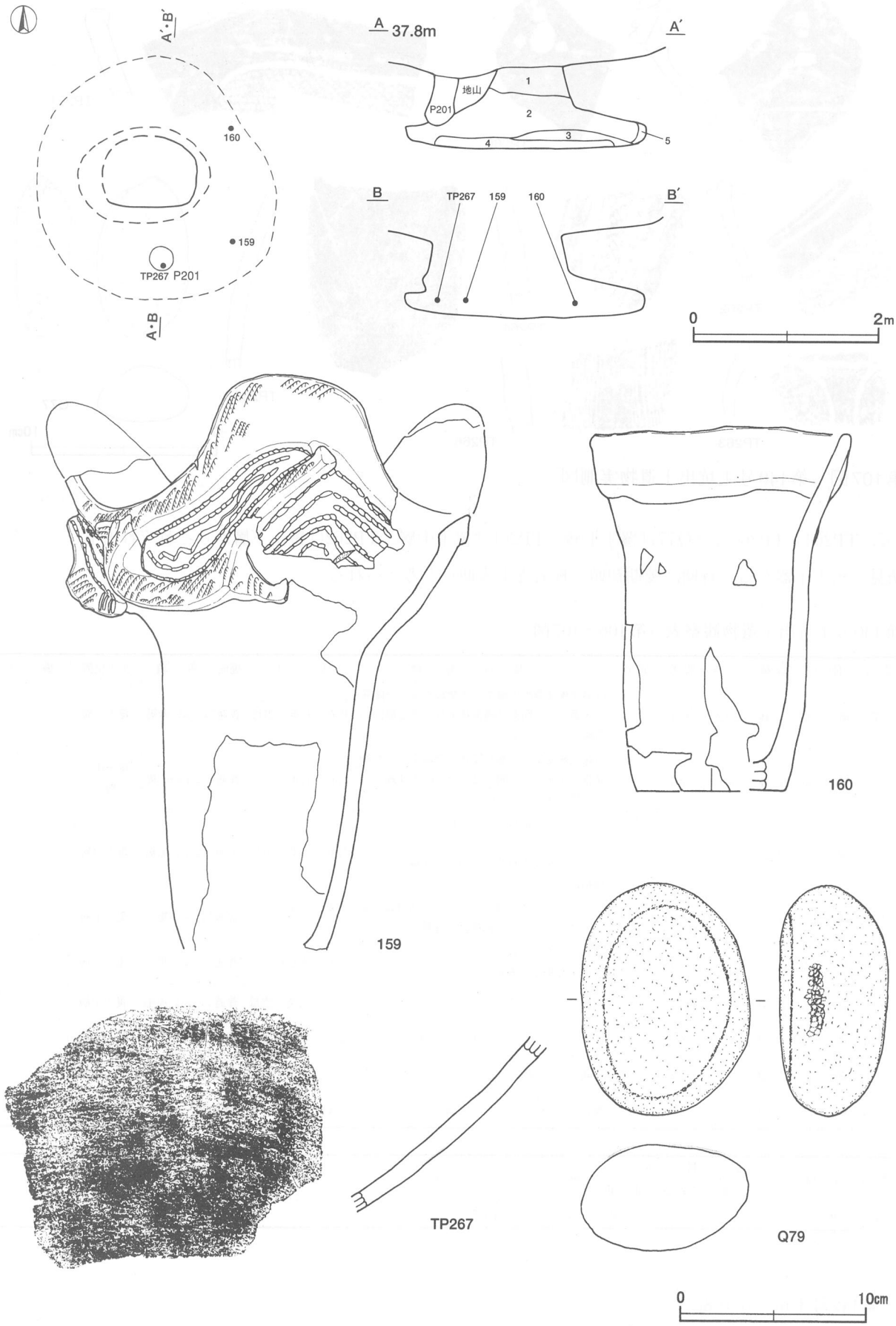
第140号土坑出土遺物観察表（第106・107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
157	縄文土器	深鉢	[24.2]	(19.1)	—	口辺部無文帯の下端を舌状突起を付した隆帯で区画する。胴部は櫛歯状工具による縦位の条線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上層	
158	縄文土器	深鉢	[17.6]	(18.4)	—	口縁部無文帯の下端を環状の突起を付した微隆帯で区画する。胴部は２条一組の沈線による斜格子文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中～下層	
TP260	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	隆帯及び円形貼付文により把手を作出。把手には２か所の貫通孔を有し，内面にも２か所の円形刺突文を付す。口辺部は沈線により文様描出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP261	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	口唇部内面下端に隆帯が巡る。口辺部は沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP262	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	口唇部下端に沈線が巡る。口辺部沈線文。ＬＲの単節縄文を充填。	長石・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP263	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	沈線による区画文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP264	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土上層	
TP265	縄文土器	深鉢	—	(9.6)	—	条線による斜格子文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP266	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	櫛歯状工具による縦位の櫛歯状文。	長石・石英	普通	橙	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q77	磨石	8.6	4.9	2.9	142.8	安山岩	全側面を使用。	覆土上層	

第142号土坑（第108図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3f5区に位置している。



第108図　第142号土坑・出土遺物実測図

重複関係　第201号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　開口部の平面形が長径1.4m，短径1.0mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.4m，短径2.0mほどの楕円形を呈している。深さ90cmほどで，壁は下位から大きく括れて内傾している。括れ部において本跡を確認したため上位は不明である。

覆土　5層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，第4層はローム粒子を多く含み，特に固く締まっていることから，開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。全層に比較的多くロームが含まれているものの，堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　褐　色　ローム粒子中量
3　黒褐色　ローム粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量
5　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片17点，磨石1点が出土している。抽出・図示した土器を含めて，完形に近い土器や大形の破片は覆土下層の壁際寄りから出土しており，これらの出土位置は，第4層が本土坑機能時にすでに堆積していたという想定のもとではほぼ底面にあたることから，廃絶時に遺棄もしくは廃棄されたものと考えられる。なお，Q79は覆土中層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

第142号土坑出土遺物観察表（第108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
159	縄文土器	深鉢	[21.6]	(30.9)	[7.6]	Lの無節縄文を施した隆帯区画による口辺部文様帯。区画内は波状沈線文及び隆帯に沿った結節沈線文。	長石・雲母	普通	黒褐 にぶい赤褐	覆土下層	PL36
160	縄文土器	深鉢	13.5	19.0	[7.8]	口辺部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL36 煤付着
TP267	縄文土器	浅鉢	—	(9.0)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	外面研磨

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q79	磨石	12.3	9.1	5.9	966.7	安山岩	全側面を使用。1側縁に敲打痕。	覆土中層	PL50

第143号土坑（第109図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e2区に位置している。

重複関係　第30号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　開口部の平面形が長径0.7m，短径0.6mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.0mほどの円形を呈している。深さ78cmほどで，壁は下位から大きく括れて内傾し，上位は直立している。また，底面から括れ部までの高さは45～50cmほどである。

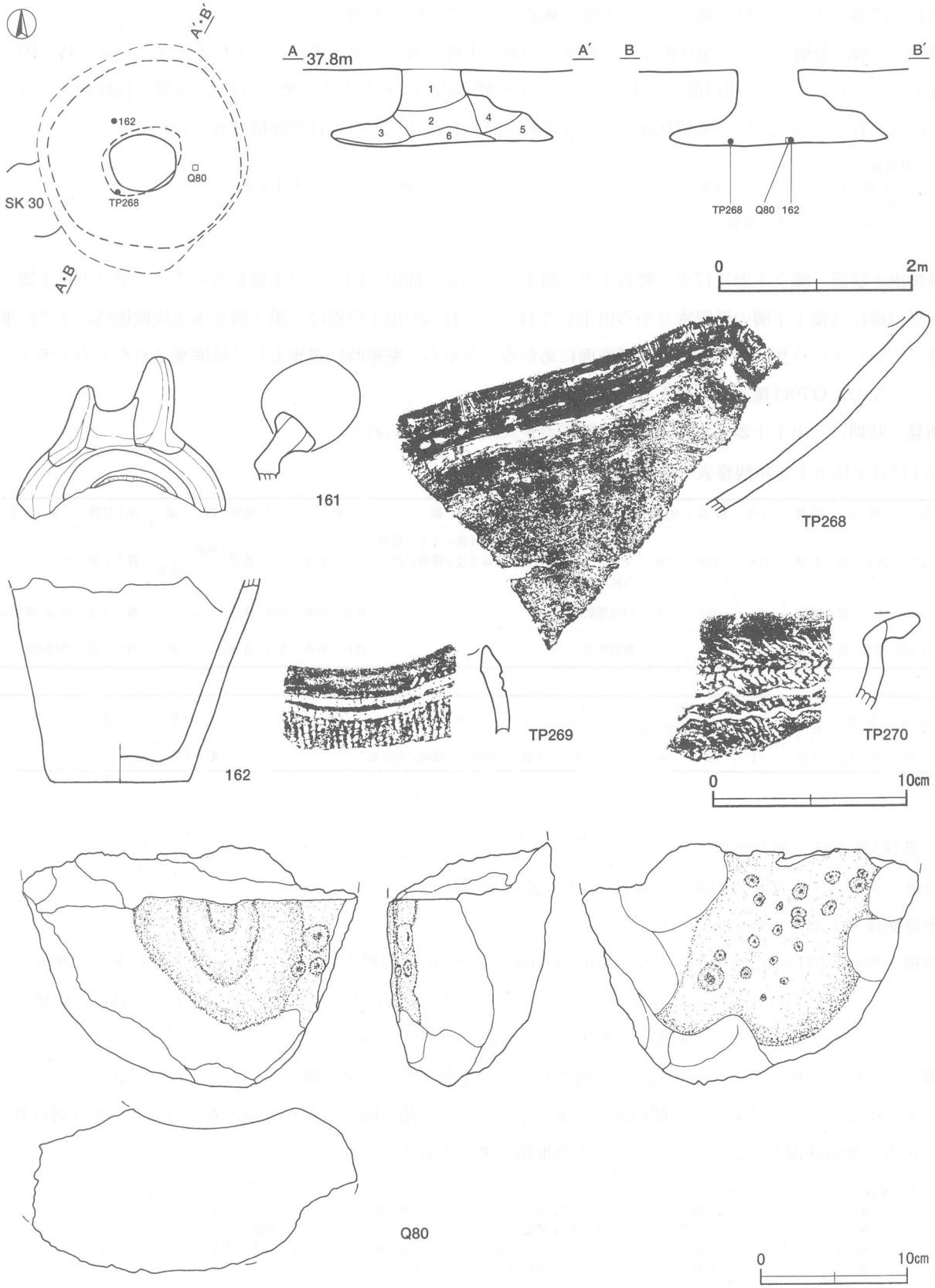
覆土　6層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，第6層はロームがブロック状に含まれ，特に固く締まっていることから，開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。第6層以外は不規則な堆積状況を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子・粘土ブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
6　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物・粘土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片45点，石皿1点が出土している。抽出・図示した遺物を含めて大形の破片は，丘状に

高まった第6層の裾部にあたる底面及び覆土下層から出土しており，廃絶直後に廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。



第109図　第143号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
161	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	口唇部下端には隆帯が巡り，隆帯に沿って沈線文。波頂部には大小2個の団扇状の突起を付す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
162	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	7.2	無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	煤・炭化物付着
TP268	縄文土器	浅鉢	—	(10.3)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	口唇部赤彩
TP269	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	口唇部下端に半截竹管による結節沈線が巡る。胴上部はＬＲの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP270	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	口辺部は結節沈線及び2条一組の波状沈線が巡る。地文はＬの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q80	石皿	(16.6)	(23.2)	(11.6)	(2709.2)	安山岩	表面中央部が窪む。表面3孔，裏面19孔。	底面	

第144号土坑（第110・111図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3a5区に位置している。

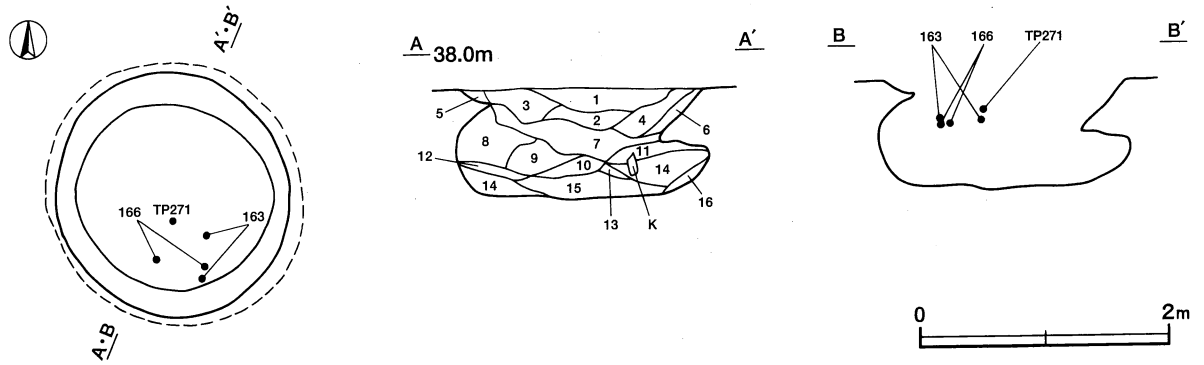
規模と形状　開口部の平面形が径1.9mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.1mほどの円形を呈する。深さ90cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは45～70cmほどである。

覆土　16層に分層される。全体的に固く締まった土層であり，ロームがブロック状に混入していることや不規則な堆積状況を示していることなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

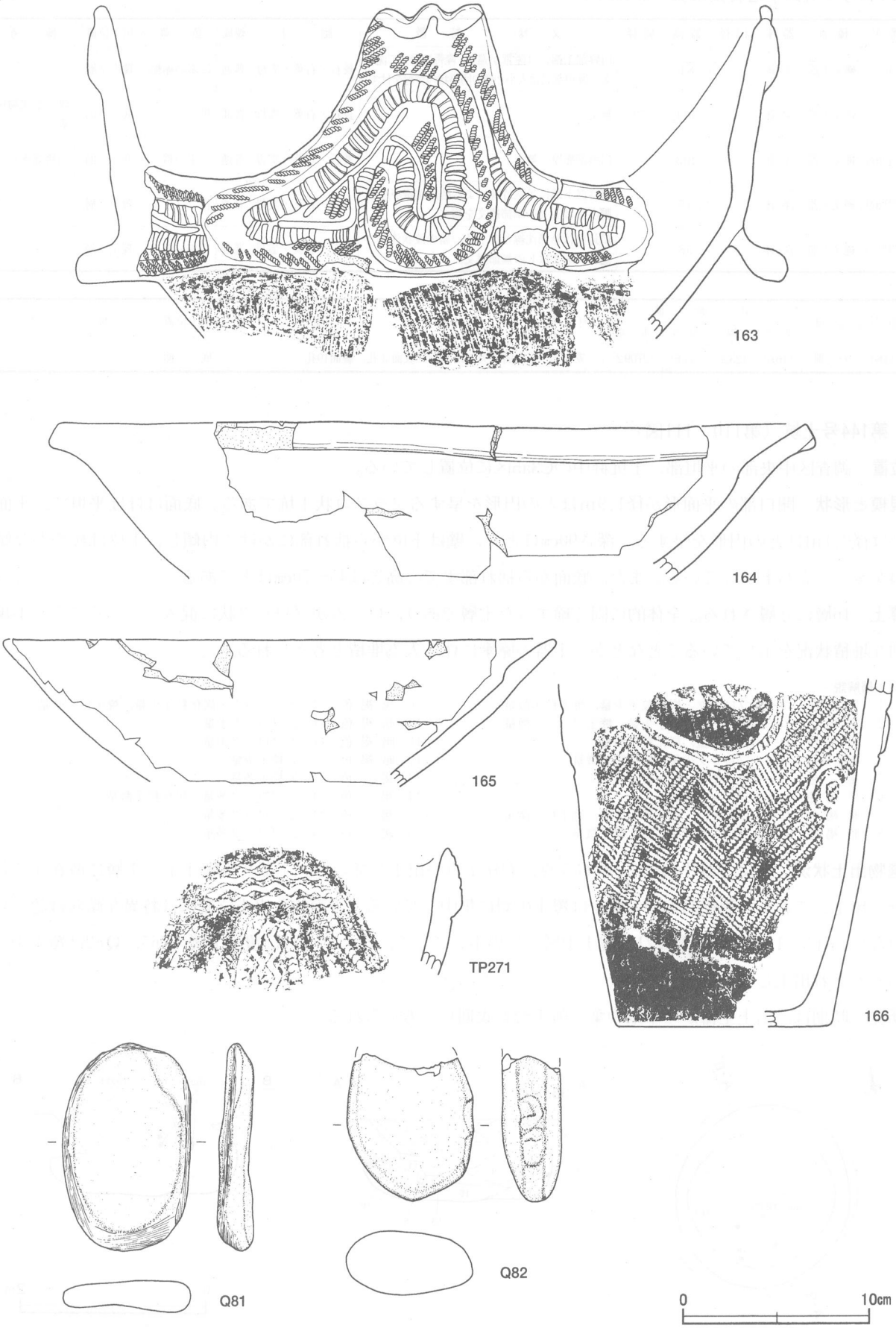
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　黒褐色　ロームブロック微量
7　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック少量
11　暗褐色　ロームブロック中量
12　暗褐色　ローム粒子少量
13　褐色　ローム粒子多量
14　褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
15　褐色　ロームブロック多量
16　褐色　ロームブロック多量

遺物出土状況　縄文土器片201点，磨石5点，剥片1点が出土している。土器片は覆土上～下層に散在する状況で出土しており，比較的大形の破片は覆土中層に集中している。平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。163・164・166，TP271は覆土中層から出土している。また，Q81は覆土上層，165，Q82は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



第110図　第144号土坑実測図



第111図　第144号土坑出土遺物実測図

第144号土坑出土遺物観察表（第111図）

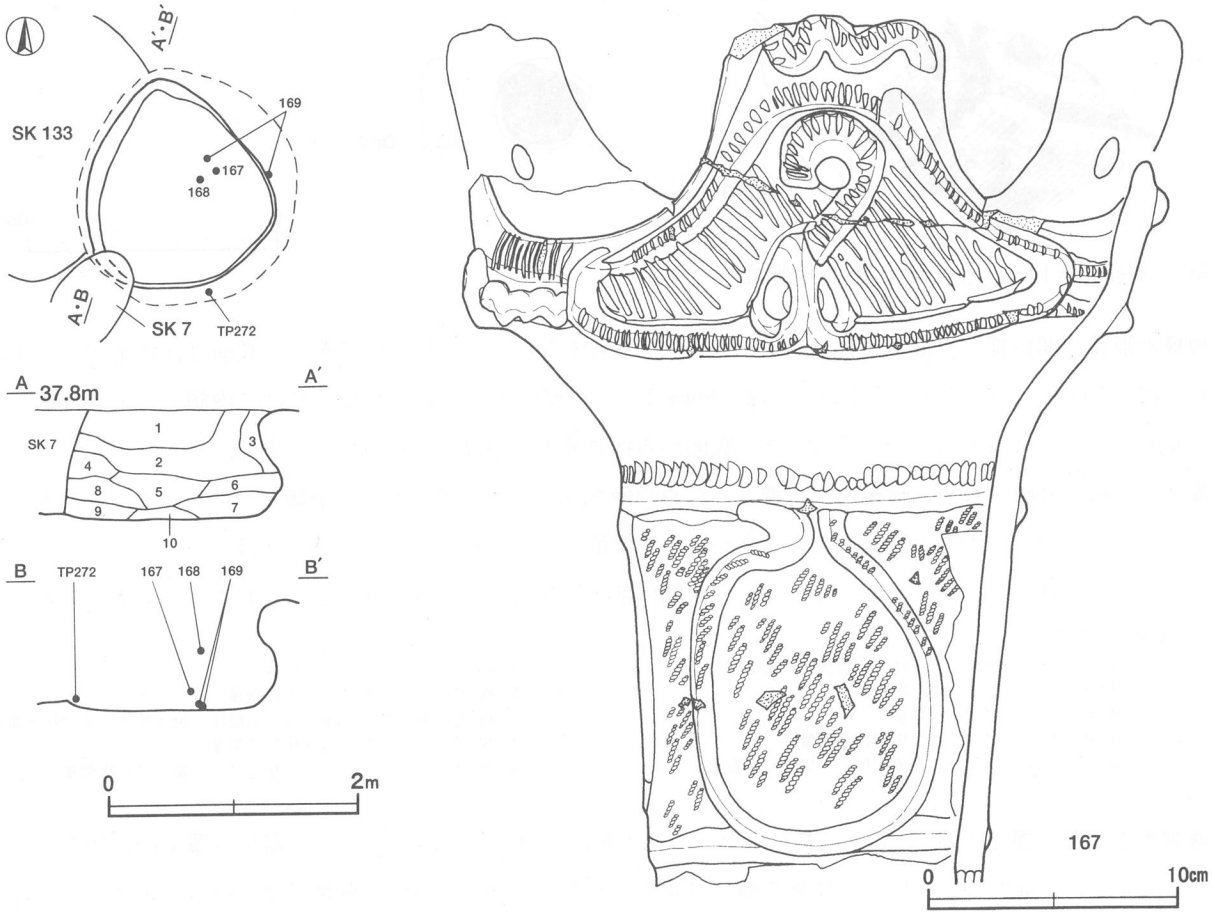
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
163	縄文土器	深鉢	[34.9]	(17.8)	—	波頂部に波状の隆帯貼付文。隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線及び沈線が沿う。地文はＲＬの単節縄文。胴部は半截竹管による条線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
164	縄文土器	浅鉢	[40.0]	(8.3)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	内外面研磨
165	縄文土器	浅鉢	[29.6]	(7.7)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	
166	縄文土器	深鉢	—	(18.0)	[11.4]	隆帯文に沈線が沿う。地文はＲＬとＬＲの単節縄文を交互に施文し，羽状構成をとる。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP271	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	波状口縁部には隆帯区画文を配し，区画内外を波状沈線及び結節沈線で加飾。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q81	磨石	10.9	6.8	1.8	190.7	砂岩	全側縁を使用。	覆土上層	被熱痕あり
Q82	磨石	(7.8)	6.8	3.2	(253.8)	安山岩	全側面を使用。	覆土	煤付着，被熱痕あり

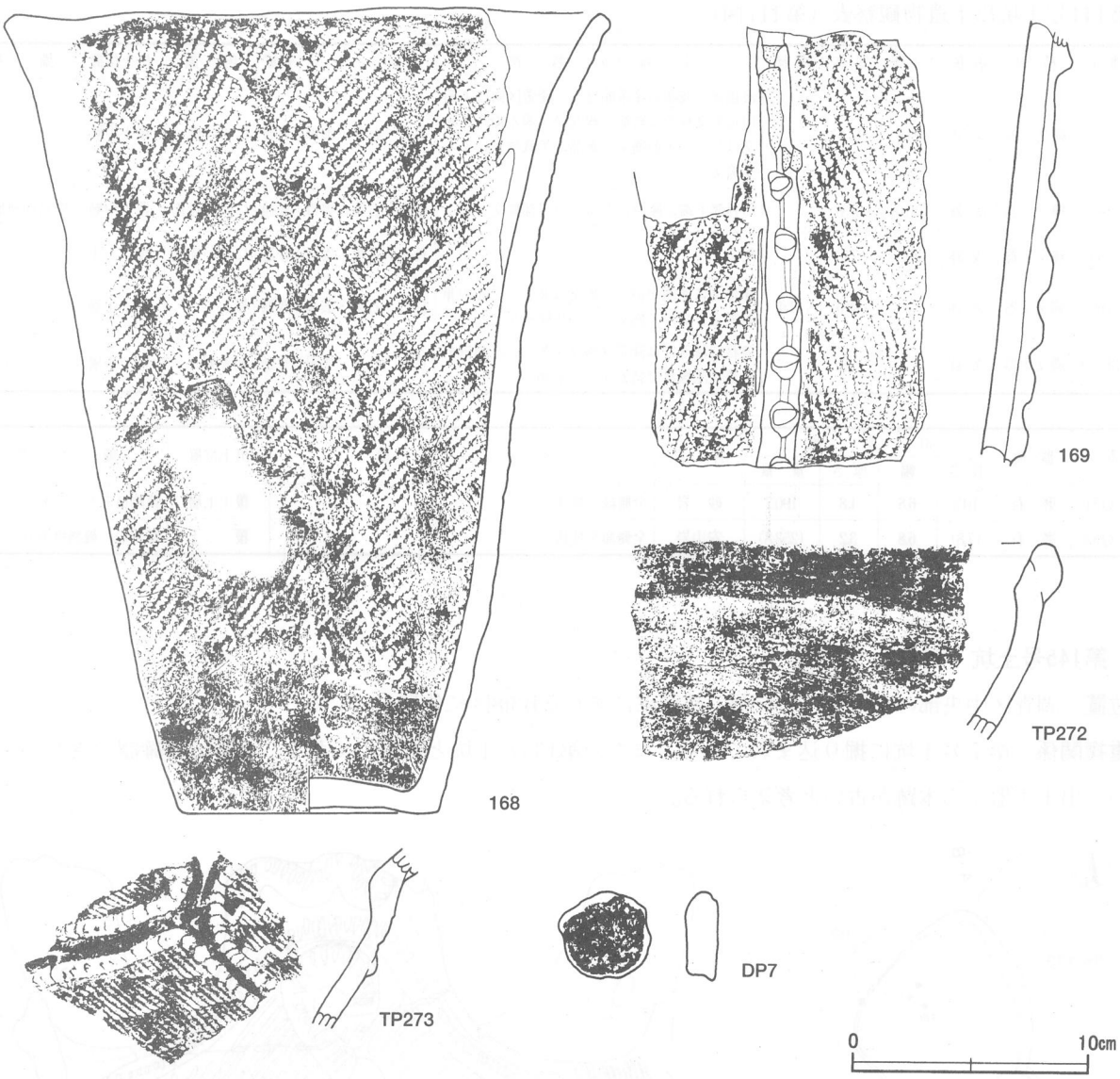
第145号土坑（第112・113図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3i8区に位置している。

重複関係　第７号土坑に掘り込まれている。また，第133号土坑と重複しており，土層では確認できなかったが，出土土器から本跡が古いと考えられる。



第112図　第145号土坑・出土遺物実測図



第113図　第145号土坑出土遺物実測図

規模と形状　開口部の平面形が径1.6mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.7mほどの円形を呈している。深さ86cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは70cmほどである。

覆土　10層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，全層ともにロームなどの混入物は微少で，色調にも大きな差異はないことから自然堆積と考えられる。なお，第10層はロームブロック，粘土粒子を含み，特に固く締まっていることから，開口部から流入した土砂が踏み固められたものと考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック中量
7　暗褐色　ローム粒子・炭化物微量
8　暗褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，炭化物微量

遺物出土状況　縄文土器片337点，磨石1点，不明土製品1点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており，平面的な出土位置に特異な傾向は認められない。167は，168の胴部にすっぽりと被さるような状態の逆斜位で覆土下層から出土している。また，169，TP272は底面から出土しており，167・168とともに時

期判断の指標となる遺物である。DP 7は覆土上層，TP273は覆土中からの出土である。

所見　167の胴部に168が被さった状態で出土していることは，廃棄の際に何らかの意図を含んでいたことが想定されるが，その詳細については不明である。時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第145号土坑出土遺物観察表（第112・113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
167	縄文土器	深鉢	[29.8]	(34.3)	—	口辺部は刻みを有する隆帯による区画文。区画内には斜行沈線文を施し，上位は刻みを有する逆J字状隆帯文，下位は橋状把手を有する。胴部上位に無文帯を配し，結節沈線が沿う隆帯区画文下にO字状の隆帯文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL36
168	縄文土器	深鉢	24.8	34.2	10.7	RLの単節縄文を地文とし，縦位の結節回転文を施文。	長石・雲母	普通	灰褐 にぶい橙	覆土下層	PL37
169	縄文土器	深鉢	—	(18.6)	—	押圧文を有する隆帯が垂下。RLの単節縄文を縦及び斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	底面	
TP272	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	底面	
TP273	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。区画内はRの無節縄文を地文とし，横位の波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP 7	土器円盤	3.6	3.8	1.3	18.9	長石・石英・雲母，橙	周縁部荒削り。無文。	覆土上層	PL48

第146号土坑（第114・115図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3i8区に位置している。

重複関係　第132号土坑を掘り込んでいる。

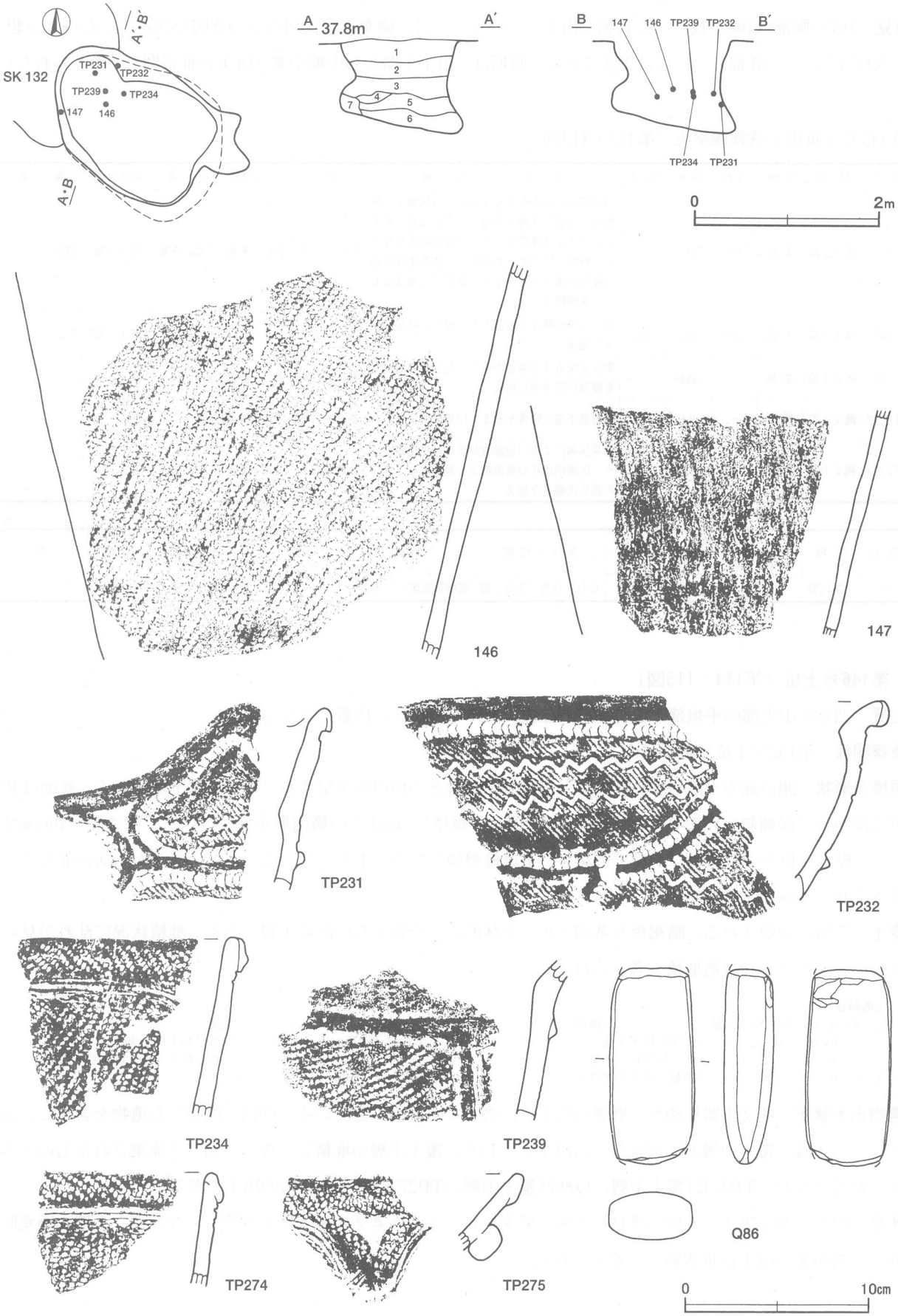
規模と形状　開口部の平面形が長径1.9m，短径1.4mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面は北東に向かって緩傾斜しており，平面形は長径2.0m，短径1.5mほどの楕円形を呈している。深さ80～100cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは40～50cmほどである。

覆土　7層に分層される。暗褐色を基調とし，全体的にやや締まりのある土層である。堆積状況に乱れが見られないことなどから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム中ブロック・炭化粒子少量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック中量，粘土粒子少量
7　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片89点，磨製石斧1点，磨石1点が出土している。抽出・図示した遺物を含めて，ほとんどの土器が覆土中層の北西寄りから出土しており，覆土下層が堆積した後，一括して廃棄されたものと考えられる。なお，TP274は覆土上層，Q86は覆土中層，TP275は覆土中からの出土である。

所見　出土土器が第4・5層が堆積した後に廃棄されたものと考えられるため判然としないが，土器の廃棄時期は中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第114図　第146号土坑・出土遺物実測図

第146号土坑出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
146	縄文土器	深鉢	—	(21.2)	—	ＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
147	縄文土器	深鉢	—	(12.1)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP231	縄文土器	深鉢	—	(10.6)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP232	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。区画内はＬの無節縄文を地文とし，横位の波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP234	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	—	口唇部下端に半截竹管による平行沈線が沿う隆帯が巡る。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP239	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	胴上部の無文帯の下位に隆帯区画文。ＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP274	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	口唇部下端は隆帯が巡り，半截竹管による平行沈線が沿う。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP275	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	口辺部はＶ字状隆帯文に半截竹管による平行沈線が沿う。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q86	磨製石斧	(10.4)	2.5	4.5	(239.2)	輝緑岩	定角式。器面研磨入念。	覆土中層	PL48 刃部先端・基部欠損

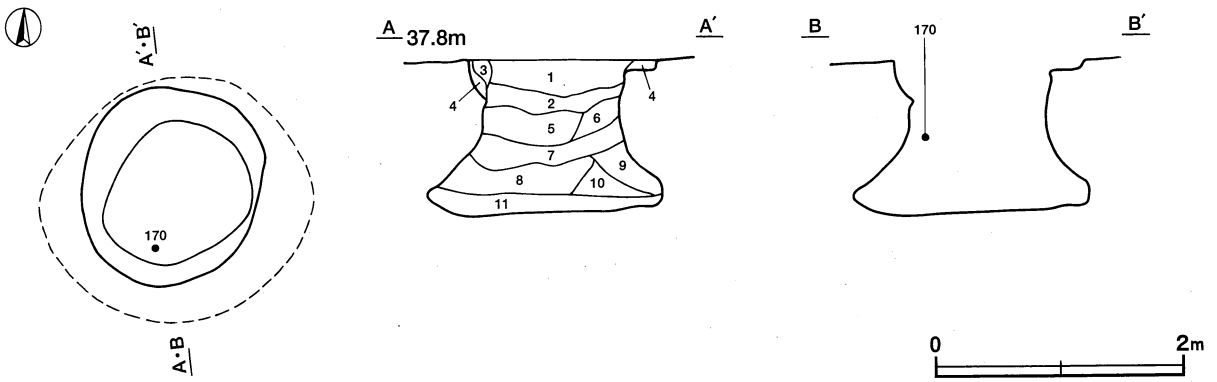
第147号土坑（第115・116図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3g8区に位置している。

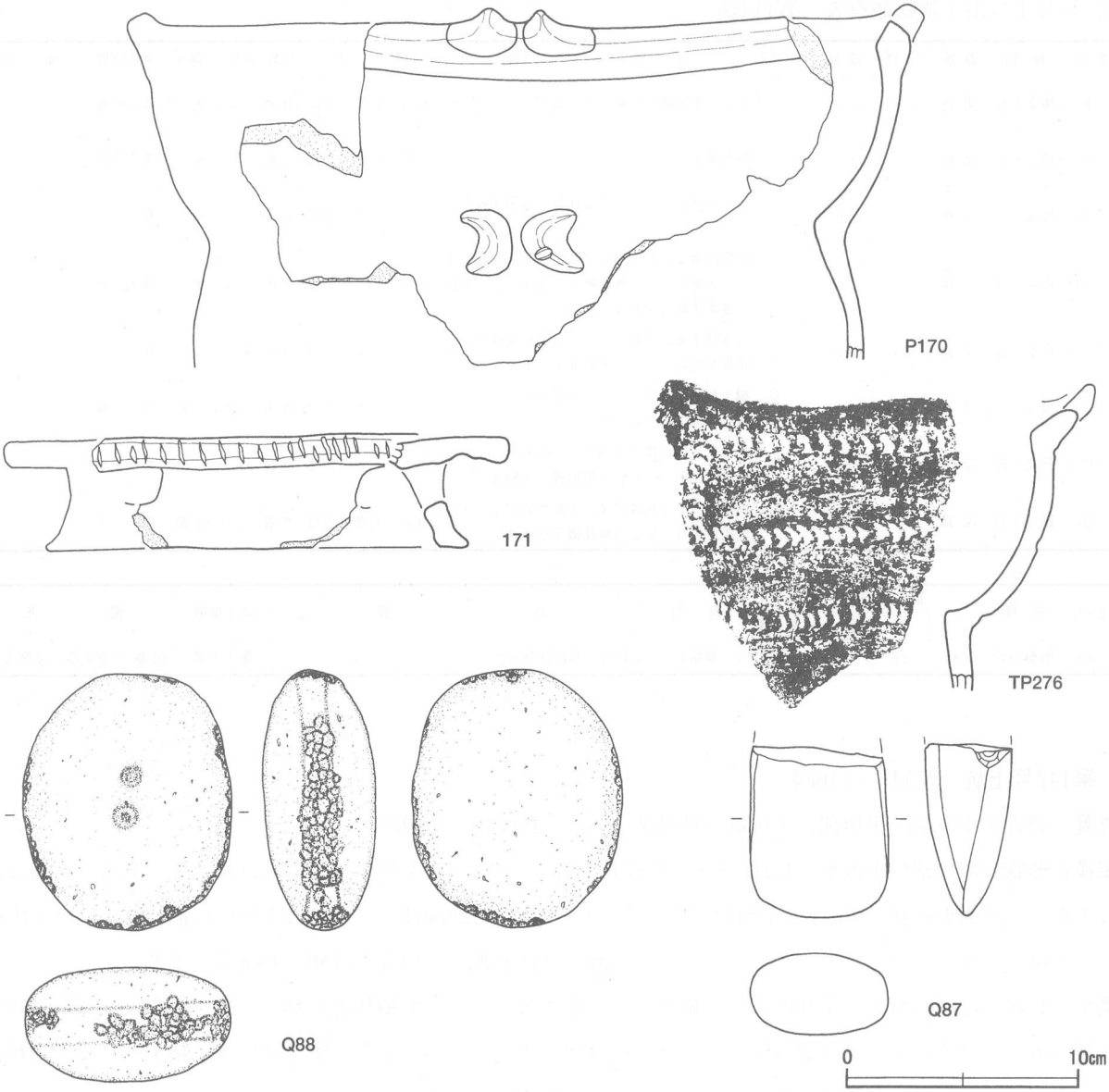
規模と形状　開口部の平面形が長径1.6m，短径1.4mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.6mほどの円形を呈している。深さは120cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは80～90cmほどである。

覆土　11層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。第３・４層は開口部の壁の崩落層と考えられる。また，第７層以下に粘土ブロック・粒子が含まれているのは，粘土層を掘り抜いていることに起因すると考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐色　ロームブロック中量
5　暗褐色　炭化物少量，ローム粒子・粘土ブロック微量
6　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量
8　黒褐色　粘土ブロック少量，炭化物・ローム粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量
10　黒褐色　粘土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量



第115図　第147号土坑実測図



第116図　第147号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片68点，磨製石斧１点，磨石３点が出土している。土器片は覆土中に散在しており，平面的な出土位置に特異な傾向は認められない。170は覆土中層と下層から出土した破片が接合したものであり，埋没過程で廃棄もしくは流入したものと考えられる。また，171は覆土下層，Q87は覆土中層，TP276，Q88は覆土上層から出土している。

所見　170が覆土中～下層から出土していることから，覆土中層の堆積時期は中期中葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。

第147号土坑出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
170	縄文土器	深鉢	[33.2]	(15.1)	—	肥厚した口唇部に２個一組の突起を貼付。胴上部は対峙するＣ字状の貼付文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中～下層	
171	縄文土器	器台	[21.4]	5.6	[18.0]	器部の縁に刻みが巡る。台部には孔を有する。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	PL44

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP276	縄文土器	深鉢	—	(12.0)	—	口辺部は結節沈線による区画文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q87	磨製石斧	(7.4)	6.1	(3.7)	(244.1)	砂岩	定角式。器面研磨入念。	覆土中層	PL48 基部欠損
Q88	磨石	11.0	8.9	4.6	761.8	安山岩	全側面を使用。全側縁に敲打痕。表面2孔。	覆土上層	PL51

第148号土坑（第117図）

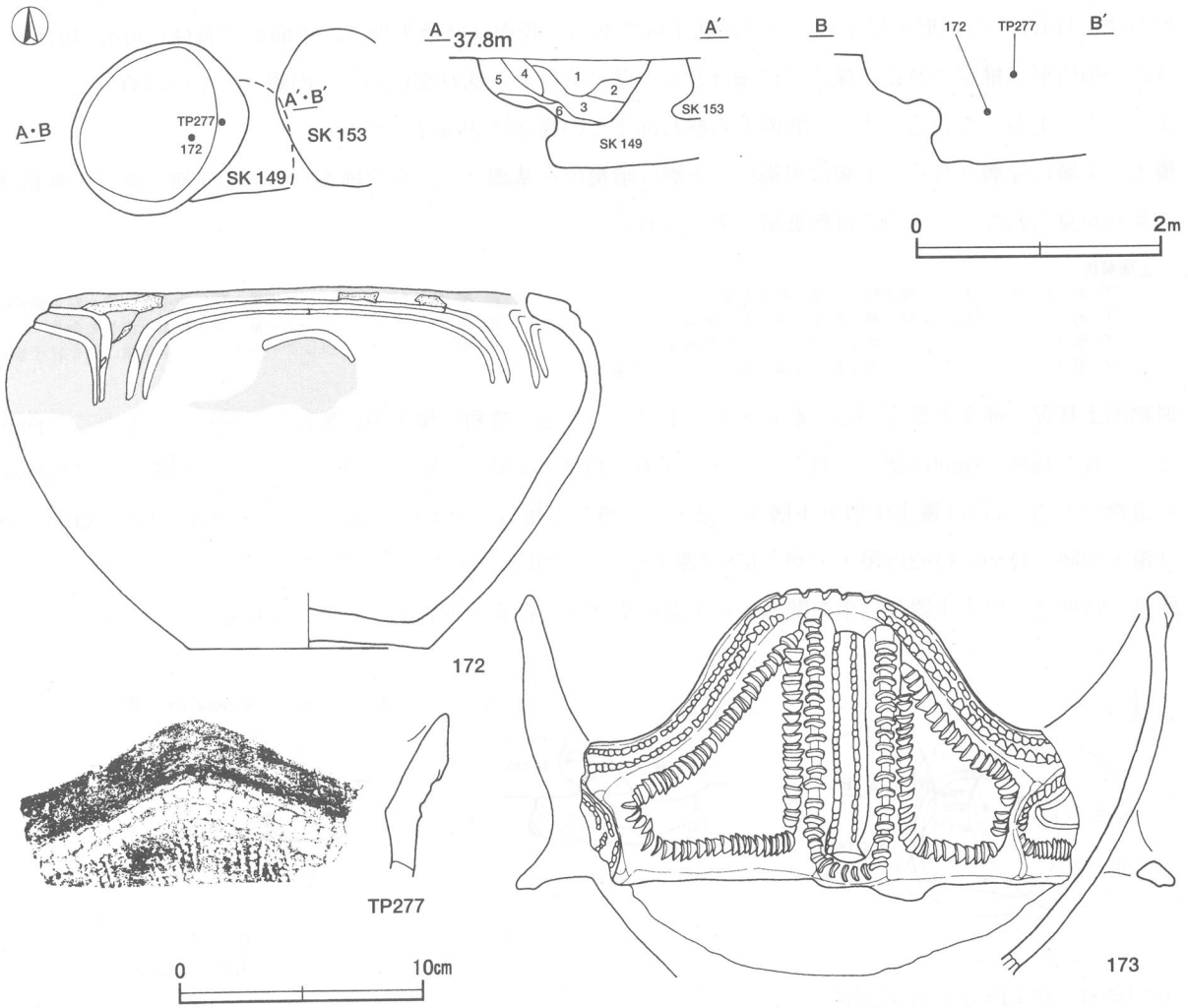
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j0区に位置している。

重複関係　第149号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　平面形は長径1.5m，短径1.3mほどの楕円形で，深さは50cmほどである。底面はほぼ平坦であるが，第149号土坑と重複する部分はやや落ち込んでおり，壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。

覆土　6層に分層される。全体的にやや締まりのある土層で，堆積状況に乱れがみられないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
6　褐色　ロームブロック中量，炭化物微量



第117図　第148号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片15点が出土している。172・173を除いてほとんどが細片で，覆土中に散在する状況で出土している。172はほぼ底面から逆位で出土しており，本跡廃絶時に廃棄されたものと考えられ，時期判断の指標となる遺物である。また，173及びTP277は覆土中層からの出土である。

所見　時期は，出土土器及び重複関係から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第148号土坑出土遺物観察表（第117図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
172	縄文土器	鉢	17.8	14.2	9.8	口辺部は２条一組の沈線により文様描出。胴部無文。	長石・石英・雲母	良好	にぶい赤褐	底面	PL37 口縁部赤彩
173	縄文土器	深鉢	[25.3]	(15.2)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，２条の結節沈線が沿う。波頂部には刻みを施す。隆帯区画による口辺部文様帯に結節沈線が沿う。胴部上位無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	PL46
TP277	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，２条一組の結節沈線が沿う。口辺部はＬＲの単節縄文を斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	

第149号土坑（第118～120図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j0区に位置している。

重複関係　第148号土坑及び第153号土坑に掘り込まれている。

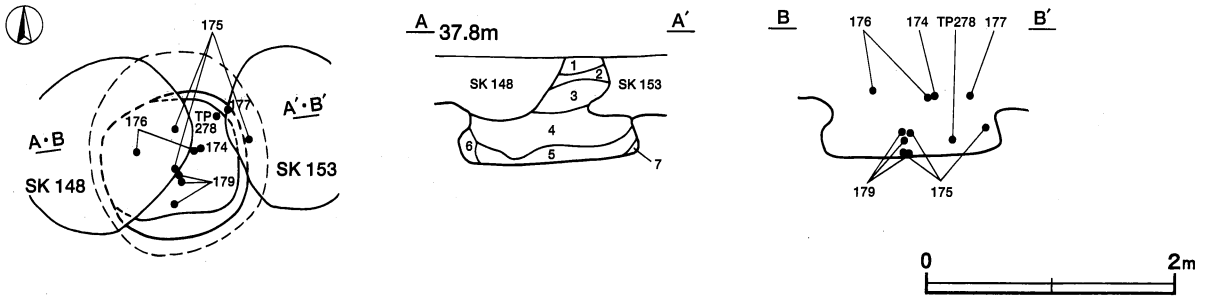
規模と形状　上～中位を第148号土坑及び第153号土坑に掘り込まれているため明確ではないが，開口部の平面形が径1.1mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.6m，短径1.4mほどの楕円形と推定される。深さは85cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は直立もしくは外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは30cmほどである。

覆土　７層に分層される。上層は黒褐色，下層は暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

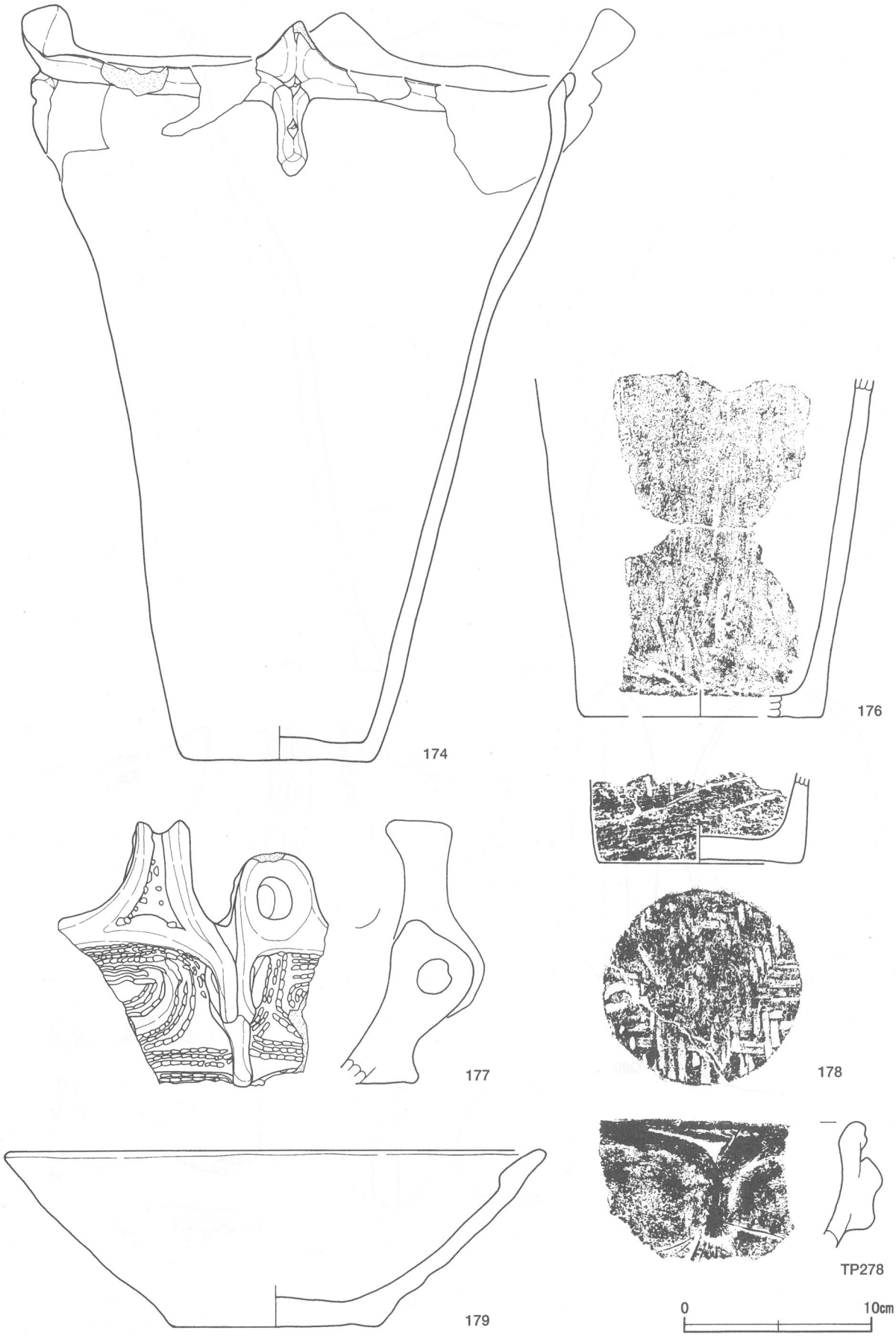
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
7　暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片55点，磨石８点が出土している。遺物は覆土中に散在して出土しており，平面的な出土位置に特異な傾向は認められない。175・179，TP278は覆土下層から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。174は覆土中層と下層から出土した破片が接合したものである。また，176・177，Q90・Q91は覆土中層，Q89・Q92は覆土上層，178は覆土中からの出土である。

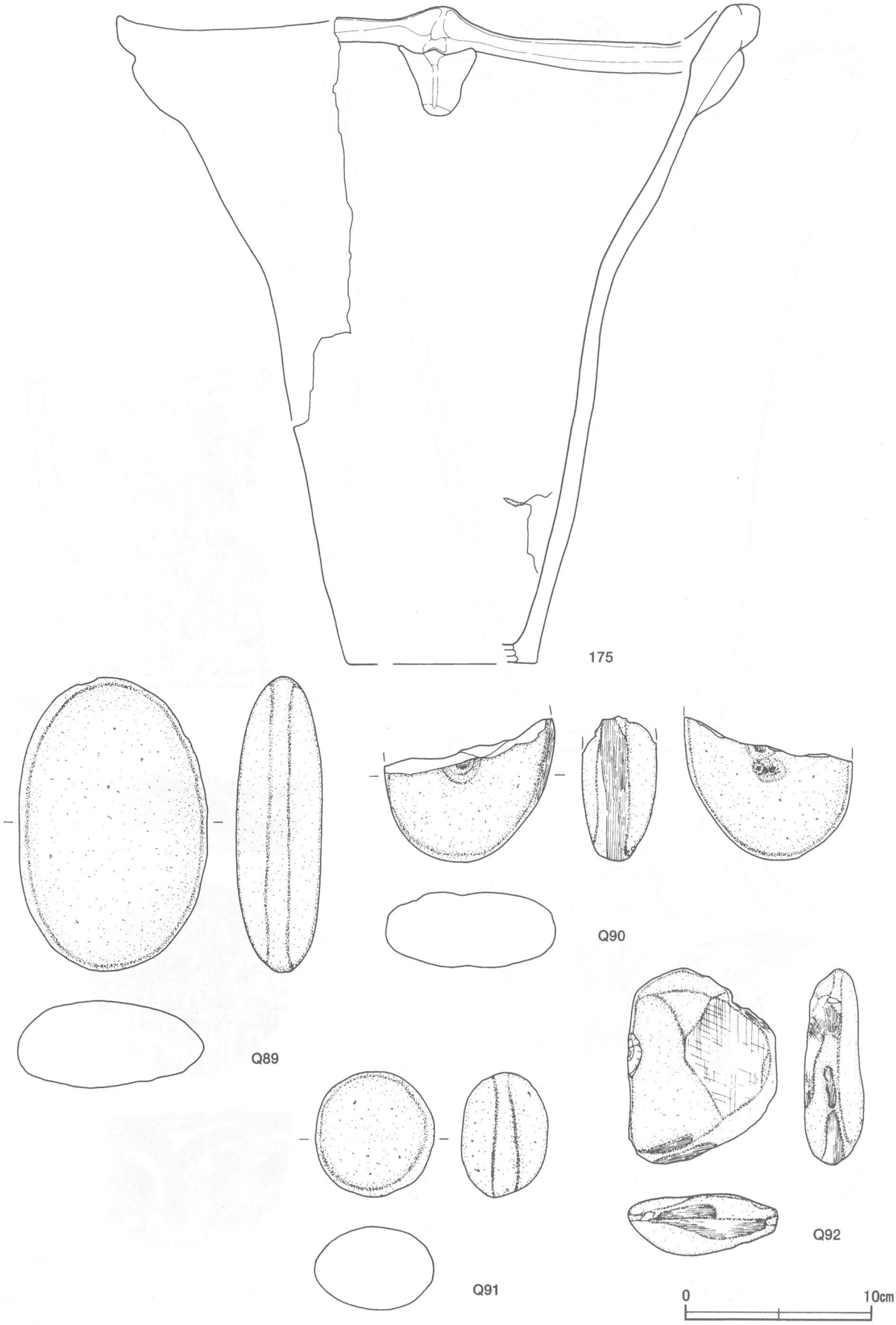
所見　時期は，出土土器及び重複関係から中期中葉（阿玉台Ⅱ～Ⅲ式期）と考えられる。



第118図　第149号土坑実測図



第119図　第149号土坑出土遺物実測図（1）



第120図　第149号土坑出土遺物実測図（2）

第149号土坑出土遺物観察表（第119・120図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
174	縄文土器	深鉢	27.5	40.0	10.0	口唇部下端に隆帯が巡る。把手基部に刻みを有する隆帯文を貼付。胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中～下層	PL37 胴部煤付着
175	縄文土器	深鉢	[34.5]	35.0	[10.0]	口唇部下端に隆帯が巡る。把手基部に隆帯文を貼付。胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	PL37
176	縄文土器	深鉢	—	(17.9)	[12.6]	胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	
177	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	隆帯により山形把手・橋状把手を作出。隆帯区画による口辺部文様帯に3条一組の結節沈線が沿う。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	PL46
178	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	10.8	胴部下端無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	底部網代痕
179	縄文土器	浅鉢	28.6	9.3	11.0	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL37
TP278	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	口辺部に圧痕文を有するY字状隆帯文を貼付。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q89	磨石	15.5	10.1	4.7	981.6	安山岩	全側面を使用。	覆土上層	PL51
Q90	磨石	(7.6)	(9.1)	(4.0)	(284.0)	安山岩	全側面を使用。側縁の研磨痕顕著。表面1孔，裏面3孔。	覆土中層	
Q91	磨石	6.6	6.4	4.6	260.9	安山岩	全側面を使用。	覆土中層	PL51 被熱痕あり
Q92	磨石	10.4	8.0	3.2	362.4	砂岩	表面及び側縁を使用。	覆土上層	

第151号土坑（第121図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j5区に位置している。

重複関係　第88号ピットに掘り込まれている。

規模と形状　開口部の平面形が長径2.2m，短径1.7mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.3mほどの円形を呈している。深さは110cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは70cmほどである。

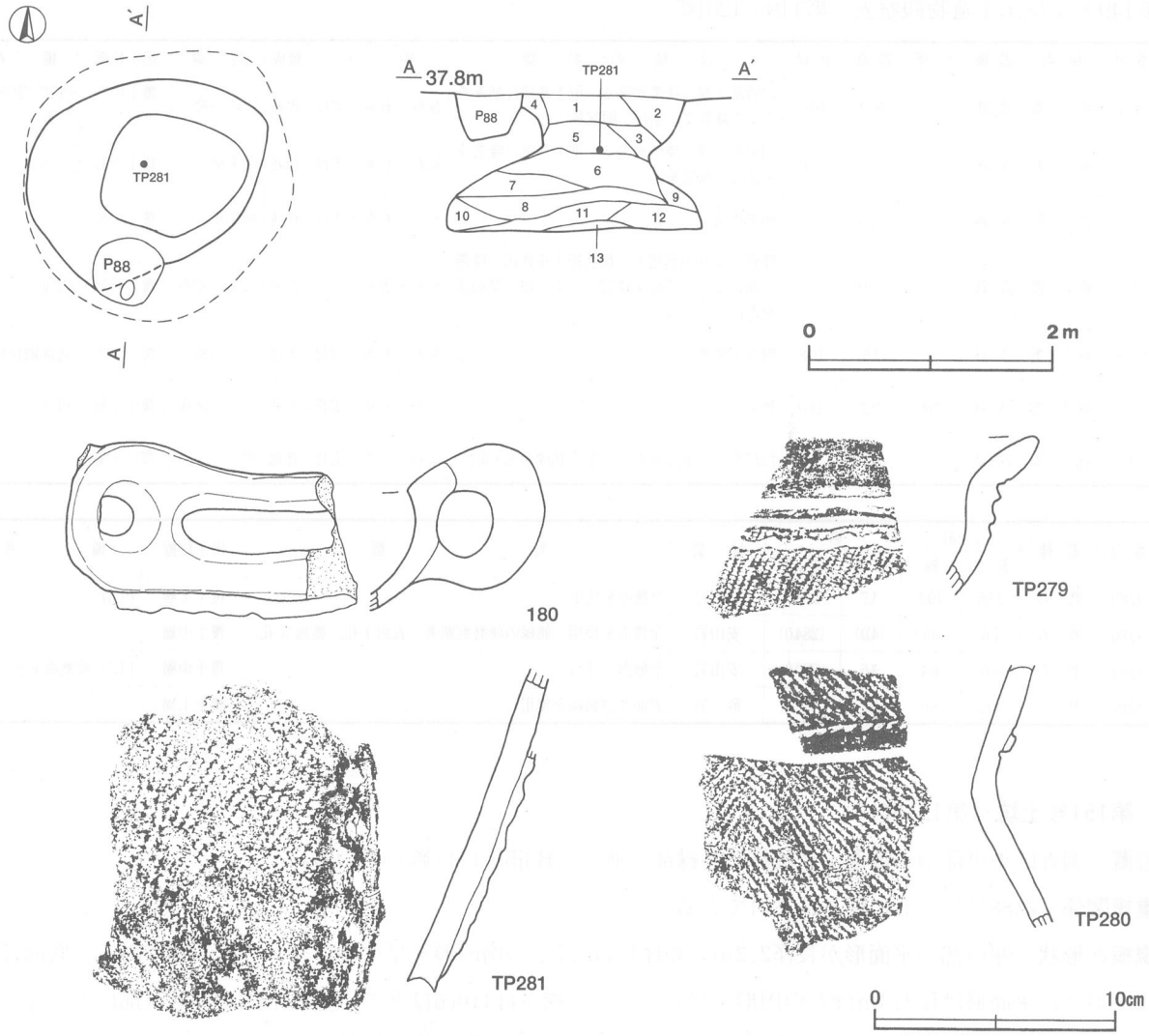
覆土　13層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，覆土下層にあたる第7層以下には，ロームなどの混入物が微少で，堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。覆土上層にあたる第1～6層はロームがブロック状に含まれていることや不規則な堆積状況を示していることなどから人為堆積と考えられる。なお，第13層は特に固く締まっており，開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
7　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック少量
10　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
12　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
13　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　縄文土器片92点が出土している。土器片は覆土中に散在し，平面的な位置には特異な傾向は認められない。TP281は覆土中層，180，TP279・TP280は覆土上層から出土しており，埋め戻しの際に廃棄もしくは混入したものと考えられる。

所見　出土土器が覆土下層が堆積した後に廃棄もしくは混入したものと考えられるため判然としないが，覆土上層の堆積時期は中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



第121図　第151号土坑・出土遺物実測図

第151号土坑出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
180	縄文土器	浅鉢	—	(7.1)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に橋状把手を渡す。胴上部無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土上層	器面調整丁寧
TP279	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口辺部は２条の沈線と波状沈線が巡る。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土上層	
TP280	縄文土器	深鉢	—	(10.6)	—	横位の隆帯区画文に結節沈線が沿う。Ｌの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP281	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	—	交互押圧による波状隆帯文が垂下。ＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	

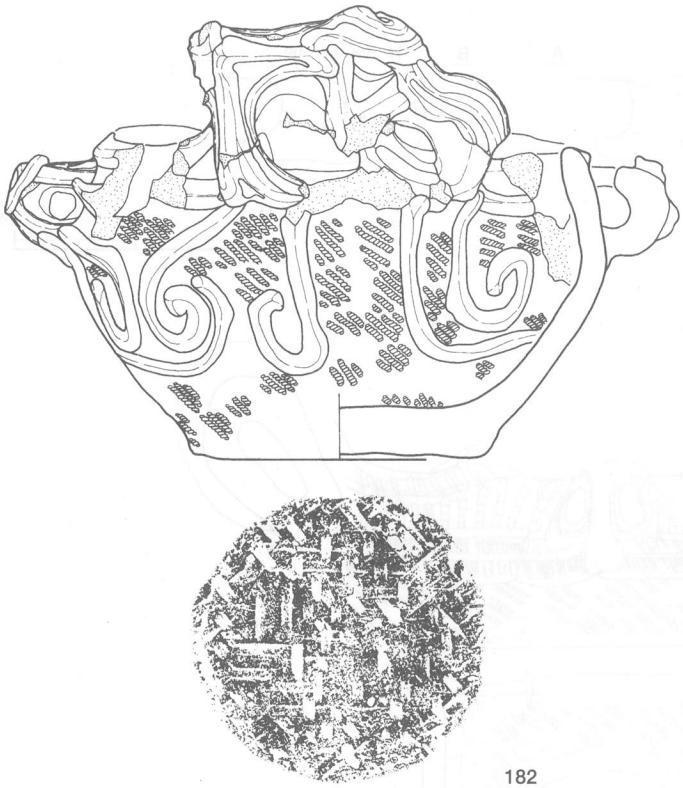
第154号土坑（第122・123図）

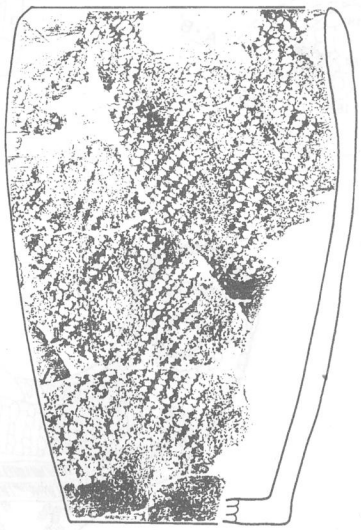
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e2区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が径1.2mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.3m，短径1.1mほどの楕円形を呈している。深さは70cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位はほぼ直立している。また，底面から括れ部までの高さは40cmほどである。

覆土　6層に分層される。黒褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，堆積状況に大きな乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

第122図　第154号土坑・出土遺物実測図





第123図　第154号土坑出土遺物実測図

土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗 褐 色　ロームブロック中量，炭化粒子・粘土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片108点，磨石１点が出土している。抽出・図示した土器を含めて完形に近い土器や大形の土器片は，中央部の覆土中層に集中しており，半ば埋没した段階で一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　出土土器が覆土中層まで堆積した後に廃棄されたものと考えられるため判然としないが，土器の廃棄時期は中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）以降と考えられる。

第154号土坑出土遺物観察表（第122・123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
181	縄文土器	深鉢	19.8	33.9	9.7	口辺部は刻み及び沈線を有する隆帯区画文内に縦位の結節沈線を施文し，結節沈線を有する橋状把手を付す。胴部は隆帯文に２状の沈線が沿う。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	PL37 底部網代痕
182	縄文土器	鉢	18.7	17.8	11.7	４単位の橋状把手を付し，内一単位は大形で，隆帯により過飾する。胴部は隆帯による渦巻文。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	PL38 底部網代痕
183	縄文土器	深鉢	[28.0]	(11.5)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，隆帯には結節沈線が沿う。口辺部にＶ字状隆帯文を貼付。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
184	縄文土器	深鉢	[11.8]	20.4	[8.7]	ＲＬの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	PL38

第156号土坑（第124・125図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j4区に位置している。

重複関係　第157号土坑と重複しており，出土土器などから本跡が新しいと考えられる。

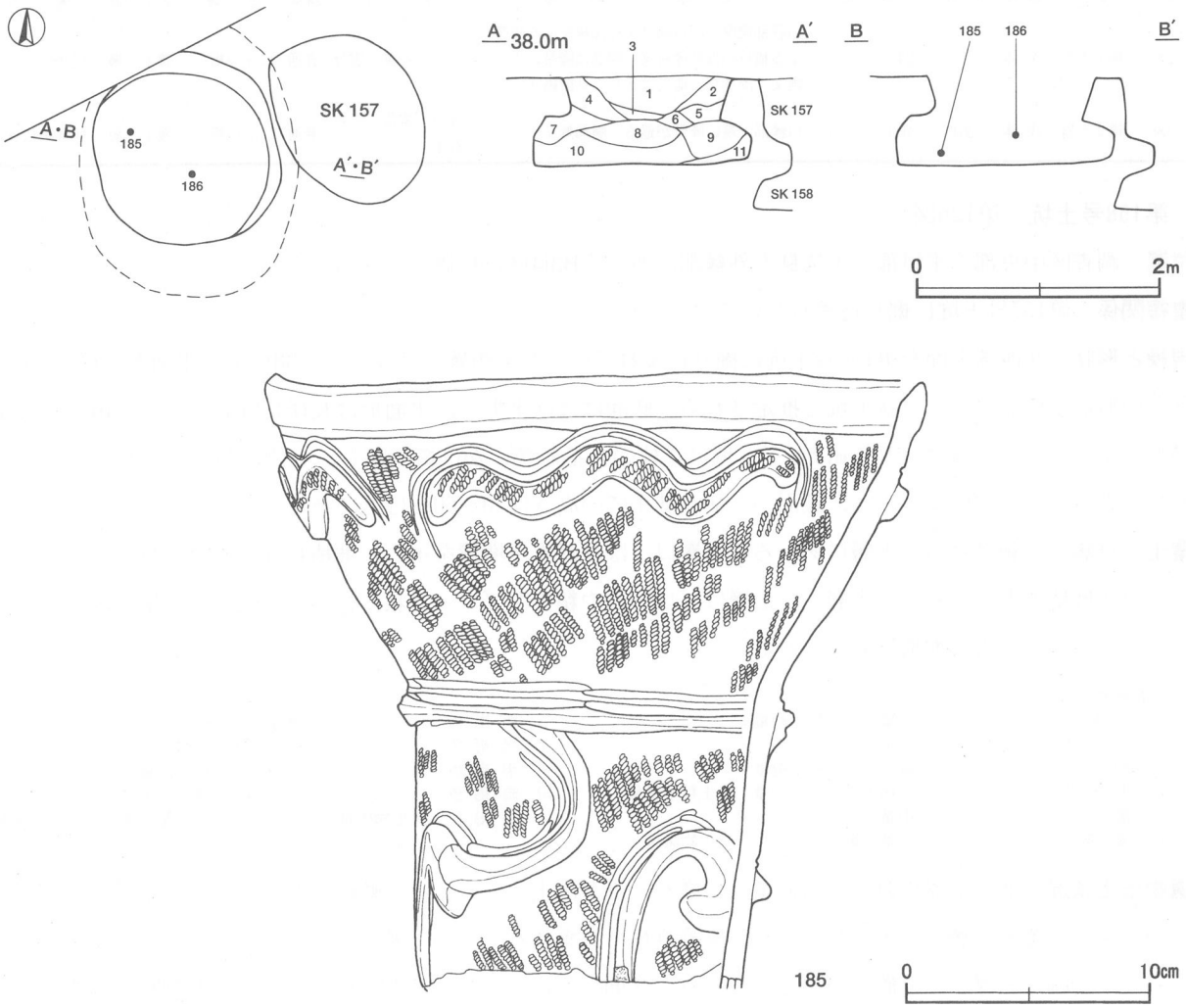
規模と形状　開口部の平面形が径1.6mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.2m，短径1.9mほどの楕円形と推定される。深さは70cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは40cmほどである。

覆土　11層に分層される。全体的に固く締まった土層であり，ロームをブロック状に含み，不規則な堆積状況を示していることから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

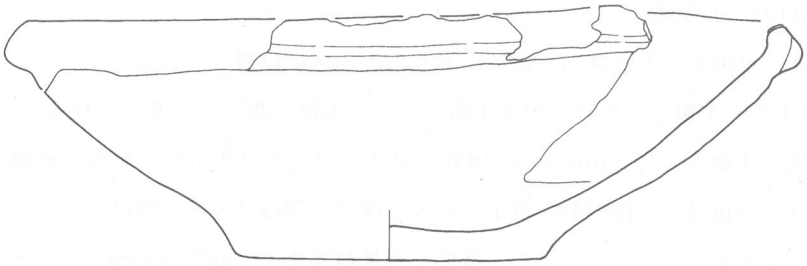
土層解説
1　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
7　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
8　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物少量
9　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
11　暗 褐 色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化物微量

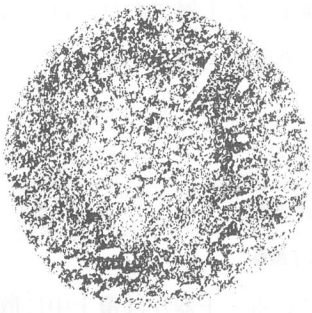
遺物出土状況　縄文土器片50点が出土している。土器片は覆土中に散在し，大形の破片は覆土中～下層から出土している。185は底面からやや浮いた位置から，186は覆土下層から出土しており，廃絶直後の埋め戻しに伴って一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



第124図　第156号土坑・出土遺物実測図





186

0　10cm

第125図　第156号土坑出土遺物実測図

第156号土坑出土遺物観察表（第124・125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
185	縄文土器	深鉢	26.3	(24.5)	—	口唇部肥厚。口辺部は平行沈線が沿う隆帯による横位の波状隆帯文。胴部は隆帯による区画文・渦巻文。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	PL38
186	縄文土器	浅鉢	[30.0]	10.1	12.1	口縁部下端に隆帯が巡る。胴部無文。	長石・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土下層	底部網代痕

第158号土坑（第126図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j4区に位置している。

重複関係　第157号土坑に掘り込まれている。

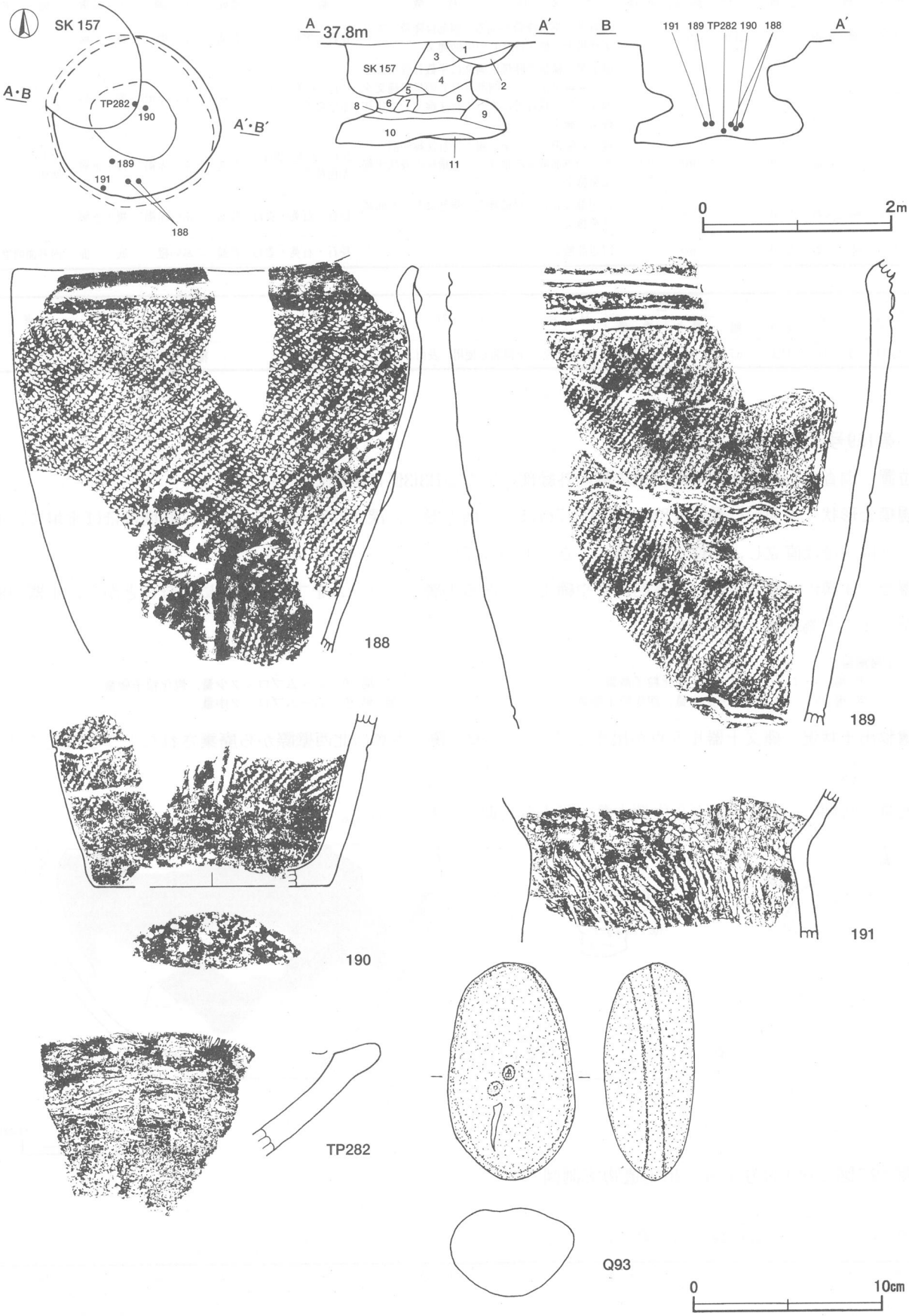
規模と形状　北西部上面を第157号土坑に掘り込まれているため明確ではないが，開口部の平面形が径1.7mほどの円形を呈するフラスコ状土坑と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.9m，短径1.7mほどの楕円形を呈している。深さは105cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって皿状に立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは40～60cmほどである。

覆土　11層に分層される。下層にあたる第８層以下はほぼ水平堆積を示し，堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。中層より上層は，ロームや粘土をブロック状に含み，不規則な堆積状況を示していることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　色　ロームブロック中量
6　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
7　明褐色　ロームブロック多量
8　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
9　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
11　黒褐色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片41点，石皿１点，磨石１点が出土している。比較的大形の土器片は壁寄りの底面からやや浮いた覆土下層から出土しており，廃絶直後に廃棄されたものと考えられる。188～191はいずれも底面より５～10cmほど浮いた位置から出土しており，底面から出土しているTP282とともに時期判断の指標となる遺物である。また，Q93は覆土中層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



第126図　第158号土坑・出土遺物実測図

第158号土坑出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
188	縄文土器	深鉢	[21.0]	(20.5)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。胴部は隆帯により文様描出。地文はＲＬの単節縄文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
189	縄文土器	深鉢	—	(24.4)	—	胴上部は横位の隆帯区画文に半截竹管による平行沈線文が沿う。胴部はＲＬの単節縄文を地文とし半截竹管による平行沈線文・波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土下層	Ｐ190と同一個体
190	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	[12.2]	縦位の隆帯文に２条一組の平行沈線が沿う。ＲＬの単節縄文を地文とし，横位の波状沈線文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土下層	Ｐ189と同一個体
191	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口辺部はＲＬの単節縄文，胴部はＬの無節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP282	縄文土器	浅鉢	—	(6.0)	—	口辺部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	内外面研磨

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q93	磨石	11.3	6.7	4.8	452.2	石英斑岩	全側面を使用。表面２孔。	覆土中層	被熱痕あり

第159号土坑（第127図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j3区に位置している。

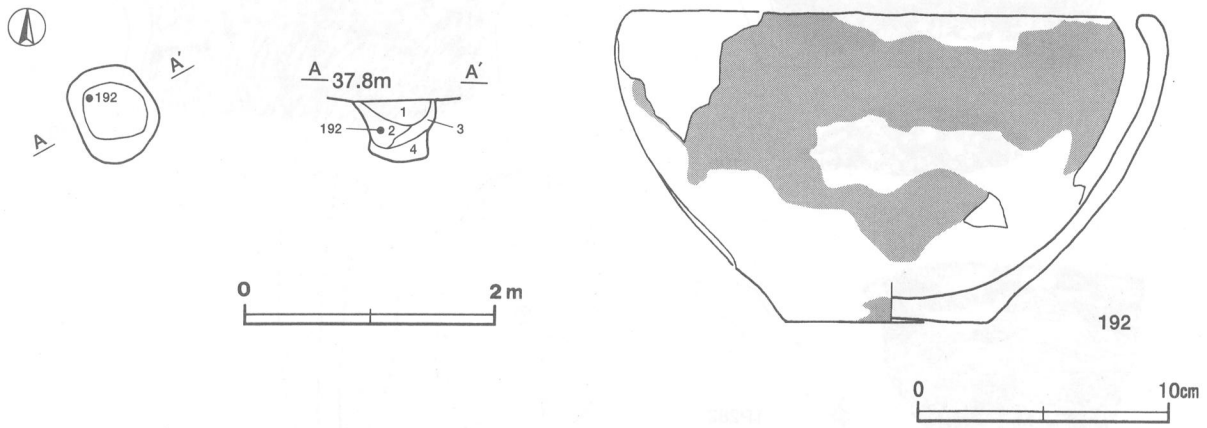
規模と形状　平面形は長径0.8m，短径0.7mほどの楕円形で，深さは50cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁は下位がほぼ直立し，中位から外傾して立ち上がっている。

覆土　４層に分層される。全体的にやや締まりのある土層で，ロームをブロック状に含むことから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片５点が出土している。192は覆土中層の北西壁際から廃棄されたような状況で出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台式期）と考えられる。



第127図　第159号土坑・出土遺物実測図

第159号土坑出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
192	縄文土器	鉢	[20.6]	12.2	8.1	無文。	長石・雲母	普通	橙	覆土中層	PL38 外面研磨，煤付着

第163号土坑（第128・129図）

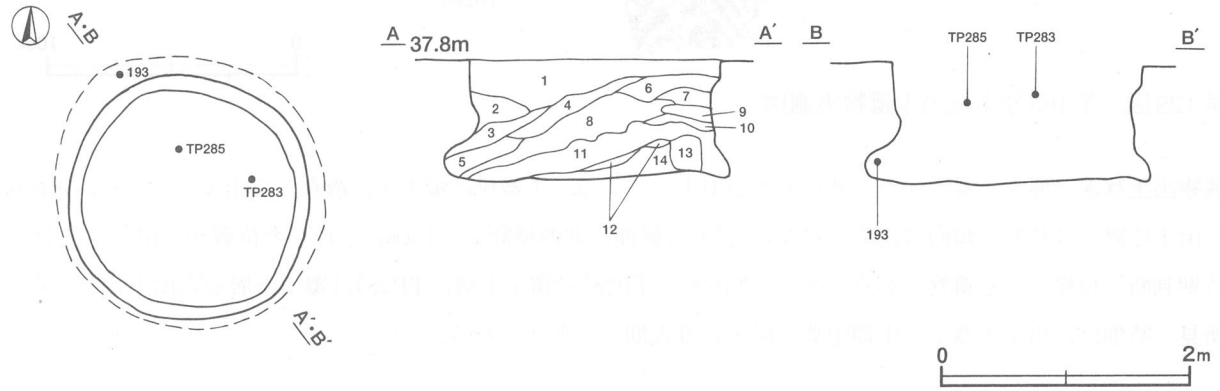
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j5区に位置している。

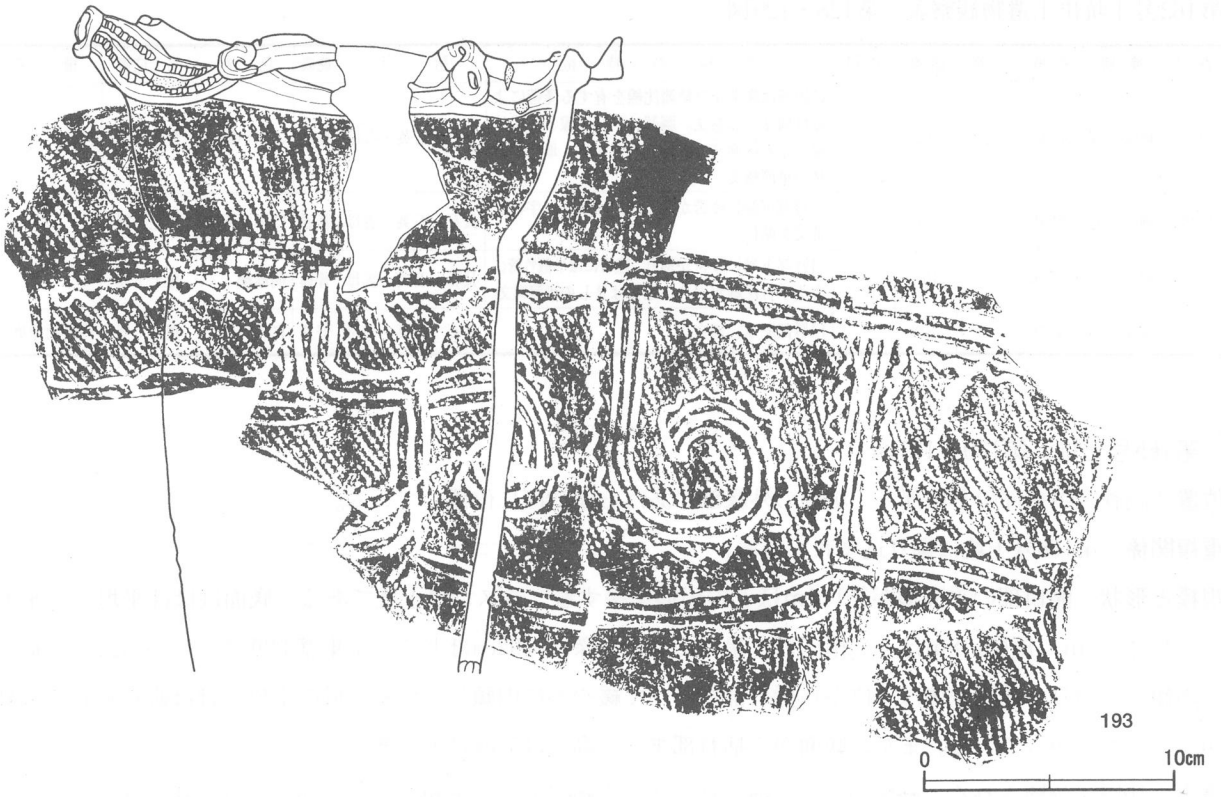
規模と形状　開口部の平面形が径1.9mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.2mほどの円形を呈している。深さは94cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は直立もしくは外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは50cmほどである。

覆土　14層に分層される。全体的に固く締まった土層であり，上層と下層がロームブロックを多く含む層で，中層が粘土ブロックを多く含む層と交互に見られることや不規則な堆積状況を示すことなどから，土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

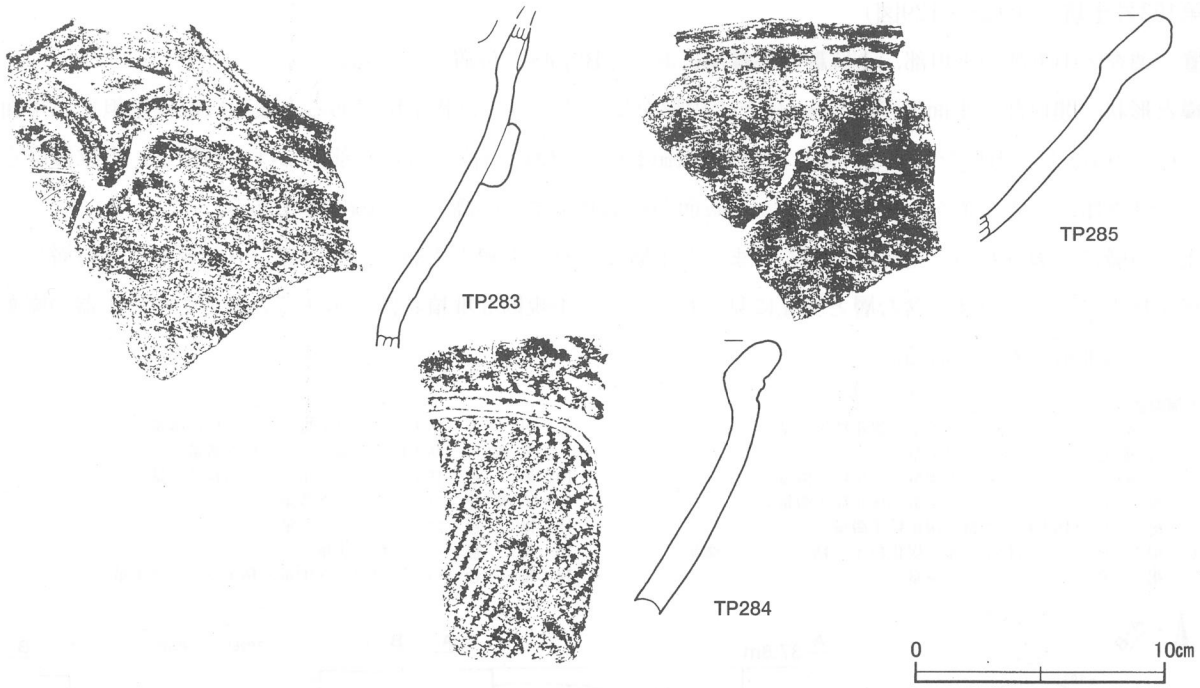
土層解説

1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土ブロック微量
7　褐　色　ロームブロック少量
8　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子微量
9　黒褐色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
10　褐　色　粘土ブロック少量，ローム粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック微量
12　褐　色　ロームブロック少量
13　褐　色　ローム粒子中量
14　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量





第128図　第163号土坑・出土遺物実測図



第129図　第163号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片96点，磨石１点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており，平面的な出土位置には特異な傾向は認められない。193は底面の北西壁際から10cmほど浮いた位置から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，TP283・TP285は覆土上層，TP284は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第163号土坑出土遺物観察表（第128・129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
193	縄文土器	深鉢	21.2	(26.2)	—	口辺部は隆帯及び結節沈線を有する隆帯による区画文と渦巻文。胴部は平行沈線と波状沈線による区画文で渦巻文を配する。地文はＬＲの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	PL38
TP283	縄文土器	深鉢	—	(13.0)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部はＶ字状隆帯文を貼付。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP284	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，隆帯には半截竹管による平行沈線が沿う。地文はＲＬの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	
TP285	縄文土器	浅鉢	—	(8.9)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	内外面研磨

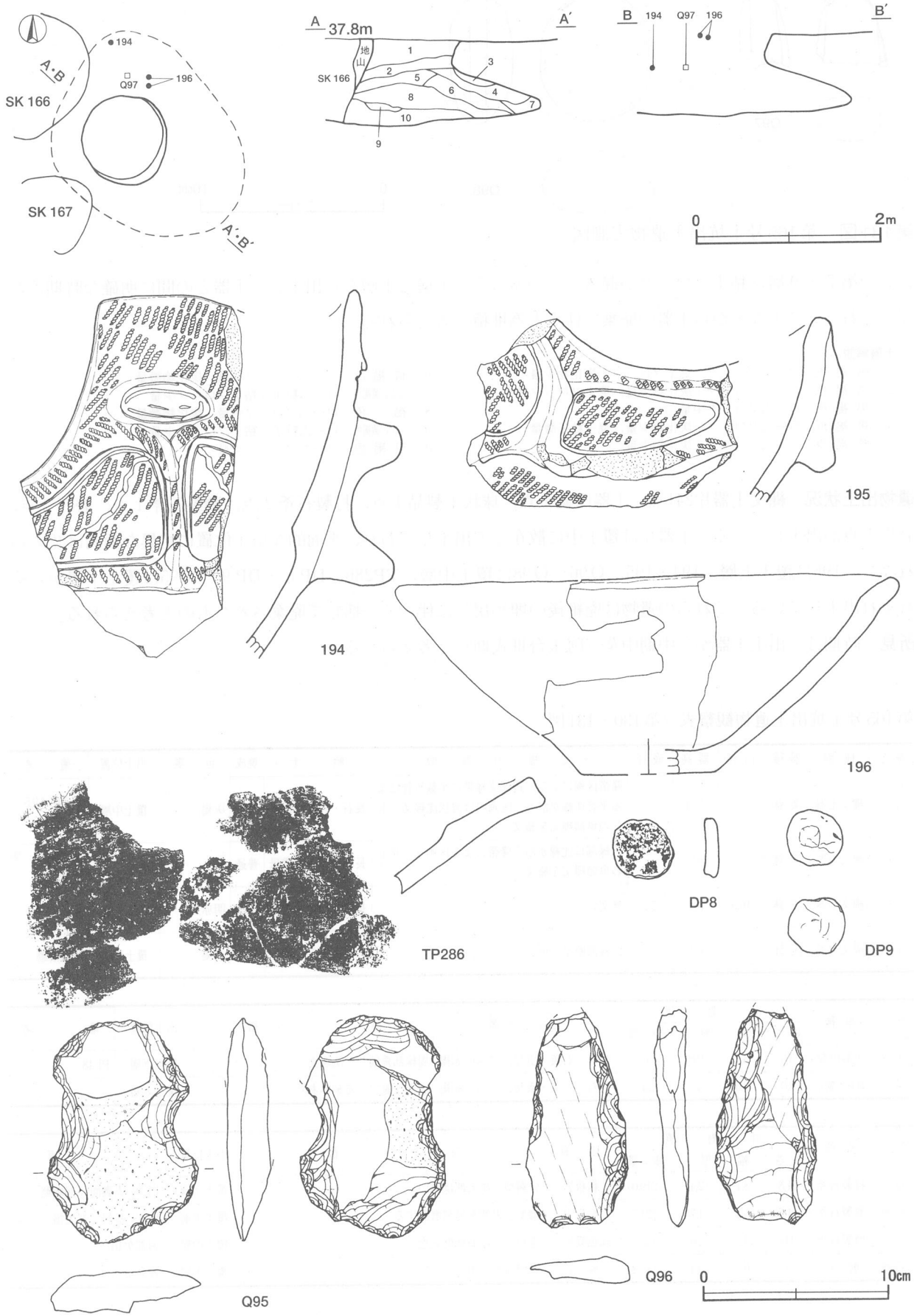
第165号土坑（第130・131図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j3区に位置している。

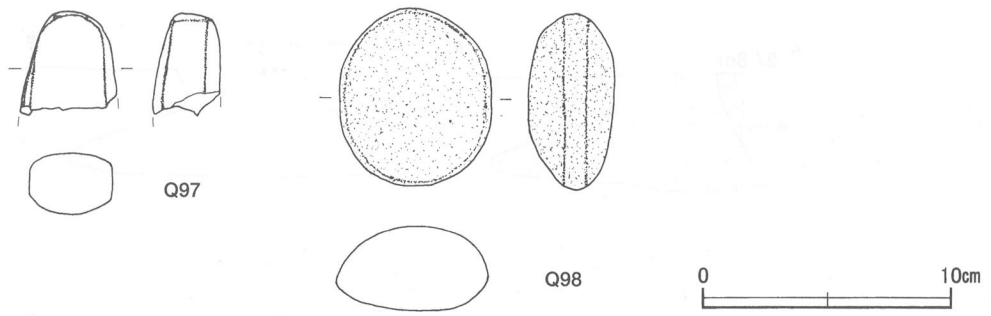
重複関係　第166号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　開口部の平面形が径1.0mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.3m，短径1.8mほどの楕円形を呈している。深さは92cmほどで，南東壁側壁は下位から大きく括れて内傾しており，北西壁側は下位から括れ部にかけて緩やかに内傾している。壁の上位はほぼ直立もしくは外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは55cmほどである。

覆土　10層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，全層にロームがブロック状に含まれている



第130図　第165号土坑・出土遺物実測図



第131図　第165号土坑出土遺物実測図

ことや第７・９層に粘土ブロックが混入していること，上層と下層から出土した土器との間に明確な時期差が認められないことなどから土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
2　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
3　黒 褐 色　ロームブロック中量
4　黒 褐 色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
5　暗 褐 色　ロームブロック・炭化物少量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
7　にぶい黄褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量
8　褐　　色　ロームブロック中量，炭化物微量
9　にぶい黄褐色　ローム粒子・粘土ブロック少量
10　黒 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片241点，土器円盤１点，球状土製品１点，打製石斧２点，磨製石斧１点，磨石３点，剥片１点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており，平面的な出土位置に特異な傾向は認められない。196は覆土上層，194・195，Q96～Q98は覆土中層，TP286，DP８・DP９，Q95は覆土下層からそれぞれ出土している。これらの遺物は廃絶後の埋め戻しに伴って一括して廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第165号土坑出土遺物観察表（第130・131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
194	縄文土器	深鉢	—	(19.4)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に半截竹管による平行沈線が沿う。区画内は波状沈線文。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	PL46 195と同一個体
195	縄文土器	深鉢	—	(9.9)	—	口縁部は沈線が沿う隆帯による区画文。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	194と同一個体
196	縄文土器	浅鉢	[16.5]	10.6	7.2	無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土上層	
TP286	縄文土器	浅鉢	—	(6.1)	—	口唇部肥厚。無文	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土下層	器面研磨

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP８	土器円盤	3.3	3.3	0.8	10.4	長石・石英・雲母，にぶい赤褐	周縁部荒削り。沈線文。	覆土下層	PL48
DP９	球状土製品	3.0	3.0	3.1	25.7	長石・石英・雲母，にぶい赤褐	表面に篦による刻みあり。	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q95	打製石斧	11.8	8.1	(2.4)	(219.0)	粘板岩	分銅型。抉入部は浅い。	覆土下層	PL49 表裏面一部剥離
Q96	磨製石斧	(11.6)	5.4	1.7	(121.3)	粘板岩	撥型。刃部を局部磨製する。	覆土中層	PL48 基部一部欠損
Q97	磨製石斧	(4.0)	(3.9)	(2.6)	(62.2)	緑色凝灰岩	定角式。器面研磨入念。	覆土中層	刃部欠損
Q98	磨石	7.0	6.1	3.4	188.3	砂岩	全側面を使用。	覆土中層	被熱痕あり

第166号土坑（第132図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群の外縁部にあたるB3j3区に位置している。

重複関係　第165号土坑を掘り込んでいる。

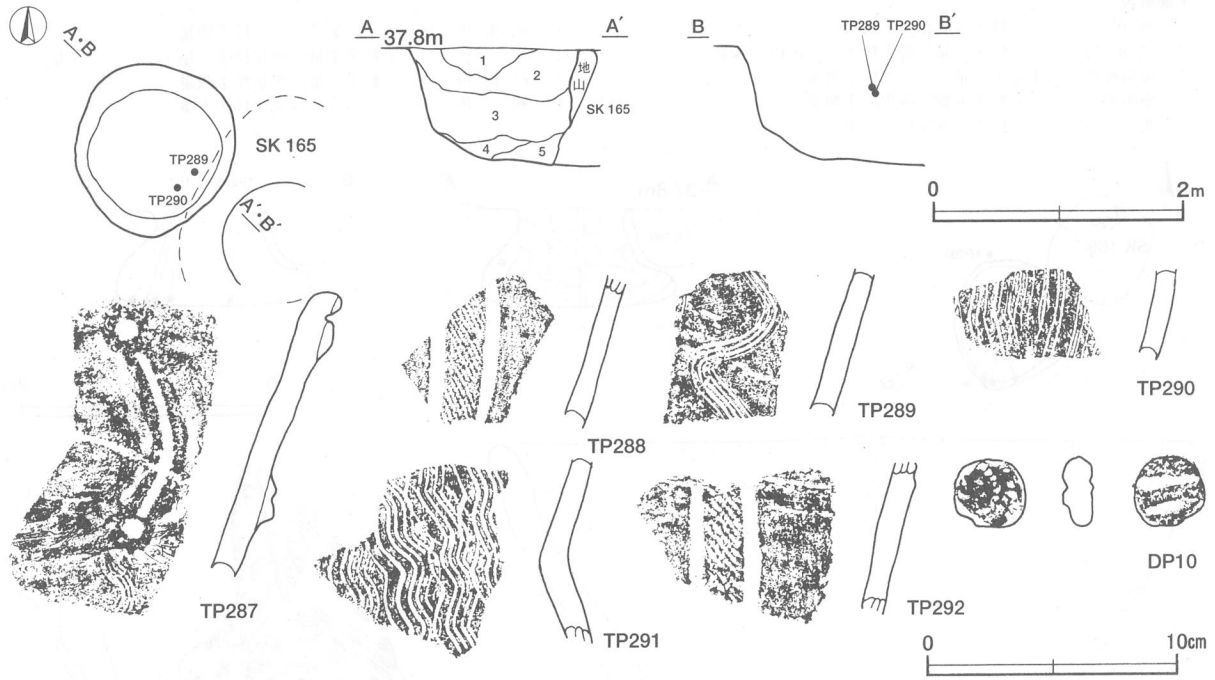
規模と形状　平面形は径1.4mほどの円形で，深さは90cmほどである。底面はほぼ平坦で，壁が外傾もしくはほぼ直立して立ち上がる円筒状の土坑である。

覆土　5層に分層される。暗褐色を基調とした締まりのある土層であり，レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化物微量
2　暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量，炭化物微量
4　黒 褐 色　ローム粒子・粘土粒子微量
5　暗 褐 色　粘土粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片193点，土器円盤1点，敲石1点，磨石1点が出土している。土器片は覆土中に散在して出土しており，平面的な出土位置に特異な傾向は認められない。TP292，DP10は覆土下層，TP288～TP290は覆土中層，TP287・TP291は覆土上層からそれぞれ出土しており，これらの土器は埋没過程で流入したものと考えられる。

所見　出土土器の大半が後期初頭のものであることや形状が円筒状を呈していることなどから，時期は後期初頭頃（称名寺1～2式期）と考えられる。



第132図　第166号土坑・出土遺物実測図

第166号土坑出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP287	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	口辺部無文帯の下端を隆帯で区画し，無文帯部にノの字状隆帯文を貼付。胴上部は櫛歯状工具による波状条線文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土上層	
TP288	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP289	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	櫛歯状工具による縦位の波状櫛歯状文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP290	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	—	半截竹管による縦位の沈線文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP291	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	半截竹管による縦位の波状沈線文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土上層	
TP292	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	沈線区画文内にＬＲの単節縄文を充填。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
DP10	土器円盤	2.7	2.8	1.1	9.6	長石・雲母，灰褐	周縁部荒削り。表面結節沈線文，裏面沈線文。	覆土下層	PL48

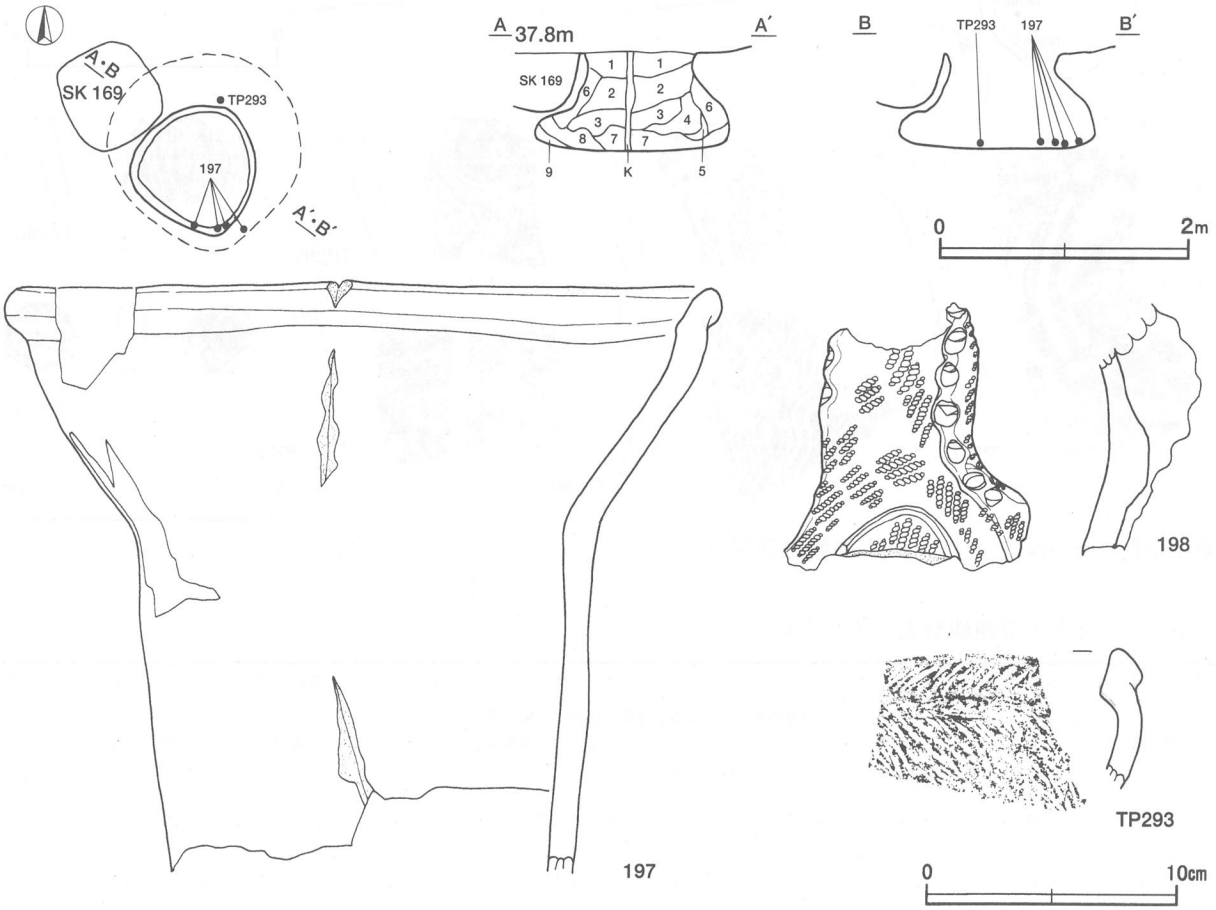
第170号土坑（第133・134図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC2c0区に位置している。

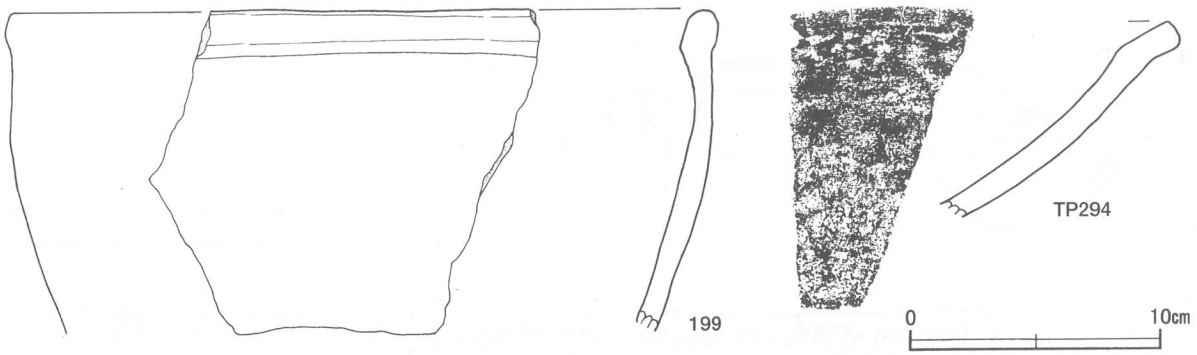
規模と形状　開口部の平面形が径0.9mほどの円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.5mほどの円形を呈している。深さは76cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位はほぼ直立もしくは外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは50～60cmほどである。

覆土　9層に分層される。全体的に締まりのある土層であり，堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土ブロック少量
8　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
9　褐色　ロームブロック・炭化粒子少量



第133図　第170号土坑・出土遺物実測図



第134図　第170号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片49点，打製石斧１点，石核１点が出土している。197，TP293などの大形の破片は底面の壁寄りから出土しており，廃絶時に廃棄もしくは遺棄されたものと考えられ，時期判断の指標となる遺物である。また，198・199，TP294は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第170号土坑出土遺物観察表（第133・134図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
197	縄文土器	深鉢	27.5	(23.3)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部・胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	底面	PL38
198	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	隆帯区画による口辺部文様帯に２条の沈線が沿う。波頂部に圧痕文を有する把手を付す。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
199	縄文土器	深鉢	[28.0]	(12.7)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部・胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP293	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。地文はＬの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	底面	
TP294	縄文土器	浅鉢	—	(7.7)	—	口唇部肥厚。無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	内外面研磨

第171号土坑（第135図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3a1区に位置している。

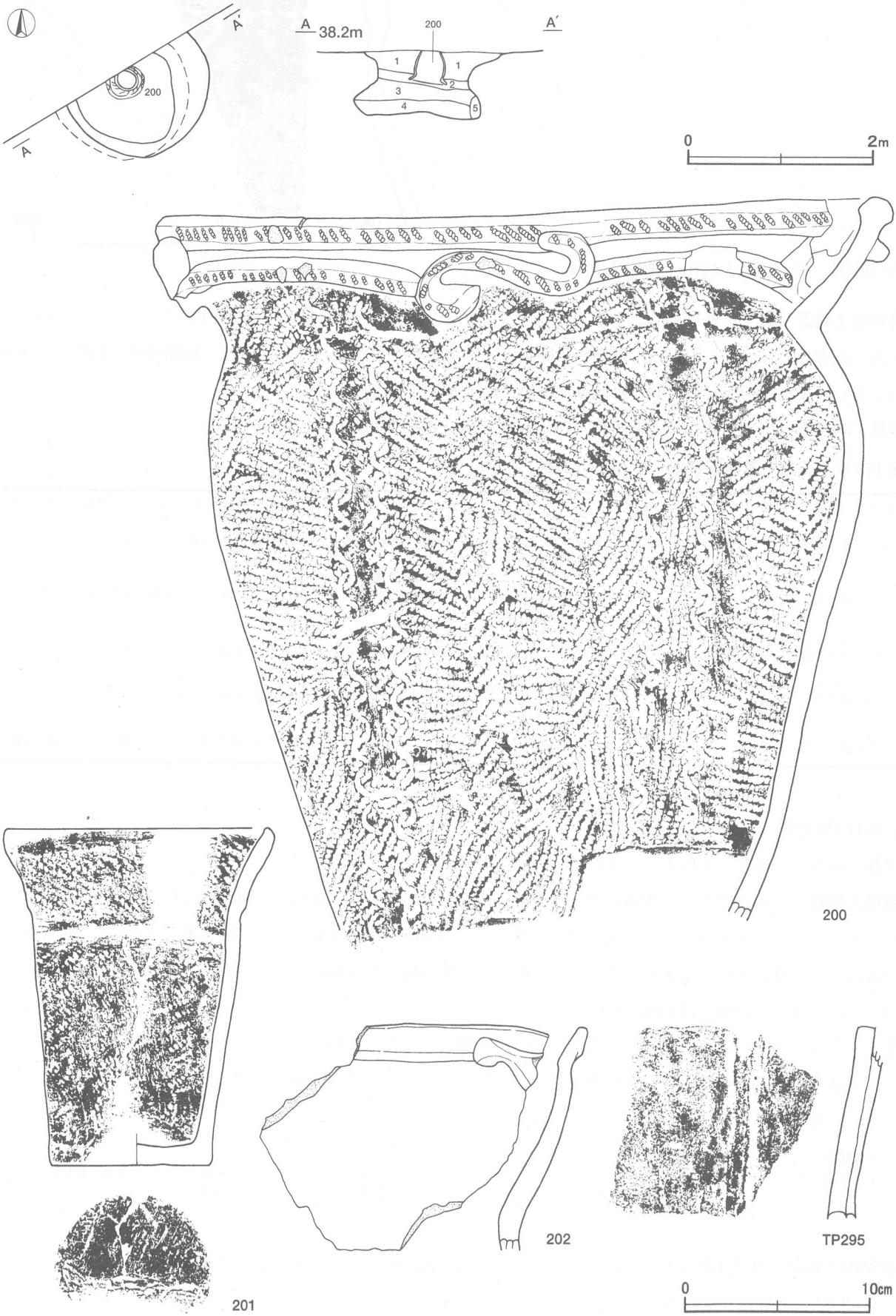
規模と形状　北側の約半分が調査区外に及ぶため明確ではないが，開口部の平面形が径1.6mほどの円形と推定されるフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.4mほどの円形と推定される。深さは65～70cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは40cmほどである。

覆土　５層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。ほぼ水平堆積を示しているものの，下層と上～中層の土器の間に時期差が認められないことや第４層に粘土ブロックが含まれていることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　灰褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片49点が出土している。200は確認面～覆土中層に逆位で出土している。また，201・202，TP295は覆土下層から出土している。

所見　200は胴部下半を欠くものの完形に近い状況でかつ逆位で出土していることから，廃絶後の埋め戻しの



第135図　第171号土坑・出土遺物実測図

際に，意図的に埋設された深鉢である可能性を想定できるが，掘り方を確認できないことなどから中期後半から後期初頭に見られる所謂「屋外埋設土器」とは性格を異にすると思われる。時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。

第171号土坑出土遺物観察表（第135図）

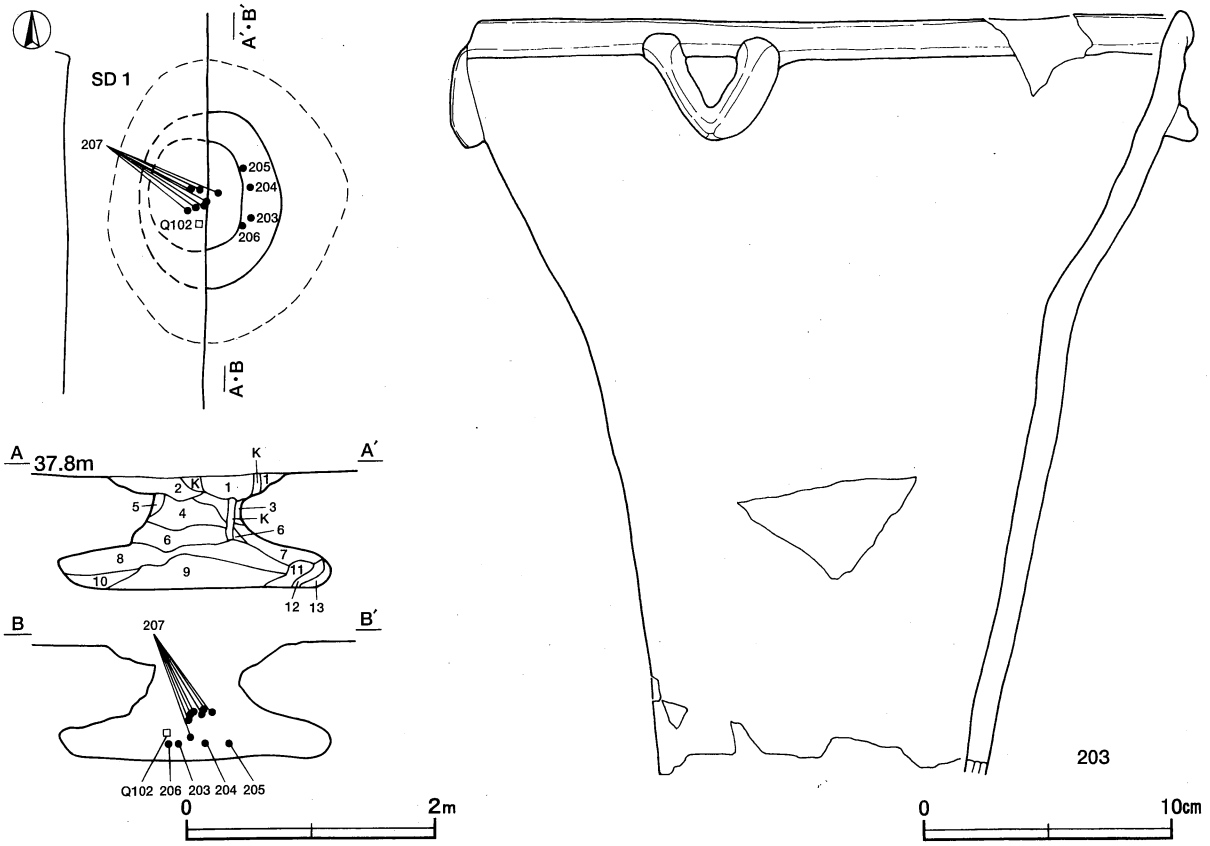
番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
200	縄文土器	深鉢	38.2	(38.7)	—	口辺部は隆帯による区画文に5単位の横S字状文を貼付。胴部は地文にRLとLRの単節縄文を交互に施文し，羽状構成を描出後，縦位の結節回転文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土上～中層	PL39
201	縄文土器	深鉢	14.0	17.8	[8.5]	口唇部肥厚。RLの単節縄文を口辺部は横方向，胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL39
202	縄文土器	深鉢	—	(11.9)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部に隆帯文を貼付。胴上部無文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
TP295	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	縦位の隆帯文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	

第173号土坑（第135～137図）

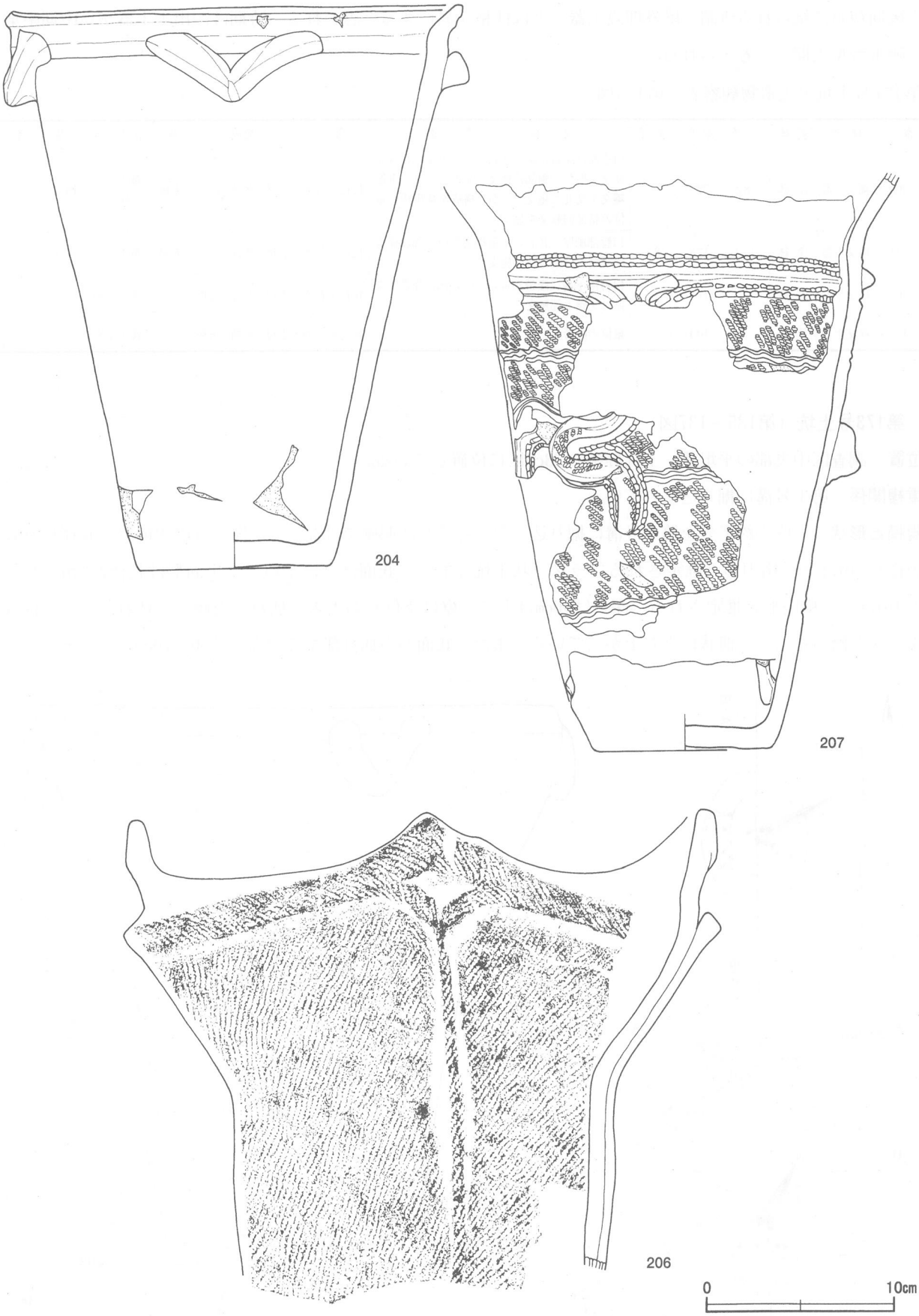
位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3c5区に位置している。

重複関係　第1号溝に掘り込まれている。

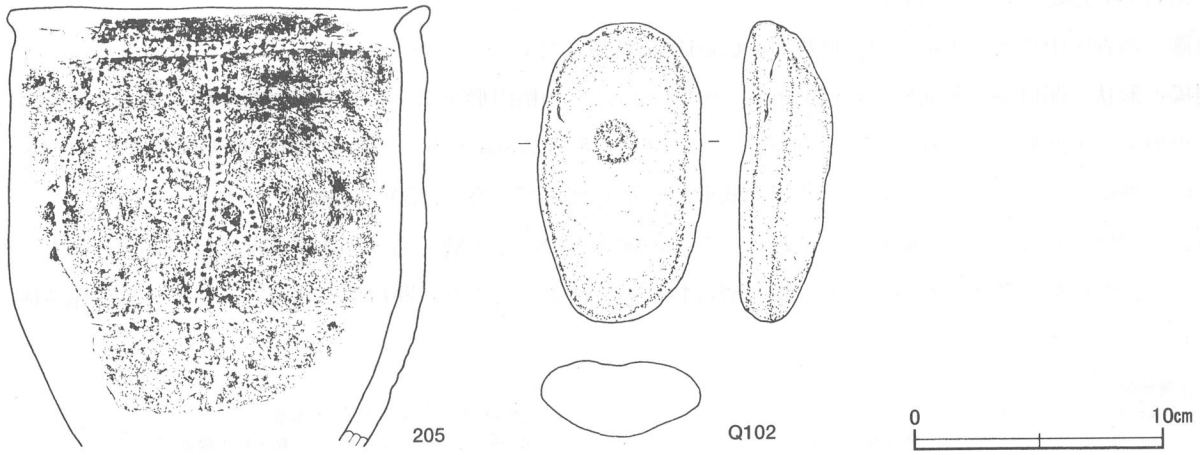
規模と形状　上位の約半分を第1号溝に掘り込まれているため明確ではないが，開口部の平面形が長径1.4m，短径1.2mほどの楕円形と推定されるフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.2m，短径1.9mほどの楕円形と推定される。深さは90cmほどで，壁は下位から大きく括れて内傾し，括れ部より上位は緩やかな傾斜をもって皿状に立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは60～70cmほどである。



第136図　第173号土坑・出土遺物実測図



第137図　第173号土坑出土遺物実測図（1）



第138図　第173号土坑出土遺物実測図（２）

覆土　13層に分層される。黒褐色・暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。中層と下層の土器片が接合したことやロームブロックを含み一部不規則な堆積状況を示していることなどから，第９層より上層は土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。第９層は特に固く締まり，ローム粒子を多く含むことから，開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化物少量
4　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
7　極暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
8　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
9　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
10　暗褐色　ローム粒子・炭化物少量
11　暗褐色　ロームブロック中量
12　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物微量
13　暗褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片183点，敲石１点が出土している。遺物は開口部下にあたる中央部の覆土中～下層に集中している。203～206，Q102は第９層の上面に沿って出土していることから，廃絶時もしくは廃絶直後に一括して廃棄されたものと考えられる。また，207は中央部の覆土中～下層から出土しており，前述の遺物とともに廃棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第173号土坑出土遺物観察表（第136～138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
203	縄文土器	深鉢	27.8	(30.2)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。口辺部にＶ字状隆帯文を貼付。胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL39
204	縄文土器	深鉢	23.7	29.7	10.2	口唇部肥厚。口辺部にＶ字状隆帯文を貼付。胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	PL39
205	縄文土器	深鉢	[16.6]	(17.3)	—	口唇部下端に隆帯が巡り，隆帯には半截竹管による複列の結節沈線が沿う。胴部は半截竹管による沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL39
206	縄文土器	深鉢	[30.8]	(24.3)	—	口唇部下端に隆帯が巡る。波状口縁基部からＹ字状隆帯文が垂下。ＲＬの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
207	縄文土器	深鉢	—	(30.2)	9.4	口辺部下位の無文帯下に２条の結節沈線が沿う横位の隆帯区画文を配し，胴部は同様の文様を施文。ＬＲの単節縄文を地文とし２条の波状沈線が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中～下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q102	磨石	11.8	6.5	3.7	359.0	安山岩	全側面を使用。表面１孔。	覆土下層	PL51

第174号土坑（第139～141図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3e1区に位置している。

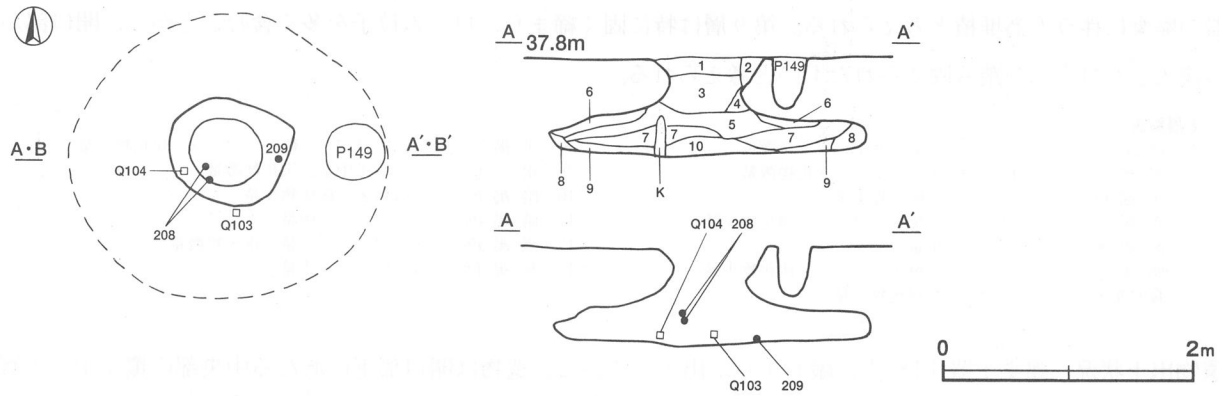
規模と形状　開口部の平面形が長径0.9m，短径0.8mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.4mほどの円形を呈している。深さは78cmほどで，壁は下位から大きく括れて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは50～60cmほどである。

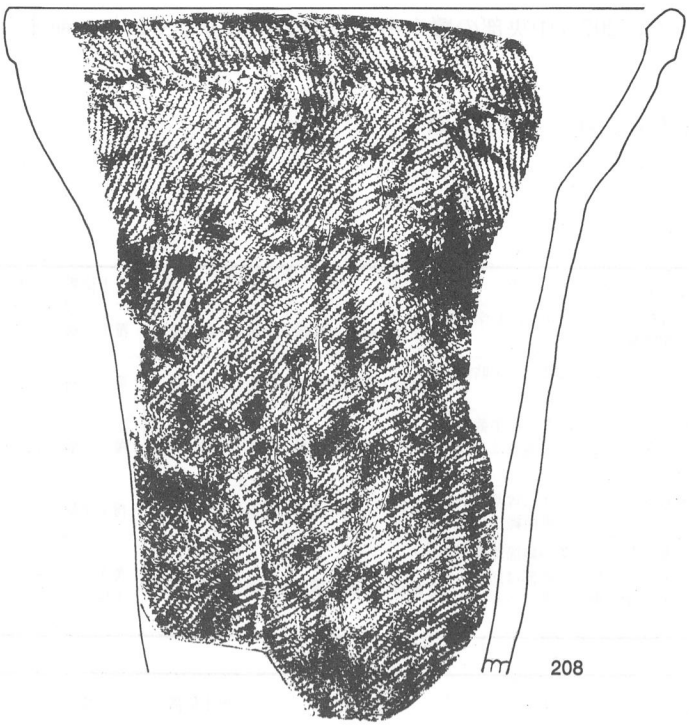
覆土　10層に分層される。暗褐色を基調としたやや締まりのある土層であり，堆積状況に乱れが見られないことから自然堆積と考えられる。なお，第10層は特に固く締まっており，開口部から流入したロームが踏み固められたものと考えられる。

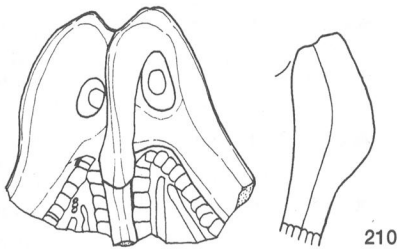
土層解説

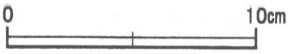
1	暗褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
10	褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片56点，石皿1点，磨石1点，石核1点が出土している。比較的大形の破片は，開口

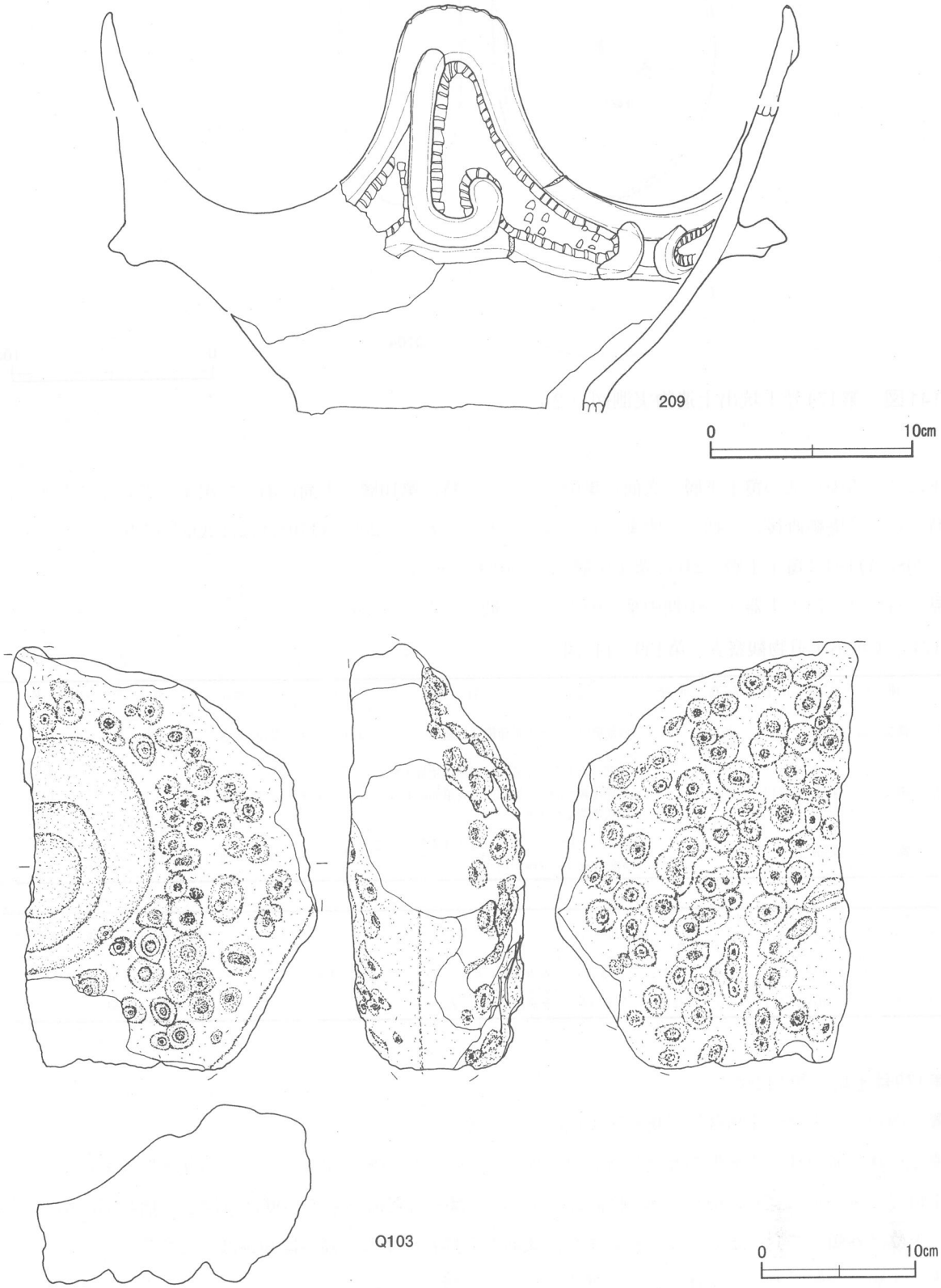




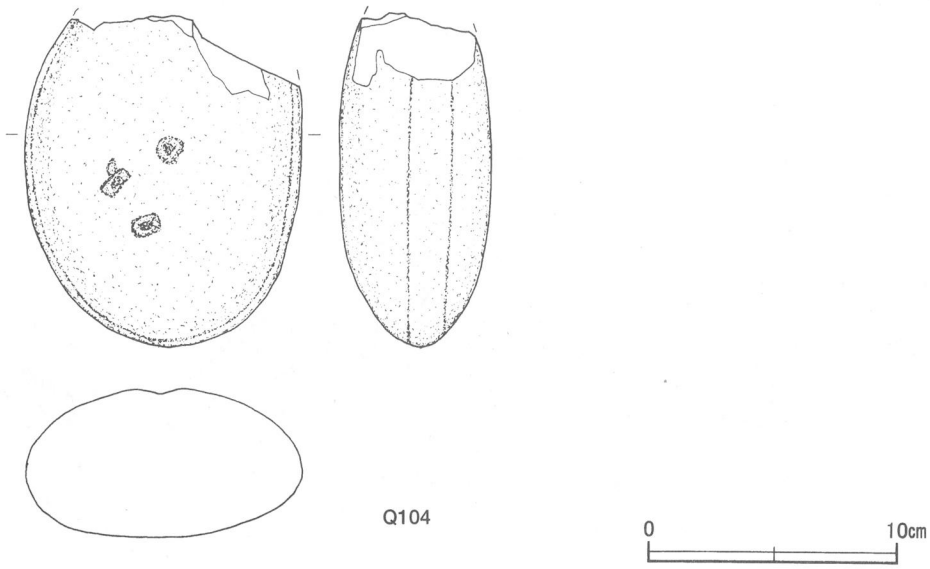




第139図　第174号土坑・出土遺物実測図



第140図　第174号土坑出土遺物実測図（1）



第141図　第174号土坑出土遺物実測図（2）

部下にあたる中央部の覆土下層～底面に集中しており，特に第10層の上面に沿って出土していることから，廃絶時もしくは廃絶直後に一括して廃棄されたものと考えられる。209，Q103はほぼ底面から出土している。また，208，Q104は覆土下層，210は覆土中層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

第174号土坑出土遺物観察表（第139～141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
208	縄文土器	深鉢	26.5	(26.3)	—	口唇部肥厚。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	PL39
209	縄文土器	深鉢	[33.4]	(20.0)	—	波頂部に刻みを有する。口辺部は隆帯区画文に結節沈線が沿う。区画内は波頂部直下からJ字状隆帯文が垂下。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	底面	PL40
210	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	隆帯により把手を作出。口辺部は隆帯区画文に結節沈線及び沈線が沿う。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ	幅	厚さ	重量				
Q103	石皿	(28.0)	(20.1)	11.7	(5100.2)	石英斑岩	表面中央が大きく窪む。表面49孔，裏面79孔。	底面	PL52
Q104	磨石	(13.0)	11.1	6.0	(1218.2)	安山岩	全側面を使用。表面3孔。	覆土下層	PL51

第179号土坑（第142図）

位置　調査区中央部の平坦部，土坑群中のC3c1区に位置している。

規模と形状　開口部の平面形が長径1.1m，短径0.9mほどの楕円形を呈するフラスコ状土坑である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.3mほどの円形を呈している。深さは75cmほどで，壁は下位から括れ部にかけて内傾し，上位は外傾して立ち上がっている。また，底面から括れ部までの高さは40cmほどである。

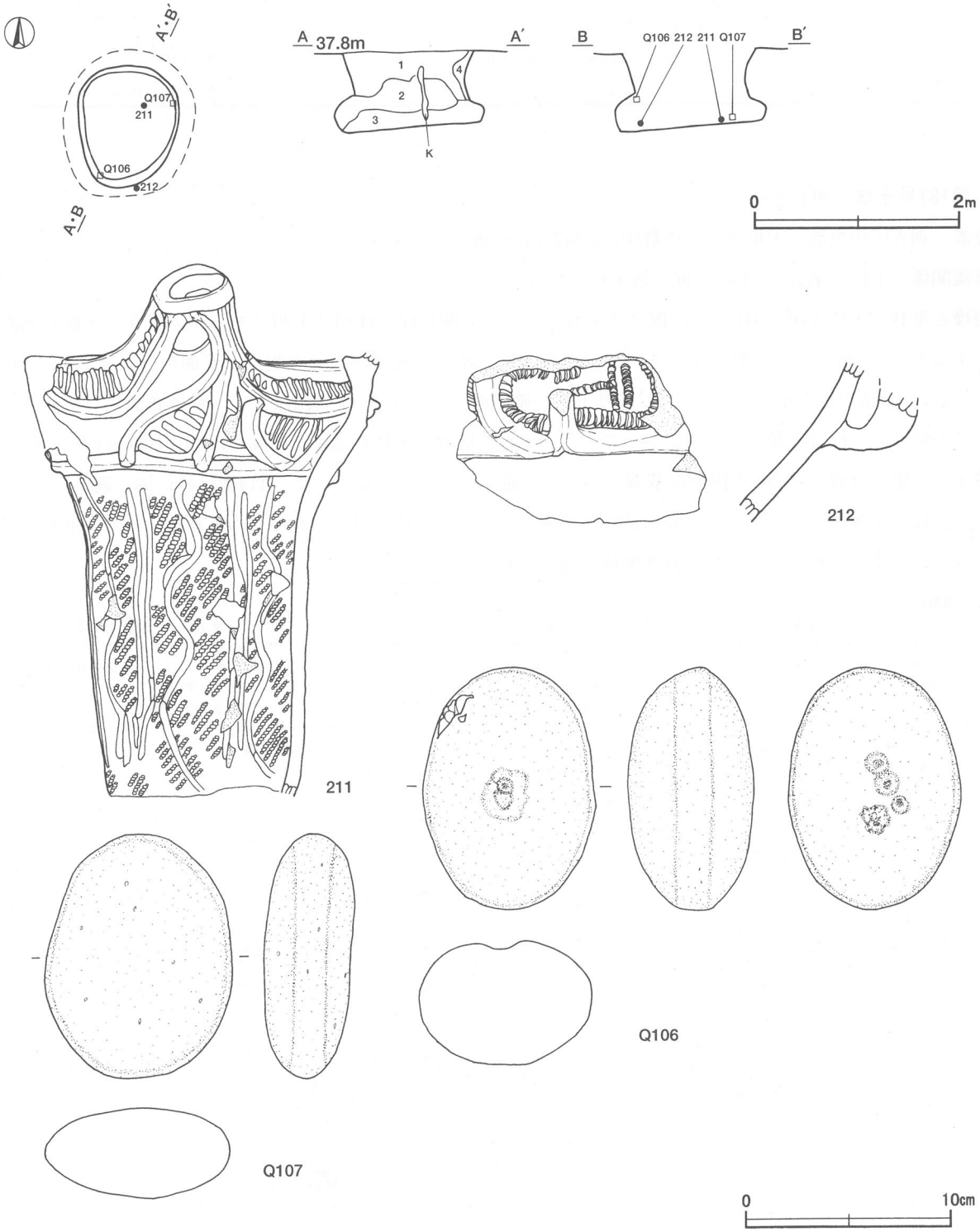
覆土　4層に分層される。全体的にやや締まりのある土層であり，ロームや粘土がブロック状に含まれることや上層と下層から出土した土器の間に時期差が認められないことなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，炭化物微量
3　黒褐色　炭化物・粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片51点，磨石２点が出土している。遺物は覆土中に土器片は覆土中に散在し，平面的な位置には特異な傾向は認められない。211は底面，212は底面からやや浮いた位置から出土しており，時期判断の指標となる遺物である。また，Q107は覆土下層，Q106は覆土中層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から中期中葉～後葉（阿玉台Ⅳ～加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。



第142図　第179号土坑・出土遺物実測図